

福井県埋蔵文化財調査報告 第107集

志田神田遺跡

— 中部縦貫自動車道建設事業に伴う調査 8 —

2009

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

福井県埋蔵文化財調査報告 第107集

志田神田遺跡

— 中部縦貫自動車道建設事業に伴う調査 8 —

2009

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター



(1) 九頭龍川より鹿谷町を望む（北方より）



(2) 土坑SK1205遺物出土状況（南東方より）

序 文

本書は、中部縦貫自動車道建設に伴い、平成11年度から16年度にかけて発掘調査を実施した志田神田遺跡の発掘調査の成果をとりまとめたものです。

遺跡が所在する勝山市鹿谷町は、九頭龍川の支流である鹿谷川によって開析された谷地形を呈しています。この谷内を東西に横断する中部縦貫自動車道の本線の建設、勝山インターチェンジとそれに接続する一般県道勝山インター線の整備が計画されたため、当センターにおいて平成10年度から12年度にかけて城山古墳群・本郷北遺跡・発坂山ノ端遺跡を順次調査してきました。本遺跡においても、平成11・12年度に勝山インター線建設に伴う発掘調査を行っています。その東南側に隣接する地点で行った今回の調査は、鹿谷町内で行われてきた中部縦貫自動車道に関連する調査を締めくくるものです。

今回の調査は、調査範囲が非常に広く、縄文時代早期から近世までの各時期の遺物が出土しています。また遺構も、弥生時代のトチヤクリを晒した土坑群や掘立柱建物群、平安時代の掘立柱建物群、中近世の掘立柱建物や井戸など多様性に富んでいます。

ただ、非常に遺憾なことに、平成16年7月18日に起こった福井豪雨で当センター本部建物内に足羽川の濁流が流入したことにより、保管していた遺物や図面類が被災し、その一部は流失してしまいました。よって、本報告でも本来なら掲載すべき遺物が掲載できない不備がありますことをご了承ください。

前述のような理由で、不完全な報告ではありますが、本書が今後地域の歴史研究に寄与するとともに、各方面で多くの方がたに活用される一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施から報告書の刊行に至るまで、関係諸機関をはじめ、多くの皆様がたから多大なご支援とご協力を賜りましたことに、厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

所 長 吉 岡 泰 英

例 言

- 1 本書は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが中部縦貫自動車道建設事業に伴い、平成11年度から16年度にかけて実施した志田神田遺跡（福井県勝山市鹿谷町志田所在）の発掘調査報告書である。
- 2 志田神田遺跡の調査は、国土交通省近畿地方整備局福井工事事務所の依頼を受けて福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが実施し、主査清水孝之、同川越光洋、文化財調査員坪田聡子、嘱託職員伊藤健司（平成11・12年度）、同野原大輔（平成12年度）、同鈴木惠介（平成12・14年度）、同川端良招（平成13年度）、同木下一誠（平成15・16年度）、同阿部来（平成16年度）が担当した。
- 3 発掘調査は、平成11年11月1日から平成16年7月15日まで実施した。出土遺物の整理作業は、平成14年4月2日から平成21年3月31日まで、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターにて実施した。
- 4 本書の編集は坪田があたり、清水、主査田中勝之、文化財調査員木村孝一郎、嘱託職員早瀬亮介、同土谷崇夫が分担して執筆した。なお、執筆の分担は以下の通りである。
清水孝之 第1章第1節、第2章 坪田聡子 第1章第2・3節、第3章、第4章、第5章第2～4・10節
早瀬亮介 第5章第1・8節 土谷崇夫 第5章第1節
木村孝一郎 第5章第5・9節 田中勝之 第5章第6・7節
- 5 志田神田遺跡に関するこれまでの成果の発表のうち、本書と齟齬がある場合は、本書をもって訂正したものと了解されたい。
- 6 遺構の図版作成は、主査鮎本眞友美、嘱託職員木村茉莉と坪田が行った。出土遺物の図化・図版作成は、主任富山正明、田中、木村(孝)、早瀬、土谷ならびに、木村(英)、嘱託職員岩田直樹、同清水邦彦が行い、同写真撮影は田中と、嘱託職員立壁肇、木村(英)の協力を得て、嘱託職員山口充が行った。
- 7 本書に掲載した弥生土器・土師器・須臾器の実測図のうち450点については、株式会社文化財サービスに委託し、作成したものを一部改変したものである。また、石器・石製品の实測図は、株式会社アルカと大成エンジニアリング株式会社に委託し、作成したものを使用している。
- 8 本製品1点は財団法人元興寺文化財研究所に委託して、保存処理と樹種鑑定を行った。
- 9 本書に掲載した地形図および遺構図は、株式会社バスコ（平成12年度）・アジア航測株式会社（平成13年度）・株式会社イビソク（平成14年度）・平和測量建設株式会社（平成15年度）・株式会社かんこう（平成16年度）に委託して作成したものを一部改変して使用した。上空からの写真は、航空測量時に上記5社が撮影したものである。また、5社の測量図と航空写真の合成・編集を株式会社イビソクに委託した。
- 10 遺物実測図と写真図版などの遺物番号は符合する。写真の縮尺は不同である。
- 11 本書における水平レベルの表示は、海拔高T.P.(m)を示し、方位はすべて座標北を用いた。また、X・Y座標値は、国土方眼座標系第Ⅵ系に基づく。
- 12 色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を基準とする。
- 13 遺物実測図は、断面黒塗りが須臾器を指す。薄いスクリーントーンは赤彩、点描は炭化を示す。
- 14 第3・8・9表において、異形は異形部分磨製石器、打斧は打製石斧、打斧調は打製石斧調整剥片、磨斧は磨製石斧を示す。Anは安山岩、Chはチャート、Saは砂岩、Shは頁岩を示す。また、Tはトレンチを示す。
- 15 本書に掲載した遺物と調査に際して作成した図面・写真は、一括して福井県教育庁埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 16 発掘調査ならびに本書の作成にあたり、次の方々および機関のご協力・ご教示を得た（順不同・敬称略）。
勝山市鹿谷地区、勝山市教育委員会、水村伸行、滝沢規朗
- 17 発掘調査には、地元の方々の参加・ご協力を得た。また、遺物整理作業は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの整理作業員があつた。

目 次

第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	3
第3節 遺物整理	4
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	7
第3章 遺跡の概要	11
第1節 層序	11
第2節 遺構の分布	11
第3節 遺物の出土状況	12
第4章 遺構と遺物	19
第1節 遺構および遺構内出土遺物	19
I 掘立柱建物 II 井戸 III 水場遺構・堅果類出土土坑 IV 土坑	
V 柱穴 VI 溝・自然流路 VII 鹿谷川旧流路	
第2節 遺構外出土遺物	113
第5章 まとめ	153
第1節 縄文時代の土器	153
第2節 弥生時代の土器	154
第3節 古墳時代の土器	158
第4節 平安時代の土器	158
第5節 中近世の土器・陶磁器	160
第6節 石器	162
第7節 石製品	172
第8節 木製品	173
第9節 金属製品・銅銭	173
第10節 各期の遺構と遺物	174

写真図版目次

- 巻首図版 (1) 九頭龍川より鹿谷町を望む
(2) 土坑SK1205遺物出土状況
- 図版第1 遺構 全調査区全景
- 図版第2 遺構 (1) 調査区遠景
(2) 1区全景
- 図版第3 遺構 (1) 3・4区全景
(2) 5区全景
- 図版第4 遺構 (1) 6区全景
(2) 7区全景
- 図版第5 遺構 (1) 8区全景
(2) 9区全景
- 図版第6 遺構 (1) 10~13区全景
(2) 14・15区全景
- 図版第7 遺構 (1) 掘立柱建物SB01完掘状況
(2) 掘立柱建物SB02完掘状況
- 図版第8 遺構 (1) 掘立柱建物SB03完掘状況
(2) 掘立柱建物SB04完掘状況
- 図版第9 遺構 (1) 掘立柱建物SB05完掘状況
(2) 掘立柱建物SB06完掘状況
- 図版第10 遺構 (1) 掘立柱建物SB09完掘状況
(2) 掘立柱建物SB10完掘状況
- 図版第11 遺構 (1) 掘立柱建物SB11完掘状況
(2) 掘立柱建物SB12完掘状況
- 図版第12 遺構 (1) 掘立柱建物SB13完掘状況
(2) 掘立柱建物SB14完掘状況
- 図版第13 遺構 (1) 掘立柱建物SB15完掘状況
(2) 掘立柱建物SB17完掘状況
- 図版第14 遺構 (1) 掘立柱建物SB18完掘状況
(2) 掘立柱建物SB19完掘状況
- 図版第15 遺構 (1) 掘立柱建物SB20完掘状況
(2) 掘立柱建物SB21完掘状況
- 図版第16 遺構 (1) 掘立柱建物SB22完掘状況
(2) 掘立柱建物SB23完掘状況
- 図版第17 遺構 (1) 掘立柱建物SB24完掘状況
(2) 掘立柱建物SB25完掘状況
- 図版第18 遺構 (1) 掘立柱建物SB04・柱穴SP07154半載状況
(2) 掘立柱建物SB04・柱穴SP07154遺物出土状況
(3) 掘立柱建物SB09・柱穴SP10119半載状況
(4) 掘立柱建物SB10・柱穴SP1059根石出土状況
(5) 掘立柱建物SB11・柱穴SP0705遺物出土状況
(6) 掘立柱建物SB12・柱穴SP07614柱根検出状況
(7) 掘立柱建物SB13・柱穴SP0765遺物出土状況
(8) 掘立柱建物SB13・柱穴SP0766遺物出土状況
- 図版第19 遺構 (1) 掘立柱建物SB13・柱穴SP0767遺物出土状況
(2) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0746遺物出土状況
(3) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0747遺物出土状況
(4) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0748遺物出土状況
(5) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0749遺物出土状況
(6) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0750遺物出土状況
(7) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0751遺物出土状況
(8) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0752遺物出土状況
- 図版第20 遺構 (1) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0756遺物出土状況
(2) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0757遺物出土状況
(3) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0764遺物出土状況
(4) 掘立柱建物SB18・柱穴SP0718遺物出土状況
(5) 掘立柱建物SB18・柱穴SP0719遺物出土状況
(6) 掘立柱建物SB18・柱穴SP0720遺物出土状況
(7) 掘立柱建物SB18・柱穴SP0721遺物出土状況
(8) 掘立柱建物SB18・柱穴SP0745遺物出土状況
- 図版第21 遺構 (1) 掘立柱建物SB25・井戸SE08完掘状況
(2) 井戸SE01曲物検出状況
- 図版第22 遺構 (1) 井戸SE02曲物検出状況
(2) 井戸SE02断削状況
- 図版第23 遺構 (1) 井戸SE03曲物検出状況
(2) 井戸SE03断削状況
- 図版第24 遺構 (1) 井戸SE04検出状況
(2) 井戸SE07検出状況
- 図版第25 遺構 (1) 井戸SE05検出状況
(2) 井戸SE06検出状況

図版第26	遺構	(1) 水場遺構SX01・土坑SK1200～1207検出状況 (2) 水場遺構SX01・土坑SK1200～1205検出状況	図版第38	遺物	自然流路 SD08・SD11・鹿谷川旧流路出土土器
図版第27	遺構	(1) 掘立柱建物SK1200遺物出土状況 (2) 土坑SK1201遺物出土状況	図版第39	遺物	鹿谷川旧流路出土土器
図版第28	遺構	(1) 土坑SK1202・SK1203遺物出土状況 (2) 土坑SK1204遺物出土状況	図版第40	遺物	鹿谷川旧流路出土土器
図版第29	遺構	(1) 土坑SK1205遺物出土状況 (2) 土坑SK1206遺物出土状況	図版第41	遺物	鹿谷川旧流路出土土器
図版第30	遺構	(1) 土坑SK1207遺物出土状況 (2) 水場遺構SX01・土坑SK1200～1207完掘状況	図版第42	遺物	鹿谷川旧流路出土土器
図版第31	遺構	(1) 土坑SK0901遺物出土状況 (2) 土坑SK0305完掘状況 (3) 土坑SK0704完掘状況 (4) 土坑SK0705完掘状況 (5) 柱穴SP07632柱根検出状況 (6) M6グリッド縄文土器出土状況 (7) H16グリッド縄文土器出土状況 (8) H14・H15グリッド縄文土器出土状況	図版第43	遺物	鹿谷川旧流路出土土器
図版第32	遺構	(1) H22グリッド鹿谷川旧流路遺物出土状況 (2) K24・K25グリッド鹿谷川旧流路遺物出土状況	図版第44	遺物	鹿谷川旧流路出土土器
図版第33	遺物	掘立柱建物・井戸・土坑出土土器	図版第45	遺物	鹿谷川旧流路出土土器
図版第34	遺物	土坑出土土器	図版第46	遺物	遺構外出土土器
図版第35	遺物	自然流路SD01出土土器	図版第47	遺物	遺構外出土土器
図版第36	遺物	自然流路SD01出土土器	図版第48	遺物	遺構外出土土器
図版第37	遺物	自然流路 SD02・SD04・SD05・SD06 出土土器	図版第49	遺物	墨書・漆書
			図版第50	遺物	石器 (1)
			図版第51	遺物	石器 (2)
			図版第52	遺物	石器 (3)
			図版第53	遺物	石器 (4)
			図版第54	遺物	石器 (5)
			図版第55	遺物	石器 (6)
			図版第56	遺物	石器 (7)
			図版第57	遺物	石器 (8)
			図版第58	遺物	石器 (9)
			図版第59	遺物	石器 (10)・石製品
			図版第60	遺物	腹甲・木製品 (1)
			図版第61	遺物	木製品 (2)
			図版第62	遺物	金属製品・銅銭

挿 図 目 次

第1図	志田神田遺跡位置図	2	第10図	掘立柱建物SB01・SB02実測図	21
第2図	グリッド配置図	3	第11図	掘立柱建物SB03・SB04実測図	22
第3図	福井県の地形区分図	5	第12図	掘立柱建物SB05実測図	23
第4図	勝山市の地形図	6	第13図	掘立柱建物SB06・SB07実測図	25
第5図	勝山市鹿谷町の遺跡分布図	9	第14図	掘立柱建物SB08・SB09実測図	26
第6図	土層柱状模式図	11	第15図	掘立柱建物SB10・SB11実測図	27
第7図	全体図(1)	13・14	第16図	掘立柱建物SB12・SB13実測図	29
第8図	全体図(2)	15・16	第17図	掘立柱建物SB14実測図	30
第9図	全体図(3)	17・18	第18図	掘立柱建物SB15実測図	31

第19回	掘立柱建物SB16·SB17実測図	33	第56回	自然流路SD05·SD07出土遺物実測図	81
第20回	掘立柱建物SB18·SB19実測図	35	第57回	自然流路SD06出土遺物実測図	82
第21回	掘立柱建物SB20·SB21実測図	36	第58回	自然流路SD06出土遺物実測図	83
第22回	掘立柱建物SB22·SB23実測図	37	第59回	自然流路SD06出土遺物実測図	84
第23回	掘立柱建物・柱穴出土遺物実測図	38	第60回	自然流路SD08出土遺物実測図	85
第24回	掘立柱建物SB24実測図	39	第61回	溝・自然流路出土遺物実測図	86
第25回	掘立柱建物SB24・雨落溝SD27出土遺物実測図	40	第62回	溝・自然流路出土遺物実測図	87
第26回	掘立柱建物SB25実測図	41・42	第63回	鹿谷川旧流路土層断面図	88
第27回	掘立柱建物SB25竪穴状遺構実測図	43	第64回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	89
第28回	掘立柱建物SB25竪穴伏遺構・SE08出土遺物実測図	43	第65回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	90
第29回	掘立柱建物SB25・井戸SE08実測図	44	第66回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	91
第30回	井戸SE01～SE06実測図	46	第67回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	92
第31回	井戸SE03出土遺物実測図	47	第68回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	93
第32回	井戸SE07実測図	48	第69回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	94
第33回	井戸SE07出土遺物実測図	48	第70回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	95
第34回	水場遺構SX01・土坑SK1200～SK1207実測図	50	第71回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	96
第35回	水場遺構SX01・土坑SK1200～SK1203実測図	51	第72回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	97
第36回	土坑SK1204～SK1207実測図	53	第73回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	98
第37回	土坑SK1205出土遺物実測図	54	第74回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	99
第38回	土坑実測図	57	第75回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	100
第39回	土坑実測図	59	第76回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	101
第40回	土坑実測図	60	第77回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	102
第41回	土坑実測図	61	第78回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	103
第42回	土坑実測図	63	第79回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	104
第43回	土坑出土遺物実測図	64	第80回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	105
第44回	土坑出土遺物実測図	65	第81回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	106
第45回	柱穴実測図	66	第82回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	107
第46回	柱穴出土遺物実測図	66	第83回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	108
第47回	溝・自然流路土層断面図	72	第84回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	109
第48回	溝・自然流路土層断面図	73	第85回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	110
第49回	溝・自然流路土層断面図	74	第86回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	111
第50回	自然流路SD01出土遺物実測図	75	第87回	鹿谷川旧流路出土遺物実測図・拓影	112
第51回	自然流路SD01出土遺物実測図	76	第88回	縄文土器出土状況実測図	113
第52回	自然流路SD01出土遺物実測図	77	第89回	遺構外出土遺物実測図	114
第53回	自然流路SD01出土遺物実測図	78	第90回	遺構外出土遺物実測図	115
第54回	自然流路SD01·SD02出土遺物実測図	79	第91回	遺構外出土遺物実測図	116
第55回	自然流路SD03·SD04出土遺物実測図	80	第92回	遺構外出土遺物実測図	117

第93図	遺構外出土遺物実測図	118	第103図	遺構外出土遺物実測図	128
第94図	遺構外出土遺物実測図	119	第104図	遺構外出土遺物拓影	129
第95図	遺構外出土遺物実測図	120	第105図	石器 1	166
第96図	遺構外出土遺物実測図	121	第106図	石器 2	167
第97図	遺構外出土遺物実測図	122	第107図	石器 3	168
第98図	遺構外出土遺物実測図	123	第108図	石器 4	169
第99図	遺構外出土遺物実測図	124	第109図	石器 5	170
第100図	遺構外出土遺物実測図	125	第110図	石器 6	171
第101図	遺構外出土遺物実測図	126	第111図	中世の石製品	172
第102図	遺構外出土遺物実測図	127	第112図	遺構概略図	175

表 目 次

第1表	遺跡名一覧表	9
第2表	土器・土製品観察表	130
第3表	石器観察表	147
第4表	石製品観察表	151
第5表	木製品観察表	151
第6表	金属製品観察表	151
第7表	銅銭観察表	152
第8表	石器組成表1	162
第9表	石器組成表2	162
第10表	石製品組成表	172

付 図

付図 志田神田遺跡遺構分布図

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

志田神田遺跡は、福井県勝山市鹿谷町志田字神田他に所在する。鹿谷町は勝山市西部の九頭龍川左岸に位置し、北流する鹿谷川とその支流である北西伏川によって開析された谷地形を呈している。志田神田遺跡は、鹿谷川右岸に位置する志田集落の南東側の緩傾斜地に立地する。緩傾斜地は東側の丘陵部から鹿谷川に向かって緩やかに下り、水田として利用されていた（第1図）。

勝山市鹿谷町における考古学的な知見は、昭和49年（1974）より明らかとなる。昭和49年（1974）に鹿谷町本郷地籍において、圃場整備事業に伴い、本郷遺跡が不時発見された。不時発見の連絡を受けて関係機関が協議を行い、翌昭和50年（1975）に本郷遺跡の試掘調査が実施される運びとなった。この試掘調査の際に鹿谷町内の遺跡の遺存状況を把握するため、調査員によって分布調査が行われた^①。この分布調査により、志田集落南東側の水田において古墳時代の遺物散布地が確認され、「神田遺跡」と名付けられた^②。

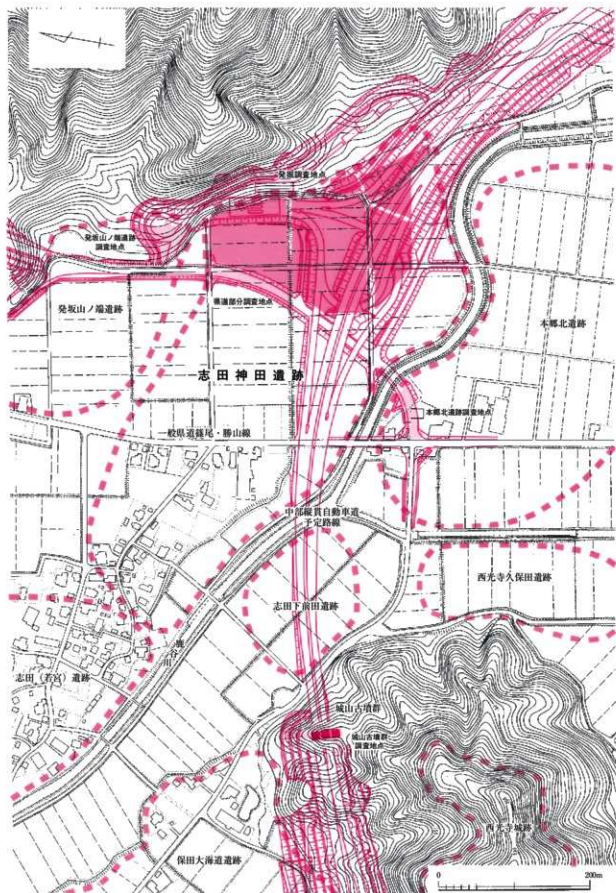
その後、県内各地での開発行為の増加とともに、県内全域の詳細な遺跡分布地図の必要性が求められた。このため、県教育委員会を主体とし、各市町村の教育委員会の協力を得ながら県内全域の遺跡の詳細な分布調査が実施された。その成果は、平成5年（1993）に「福井県遺跡地図-平成4年度-」にまとめられた^③。これにより、前述の「神田遺跡」についても表面観察のみではあるが遺跡の範囲がおおよそ把握されることとなり、さらに遺跡名称の整理も行われ、「志田神田遺跡」として改めて周知されることとなった。

昭和62年（1987）に国の道路審議会の答申により高規格幹線道路網の整備が計画され、県内においても福井市から長野県松本市を結ぶ中部縦貫自動車道の整備が具体化し始めた。中部縦貫自動車道は一般国道158号の自動車専用道路として計画されたもので、総延長は約160kmにもおよぶ。その路線は北陸自動車道福井北インターチェンジを起点として九頭龍川左岸を東進し、一般国道158号に沿う形で岐阜県内を通過して長野県松本市に至るものである。特に、県内については「永平寺大野道路」と呼称される福井市玄正島町の北陸自動車道福井北インターチェンジから大野市中津川に至る延長26.4kmの区間について、まず着手することとなった。

勝山市内では鹿谷町に中部縦貫自動車道の本線と勝山インターチェンジ、ならびに自動車道へ連結する一般県道勝山インター線の建設が計画され、事業予定地内において埋蔵文化財の試掘調査・発掘調査が随時進められた。

志田神田遺跡については、中部縦貫自動車道の勝山インターチェンジと一般県道勝山インター線の路線に係り、試掘調査ならびに発掘調査が実施された。まず、県道部分の試掘調査が平成9年（1997）10月17日に、福井県教育庁埋蔵文化財調査センター（以下、埋文センターと略す）によって実施され、事業予定地内において弥生時代から平安時代の遺構・遺物の存在を確認した。この結果を受けて、関係機関との協議を行い、志田神田遺跡の発掘調査の実施が決定された。一般県道勝山インター線建設事業に伴う志田神田遺跡の発掘調査は、平成12年（2000）4月19日から10月20日まで実施された^④。

中部縦貫自動車道建設事業に伴う試掘調査は、建設省近畿地方整備局福井工事事務所（平成13年に国土交通省近畿地方整備局福井工事事務所に改組）の依頼を受けて路線内の他の遺跡と共に平成10年



第1図 志田神田遺跡位置図 (縮尺1/5,000)

(1998) 7月31日から9月7日にかけて埋文センターにより実施された。試掘調査の結果、事業予定地内において弥生時代から平安時代の遺構・遺物を検出した。以上の試掘調査の結果を基に、建設省近畿地方整備局福井工事事務所と協議を行い、平成11年度の後半より志田神田遺跡の発掘調査に着手することで合意した。ただし、志田神田遺跡の調査対象面積が33,580㎡をはるる広大なものであったため、発掘調査は調査対象地を1～15区に区分して随時実施することとなった⁴⁵⁾。

志田神田遺跡の発掘調査は工事着工の優先順位に基づいて1区より着手し、平成11年(1999)11月1日より開始した。

第2節 調査の経過

前述のように、調査対象地を1～15区に区分し(第2図)、順次調査を実施した。各調査区の調査期間・調査面積・航空測量日は以下の通りである。

1区 調査面積 2,000㎡ 調査期間 平成11年(1999)11月1日～平成12年(2000)11月9日

航空測量日 平成12年(2000)11月8日

3区 調査面積 3,500㎡ 調査期間 平成12年(2000)8月8日～平成13年(2001)3月28日

航空測量日 平成13年(2001)3月22日

4区 調査面積 710㎡ 調査期間 平成13年(2001)3月22日～平成13年(2001)7月10日

航空測量日 平成13年(2001)7月4日

5区 調査面積 710㎡ 調査期間 平成13年(2001)3月22日～平成13年(2001)7月10日

航空測量日 平成13年(2001)7月4日

6区 調査面積 2,860㎡

調査期間 平成13年(2001)3月22日

～平成13年(2001)7月10日

航空測量日 平成13年(2001)7月4日

7区 調査面積 5,000㎡

調査期間 平成13年(2001)8月1日

～平成14年(2002)3月28日

航空測量日 平成14年(2002)3月14日

8区 調査面積 2,500㎡

調査期間 平成14年(2002)4月4日

～平成14年(2002)7月2日

航空測量日 平成14年(2002)6月27日

9区 調査面積 6,100㎡

調査期間 平成14年(2002)4月4日

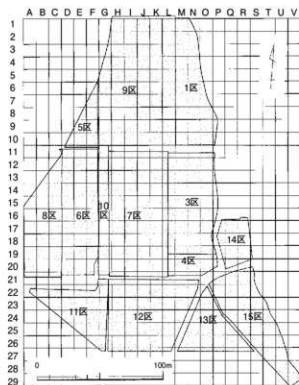
～平成15年(2003)3月20日

航空測量日 平成14年(2002)12月20日

10区 調査面積 910㎡

調査期間 平成15年(2003)4月7日

～平成15年(2003)12月2日



第2図 グリッド配置図(縮尺1/3,000)

	航空測量日	平成15年(2003)	11月20日
11区	調査面積	1,300㎡	調査期間 平成15年(2003) 4月7日～平成15年(2003) 11月20日
	航空測量日	平成15年(2003)	11月20日
12区	調査面積	3,400㎡	調査期間 平成15年(2003) 4月7日～平成15年(2003) 12月15日
	航空測量日	平成15年(2003)	11月20日
13区	調査面積	1,490㎡	調査期間 平成15年(2003) 4月7日～平成15年(2003) 11月20日
	航空測量日	平成15年(2003)	11月20日
14区	調査面積	650㎡	調査期間 平成15年(2003) 11月20日～平成16年(2004) 7月15日
	航空測量日	平成16年(2004)	7月1日
15区	調査面積	2,450㎡	調査期間 平成15年(2003) 9月4日～平成16年(2004) 7月15日
	航空測量日	平成16年(2004)	7月1日

第3節 遺物整理

本遺跡の遺物整理は平成14年度から開始した。以下、年度毎に実施した主な作業について記述する。

平成14年度 洗浄・注記

平成15年度 洗浄・注記・接合

平成16年度 洗浄・注記・接合

平成17年度 接合・分類・復元

平成18年度 復元・土器図化トレース・石器図化トレース・測量図合成・木製品保存処理

平成19年度 土器図化トレース・石器図化トレース

平成20年度 遺構トレース・遺物の写真撮影・原稿執筆

なお、平成16年の福井豪雨により、整理作業場所であった埋文センターの本部が被災したため、一部の出土遺物や図面類が流失した。遺物では特に木製品の被害が甚大で、井戸から出土した曲物や掘立柱建物の柱材などは大半が流失したため、実測図や写真の掲示を行えない場合が多い。また土器類では、流失を免れた場合でも、出土地が分からなくなったものや、形状が変わってしまったものがある。図面類では、調査現場で作成したメモ類や調査日誌、遺物整理の際に集計・整理したメモやデジタルデータなどの一部は判読不能となった。水害による被害の全容を把握する術がないため、次章以降の遺構・遺物の説明に際しては、不確かな要素が残っていることをお断りしておく。

註

- 1 試掘調査を担当した中司照世前所長による。
- 2 中司照世編 1977 『鹿谷本郷遺跡』勝山市埋蔵文化財調査報告第1集 勝山市教育委員会
- 3 福井県教育委員会 1993 『福井県遺跡地図-平成4年度-』
- 4 川越光洋編 2003 『志田神田遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第66集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 5 志田神田遺跡では、中部縦貫自動車道と一般県道勝山インター線の二つの建設事業に伴う発掘調査が同時に併行して実施された。このため調査区の設定については、遺跡全体の遺構の配置状況を把握・整理するため、一般県道勝山インター線建設事業予定地も含めて区分けを行った。この県道部分については2区として扱い、詳細は前掲註4の文献にて既に報告されている。なお、調査面積の33,580㎡には2区は含まれていない。

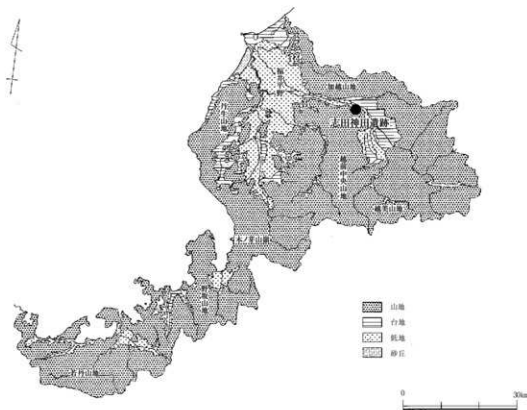
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

福井県は本州中央部の凹部に位置し、西側は日本海に面している。東西約130km、南北約100kmをはかり、面積は約4,189km²をはかる（第3図）。福井県は敦賀市の北東部にある木ノ芽山嶺を境として、行政的には北側を嶺北地方、南側を嶺南地方と呼称する。現在では嶺南地方に含まれている敦賀市から以北を近代以前では越前国、敦賀市を除く嶺南地方を若狭国として区分していた。福井県の北側は加越山地で石川県と、南東側は越美山地で岐阜県と接し、南西側から西側にかけては野坂山地・若丹山地で滋賀県および京都府と境を接する。福井県の嶺北地方はあまり凹凸のない海岸線を有するものの、東尋坊や呼島門のような切り立った岩肌が海岸線に連なり、奇岩の景勝地として知られる。一方、嶺南地方は細くのびる半島が複雑に入り組む日本海側有数のリアス式海岸を有している。

嶺北地方は周囲を山地に囲まれ、唯一北西側で日本海に面して開く。各山地より流れ出る九頭龍川・足羽川・日野川などの主要河川は、この開口部に向かって集まる。これらの主要河川の堆積物で形成された沖積平野が、北陸地方有数の穀倉地帯である福井平野である。

嶺北地方北東部に位置する勝山市は九頭龍川中流域に位置し、周囲を加越山地・越前中央山地に囲まれた勝山盆地と呼ばれる盆地地形を呈する（第4図）。勝山市の地形は、大きく山地と平地に分けられる。山地は、加越山地と越前中央山地である。加越山地は九頭龍川以北の山地で、前述したように石川県と境を接する。県境付近には西側から浄法寺山（標高1,053m）・大日山（標高1,368m）・兜山（標高1,319



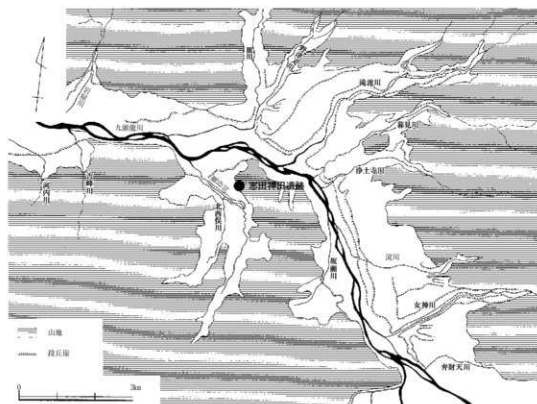
第3図 福井県の地形区分図（縮尺1/1,000,000）

m)・取立山(標高1,307m)・烏岳(標高1,327m)・大長山(標高1,671m)・赤兎山(標高1,629m)などの標高1,000mを超える諸山がそびえている。これらの山々は白山火山群と同時期、もしくはそれよりも古い火山性の山々である。一方、越前中央山地は、九頭龍川以南の勝山市鹿谷町・同市遅羽町を取り巻く山地である。加越山地に比して高度が低い壮年期の山地で、沈降性山地の特色を持つ。永平寺町との境には、経ヶ岳(標高765m)がそびえる。

平地は勝山盆地と志比地溝に分かれる。勝山盆地内は、九頭龍川をはじめとする河川によって形成された扇状地・河岸段丘・氾濫原に地形がさらに区分できる。九頭龍川の支流である岩屋川・滝波川・暮見川・浄土寺川・女神川の流域には扇状地が形成され、その両岸には河岸段丘が見られる。九頭龍川の両岸にも1～3段の河岸段丘が形成されており、勝山市平泉寺町大渡地区から永平寺町鳴鹿地区にかけての断続的な段丘崖を「七里壁」と呼称している。

志比地溝は、勝山市荒土町伊波地区と同市鹿谷町発坂地区を結ぶ線から永平寺町鳴鹿地区にかけての谷底平野である。南北を加越山地と越前中央山地に挟まれ、その間を九頭龍川が流れる。山地は急斜面をなし、九頭龍川は中流域の特色である網状河川を呈している。

勝山市鹿谷町は勝山市の西部に位置し、東西および南側を山地に囲まれ、北側に大きく開口する谷内に所在する。鹿谷町を囲う山地は越前中央山地の北東端にあたり、谷の入り口に当たる保田地区から発坂地区にかけては九頭龍川による河岸段丘が形成されている。鹿谷町は、町内の中央部を北流する鹿谷川とその支流である北西俣川によって開析された谷地形を呈する。この地形は鹿谷町発坂地区から矢戸口地区にかけての勾配が100分の1にすぎず、極めて平坦な袋状の埋積谷の特色を示している。鹿谷川はこの袋状の埋積谷を流れるが、深い浸食は見られない。鹿谷町は周囲が山地に囲まれた地形であるた



第4図 勝山市の地形図(縮尺1/10,000)

め、北西保地区と福井市皿谷町との間には芦見坂が、矢戸口地区と大野市大矢戸地区の間には矢戸坂が、東漕羽地区と勝山市漕羽町蓬生地区との間には蓬生坂が所在し、峠交通路が発達していた。

第2節 歴史的環境

勝山市では、市域において遺跡の発掘調査が多数実施されている。考古学的知見からの勝山市の歴史的環境についてはすでに各種の文献にて詳述されているため、詳細についてはそれらの文献に譲りたい。本節では志田神田遺跡が所在する鹿谷町について、時代毎に主要な遺跡を取り上げ、鹿谷町の歴史的環境についてまとめたい（第5図、第1表）。

縄文時代

縄文時代の遺跡として、本郷北遺跡・本郷遺跡が挙げられる。

本郷北遺跡（第5図16）は、鹿谷川左岸の自然堤防上に立地する。平成10・11年（1998・1999）に、一般県道勝山インター線建設事業に伴って発掘調査が実施された¹¹。この遺跡からは貯蔵穴と考えられる直径1m前後の円形の土坑を検出し、土坑内からは縄文時代前期末葉の土器が出土している。遺構の配置状況から、本郷北遺跡の中心は調査区南側一帯に広がるものと想定される。

本郷遺跡（第5図17）は、昭和50年（1975）に圃場整備事業に伴って試掘調査が実施された¹²。調査は遺跡の遺存状況の把握を主としていたため、小規模な発掘にとどまり、僅かに柱穴状のピットを確認したのみである。出土した遺物は、縄文時代後期後葉から晩期前葉に位置づけられる。本郷遺跡は本郷北遺跡に南接する形で立地しており、このことから両遺跡が一つの遺跡群としてまとまりを持つことが容易に想定できる。

弥生時代

弥生時代の遺跡として、発坂山ノ端遺跡・志田神田遺跡・本郷北遺跡・城山古墳群が挙げられる。

発坂山ノ端遺跡（第5図11）は、鹿谷川右岸の低丘陵上およびその前面の水田地帯に立地する。平成11・12年（1999・2000）に、中部縦貫自動車道および一般県道勝山インター線建設事業に伴って発掘調査が実施された¹³。調査箇所は志田神田遺跡に北接する低丘陵上であり、弥生時代後期後半から末にかけての竪穴住居を4棟検出している。その他に、掘立柱建物も多数検出しているが、その多くは時期を判別できる遺物が伴わないため帰属時期が明確ではない。しかし、掘立柱建物が竪穴住居と重複して構築されていないため、弥生時代に帰属する可能性がある。また、低丘陵前面の水田地帯においても、平成7年（1995）に勝山市教育委員会により雇用促進住宅の建設事業に伴って発掘調査が実施されており、弥生時代後期末の遺物を含む河川跡を検出している¹⁴。

志田神田遺跡（第5図10）は、鹿谷川右岸の水田地帯に立地する。平成12年（2000）に、一般県道勝山インター線建設事業に伴って発掘調査が実施された¹⁵。圃場整備の際の削平が著しく、明確ではないが、弥生時代に属する可能性がある掘立柱建物を1棟検出している。

発坂山ノ端遺跡および志田神田遺跡の様相から、弥生時代の集落が鹿谷川右岸の低丘陵上およびその前面に展開していたことがうかがえる。

本郷北遺跡（第5図16）では、削平のため遺存状況はあまり良好とはいえないが、弥生時代後期末の竪穴住居を1棟検出している¹⁶。これにより、谷中央部の自然堤防上にも該期の集落が存在することが明らかとなった。

発坂山ノ端遺跡・志田神田遺跡および本郷北遺跡が鹿谷町内の弥生時代の集落域であるならば、墓域

に相当するのが城山古墳群である。

城山古墳群（第5図14）は鹿谷川左岸の丘陵上に立地し、鹿谷川を挟んで東側の発坂山ノ端遺跡と対峙している。城山古墳群は古墳とは称するものの、正確には弥生時代後期後半から末にかけての墳丘墓である。平成10・11年（1998・1999）に中部縦貫自動車道建設事業に伴って発掘調査が実施され、丘陵頂部において一辺が9m前後をはかる方形の墳丘墓を3基検出した⁹⁷⁾。2・3号墓では墳丘盛土の流出が著しく、遺存状況は芳しいものではなかったが、1号墓は比較的遺存状況が良好で、墳丘頂部において埋葬施設1基を検出した。しかし、埋葬施設からは、副葬品は出土しなかった。

古墳時代

鹿谷町の発坂地区において2基の古墳が確認されているが、詳細は不明である。しかもその内の1基である発坂1号墳（第5図12）は土取りによってすでに消滅している。

古代

古代の遺跡では、志田神田遺跡・発坂山ノ端遺跡が挙げられる。

志田神田遺跡（第5図10）の県道勝山インター線建設事業に伴う調査区において、遺存状況は芳しくなかったが掘立柱建物・溝などを検出している⁹⁸⁾。掘立柱建物の帰属時期は明確ではないが、柱穴内より8世紀後半代の土器が出土していることから、建物はこの時期のものであろうと推定される。また、溝からは陽物形木製品が出土している。

発坂山ノ端遺跡（第5図11）の中部縦貫自動車道および一般県道勝山インター線建設事業に伴う調査区では、掘立柱建物を1棟検出している⁹⁹⁾。削平のため建物の東側の柱穴列のみの検出となったが、径1m前後をはかる柱穴を8基検出している。検出した柱穴が南北方向に整然と並ぶ様子から、大型の掘立柱建物が存在したことをうかがわせる。掘立柱建物の帰属時期は明確ではないが、柱穴内より出土した遺物から10世紀代もしくはそれ以前の建物と考えられる。

以上の2遺跡の様相から、古代の集落が鹿谷川右岸の低丘陵上およびその前面に展開していたと言えるだろう。

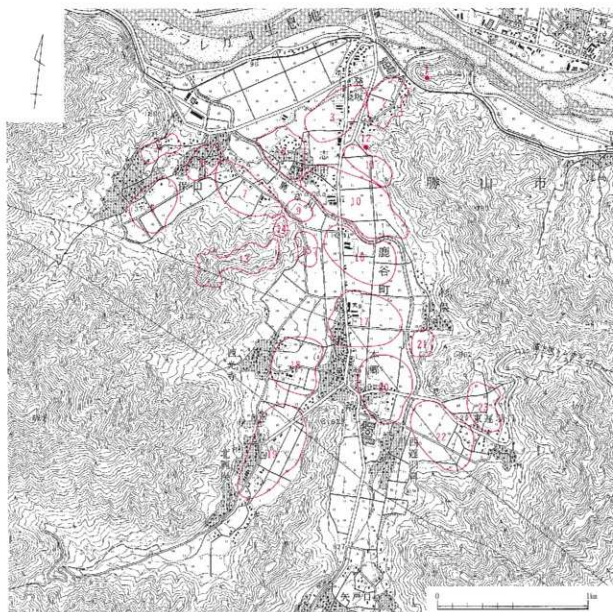
中世

鹿谷町内では現時点において、中世の集落遺跡は明らかではない。鹿谷町自体が狭小な谷地形を呈していることから、中世においても谷の中央部が耕地として利用されたことが容易に想像され、このため現集落域に該期の集落が重なる可能性が非常に高いと言える。

集落以外の遺跡では、発坂山ノ端遺跡・西光寺城跡が挙げられる。

発坂山ノ端遺跡（第5図11）の中部縦貫自動車道および一般県道勝山インター線建設事業に伴う調査区では、削平を受けているが中世墓と考えられる石組遺構を1基検出している¹⁰⁰⁾。この石組遺構は、一部は遺存しないものの大型の石をコの字状に配し、その中に小礫を充填していた。遺存部分から推定して石組遺構を復元するならば、一辺が2.6m前後をはかる方形に石が組まれていたと考えられる。石組遺構の近傍からは越前焼の片口鉢が1点出土しており、この片口鉢の年代から石組遺構が鎌倉時代に属する可能性がある。

西光寺城跡（第5図13）は鹿谷川左岸の丘陵上に立地し、城山古墳群背後の丘陵頂部を中心に山城遺構が構築されている¹⁰¹⁾。西光寺城跡については記録が残っていないため、築城時期および城主については定かではない。しかし、畝状堅堀が整備されていることから、元龜から永祿期頃には築城されていたと推定され、山城遺構の特徴および文献資料の調査から、朝倉氏配下の嶋田将監が築城あるいは整備に



第5図 勝山市鹿谷町の遺跡分布図 (縮尺1/25,000)

第1表 遺跡名一覧表 (番号は第5図に対応)

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	発坂2号墳	古墳	古墳	13	西光寺城跡	城跡	中世・近世
2	発坂宮ノ前遺跡	散布地	奈良・平安	14	城山古墳群	墳丘墓	弥生
3	発坂中町遺跡	散布地	弥生～近世	15	西光寺久保田遺跡	散布地	奈良・平安
4	保田東小屋敷遺跡	散布地	中世・近世	16	本郷北遺跡	集落	縄文・弥生
5	保田南田遺跡	散布地	奈良・平安・近世	17	本郷遺跡	集落	縄文
6	保田梅木町遺跡	散布地	縄文・奈良～中世	18	西光寺前田遺跡	散布地	中世・近世
7	保田大海遺跡	散布地	奈良～近世	19	北西保遺跡	散布地	奈良・平安
8	志田(若宮)遺跡	散布地	縄文～古墳・中世・近世	20	本郷十八堂遺跡	散布地	奈良～近世
9	志田下前田遺跡	散布地	奈良・平安・近世	21	杉保内河原遺跡	散布地	中世・近世
10	志田神田遺跡	集落	縄文～近世	22	東涯羽口下杉遺跡	散布地	奈良～中世
11	発坂山ノ端遺跡	集落	縄文・弥生・平安・中世	23	東涯羽口横枕遺跡	散布地	縄文・奈良～近世
12	発坂1号墳	古墳	古墳				

係っていた可能性が指摘されている⁽¹²⁾。

以上、考古学的資料を用いて鹿谷町の歴史的環境を概説してきた。鹿谷町は狭小な谷地形を呈するものの、縄文時代から中世にかけての遺跡が確認されており、豊かな歴史的環境を有していると言える。今後、本報告書で報告する志田神田遺跡の資料が、この地域での研究の発展に寄与することを願いたい。

註

- 1 清水孝之編 2003 「本郷北遺跡」 福井県埋蔵文化財調査報告 第65集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 2 中司照世編 1977 「鹿谷本郷遺跡」 勝山市埋蔵文化財調査報告 第1集 勝山市教育委員会
- 3 坪田聡子編 2004 「発取山ノ端遺跡」 福井県埋蔵文化財調査報告 第77集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 4 宝珍伸一郎 1996 「発取山ノ端遺跡」 『第11回発掘調査報告会資料』 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 5 川越光洋編 2003 「志田神田遺跡」 福井県埋蔵文化財調査報告 第66集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 6 前掲註1
- 7 清水孝之編 2002 「城山古墳群」 福井県埋蔵文化財調査報告 第60集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 8 前掲註5
- 9 前掲註3
- 10 前掲註3
- 11 福井県立朝倉氏遺跡資料館編 1987 「福井県の中・近世城館跡」 福井県教育委員会
- 12 青木豊昭 2003 「朝倉義景時代の山城 - その縄張の特徴と意義 -」 『朝倉義景のすべて』 新人物往来社

参考文献

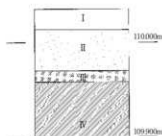
- 勝山市 1974 『勝山市史』 第1巻 風土と歴史
- 勝山市 1997 『図説勝山市史』
- 日本地誌研究所編 1970 『日本地誌』 第10巻 富山県・石川県・福井県 二宮書店
- 福井県 1986 『福井県史』 資料編13 考古
- 福井県教育委員会 1993 「福井県遺跡地図-平成4年度-」

第3章 遺跡の概要

第1節 層序

志田神田遺跡は勝山市鹿谷町志田の東端に位置し、標高108～112mをはかる。調査地は水田および畑地として利用されていた。調査区の大部分では、昭和40年代の圃場整備により大規模な掘削や造成が行われており、一部を除いて包含層はほとんど存在していない。

標準的な層序を模式的に表せば、第6図の通りである。



第6図 土層柱状模式図

第Ⅰ層は、暗褐色粘質土から構成される土層である。層厚は西端では0.1～0.2mをはかるが、東側丘陵部では層厚が増して0.4～0.5mをはかる。表土層である。

第Ⅱ層は、褐色～黒褐色粘質土から構成される土層で、層厚0.4～0.6mをはかる。圃場整備時の盛土層と考えられる。

第Ⅲ層は、黒色粘質土から構成される土層で、層厚0.1～0.5mをはかる。遺物が少量出土する包含層である。14・15区の一部に存在する。

第Ⅳ層は、黄褐色～黄灰色粘質土から構成される土層で、この上面にて遺構を確認する。地山である。

調査区の土層はおおまかに以上の4層にわけることができる。しかし、第Ⅲ層はほとんど存在していない。

第2節 遺構の分布

今回の調査区の総面積は、33,580m²をはかる。検出した主な遺構は、以下のとおりである。

掘立柱建物 25棟、井戸 8基、溝・自然流路 43条、土坑・柱穴 多数

今回の調査区は丘陵裾部に位置しており、圃場整備前は緩やかな斜面が鹿谷川にむかってのびていたと考えられる。圃場整備時に、この斜面を削平して平坦に整え、鹿谷川は埋め立てて流路を変更している。削平は遺構面にまでおよんでいることから、遺構の遺存状況はあまり果敢しくない。なかでも、1・3・6・8・12・13区では、著しく改変が行われており、確認できた遺構は少ない。遺構内から遺物が出土する例が僅かであるため、時期を特定できる遺構は限られるが、弥生時代・平安時代・中近世のものがある。

弥生時代の遺構は、掘立柱建物・土坑・柱穴・溝・自然流路などがあり、調査区内に広く分布している。堅果類を水に晒していたと考えられる土坑は、鹿谷川旧流路内でまとまって検出している。時期を詳細に区分すると、遺構の偏在もみられる。

平安時代の遺構は掘立柱建物・土坑・柱穴・溝・自然流路などがあり、9列以南に分布する。調査区のほぼ中央を流れる自然流路SD01が、北限となっていた可能性が考えられる。

中近世の遺構は掘立柱建物・井戸・柱穴などがある。中近世に属すると考えられる遺構の数は限られており、3・14区の16列から19列に集中している。

今回の調査区では、各時代の集落が断続的に展開していたと考えられるが、いずれの時期でも鹿谷川

(旧流路)がその南端であった可能性が高い。各時期の遺構の分布には偏在が認められる場合もあるが、後世の改変による影響が少なくないと考えられるため、各時代の集落の広がりについて詳らかにすることは困難である。

第3節 遺物の出土状況

縄文時代早期から近世までの各時期の遺物が出土している。

最も古い土器は、縄文時代早期の押型文土器である。主として第IV層中から出土しているが、流水作用による二次堆積と考えられる。

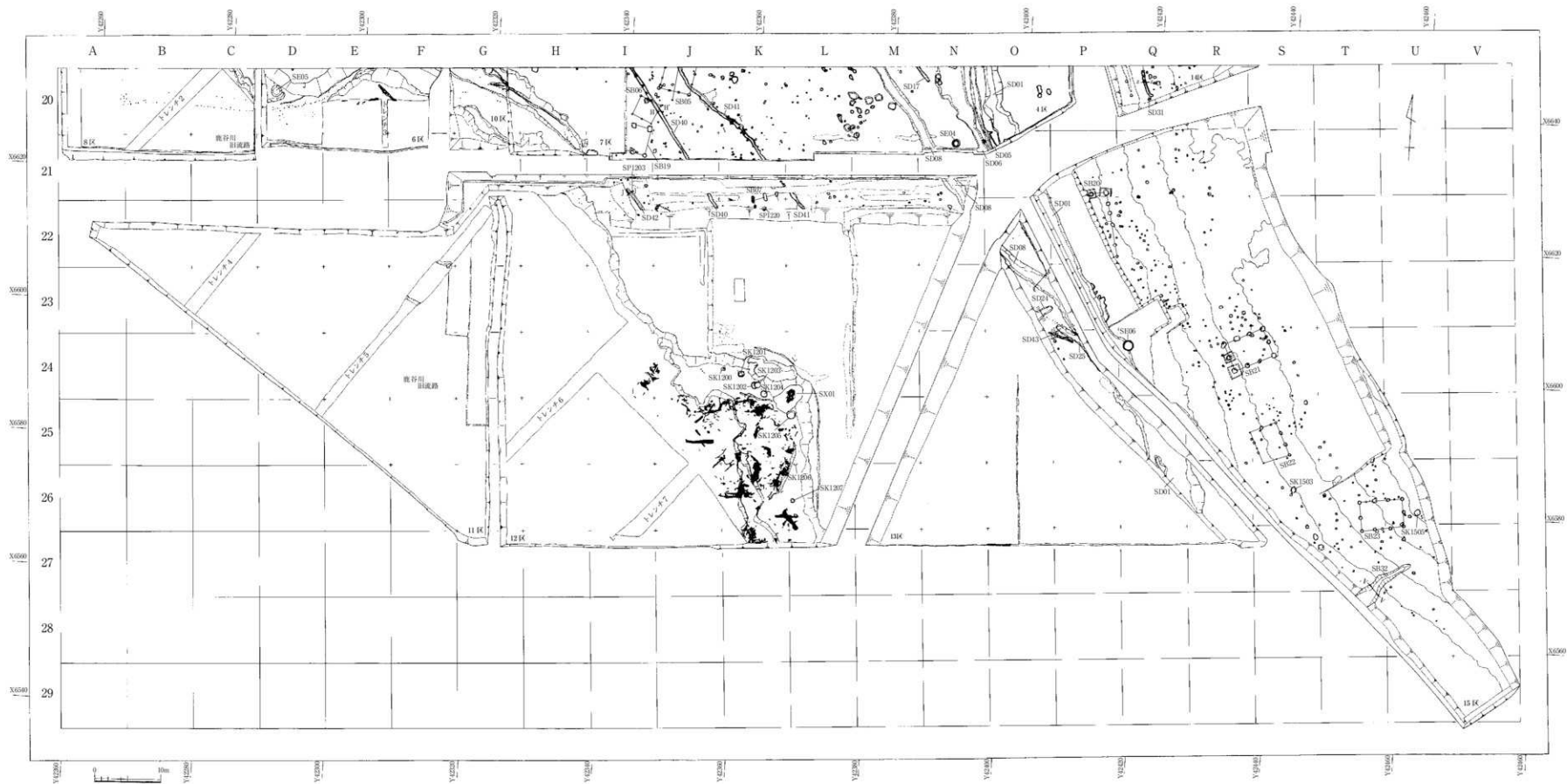
土器の主体となるのは、溝・自然流路や鹿谷川旧流路から出土した、弥生土器や平安時代の須恵器・土師器である。弥生土器は、中期に属するものもあるが、後期後葉から末にかけての時期のものが多い。隣接する発坂山ノ端遺跡でも同じ時期の遺物が出土している。

鹿谷川旧流路で出土した平安時代の須恵器・土師器は、掘立柱建物群に近接するグリッド(G20~I23)に特に集中が認められることから、当時の消費行動に伴って生活拠点の周辺に廃棄されたことがうかがえる。このなかには、墨書や漆書された須恵器・土師器が含まれており、また転用硯と考えられるものも存在する。少し離れるが、同じ鹿谷川旧流路からは風字硯なども出土しており、識字層の存在を示すものといえる。

石器は、自然流路や鹿谷川旧流路、表土中から打製石斧が非常に多く出土している。隣接する発坂山ノ端遺跡でも同様の傾向が既に報告されており、当地の地域性を表すものと考えられる。

木製品は各時代のものであるが、量的にはあまり多くない。出土場所は井戸や土坑、自然流路、鹿谷川旧流路などである。特に注目されるものは、堅果類出土土坑に掛け渡していたような形で出土した組み合わせ式布巻具である。

金属器は、自然流路や鹿谷川旧流路、表土から出土しているが、中近世に属するものが大半である。銅銭も同様である。



第9图 全体图3 (S=1/500)

第4章 遺構と遺物

第1節 遺構および遺構内出土遺物

検出した遺構には、掘立柱建物、井戸、土坑、柱穴、溝、自然流路、河川などがある。各遺構の規模（大きさ・深さなど）や方位（角度）の数値は、すべて遺構確認面を基準として、測量図上で測定・算出した概測値である。

出土遺物の詳細については、観察表（第2～7表）を参照されたい。

I 掘立柱建物

方形を基調として、規則的に配列されている柱穴列を掘立柱建物と認定した。便宜上、柱穴列で構成される四角形の長軸方向を桁行、短軸方向を梁行と規定している。各掘立柱建物の桁行・梁行の長さは、各柱穴列の両端に所在する柱穴の中心を直線で結んだ距離を計測している。また、桁行方向は、座標北に対して、東または西に偏する角度を計測している。

SB01（第10図）

7区J16・J17グリッドで検出した桁行2間（4.40m）、梁行1間（2.34m）の側柱建物である。SB02の1.78m西方にある南北棟の建物で、桁行方向はN38°Wである。柱間寸法は、桁行が2.00～2.40m、梁行が2.34mをはかる。

柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.26～0.36m、短軸0.21～0.32m、深さ0.10～0.29mをはかる。柱穴からの遺物の出土はほとんどなく、SP07248から弥生土器が少量出土したのみである。

SB02（第10図）

7区J16・J17・K17で検出した桁行2間（4.19m）、梁行1間（2.36m）の側柱建物である。北面には庇が付く。SB01の約1.8m東方に存在する南北棟の建物である。桁行方向はN38°Wである。SB01と同じ角度であり、2棟が正確に平行して並んでいることがわかる。母屋の柱間寸法は、桁行が2.00～2.20m、梁行が2.36mである。庇の柱間は、桁行で1.14mである。

柱穴は円形または楕円形を呈する。母屋の柱穴は、長軸0.23～0.72m、短軸0.20～0.38m、深さ0.10～0.21mをはかる。庇の柱穴は、長軸0.33～0.47m、短軸0.27～0.31m、深さ0.10～0.20mをはかる。いずれの柱穴からも遺物は出土していない。

SB03（第11図）

7区H18・I18グリッドで検出した。南東隅の柱穴を確認することはできなかったが、桁行3間（5.18m）、梁行1間（3.50m）の側柱建物と考えられる。南北棟の建物で、桁行方向はN9°Eである。桁行では、隅の柱から1間目の柱までの柱間寸法がいずれも1.60mであるのに対して、中央にある柱穴間の寸法は1.90mであり、やや長い。

柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.30～0.35m、短軸0.18～0.28m、深さ0.03～0.33mをはかる。柱穴の深さは一定していない。柱穴SP0723・0725・0727・0728・0729から弥生土器が少量出土しているが、細片のため図示できるものはない。

出土遺物から判断すれば、弥生時代後期後葉に属する遺構である可能性が高いと考えられる。

SB04 (第11・23図)

7区J19・K19・K20グリッドで検出した桁行1間(3.54m)、梁行1間(3.36m)の側柱建物である。南北棟の建物で、桁行方向はN28°Wである。北面・南面とも、梁行の中央には支柱と考えられる柱穴があり、その柱穴と主柱穴間の寸法は、1.48～1.84mをはかる。

柱穴はすべて楕円形を呈し、主柱穴は長軸0.40～0.68m、短軸0.25～0.60m、深さ0.48～0.79mをはかる。また、支柱穴は長軸0.58～0.69m、短軸0.48～0.62m、深さ0.06～0.11mで、主柱穴に比べると非常に浅いものである。

柱穴SP07149・07151・07152・07154から弥生土器が出土するが、図化できるものは少ない。このうち、SP07152から出土した底部(第23図3)、SP07154から出土した小型甕(第23図1)と脚部(第23図2)を図示した。

出土遺物から判断すれば、弥生時代後期後葉に属する遺構と考えられる。

SB05 (第12・23図)

7区J19・J20グリッドで検出した桁行4間(6.40m)、梁行3間(4.42m)の側柱建物である。独立棟持柱をもつ。棟持柱間の寸法は9.00mで、棟持柱と梁行の柱穴列を結んだ直線の間の距離は1.32mをはかる。南北棟の建物で、桁行方向はN10°Eである。柱間寸法は、桁行が1.44～1.66m、梁行が1.28～1.68mをはかる。

母屋の柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.27～0.60m、短軸0.26～0.60m、深さ0.10～0.34mをはかる。棟持柱の柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.28～0.47m、短軸0.20～0.30m、深さ0.06mをはかる。棟持柱の柱穴は、母屋の柱穴よりもやや浅い。また、柱穴SP0742はSD41に切られる。

柱穴SP0731・0733・0735・0736・0737・0738・0739・0740・0741・0742から弥生土器が少量出土している。このうちSP0733から出土した弥生土器の甕(第23図4)と、SP0740から出土した有孔鉢(第23図5)を図示した。

出土遺物から判断すれば、弥生時代後期後葉に属する遺構と考えられる。

SB06 (第13・23図)

7区I20・J20グリッドで検出した桁行2間(3.20m)、梁行1間(3.10m)の側柱建物である。東西棟の建物であり、桁行方向はN67°Wである。桁行の柱間寸法は1.60mで、等間隔となっている。

柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.23～0.38m、短軸0.24～0.26m、深さ0.33～0.62mをはかる。SP0789はSD40に切られる。

柱穴SP0790・0792・0793からは、弥生土器がわずかに出土している。このうち、SP0790から出土した壺(第23図6)と、SP0793から出土した底部(第23図7)を図示した。

出土遺物から判断すれば、弥生時代後期後葉に属すると遺構と考えられる。

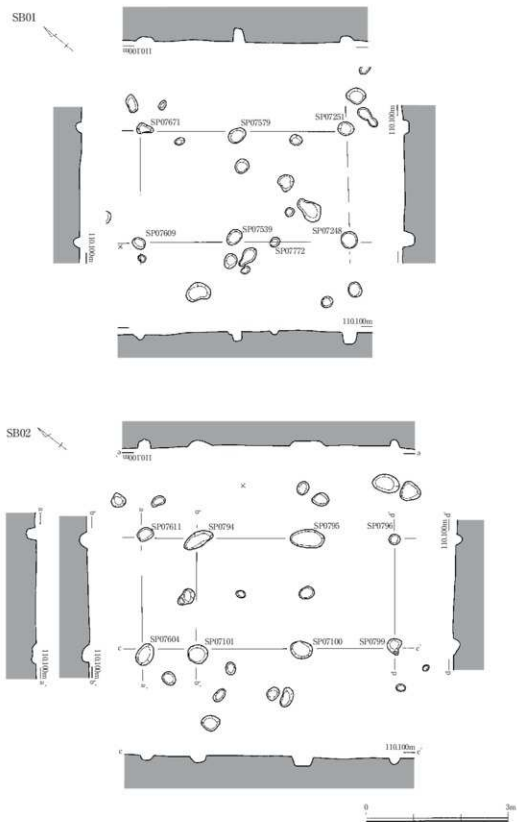
SB07 (第13図)

12区K21・K22グリッドで検出した柱穴列である。2間(3.60m)分を検出しており、柱間寸法は1.80mをはかる。この柱穴列に平行する柱穴列は、南側に存在した可能性が高いが、南側は大きく削平されているため確認することはできない。

柱穴は長軸0.30～0.50m、短軸0.30～0.50m、深さ0.06～0.16mをはかる。土層の観察から、増改築が行われたと考えられる。

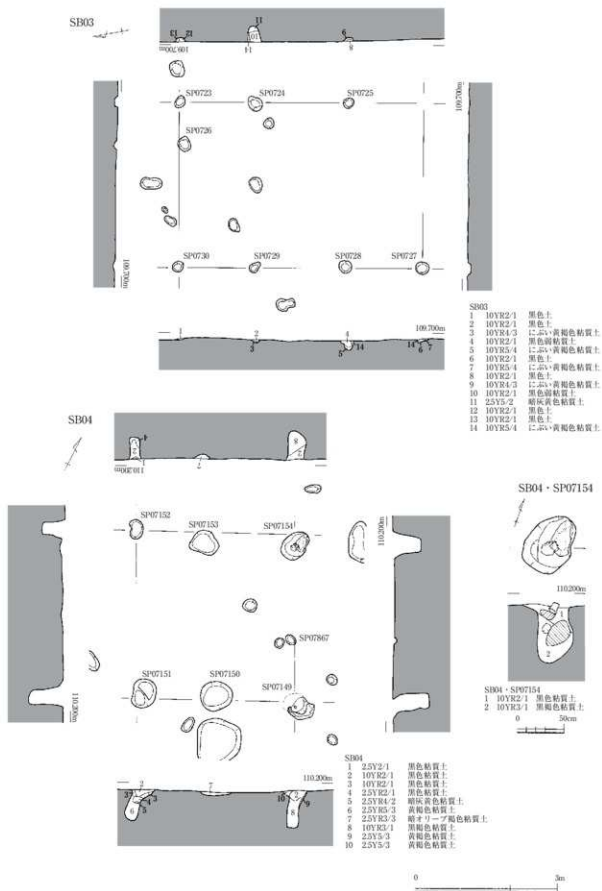
柱穴SP1216・1218からは、弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。

第1節 遺構および遺構内出土遺物



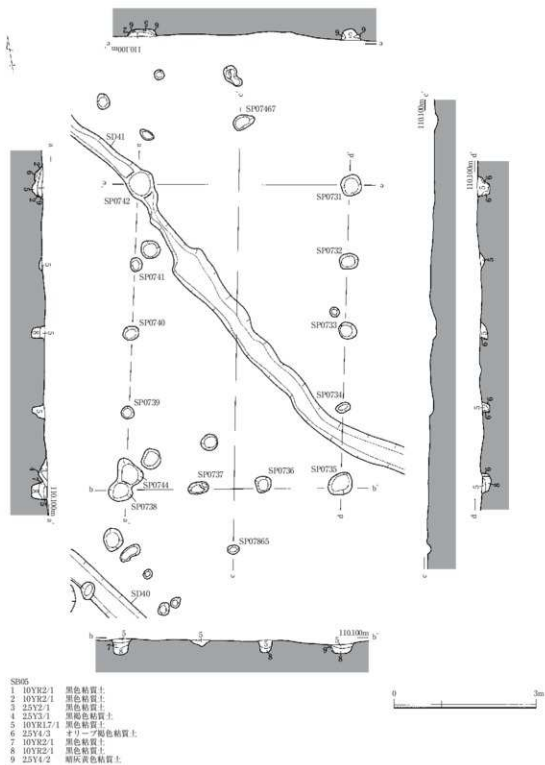
第10図 掘立柱建物SB01・SB02実測図（縮尺1/80）

第4章 遺構と遺物



第11図 掘立柱建物SB03・SB04実測図 (縮尺1/40・1/80)

SB05



第12図 掘立柱建物SB05実測図(縮尺1/80)

SB08 (第14図)

7区K11・L11・L12で検出した。攪乱をうけているため南西隅の柱穴は確認できなかったが、桁行1間(3.45m)、梁行2間(3.30m)の側柱建物と考えられる。東西棟の建物で、桁行方向はN65°Wである。梁行の柱間寸法は、1.52~1.84mである。

柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.26~0.62m、短軸0.18~0.33m、深さ0.05~0.11mをはかる。柱穴の底面の海拔高は、ほぼ一定している。

いずれの柱穴からも、遺物は出土していない。

SB09 (第14図)

10区F13・G12・G13グリッドで検出した。攪乱をうけているため南西隅の柱穴は確認できなかったが、桁行4間(7.72m)、梁行2間(4.94m)の側柱建物と考えられる。南北棟の建物で、桁行方向はN13°Eである。柱間寸法は、桁行が1.60~2.16m、梁行が1.60~1.70mをはかる。

柱穴は方形が崩れたような楕円形を呈し、長軸0.20~0.76m、短軸0.16~0.72m、深さ0.05~0.48mをはかる。

柱穴SP1012・1014・1018からは、弥生土器がわずかに出土しており、SP1012からは須恵器も1片出土している。いずれも図示できるものはない。また、SP1019には径0.16~0.20mの柱根が遺存していたが、水害で流失したため、図示不能である。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB10 (第15図)

10区G14・G15グリッドで検出した桁行2間(4.16m)、梁行1間(3.60m)の側柱建物である。東西棟の建物で、桁行方向はN70°Wである。桁行の柱間寸法は2.00~2.12mで、ほぼ等間隔となっている。

柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.30~0.44m、短軸0.22~0.40m、深さ0.24~0.40mをはかる。柱穴SP1058からは弥生土器が、SP1059からは弥生土器と須恵器が少量出土しているが、図示できるものはない。また、SP1059の底面では、長方形を呈する石を検出した。根石と考えられ、長軸0.22m、短軸0.17m、厚さ0.10mをはかる。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB11 (第15・23図)

7区H14グリッドで、桁行2間(3.74m)、梁行1間(3.74m)の側柱建物として検出した。SB12・SB13の2棟と並立しており、その西端に位置する。SB12からは西方に約4.8m離れている。SD08と重複しているため、中央部分の柱穴の有無を確認することはできなかった。東西棟の建物で、桁行方向はN72°Wである。桁行の柱間寸法は、1.60~2.10mをはかる。

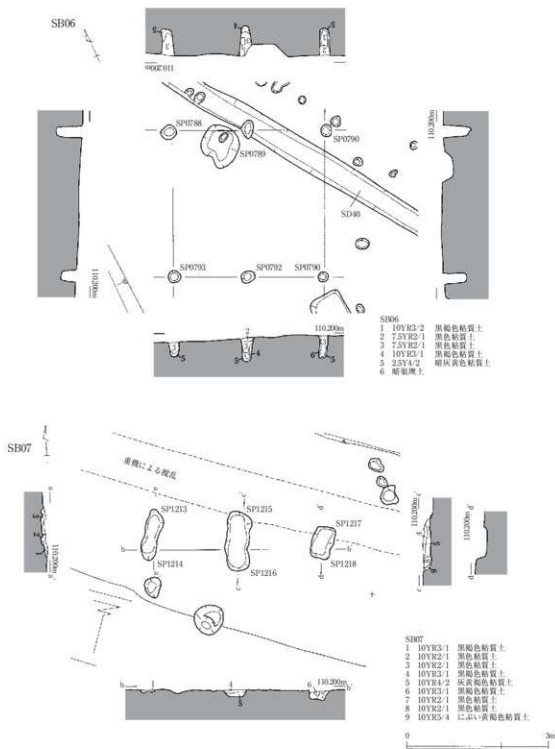
柱穴は楕円形を呈し、長軸0.36~0.66m、短軸0.28~0.55m、深さ0.06~0.20mをはかる。柱穴SP0701・0703から弥生土器が少量出土している。また、SP0705からは、弥生土器、土師器の長胴甕などのほか、剥片(第23図8)が出土している。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

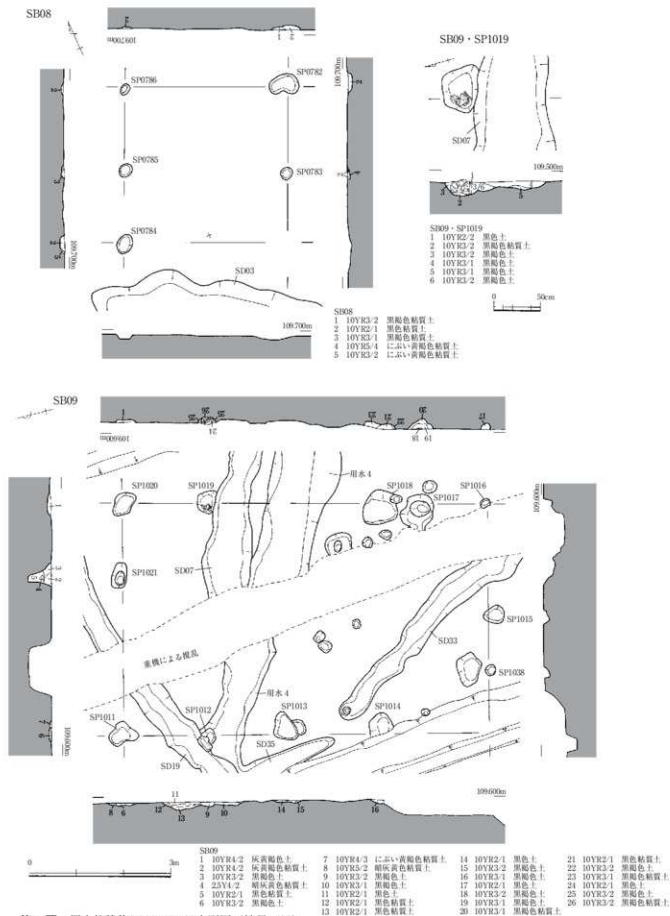
SB12 (第16図)

7区I14・I15グリッドで、桁行2間(3.52m)、梁行2間(3.48m)をはかる側柱建物として検出した。SB11・SB13の2棟と並立しており、その中央に位置している。SB11からは東方に約4.8m、SB13からは西方に3.7mの距離にある。SD08と重複しているため、中央部分と南東隅の柱穴を確認することができ

第1節 遺構および遺構内出土遺物



第13図 掘立柱建物SB06・SB07実測図(縮尺1/80)



第14図 掘立柱建物SB08・SB09実測図(縮尺1/80)

なかった。東西棟の建物であり、桁行方向はN67°Wである。柱間寸法は、桁行が1.60～1.80m、梁行が1.62～1.86mをはかる。

柱穴は楕円形を呈し、長軸0.55～1.12m、短軸0.42～0.68m、深さ0.07～0.24mをはかる。柱穴SP07614には、径0.18mの柱根が遺存していたが、水害で行方不明となったため図示不能である。SP07615・07617・07619から弥生土器が出土しており、SP07615からは須恵器の坏も出土している。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB13 (第16・23図)

7区J15グリッドで検出した総柱建物で、桁行2間(3.32m)、梁行2間(3.12m)の東西棟の建物である。SB11・SB12の2棟と並立しており、その東端に位置している。桁行方向はN67°Wである。その角度は前述のSB11・SB12とほぼ同様であり、3棟がほぼ正確に平行して並んでいることがわかる。柱間寸法は、桁行が1.48～1.60m、梁行が1.44～1.82mをはかる。

柱穴は方形または楕円形を呈し、長軸0.56～0.76m、短軸0.42～0.64m、深さ0.07～0.34mをはかる。柱穴SP0773を除く柱穴の底面には柱当たり痕跡が認められ、径0.23～0.33m、深さ0.03～0.05mをはかる。

SP0765・0766・0767・0771・0772・0773から弥生土器が少量出土している。また、SP0772からは、須恵器の坏(第23図9)も出土している。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB14 (第17・23図)

10区F16・F17・G16・G17グリッドで検出した桁行6間(10.60m)の側柱建物である。梁行は1間(2.35m)分のみを検出しており、その西側は6区にのびていたと考えられるが、大きく削平されているため確認することができなかった。南北棟の建物と考えられ、桁行方向はN4°Eである。桁行の柱間寸法は、1.60～2.00mをはかる。

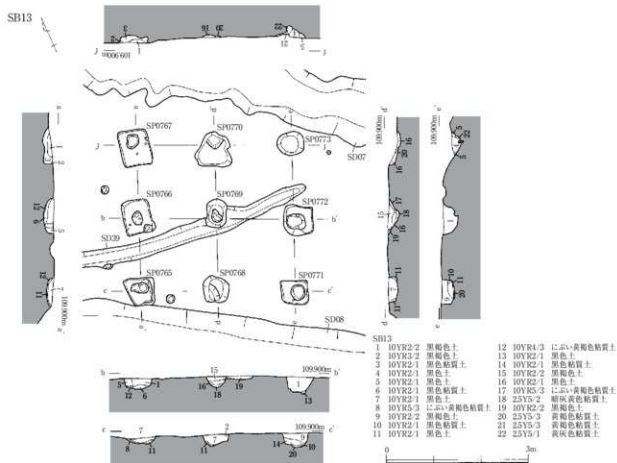
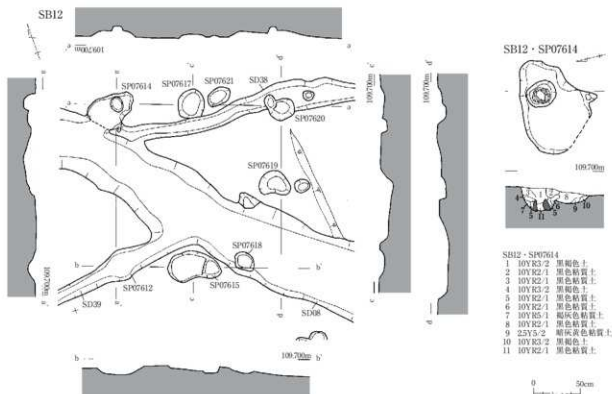
柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.56～1.20m、短軸0.36～0.80m、深さ0.11～0.38mをはかる。柱穴SP1075・1076・1077・1078・1079・1080から弥生土器が少量出土しており、またSP1077・1079・1080からは須恵器が少量出土している。このうち、SP1079から出土した須恵器の坏(第23図10)を図示した。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB15 (第18図)

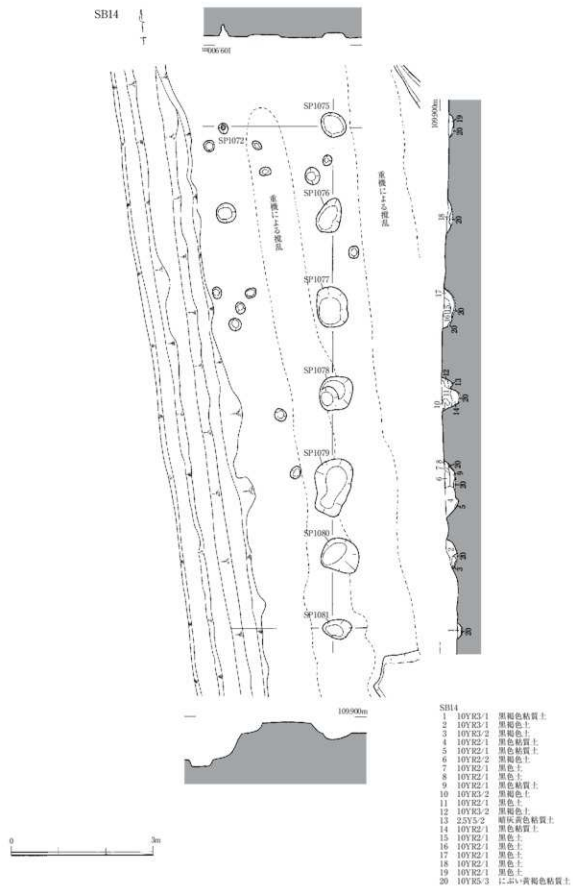
7区K17・K18グリッドで検出した桁行6間(10.30m)の側柱建物である。中央に間仕切りを有し、南面には庇がつく。梁行長は4.78mをはかり、北面と間仕切り部分は3間、南面と庇部分は2間となっている。南北棟の建物で、今回の調査区で規模が確定できた建物のうちでは、最も大きい。桁行方向はN3°Wであり、ほぼ正確に北を向いている。母屋桁行の柱間寸法は0.86～2.12mをはかるが、北面から間仕切りまでの各柱穴の柱間寸法が2.00～2.12mであるのに対し、間仕切りから南面までの各柱穴の柱間寸法は0.86～1.82mと短く、特に間仕切り部分の柱穴と南隣の柱穴の間が最も短くなっている。梁行の柱間寸法は、3間の部分は1.44～1.76mで、2間の部分は2.15～2.67mである。また、庇の柱間寸法は、桁行で0.80～1.00mである。

母屋の柱穴は隅丸方形または楕円形を呈し、長軸0.68～1.22m、短軸0.42～0.70m、深さ0.10～0.32mをはかる。庇の柱穴は円形を呈し、径0.26～0.48m、深さ0.15～0.28mをはかる。庇の柱穴は、母屋の柱穴と比べると小規模である。



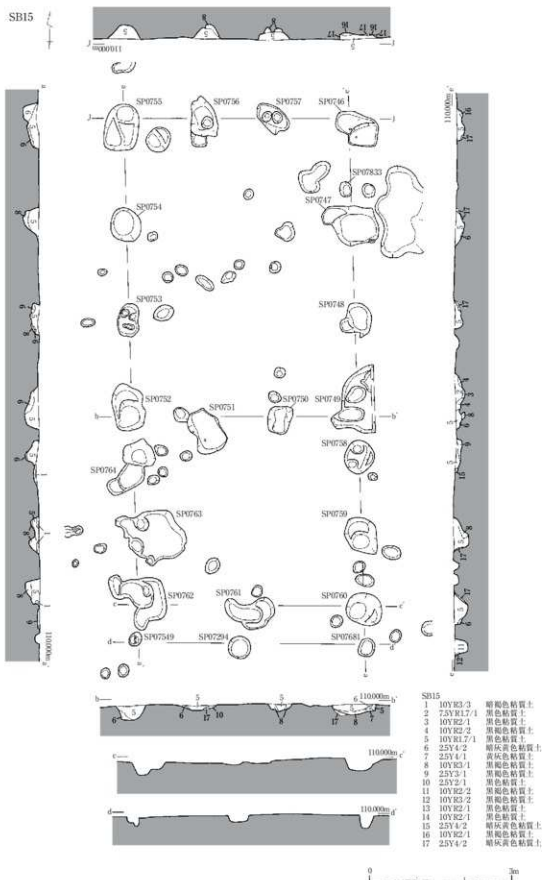
第16図 掘立柱建物 SB12・SB13 実測図(縮尺1/40・1/80)

第4章 遺構と遺物



第17図 掘立柱建物SB14実測図(縮尺1/80)

第1節 遺構および遺構内出土遺物



第18図 福立柱建物SB15実測図(縮尺1/80)

柱穴SP0746・0747・0748・0749・0750・0751・0752・0753・0754・0755・0756・0757・0758・0759・0760・0761・0763・0764から、弥生土器が少量出土している。また、SP0749からは土師器の長胴甕が出土しているが、図示できるものはない。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB16 (第19図)

7・10区G18グリッドで検出した。擾乱を受けているため東面と西面の中央の柱穴を検出することができなかったが、桁行2間(3.54m)、梁行2間(3.14m)の総柱建物の可能性が高いと考えられる。南北棟の建物で、桁行方向はN23°Eである。柱間寸法は、桁行が1.44~1.60m、梁行が1.76mをはかり、ほぼ等間隔となっている。

柱穴は楕円形を呈し、長軸0.36~0.75m、短軸0.30~0.62m、深さ0.11~0.32mをはかる。

柱穴SP10105・10106・10107・10109・10110からは、弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SB17 (第19・23図)

10区F18・F19・G18・G19グリッドで検出した南北棟の建物である。擾乱などにより、南面中央と南東隅の柱穴を検出することができなかったが、桁行3間(5.20m)、梁行2間(4.60m)の側柱建物と考えられる。南面はさらにのびて桁行4間以上となる可能性もあるが、SD20と重複しているため判断としない。桁行方向はN1°Eであり、ほぼ正確に北を向いている。柱間寸法は、桁行が1.32~2.04m、梁行が2.20~2.40mをはかる。

柱穴は隅丸方形または楕円形を呈し、長軸0.48~0.73m、短軸0.40~0.68m、深さ0.04~0.36mをはかる。柱穴SP10117・10118・10119・10120・10124から弥生土器が少量出土したほか、SP10120・10121からは須恵器がわずかに出土している。このうち、SP10120から出土した須恵器の坏(第23図11)を図示した。また、SP10120の中央では、径0.14m、高さ0.24mをはかる河原石が直立した状態で出土している。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

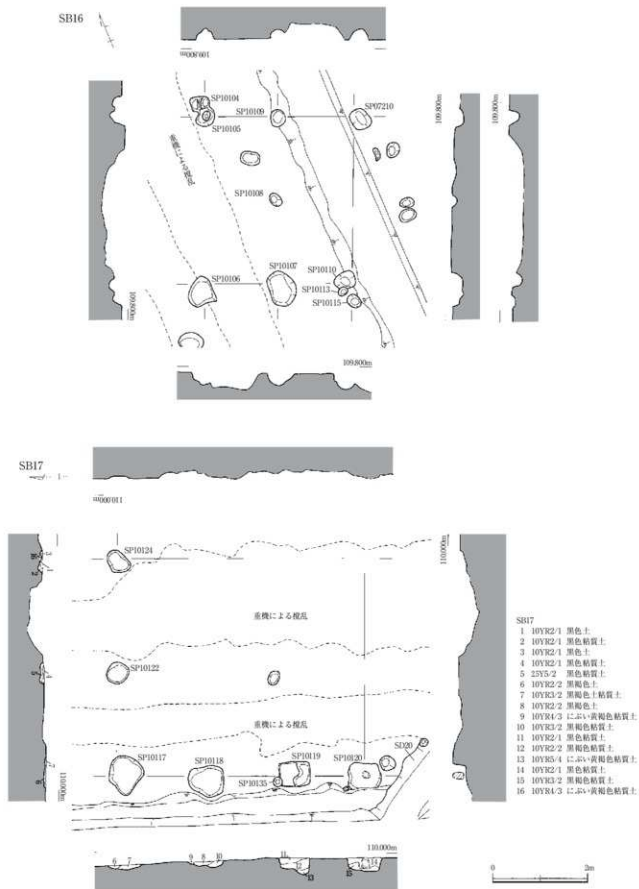
SB18 (第20・23図)

7区G19・G20・H19・H20グリッドで検出した桁行5間(6.74m)、梁行2間(4.36m)の側柱建物である。南北棟の建物で、桁行方向はN8°Eである。桁行の柱間寸法は、東面が1.52~2.00m、西面が1.60~1.80mで、ばらつきがある。また、梁行の柱間寸法は北面が2.18mの等間隔であるのに対し、南面は中央の柱穴SP0745が東隅の柱穴SP0716の方に寄っているため、西隅の柱穴SP0717と中央の柱穴SP0745との柱間寸法は2.80mと広がっている。

柱穴は隅丸方形または楕円形を呈し、長軸0.60~1.06m、短軸0.56~0.88m、深さ0.07~0.30mをはかる。梁行の中央にある柱穴SP0722とSP0745は楕円形を呈し、長軸0.44~0.56m、短軸0.38~0.48m、深さ0.14~0.18mで、四隅の柱穴より小さめである。

柱穴SP0714・0715・0716・0717・0718・0719・0720・0721・0722・0745から弥生土器が少量出土している。また、SP0714・0718・0719・0720・0721・0745から、土師器の長胴甕もわずかに出土している。このうち、SP0714から出土した土師器の長胴甕(第23図12)を図示した。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。



第19図 孤立柱建物SB16・SB17実測図(縮尺1/80)

SB19 (第20図)

7区I20・I21・J21グリッドで検出した梁行1間(4.10m)の側柱建物である。桁行は1間(2.16m)分のみ確認している。西側にさらにのびていたと考えられるが、削平を受けているため規模を確定することはできない。東西棟の建物と考えられ、桁行方向はN85°Wである。

柱穴は隅丸方形または楕円形を呈し、長軸0.66~1.06m、短軸0.62~0.80m、深さ0.36~0.48mをはかる。土層の観察から、これらの柱穴は人為的に埋められたと考えられる。

柱穴SP07103・07105・07106から弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SB20 (第21図)

15区P21・P22・Q21・Q22グリッドで、桁行5間(9.84m)分、梁行1間(2.28m)分を検出した側柱建物である。建物の西側と南側は大きく削平されているため、規模を確定することはできない。南北棟の建物と考えられ、桁行方向はN13°Wである。桁行では、北東隅の柱穴から3間目の柱穴SP1505と4間目の柱穴SP1506との柱間寸法が3.08mあり、その他の柱穴の柱間寸法(1.40~1.80m)と比較すると約2倍となっている。このことから、SP1505とSP1506の間に柱穴が1基存在していたとも考えられ、桁行は6間以上であった可能性がある。

柱穴は隅丸方形または楕円形を呈し、長軸0.40~0.80m、短軸0.38~0.76m、深さ0.06~0.35mをはかる。柱穴SP1501・1502の2基は、その他の柱穴を検出した地山面より上層で掘り方を確認できたものであり、他の柱穴も本来はもっと深かったと考えられる。

柱穴SP1501からは、弥生土器がわずかに出土している。

SB21 (第21図)

15区R24・S24・S25グリッドで検出した、桁行3間(6.40m)、梁行2間(4.40m)の側柱建物である。東西棟の建物で、桁行方向はN66°Eである。桁行の柱間寸法は1.80~2.40mであり、梁行の柱間寸法は2.20mで等間隔となっている。

柱穴は隅丸方形または楕円形を呈し、長軸0.65~0.98m、短軸0.48~0.76m、深さ0.17~0.36mをはかる。柱穴SP1546・1547の2基は、その他の柱穴を検出した地山面より上層で掘り方を確認できたものであり、他の柱穴も本来はもっと深かったと考えられる。

柱穴SP1543・1546・1547・1548・1549・1551からは、弥生土器の破片が少量出土している。また、SP1546からは須恵器の坏も1片出土しているが、図示できるものはない。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB22 (第22図)

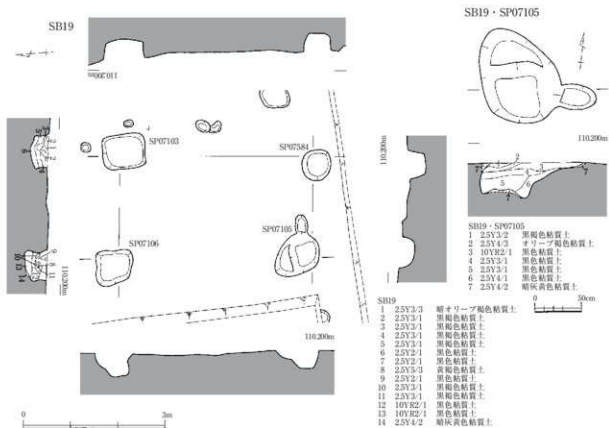
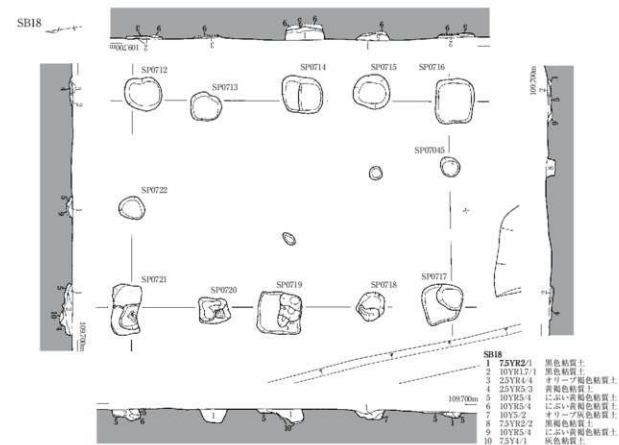
15区R25・S25・S26グリッドで検出した、梁行2間(4.14m)の側柱建物である。桁行は3間で、東面は5.33m、西面は5.10mである。東面と比較すると、西面では南西隅の柱穴SP1536と北へ1間目の柱穴SP1537が北へ寄っているため、柱穴列で形成される四角形は南西隅が若干すぼまる歪んだ長方形を呈している。南北棟の建物で、桁行方向はN26°Wである。柱間寸法は、桁行が1.64~1.88m、梁行が1.80~2.46mをはかる。

柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.23~0.60m、短軸0.16~0.55m、深さ0.03~0.20mをはかる。いずれの柱穴からも、遺物は出土していない。

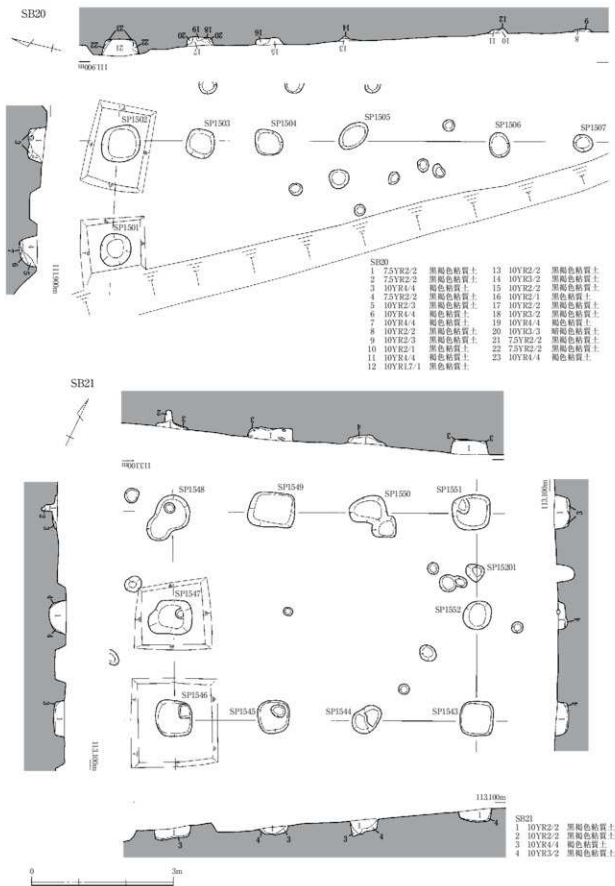
SB23 (第22・23図)

15区T26・T27・U26・U27グリッドで検出した桁行3間(6.46m)、梁行2間(4.26m)の側柱建物で

第1節 遺構および遺構内出土遺物

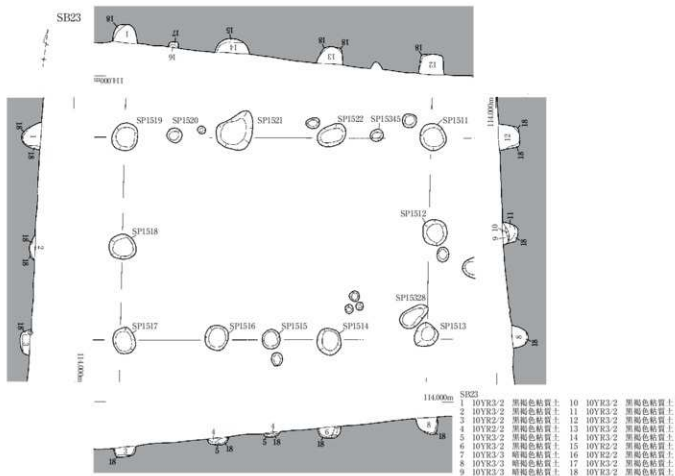
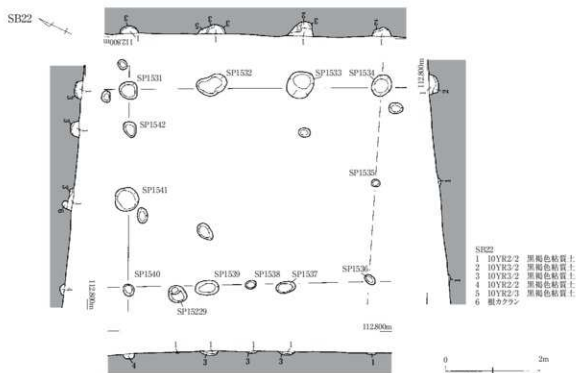


第20図 掘立柱建物SB18・SB19実測図(縮尺1/40・1/80)

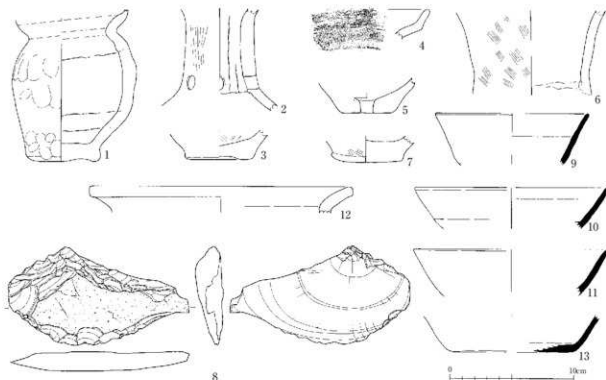


第21図 掘立柱建物SB20・SB21実測図(縮尺1/80)

第1節 遺構および遺構内出土遺物



第22図 福立柱建物SB22・SB23実測図 (縮尺1/80)



第23図 掘立柱建物・柱穴出土遺物実測図（縮尺1/3）

1・2：SB04・SP07154、3：SB04・SP07152、4：SB05・SP0733、5：SB05・SP0740、6：SB06・SP0790、7：SB06・SP0793
8：SB11・SP0705、9：SB13・SP0772、10：SB14・SP1079、11：SB17・SP10120、12：SB18・SP0714、13：SB23・SP1511

ある。東西棟の建物で、桁行方向はN82°Eである。柱間寸法は、桁行が2.00～2.32m、梁行が1.96～2.36mをはかる。南面の中央にある柱穴SP1515は、その位置と規模から支柱穴の可能性はある。

柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.52～0.90m、短軸0.42～0.74m、深さ0.10～0.43mをはかる。また、支柱穴の可能性のあるSP1515は、長軸0.42m、短軸0.38m、深さ0.10mの楕円形を呈しており、支柱穴より小規模である。

柱穴SP1512・1513・1517からは、弥生土器がわずかに出土している。また、SP1511・1517からは須恵器が少量出土しており、SP1511から出土した須恵器の坏（第23図13）を図示した。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB24（第24・25図）

14区P18・Q18・Q19グリッドで検出した。丘陵裾部の緩斜面上に構築される。桁行4間（9.74m）の側柱建物で、北面に庇がつくと考えられる。梁行は1間（2.52m）分を確認しており、さらに西側にのびていた可能性もあるが、擾乱をうけているため詳細は不明である。南北棟の建物で、山（東）側に兩落溝SD27を設ける。SD27はコの字状を呈し、幅0.20～0.52m、深さ0.06～0.44mをはかる。溝の北側はSB25の別棟部分の掘り込みを設けた際に削平されており、本来はもう少し西側にのびていた可能性が高いと考えられる。

桁行方向はN13°Wで、桁行の柱間寸法は2.36～2.60mとほぼ等間隔である。庇の柱間寸法は、桁行で0.80mをはかる。桁行の主柱穴と主柱穴の間にはその中央に支柱と考えられる柱穴が存在し、その柱穴と主柱穴間の寸法は、1.00～1.40mをはかる。

主柱穴は隅丸方形または楕円形を呈し、長軸0.35～0.72m、短軸0.35～0.58m、深さ0.14～0.72mをはか

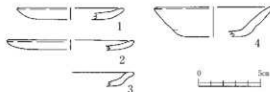
る。底面の海拔高は111.700～112.000mでほぼ一定している。柱痕が認められるものが多く、その径は0.28～0.32mをはかる。

支柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.24～0.82m、短軸0.18～0.38mをはかる。深さは0.04～0.20mで、支柱穴に比べると非常に浅いものが多い。

底部分の柱穴SP14320は楕円形を呈する。長軸0.33m、短軸0.29m、深さ0.20mで、中央に径0.22mの柱痕が認められる。柱痕は、SB24で確認されたもののなかでは最も細い。

支柱穴SP14331からは、土器が1片出土している。また雨落溝SD27からは、弥生土器のほか、土師質皿（第25図1～4）が少量出土している。

出土遺物から判断すれば、中世に属する遺構と考えられる。



第25図 掘立柱建物SB24・雨落溝SD27出土遺物実測図（縮尺1/3）

SB25（第26～29図）

14区Q18・Q19・R18・R19グリッドで検出した側柱建物である。全ての柱穴の断面が視認できるようにするため、柱穴列の両端を結ぶ線上に並ばない柱穴（SP1416・1417・14200）については、横断面に見通しを入れて作成している。

主棟である南北棟の建物に対して、直角に東西棟の別棟を突出させる形態で、平面形はL字形を呈する。

主棟は桁行6間（11.56m）、梁行2間（4.88～5.20m）で、南面に庇がつく。桁行方向はN13°Wであり、柱間寸法は、桁行が1.52～2.28m、梁行が0.52～2.80mをはかる。庇の柱間寸法は、桁行が0.74m、梁行が2.00～2.80mをはかる。

主棟の柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.28～1.04m、短軸0.24～0.62m、深さ0.20～0.58mをはかる。柱穴底面の海拔高は113.200～113.000mで、ほぼ一定している。柱痕が認められるものもあり、その径は0.32～0.44mをはかる。庇の柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.25～0.52m、短軸0.25～0.36m、深さ0.12～0.35mをはかる。庇の中央の柱穴は、隅の2基よりも浅く、掘り方も小さいため、支柱穴である可能性も考えられる。母屋の柱穴SP1407からは、弥生土器がわずかに出土している。

別棟は桁行4間（7.00m）、梁行2間（4.40m）で、南面に庇がつく。柱間寸法は、桁行が1.60～1.88m、梁行が1.04～1.84mをはかり、ばらつきがある。庇の柱間寸法は、桁行が0.86m、梁行が1.16～2.24mをはかる。

別棟の柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.40～0.96m、短軸0.28～0.56m、深さ0.34～0.58mをはかる。柱痕が認められるものもあり、その径は0.14～0.18mをはかる。庇の柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.37～0.68m、短軸0.30～0.60m、深さ0.25～0.61mをはかる。別棟の柱穴SP1450からは、土師質皿とみられる破片がわずかに出土しているが、細片であるため図示することはできない。また、庇の柱穴SP14309からは凹石（第28図3）が出土した。

別棟の内部は、中央より西側が土坑状の掘り込みにより一段低くなっており、これにより2つの空間に分かれていたことがわかる。西側の掘り込み部分の東端には石積があり、近世の民家の事例では厩とされている。東側の高い部分は土間とみられる。

別棟の西部、海拔高が低い部分には堅穴状の掘り込み（第27図）が設けられており、その部分は海拔

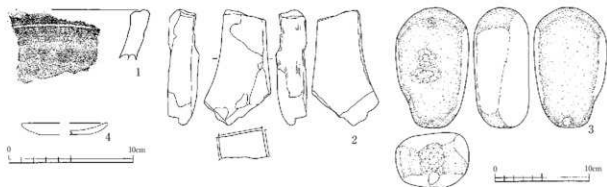


第26圖 掘立柱建物SR25実測図(縮尺1/80)

第1節 遺構および遺構内出土遺物



第27図 竪立柱建物SB25竪穴状遺構実測図（縮尺1/50）



第28図 竪立柱建物SB25竪穴状遺構・井戸SE08出土遺物実測図（1・4：縮尺1/3、2・3：1/4）
1～3：竪穴状遺構、4：SE08

高112.300~112.200mでほぼ水平となっている。掘り込みの東端には2段の石積みが残る。石積みには、長軸0.06~0.56m、短軸0.04~0.36m、厚さ0.05~0.17mの山石または川原石を使用している。この掘り込み(堅穴状遺構)からは弥生土器・須恵器・土師質皿・越前焼や、石製品などが出土している。また、石積の裏込からは伊万里焼1片が出土した。このうち、越前焼片口鉢(第28図1)、砥石(第28図2)を図示した。

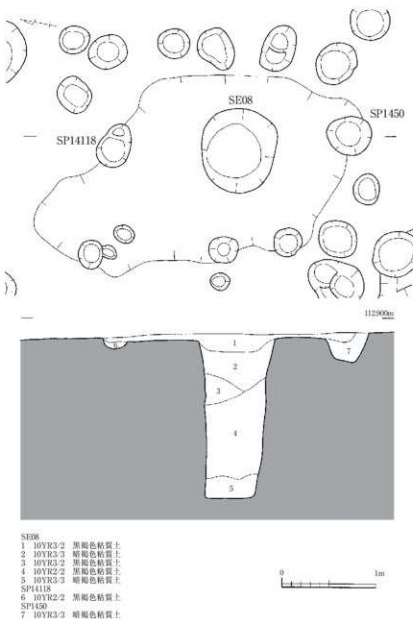
別棟の北側には桁行2間(2.68~2.80m)、梁行1間(2.00~2.28m)の上屋をもつ井戸SE08(第29図)が付属しており、別棟の土間部分からの行き来ができるようになっている。井戸の上屋の柱間寸法は桁行が1.20~1.48mをはかる。その柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.32~0.48m、短軸0.28~0.42m、深さ0.12~0.48mをはかる。

井戸SE08の掘形は楕円形を呈し、長軸0.90m、短軸0.76m、深さ1.70mをはかる。素掘りで、

底面より0.05~0.10m上層で川原石または山石6石がまとまって出土した。石は長軸0.07~0.26m、短軸0.05~0.12m、厚さ0.06~0.15mをはかる。底は湧水層に達しており、その海拔高は111.000mである。下層から土師質皿(第28図4)と、石皿1点、押型文土器1片などが出土している。

炬は確認することができなかった。

別棟西側の掘り込み(堅穴状遺構)を作る際に掘立柱建物SB24の雨落溝SD27を削平していることから、SB24よりも新しい時期のものと考えられる。



第29図 掘立柱建物SB25・井戸SE08実測図(縮尺1/40)

II 井戸

単独で検出したものについて記述する。SE01～03は丘陵裾部にまとまって存在しており、当初は上部が削平されたために、底部のみが遺存した井戸と考えていた。しかしながら、底部が湧水層に達していないことを重視すれば、草戸千軒町遺跡などで検出されているような曲物埋設遺構の可能性が指摘できる。

SE01 (第30図)

3区O16グリッドで検出したもので、同形態のSE02やSE03から20数m北方にある。掘り方は楕円形を呈し、長軸0.78m、短軸0.62m、深さ0.42mをはかる。ほぼ中央に径0.50m、高さ0.22mの曲物を据えており、曲物は1段のみ遺存する。底部は粘土層であり、湧水層に達していない。その海拔高は、109.800mである。曲物内から弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。また、曲物は流失したため、図化不能である。

SE02 (第30図)

3区O19グリッドで検出した。SE01の約23.0m南方、SE03の約3.6m東方に存在する。掘り方は楕円形を呈し、長軸1.17m、短軸1.07m、深さ0.50mをはかる。ほぼ中央に曲物を据えており、2段分が残る。上段の曲物は、東側が圧力により押しつぶされたようになっており、その径は0.42m、残存する高さは0.23mをはかる。下段の曲物は、径0.40m、高さ0.33mである。底は湧水層に達していない。底面の海拔高は、109.670mである。曲物内や掘り方から弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。また、曲物は流失したため、図化不能である。

SE03 (第30・31図)

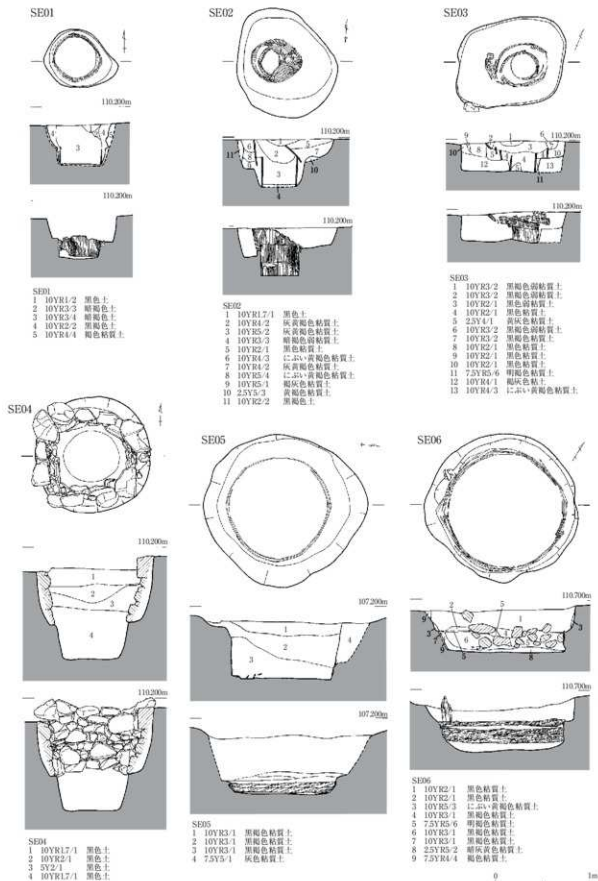
3区O18グリッドで検出した。SE01の約21.0m南方、SE02の約3.6m西方に存在する。掘り方は隅丸方形を呈し、長軸1.11m、短軸0.92m、深さ0.32mをはかる。わずかに東方に寄せて曲物を据えており、3段分が残る。上段と中段の曲物は留めが外れており、楕円形を呈する。上段の曲物は長軸0.56m、短軸0.44m、残存する高さ0.13mで、中段の曲物は長軸0.42m、短軸0.35m、残存する高さ0.09mである。下段の曲物は、径0.22m、高さ0.14mをはかる。底部は粘土層であり、湧水層に達していない。その海拔高は、109.850mである。掘り方からは弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。また、下段の曲物に挟まった形で、土師質皿(第31図1・2)が出土している。これらはSE03を廃棄する際に紛れ込んだものと考えられる。このほか、辛うじて流失を免れた、上段の曲物の一部も図示した(第31図3)。出土遺物から判断すれば、中世に属する遺構と考えられる。

SE04 (第30図)

4区N21グリッドで検出した円形の石組井戸で、西側は攪乱をうけている。掘り方は円形を呈し、径1.22m、深さ1.09mをはかる。石組の内径は0.95mである。長軸0.42～0.80m、短軸0.23～0.55mの川原石または山石を用いて、楕円形に7段積み上げるが、石積みの下部約0.4mは素掘りである。底は湧水層に達しており、その海拔高は109.000mである。弥生土器や須恵器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SE05 (第30図)

6区D20グリッドの鹿谷川田流路内で検出する。掘り方は円形を呈し、長軸1.74m、短軸1.60m、深さ0.60mをはかる。壁面には桶のタガが3段分残っていたが、降雨により上段部分が崩落したため、中・下段のみを図化している。タガの高さは0.05mをはかる。結桶積みの井戸で、廃棄の際に桶板だけ再利用す



第30図 井戸SE01～SE06実測図（縮尺1/40）

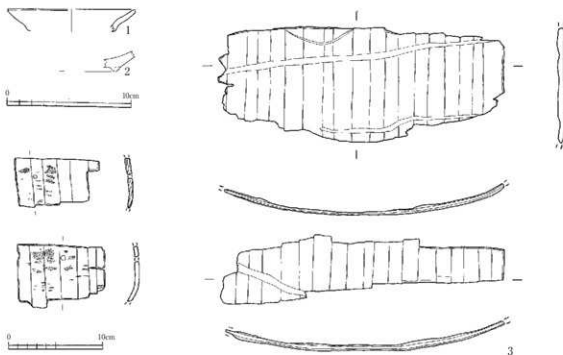
るため抜き取ったのではないかと考えられる。底は湧水層に達しており、その海拔高は106.400mである。弥生土器、土師器や須恵器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SE06 (第30図)

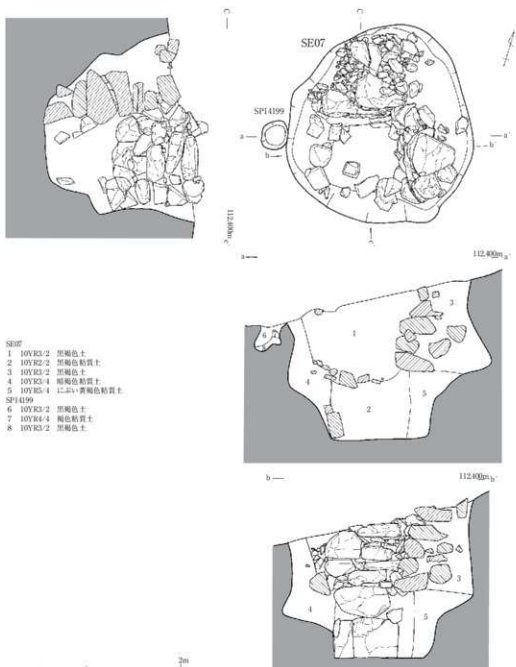
15区Q24グリッドのSD01内で検出した。掘り方は径1.60mをはかる円形を呈し、深さは0.58mをはかる。壁面には桶のタガ4段が残る。タガの高さは0.05mをはかる。結桶積みみの井戸で、廃棄の際に桶板だけ再利用するため抜き取ったのではないかと考えられる。埋土には多量の山石を含む。底は湧水層に達しており、その海拔高は110.000mである。前述したSE05とほぼ同じ規模・構造である。弥生土器や須恵器が少量出土しているが、図示できるものはない。このほか、亀の腹甲（写真図版第60参照）も出土している。

SE07 (第32・33図)

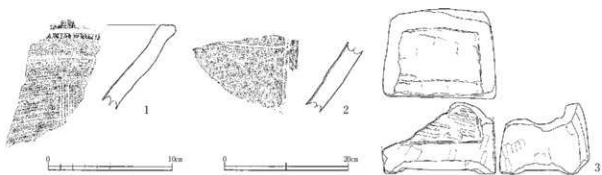
14区Q19グリッドで検出した石組方形井戸である。掘立柱建物SB24の柱穴を切って構築されたと考えられる。掘り方は楕円形を呈し、長軸2.13m、短軸1.98m、深さ1.70mをはかる。石組は南に寄せて構築されており、長軸0.68m、短軸0.60mの長方形を呈する。長軸0.12~0.54m、短軸0.06~0.46mの山石を用いて、やや乱雑に積み上げている。北面は底部まで石積みがあり、7段を数える。東面は、上部のみ5段の石積みで、下部は素掘りである。西面・南面は、最上部に一石まばらに置いてあるだけで、素掘りである。底は湧水層に達しており、その海拔高は109.500mである。石組内の上層より、越前焼の播鉢（第33図1・2）とバンドコ（第33図3）が出土しているが、これらは井戸を埋め立てた際に混入したものと考えられる。このほか、石組内では、弥生土器や、須恵器の坏なども少量出土しているが、図示できるものはない。弥生土器は、裏込めからも出土している。出土遺物から判断すれば、中世以降に廃棄された遺構と考えられる。



第31図 井戸SE03出土遺物実測図（1・2：縮尺1/3，3：縮尺1/4）



第32図 井戸SE07実測図 (縮尺1/40)



第33図 井戸SE07出土遺物実測図 (縮尺1/3・1/6)

Ⅲ 水場遺構・堅果類出土土坑

12区鹿谷川旧流路の肩部で検出した水場遺構と、鹿谷川の川底で検出した堅果類出土土坑8基を取り上げて記述する。堅果類出土土坑は、鹿谷川旧流路がつくる曲線に沿って、水場遺構の北西側に0.9～2.1m間隔で5基、水場遺構の南側に5.1～6.7m間隔に3基存在する。7基は主としてトチが出土する土坑であるが、最も南にある1基は主としてクリが出土する土坑である。

出土した堅果類は、完形のもの、1/2程度遺存しているもの、破片の3種類にわけて、数を計測している。

SX01 (第34・35図)

12区K24・K25・L24・L25グリッドで検出した。楕円形を呈し、長軸4.88m、短軸2.85mをはかる。川底からの深さは0.88mで、肩部からの深さは1.50mである。底は湧水層に達しており、その海拔高は106.840mである。底面には川原石が集積しており、そのなかには打製石斧2点なども含まれていた。これらは、既に転石と化しており、磨耗が激しいため図化していない。

SK1200 (第34・35図)

12区K24グリッドで検出した。堅果類出土土坑のなかで、最も北に位置しており、SX01からは北西方向に約8.3m離れている。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸0.67m、短軸0.55m、深さ0.05mをはかる。断面形態は浅皿状を呈する。底面には、長軸0.37m、短軸0.24m、深さ0.17mをはかる楕円形の掘り込みがあり、2段掘りとなっている。上段の底面で完形のトチ果実2点が出土した。堅果類以外の遺物は確認していない。

SK1201 (第34・35図)

12区K24グリッドで検出した。SK1200から南東方向に約1.9m、SX01からは北西方向に約5.6m離れて存在する。上面形態は円形を呈し、径0.82m、深さ0.69mをはかる。断面形はU字状を呈する。中層(3層)は植物遺体をやや多く含み、細小な自然木がまばらに出土している。堅果類は、底面でまとまって出土した。トチが主体であり、その数は、完形のものが8個、1/2程度遺存するものが46個、破片が160個である。クルミもわずかに出土しており、その数は完形のものが2個、1/2程度遺存するものが1個である。また、弥生土器が1片だけ出土しているが、細片であるため図示することはできない。

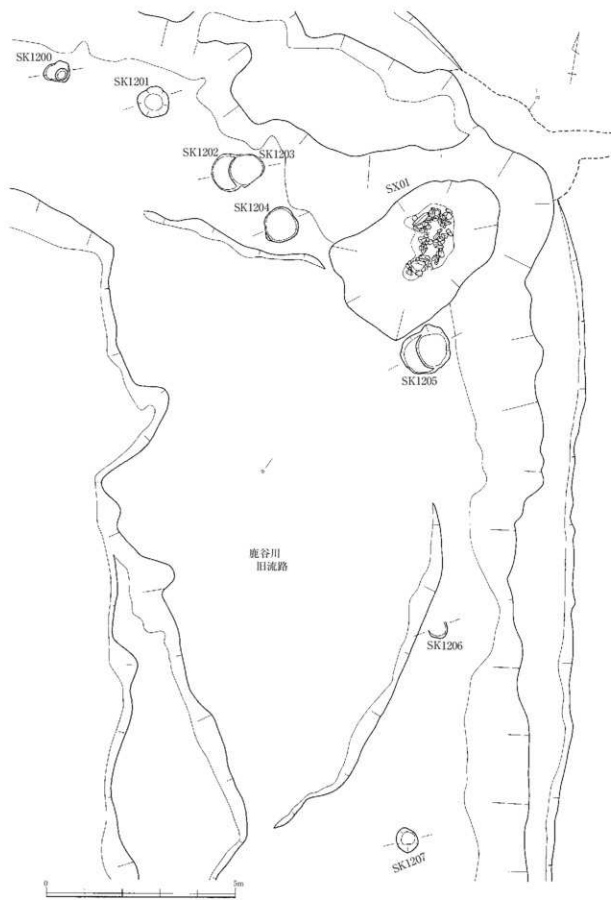
SK1202 (第34・35図)

12区K24グリッドで検出した。SK1201から南東方向に約1.8m、SX01からは北西方向に約3.0m離れて存在する。SK1203を切って構築される。上面形態は円形を呈し、径1.00m、深さ0.19mをはかる。断面観察の結果、東側が1段深い2段掘りであったと考えられる。上層(1層)は植物遺体をやや多く含み、堅果類の出土は底面に集中する。トチが主体であり、その数は、完形のものが43個、1/2程度遺存するものが35個、破片17個である。また、クルミもわずかながら出土しており、その数は1/2程度遺存するものが1個、破片が1個である。堅果類以外の遺物は確認していない。

SK1203 (第34・35図)

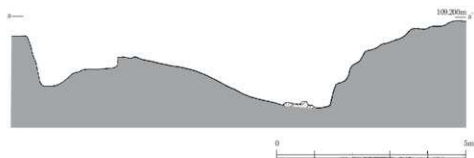
12区K24グリッドで検出した。SK1201から南東方向に約2.1m、SX01からは北西方向に約2.7m離れて存在する。上層は、SK1202に切られる。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.98m、短軸0.88m、深さ0.58mをはかる。また、断面形は角が緩やかな逆台形を呈する。

土坑の上面では、長さ0.66m、幅0.17m、厚さ0.04mの板状の自然木を検出した。これは、土坑の中央部において、南北方向に架け渡されたような形で出土している。中層(6層)は植物遺体を少し含み、

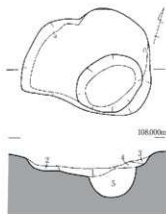


第34図 水場遺構SX01・土坑SK1200～SK1207実測図（縮尺1/100）

第1節 遺構および遺構内出土遺物



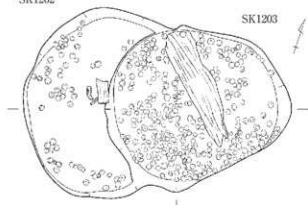
SK1200



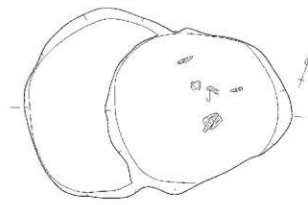
SK1200

- 1 10YR3-2 黒褐色土
- 2 10YR5-4 にふく黄褐色砂質土
- 3 10YR5-1 黄灰色粘質土
- 4 10YR1-2 黒色粘質土
- 5 10YR4-1 黄灰色粘質土

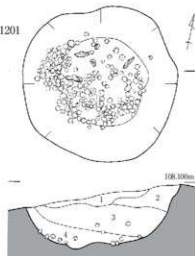
SK1202



SK1203

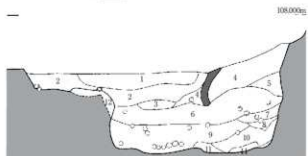


SK1201



SK1201

- 1 10YR3-2 黒褐色砂質土
- 2 10YR2-2 黒褐色粘質土
- 3 10YR3-1 黒褐色砂質土 植物遺体を含有
- 4 25YR3-2 黒褐色砂質土



SK1202

- 1 10YR3-2 黒褐色粘質土
- 2 10YR3-2 黒褐色砂質土
- 3 10YR3-1 黒褐色砂質土
- 4 10YR3-1 黒褐色砂質土
- 5 10YR2-1 黒色粘質土
- 6 10YR3-1 黒褐色粘質土 植物遺体を少し含む
- 7 7.5Y5-1 灰色粘質土
- 8 7.5Y4-1 灰色粘質土
- 9 10YR3-1 黒褐色粘質土
- 10 7.5Y7-1 灰白色粘質土
- 11 10YR3-1 黒褐色粘質土
- 12 7.5YR5-1 灰色粘質土

第35図 水場遺構 SX01・土坑SK1200～SK1203 実測図(縮尺1/100・1/20)

堅果類の出土は中・下層に集中する。上層で出土したトチの数は、完形のものが17個、1/2程度遺存するものが10個、破片が11個である。ほかに、クルミもわずかに出土しており、その数は完形のものが5個、1/2程度遺存するものが1個、破片が3個である。中・下層で出土したトチの数は、完形のものが279個、1/2程度遺存するものが118個、破片が19個である。クルミの数は、破片が5個である。また、下層から杉花粉の殻が1点、完形で出土している。SK1203では、弥生土器2片が出土しているが、細片であるため図示することはできない。

SK1204 (第34・36図)

12区K24グリッドで検出した。SK1203から南東方向に約0.90m、SX01からは北西方向に約1.0m離れて存在する。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.92m、短軸0.81m、深さ0.10mをはかる。断面形は箱形を呈する。堅果類は底面でまとまって出土しており、その上には少量の細い自然木が散在していた。

堅果類はトチが主体であり、その数は、完形のものが214個、1/2程度遺存するものが187個、破片が70個である。また、クルミもわずかに出土しており、1/2程度遺存するもの1個と破片3個を確認した。この土坑では、南半分で出土したトチの大半を、図化する前に誤って取り上げてしまった。このため、トチの出土総数も約2倍と考える必要がある。上層で弥生土器2片が出土しているが、細片であるため図示することはできない。

SK1205 (第34・36・37図)

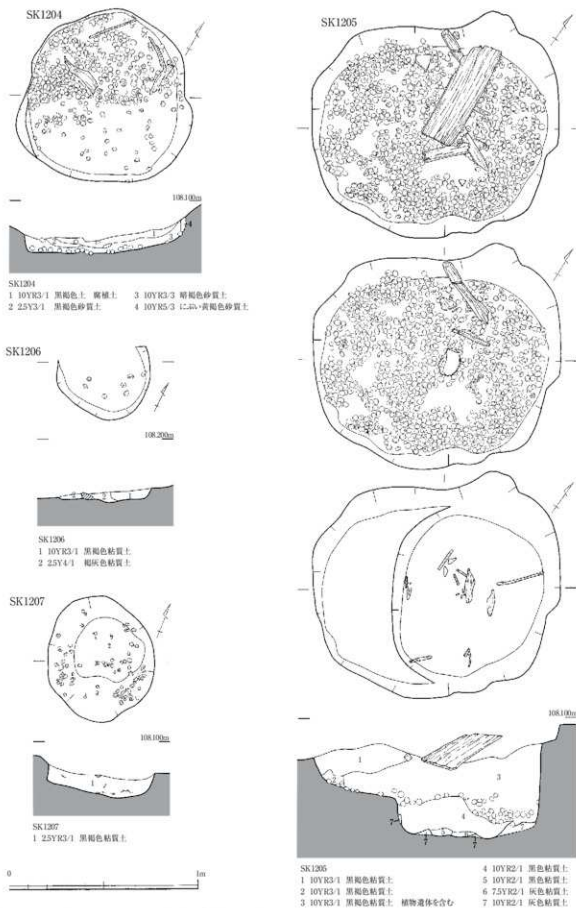
12区L25グリッドで、SX01の南西部に近接して存在する。SX01を挟んで、SK1204からは南東方向に約4.00m離れている。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.30m、短軸1.12m、深さ0.27mをはかる。底面の東半分は2段掘りとなっており、長軸0.93m、短軸0.88m、深さ0.21mをはかる楕円形の掘り込みがある。断面形は、上段がU字状、下段が箱形を呈する。

上面では、加工材と自然木が土坑の中央部でややまとまって出土している。加工材には、長さ0.51m、幅0.18m、厚さ0.02mの板材や、組み合わせ式布巻具(第37図2)がある。また、上記の板材の直下で、打製石斧(第37図3)が出土している。

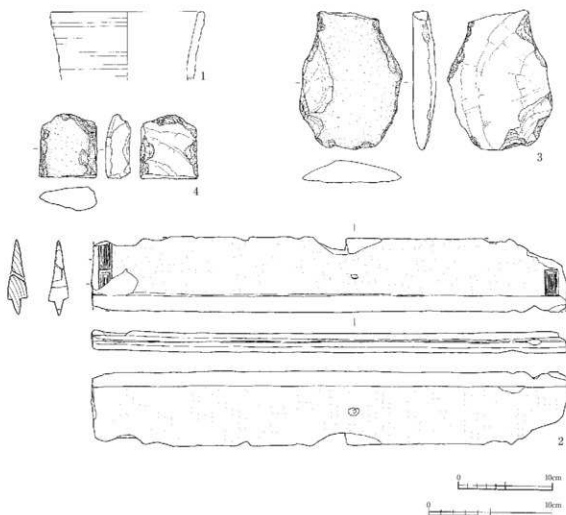
上層(3層)は植物遺体を少し含み、堅果類は上段底面と、上層(3層)と下層(4層)の境で集中して出土している。堅果類の主体はトチであり、その出土総数は、完形のものが1802個、1/2程度遺存するものが477個、破片が286個である。クルミも少量出土しており、完形のもの5個、1/2程度遺存するもの9個、破片12個がある。これらを、出土層位ごとに計測すると、以下ようになる。上層(1層が中心)で出土したトチの数は、完形のものが70個、1/2程度遺存するものが27個、破片が7個である。また、クルミの数は完形のものが4個、破片が4個である。上段底面や、上層(3層)と下層(4層)の境界周辺から出土したトチの数は、完形のものが1677個、1/2程度遺存するものが435個、破片が276個であり、クルミの数は1/2程度遺存するものが8個、破片が7個である。下段の底面から出土したトチの数は、完形のものが55個、1/2程度遺存するものが15個、破片が3個であり、クルミの数は完形のものが1個、1/2程度遺存するものが1個、破片が1個である。

堅果類を取り除くと、その下層には、細い自然木が散在していた。

上層で、弥生土器の壺(第37図1)が出土しており、この遺物は弥生時代中期後葉に属すると考えられる。このほかに、刃部の欠けた打製石斧(第37図4)も出土している。



第36図 土坑SK1204~SK1207実測図(縮尺1/20)



第37図 土坑SK1205出土遺物実測図（1・2：縮尺1/3、3・4：縮尺1/4）

SK1206（第34・36図）

12区L25・L26グリッドで検出した。SK1205から南方に約6.7m、SX01からは南方に約7.7m離れて存在する。遺存状態が悪く、南半分のみを辛うじて検出することができた。上面形態は円形または楕円形を呈していたと考えられ、長軸0.49m、深さ0.06mをはかる。断面形は浅皿状を呈する。底面にトチがわずかに残っており、その数は1/2程度が遺存するもの3個、破片が3個である。堅果類以外の遺物は確認していない。

SK1207（第34・36図）

12区L26グリッドで検出した。SK1206から南方に約5.1m、SX01からは南方に約12.9m離れて存在する。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.67m、短軸0.56m、深さ0.10mをはかる。断面形はU字状を呈する。底面を中心にクリが出土しており、その数は、完形のもの7個、1/2程度遺存するもの17個、破片56個である。なお、クリはトチと比べると脆弱であり、うまく取り上げられなかったものもあったため、実測図上で数を計測した。当遺跡で検出した堅果類出土土坑のなかで、クリが出土するのはSK1207のみである。堅果類以外の遺物は確認していない。

Ⅳ 土坑

今回の調査では、多数の土坑を検出している。全てを記述すると煩雑になるため、遺物を伴う土坑を中心に取り上げている。なお、土坑の番号は、最初の2桁が調査区を表している。

SK0102 (第38・43図)

1区M4・N4グリッドで検出した。上面形態は隅丸方形を呈し、長軸0.88m、短軸0.63m、深さ0.18mをはかる。断面形は浅皿状を呈する。弥生土器の甕(第43図1)が出土している。

SK0104 (第38図)

1区M4グリッドで検出した。SK0105に切られる。上面形態は隅丸方形を呈し、長軸1.94m、短軸1.50m、深さ0.19mをはかる。断面形は浅皿状を呈し、底面は平坦である。遺物は出土していない。

SK0105 (第38図)

1区M4グリッドで検出した。SK0104を切って構築される。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.52m、短軸0.92m、深さ0.35mをはかる。断面形は緩やかなV字状を呈する。瀬戸の破片1点が出土している。

SK0106 (第38図)

1区N5グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.33m、短軸1.08m、深さ0.29mをはかる。断面形はU字状を呈する。遺物は確認していない。

SK0114 (第38・43図)

1区M7グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.75m、短軸0.69m、深さ0.41mをはかる。断面形は箱形を呈する。磨製石斧(第43図3)が出土している。

SK0115 (第38図)

1区M7グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.94m、短軸0.79m、深さ0.20～0.30mをはかる。断面形は浅皿状を呈する。遺物は確認していない。

SK0117 (第38図)

1区M5・M6グリッドで検出した。上面形態は隅丸長方形を呈し、長軸1.70m、短軸0.84m、深さ0.15mをはかる。断面形は角が緩やかな逆台形を呈する。弥生土器が少量出土している。

SK0901 (第39・43図)

9区I2グリッドで検出した。SK0904から東方に約2.0m離れて存在する。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.55m、短軸1.40m、深さ0.36mをはかる。断面形は角が緩やかな逆台形を呈する。弥生時代中期～後期を主体とする土器(第43図4～13)と、打製石斧(第43図13)が出土している。

SK0903 (第39図)

9区G10グリッドで検出した。SD10と重複する。上面形態は不定形で、長軸1.26m以上、短軸1.50m、深さ0.06mをはかる。断面形は浅皿状を呈する。弥生土器が少量出土している。

SK0904 (第39図)

9区I2グリッドで検出した。北西部は攪乱を受ける。SK0901から西方に約2.0m離れて存在する。上面形態は不整な円形を呈し、長軸1.24m、短軸1.15m、深さ0.20mをはかる。断面形はU字状を呈する。弥生土器が少量出土している。

SK0905 (第39・43図)

9区K3グリッドで検出した。SK0916から東方に約1.3m離れて存在する。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.81m、短軸0.71m、深さ0.20mをはかる。断面形は角が緩やかな逆台形を呈する。弥生土器(第43

図14)のほか、クルミ(完形4個)が出土している。

SK0906 (第40・43図)

9区G2・G3・H2・H3グリッドで検出した。南側をSD15に切られており、北側は攪乱を受けているため、上面形態は判然としない。残存する部分は、長軸2.42m、短軸1.72m、深さ0.15mをはかる。西隅には掘り込みがあり、その中央には長軸0.44m、短軸0.36m、深さ0.22mをはかる楕円形の掘り込みがある。その断面形はU字状を呈する。弥生時代中期の土器(第43図15~17)が出土している。

SK0907 (第38図)

9区J6グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.72m、短軸0.54m、深さ0.23mをはかる。断面形は角が緩やかな逆台形を呈する。弥生土器が少量出土したほか、クルミ(完形3個・1/2遺存するもの8個)も出土している。

SK0909 (第39・43図)

9区K3グリッドで検出した。SK0910から東方に約0.4m、SK0916から西方に約1.2m離れて存在する。上面形態は瓢箪形を呈し、長軸1.55m、短軸1.08m、深さ0.32mをはかる。断面形はU字状を呈する。弥生土器の底部(第43図18)と、クルミ(完形5個・1/2遺存するもの1個)などが出土している。

SK0910 (第39図)

9区J3グリッドで検出した。SD02と重複する。SK0911から東方に約0.9m、SK0909から西方に約0.4m離れて存在する。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.88m、短軸0.70m、深さ0.40mをはかる。断面形は角が緩やかな逆台形を呈する。クルミ(完形1個)が出土している。

SK0911 (第39・43図)

9区J3グリッドで検出した。SD02と重複する。SK0910から西方に約0.9m離れて存在する。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸0.94m、短軸0.90m、深さ0.40mをはかる。断面形は、袋状を呈する。弥生土器の体部(第43図19)と甕(第43図20)などのほか、クルミ(完形137個、1/2遺存するもの44個)が出土している。

SK0912 (第40図)

9区J7グリッドで検出した。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸1.62m、短軸0.92m、深さ0.44mをはかる。断面形はV字状を呈する。遺物は確認していない。

SK0914 (第40図)

9区I6グリッドで検出した。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸1.64m、短軸0.92m、深さ0.11~0.31mをはかる。断面形はU字状を呈し、底面は平坦ではない。遺物は確認していない。

SK0916 (第39図)

9区K3グリッドで検出した。SK0909から東方に約0.9m、SK0905から西方に約1.3m離れて存在する。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.69m、短軸0.63m、深さ0.20mをはかる。断面形はU字状を呈する。遺物は確認していない。

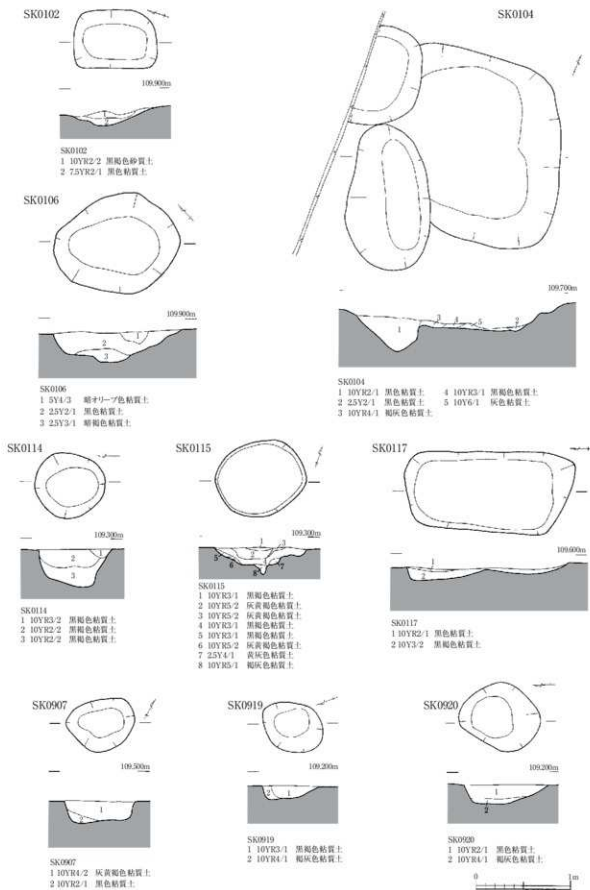
SK0918 (第40図)

9区I3・J3グリッドで検出した。上面形態は不整な円形を呈し、長軸0.96m、短軸0.92m、深さ0.36mをはかる。断面形は台形を呈する。弥生土器が少量出土している。

SK0919 (第38図)

9区I3グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.66m、短軸0.51m、深さ0.14mをはかる。

第1節 遺構および遺構内出土遺物



第38図 土坑実測図(縮尺1/40)

SK0102・SK0104・SK0106・SK0114・SK0115・SK0117・SK0907・SK0919・SK0920

断面形はU字状を呈する。クルミ（完形1個）が出土している。

SK0920（第38図）

9区I3グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.79m、短軸0.67m、深さ0.22mをはかる。断面形は角が緩やかな逆台形を呈する。弥生土器1片が出土している。

SK0926（第40図）

9区G10グリッドで検出した。上層は重機による攪乱を受けている。上面形態は円形を呈し、長軸0.54m、短軸0.51m、深さ0.80mをはかる。断面形は箱形を呈する。遺物は確認していない。

SK0931（第39・43図）

9区K2グリッドで検出した。上面形態は瓢箪形を呈し、長軸1.16m、短軸0.60m、深さ0.28mをはかる。断面形はU字状を呈する。弥生土器の底部（第43図21）が出土している。

SK0301（第40図）

3区N14グリッドで検出した。東端は用水3に接する。上面形態は瓢箪形を呈し、長軸1.94m、短軸1.21m、深さ0.08～0.17mをはかる。遺物は確認していない。

SK0302（第40図）

3区N14グリッドで検出した。東側を用水3に切られる。上面形態は楕円形を呈していたと考えられ、長軸1.11m、短軸0.76m、深さ0.20mをはかる。断面形はU字状を呈する。遺物は確認していない。

SK0305（第41・44図）

3区L16・M16グリッドで検出した。SD06を切って構築される。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸3.20m、短軸2.10m、深さ1.36mをはかる。断面形は逆台形を呈する。上層（1層）で漆椀が出土したが、水害で流失した。壁面の地山層から、押型文土器（第44図1）が出土したほか、覆土から弥生土器（第44図2～4）と打製石斧（第44図5）が出土している。時期は中世以降と考えられる。

SK0319（第41・44図）

3区N17グリッドで検出した。西側はSD05に切られる。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸1.25m、短軸1.21m、深さ0.13mをはかる。断面形は逆台形を呈する。弥生時代中期の土器（第44図6）が出土している。

SK0704（第41図）

7区J16グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.97m、短軸0.86m、深さ0.24mをはかる。断面形は逆台形を呈する。遺物は確認していない。

SK0705（第41図）

7区J18グリッドで検出した。上面形態は円形を呈し、長軸1.02m、短軸0.96m、深さ0.23mをはかる。断面形は逆台形を呈する。弥生土器が少量出土している。

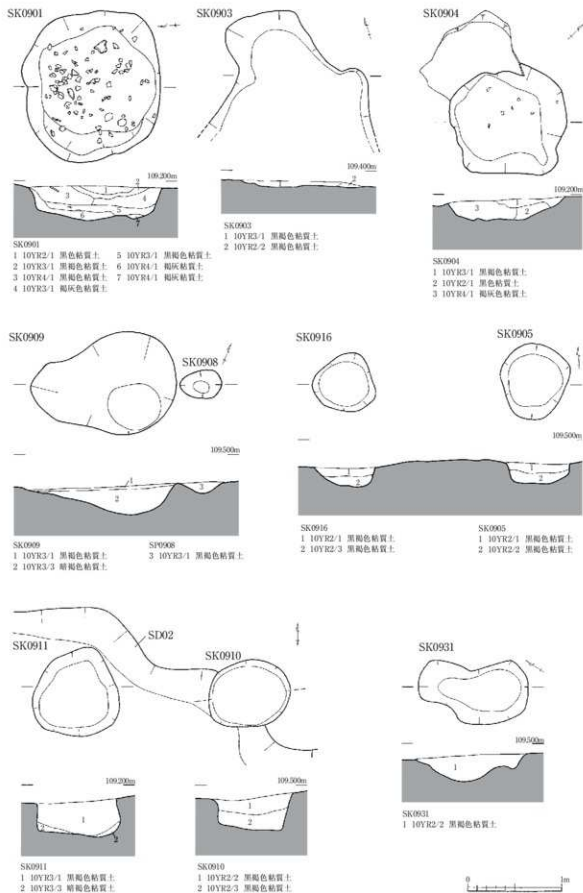
SK0706（第41図）

7区G16グリッドで検出した。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸1.94m、短軸0.98m、深さ0.30mをはかる。断面形は浅皿形を呈する。遺物は確認していない。

SK07157（第41・44図）

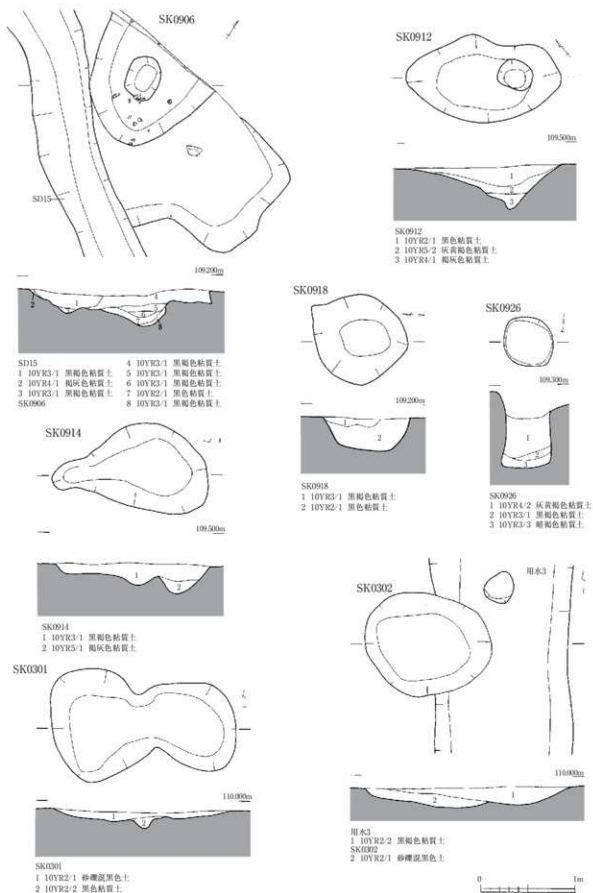
7区K20グリッドで検出した。東側は暗渠に切られる。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸1.09m、短軸0.96m、深さ0.32mをはかる。断面形はU字状を呈する。弥生土器の甕（第44図7）、器台（第44図8）、脚部（第44図9）などが出土している。

第1節 遺構および遺構内出土遺物



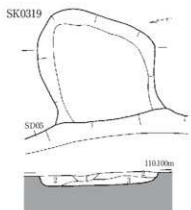
第39図 土坑実測図(縮尺1/40)

SK0901・SK0903・SK0904・SK0905・SK0908・SK0909・SK0910・SK0911・SK0916・SK0931

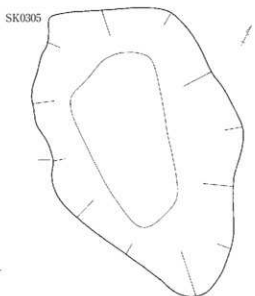


第40図 土坑実測図(縮尺1/40)
SK0906・SK0912・SK0914・SK0918・SK0926・SK0301・SK0302

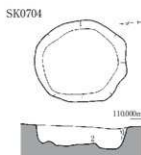
第1節 遺構および遺構内出土遺物



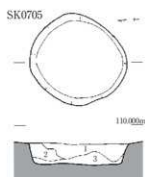
SK0319
1 10YR2/2 黒褐色粘質土
2 10YR3/1 黒褐色粘質土
3 2.5Y3/1 黒褐色粘質土



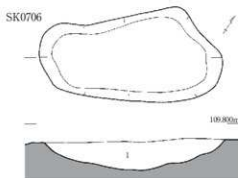
SK0305
1 10YR3/2 黒褐色土
2 2.5Y3/1 黒褐色粘質土
3 2.5Y3/1 黒褐色粘質土
4 2.5Y3/1 黒褐色粘質土
5 10YR2/1 黒褐色粘質土
6 5Y4/1 灰色土
7 5Y2/1 黒色粘質土
8 5Y4/1 灰色土
9 2.5Y3/1 黒褐色粘質土
10 2.5Y3/1 黒褐色粘質土



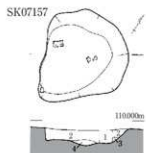
SK0704
1 10YR4/2 灰黄褐色粘質土
2 10YR2/1 黒色粘質土



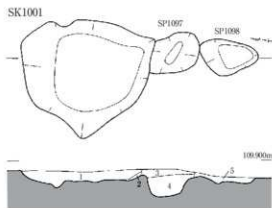
SK0705
1 10YR2/1 黒色粘質土
2 5Y4/1 灰色粘質土
3 5Y4/1 灰色粘質土



SK0706
1 10YR2/1 黒色粘質土



SK07157
1 10YR2/3 黒褐色粘質土
2 10YR1.7/1 黒色粘質土
3 10YR4/2 灰黄褐色粘質土
4 10YR2/2 黒褐色粘質土



SK1001
1 10YR2/1 黒色土
2 10YR3/2 黒褐色粘質土
SP1007
3 10YR2/1 黒色土
4 10YR2/1 黒色粘質土
SP1008
5 10YR3/1 黒褐色土

第41図 土坑実測図(縮尺1/40・1/60)

SK0305・SK0319・SK0704・SK0705・SK0706・SK07157・SK1001

SK1001 (第41図)

10区G17グリッドで検出した。東側は重機による攪乱を受ける。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸1.38m、短軸1.24m、深さ0.11～0.19mをはかる。断面形は浅皿形を呈し、底面は平坦ではない。弥生土器が少量出土している。

SK0601 (第42図)

6区E18グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.28m、短軸1.14m、深さ0.10mをはかる。断面形は浅皿形を呈する。弥生土器、土師器、須恵器が少量出土している。

SK0628 (第42図)

6区E13グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.70m、短軸0.68m、深さ0.38mをはかる。南側には長軸0.62m、短軸0.48m、深さ0.11mをはかる掘り込みがあり、2段掘りとなっている。遺物は確認していない。

SK0629 (第42図)

6区E13グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.94m、短軸0.76m、深さ0.61mをはかる。断面形はU字状を呈する。遺物は確認していない。

SK0630 (第42図)

6区E14グリッドで検出した。上面形態は不整な円形を呈し、径0.82m、深さ0.33mをはかる。断面形は逆台形を呈する。遺物は確認していない。

SK0631 (第42図)

6区E13・E14グリッドで検出した。上面形態は円形を呈し、長軸0.64m、短軸0.62m、深さ0.31mをはかる。断面形は箱形を呈する。遺物は確認していない。

SK0638 (第42図)

6区D14グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.68m、短軸0.50m、深さ0.41mをはかる。断面形は箱形を呈する。遺物は確認していない。

SK0639 (第42図)

6区D14・D15グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.82m、短軸0.60m、深さ0.40mをはかる。断面形は箱形を呈する。遺物は確認していない。

SK1406 (第42図)

14区Q17グリッドで検出した。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸1.02m、短軸0.72m、深さ0.25mをはかる。断面形はU字状を呈する。打製石斧1点と越前焼1片が出土している。

SK1503 (第42図)

15区S26グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.00m、短軸0.75m、深さ0.11mをはかる。断面形は逆台形を呈する。遺物は確認していない。

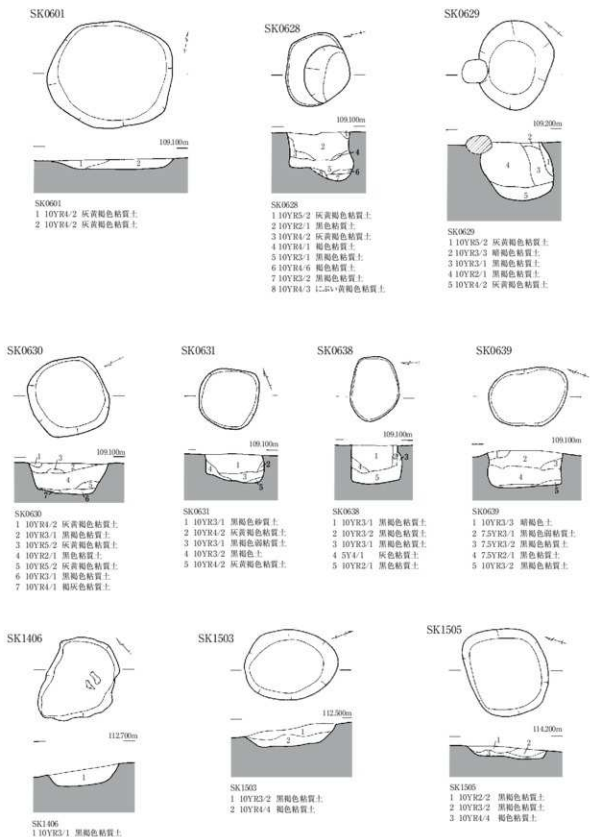
SK1505 (第42図)

15区U26グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.92m、短軸0.84m、深さ0.10mをはかる。断面形はU字状を呈する。遺物は確認していない。

V 柱穴

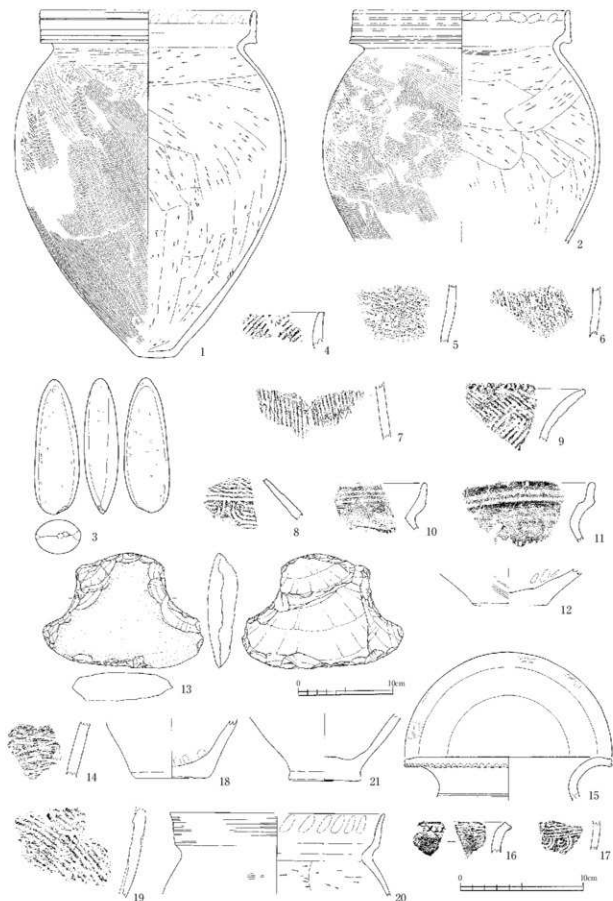
多数の柱穴または柱穴状ピットを検出しているが、遺物を伴うものを中心に取り上げる。

第1節 遺構および遺構内出土遺物



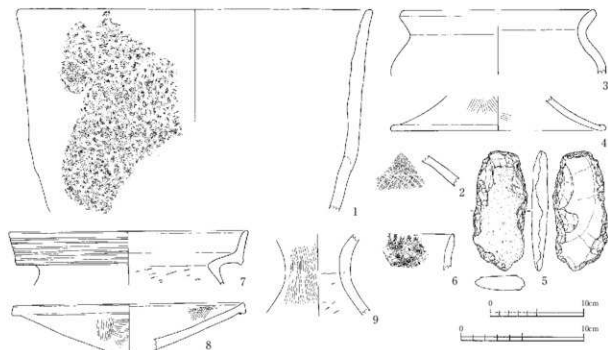
第42図 土坑実測図(縮尺1/40)

SK0601・SK0628・SK0629・SK0630・SK0631・SK0638・SK0639・SK1406・SK1503・SK1505



第43図 土坑出土遺物実測図 (1・2・4~12・14~20:縮尺1/3, 3・13:縮尺1/4)

1: SK0102, 2: SK0112, 3: SK0114, 4~13: SK0901, 14: SK0905, 15~17: SK0906, 18: SK0909, 19~20: SK0911, 21: SK0931



第44図 土坑出土遺物実測図(1・4・6～8:縮尺1/3, 5:縮尺1/4)

1～5:SK0305, 6:SK0319, 7～9:SK07157

SP0119 (第45図)

1区M1グリッドで検出した。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸0.71m、短軸0.39m、深さ0.20mをはかる。北側は2段掘りとなっており、上段からの深さは0.19mをはかる。

SP0136 (第45・46図)

1区M8グリッドで検出した。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸0.59m、短軸0.36m、深さ0.05mをはかる。西側は2段掘りで、上段からの深さは0.12mである。弥生土器の壺(第46図1)が出土した。

SP07002 (第45・46図)

7区I18グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.56m、短軸0.29m、深さ0.27mをはかる。北東側は2段掘りとなっており、上段からの深さは0.11mをはかる。弥生土器の壺(第46図4)が出土した。

SP07120 (第45・46図)

7区I12グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.72m、短軸0.44m、深さ0.13mをはかる。断面形は浅皿状を呈する。弥生土器の体部(第46図3)が出土している。

SP07209 (第45・46図)

7区G18グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.34m、短軸0.27m、深さ0.47mをはかる。断面形はU字状を呈する。磨石(第46図6)が出土している。

SP07304 (第45・46図)

7区I19グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.44m、短軸0.27m、深さ0.07～0.12mをはかる。断面形は逆台形を呈する。須恵器の坏(第46図5)が出土している。

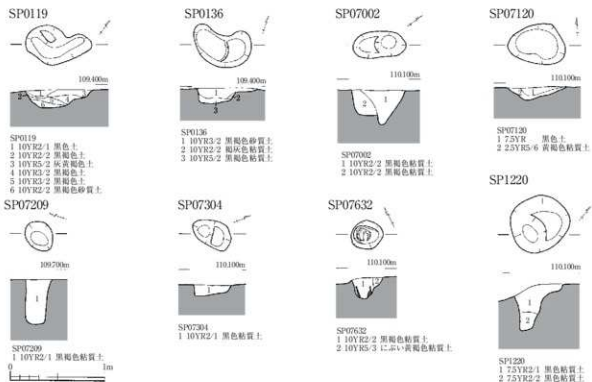
SP07632 (第45・46図)

7区I14グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.44m、短軸0.30m、深さ0.22mをはかる。

柱根(第46図7)が遺存していた。

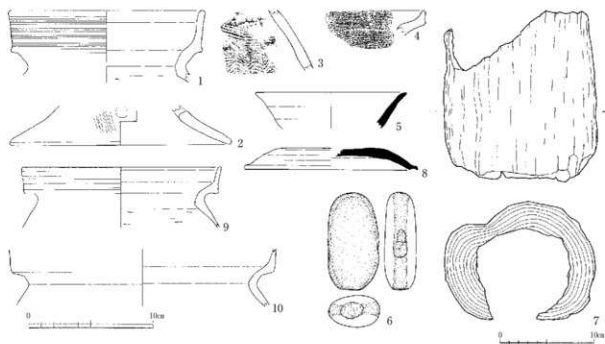
SP1220 (第44・46図)

12区K22グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.63m、短軸0.58m、深さ0.09mをはかる。南側は2段掘りとなっており、上段からの深さは0.39mをはかる。弥生土器の甕(第46図9・10)



第45図 柱穴実測図(縮尺1/40)

SP0119・SP0136・SP07002・SP07120・SP07209・SP07304・SP07632・SP1220



第46図 柱穴出土遺物実測図(1~5・8~10:縮尺1/3・6・7:縮尺1/4)

1: SP0136, 2: SP0922, 3: SP07126, 4: SP07002, 5: SP07304, 6: SP07209, 7: SP07632, 8: SP10114, 9: SP1220

が出土している。

VI 溝・自然流路

溝・自然流路は43条検出した。なお、鹿谷川旧流路については、別項を設ける。

SD01 (第7・9・47・50～54図)

1・3・4・9・13・15区G2～R26グリッドにかけて検出した、丘陵裾を巡る自然流路である。南から北西方向に流れていたと想定される。幅2.05～6.10m、深さ0.42～1.26mをはかり、U字状の断面形を呈する。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、木製品、石器、金属製品などが出土しており(第50～54図)、多岐にわたる。縄文時代から近世までの長期間にわたって、機能していたと考えられる。

SD02 (第7・47・54図)

9区I2～K3グリッドにかけて検出した。半弧状を呈する自然流路で、南から北西方向に流れていたと想定される。SD01と区別したが、SD01が氾濫した時の流路である可能性が高い。流路は幅0.55～3.10m、深さ0.09～0.25mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は弥生土器と石器が主に出土している(第54図6～11)。

SD03 (第7・8・47・55図)

3・5・7・9区F6～M14グリッドにかけて検出した。SD01から分かれて、南東から北西方向に流れていたと想定される自然流路である。SD01の西肩部を切って構築されているが、SD03が機能している間もSD01は幅を縮小して流れていたと考えられる。幅1.76～3.63m、深さ0.17～0.26mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。出土遺物は弥生土器が中心である(第55図1～5)。

SD04 (第7・8・47・55図)

5・7・9区E8～K12グリッドにかけて検出した。SD03と並列して、南東から北西方向に流れていたと想定される自然流路である。幅1.90～4.58m、深さ0.07～0.21mをはかり、U字状の断面形を呈する。弥生土器や石器(第55図19・20)も少量出土しているが、中心となる遺物は平安時代の土師器・須恵器である(第55図6～18)。

SD05 (第8・47・56図)

3・4区L14～O21グリッドにかけて検出した自然流路で、南から北西方向に流れていたと想定される。現状ではSD01と併走してSD03に合流するが、SD01の流路の一部であった可能性もある。幅0.76～5.01m、深さ0.05～0.39mをはかり、U字状の断面形を呈する。弥生時代後期の土器(第56図1～7)を中心に、石器(第56図8～10)も出土している。

SD06 (第7・8・47・57～59図)

3・4・5・7・10区E9～O21グリッドにかけて検出した。SD01から分かれて、南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。調査地の制限により、SD01との前後関係については確認することができなかった。幅0.84～6.55m、深さ0.11～0.53mをはかり、U字状の断面形を呈する。遺物の中心は弥生土器であるが、縄文土器や石器も出土している(第57～59図)。また、上面では須恵器が出土している。

SD07 (第8・48・56図)

3・4・7・10区F12～M19グリッドにかけて検出した。SD08から分かれて、南から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。SD17を切って構築され、用水4に切られる。SD38との前後関係を確認

することはできなかったが、SD38がSD07よりも新しい可能性が高いと考えられる。幅0.70～1.92m、深さ0.11～0.34mをはかり、U字状の断面形を呈する。出土遺物の中心は、弥生土器（第56図11～14）と石器である（第56図15～18）。

SD08（第8・9・48・60図）

3・4・12・13区G13～O23グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路で、SD01に切られる。SD38・SD39との前後関係を確認することはできなかったが、SD38・SD39がSD08よりも新しい可能性が高いと考えられる。幅0.83～2.35m、深さ0.13～0.77mをはかり、U字状の断面形を呈する。出土遺物の中心は、弥生土器と石器である（第60図）。

SD09（第7・8・48図）

7・9区F9～J13グリッドにかけて検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。SD10と並列する。幅1.95～3.63m、深さ0.02～0.06mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。弥生土器がわずかに出土しているが、図化できるものはない。

SD10（第7・8・47・61図）

7・9区G10～K14グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。SD09と並列しており、SD06の氾濫時の流路を切って構築される。幅0.58～2.18m、深さ0.08～0.20mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。縄文土器、弥生土器、土師器などが一定量出土しているが、細片が多く、図化できるものは限られている。このうち、弥生時代中期の土器を図示した（第61図1）。

SD11（第7・48・61図）

1区M7～N8グリッドで検出した。東から西方向に流れていた溝と考えられる。幅0.37～0.50m、深さ0.14～0.22mをはかり、断面形は角が丸い箱形を呈する。弥生土器がまとめて出土している（第61図2～7）。

SD12（第8・47図）

3区K17・K18グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。幅0.40～0.72m、深さ0.07～0.12mをはかり、U字状の断面形を呈する。弥生土器がややまとまって出土しているが、細片が多いため、図示することはできない。

SD13（第7・47・62図）

9区F8からI10グリッドにかけて検出した。南東から北西方向に流れていた溝と考えられる。SD04を切って構築されており、耕作に伴うものである可能性が高い。幅0.38～0.68m、深さ0.04～0.12mをはかり、U字状の断面形を呈する。弥生土器のほか、須恵器（第62図1）、勾玉（第62図2）が出土している。

SD14（第7図）

9区K5・L5グリッドで検出した。東から西方向に流れていた溝と考えられる。幅0.22～0.54m、深さ0.19～0.26mをはかり、U字状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD15（第7・48・61図）

9区G3～H3グリッドにかけて検出した。南東から北西方向に流れていた溝と考えられる。SK0906を切って構築される。幅0.60～1.06m、深さ0.08～0.19mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。縄文土器（第61図8）が出土している。

SD16（第7・48・61図）

9区F9～G10グリッドにかけて検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。幅

0.58～1.02m、深さ0.04～0.21mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。完形の手づくね土器（第61図9）などが出土している。

SD17（第8・48図）

3・4区M19～N20グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられ、SD07に切られる。幅0.27～0.85m、深さ0.06～0.15mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD18（第8・47・61図）

7・10区G12～H13グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられ、SD06から分かれて、再びSD06に合流している。土層を観察すると、SD06に切られていることから、SD06の氾濫時の流路と見るべきであろう。幅0.52～1.10m、深さ0.09～0.19mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。弥生土器が多く出土しているが、図示できるものは少ない（第61図10～14）。このほか、少量の須恵器と、石器（第61図15）などが出土している。

SD19（第8・48・49・62図）

10区F13～G12グリッドにかけて検出した。SD18から分かれて、東から南西方向に流れていた自然流路と考えられる。SD35と用水4に切られる。幅0.60～0.74m、深さ0.08～0.16mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。須恵器（第62図3）が出土している。

SD20（第8・48・62図）

6・10区F19～G20グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝であり、鹿谷川田流路から水を引いていた水路と考えられる。幅0.35～1.45m、深さ0.05～0.82mをはかり、断面形は逆台形を呈する。弥生土器、須恵器（第62図4～7）、土師器、石器（第62図8）などが出土している。

SD21（第7図）

9区I3グリッドで検出した。SD02から分かれて、SD01に合流しており、西から東方向に流れていた自然流路と考えられる。幅0.55～1.26m、深さ0.06mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD22（第7・47図）

5区E9・E10グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。幅0.33～0.85m、深さ0.04～0.10mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。弥生土器がわずかに出土しているが、図化できるものはない。

SD23（第8・49図）

8区B15・B16グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝である。幅0.28～0.61m、深さ0.05～0.09mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD24（第9・49図）

13区O23グリッドで検出した。北東から南西方向に流れていた自然流路と考えられる。幅0.82～1.61m、深さ0.04～0.08mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD25（第9図）

13区P23・P24グリッドで検出した。SD01から分かれて、南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。幅0.86～1.18m、深さ0.09～0.10mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。弥生土器がわずかに出土しているが、図化できるものはない。

SD26 (第8・49図)

14区Q18～R17グリッドにかけて検出した。東から西方向に流れていた自然流路と考えられる。幅0.40～1.55m、深さ0.08～0.30mをはかり、U字状の断面形を呈する。弥生土器がわずかに出土しているが、図化できるものはない。

SD28 (第8・49図)

14区Q17グリッドで検出した。南から北方向に流れていた溝と考えられる。幅0.35～0.88m、深さ0.07～0.22mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD29 (第8・49図)

14区Q19グリッドで検出した。南から北方向に流れていた溝と考えられる。幅0.25～0.35m、深さ0.09～0.16mをはかり、U字状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD30 (第8・49図)

14区Q19グリッドで検出した。南から北方向に流れていた溝と考えられる。幅0.38～0.42m、深さ0.05～0.12mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。須恵器がわずかに出土している。

SD31 (第8・49図)

14区Q20グリッドで検出した。南西から北西方向に流れていた溝と考えられる。幅0.40～0.45m、深さ0.07～0.11mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD32 (第9・49・62図)

15区U27～T28グリッドで検出した。北西から南西方向に流れていた自然流路と考えられる。幅0.85～2.68m、深さ0.31～1.01mをはかり、U字状の断面形を呈する。越前焼(第62図9)と石器(第62図10)が出土している

SD33 (第8・48図)

10区G13グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝と考えられる。幅0.44～0.65m、深さ0.05～0.18mをはかり、U字状の断面形を呈する。弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SD34 (第8・49図)

7区L16グリッドで検出した。東から西方向に流れていた自然流路と考えられ、SD07に合流する。幅0.19～0.58m、深さ0.05～0.09mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD35 (第8図)

10区F13グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝と考えられ、SD33と同一の溝である可能性もある。SD19を切り、用水4に切られる。幅0.35～0.55m、深さ0.03～0.05mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。弥生土器がわずかに出土しているが、図示できるものはない。

SD36 (第7・49図)

9区G3・H2グリッドで検出した。南西から北方向に流れていた溝と考えられる。幅0.28～0.58m、深さ0.02～0.10mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD37 (第7・49図)

9区G7～L10グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝と考えられる。耕作に伴う溝と想定され、その流路は2回折れ曲がる。幅0.35～0.65m、深さ0.03～0.18mをはかり、U字状の断面形を呈する。弥生土器がわずかに出土しているが、図示できるものはない。

SD38 (第8・49図)

7区I14グリッドで検出した。東から西方向に流れていた溝で、耕作に伴うものと考えられる。幅0.30～0.68m、深さ0.21mをはかり、角が緩やかな箱状の断面形を呈する。弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SD39 (第8・49図)

7・10区I15～F14グリッドで検出した。東から西方向に向かって流れていた溝で、途中で折れ曲がって北を向く。耕作に伴うものと考えられる。幅0.22～0.45m、深さ0.10～0.14mをはかり、角が緩やかな箱状の断面形を呈する。弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SD40 (第8・9・49図)

7・10・12区G16～J22グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝で、SD41・SD42とはほぼ並行して走る。耕作に伴うものと考えられる。幅0.20～0.80m、深さ0.05～0.20mをはかり、角が緩やかな箱状の断面形を呈する。弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SD41 (第8・9・49図)

7・12区I18～L22グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝で、SD40・SD42とはほぼ並行して走る。耕作に伴うものと考えられる。幅0.23～0.78m、深さ0.02～0.19mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。弥生土器がややまとまって出土しているが、細片が多いため、図化することはできない。

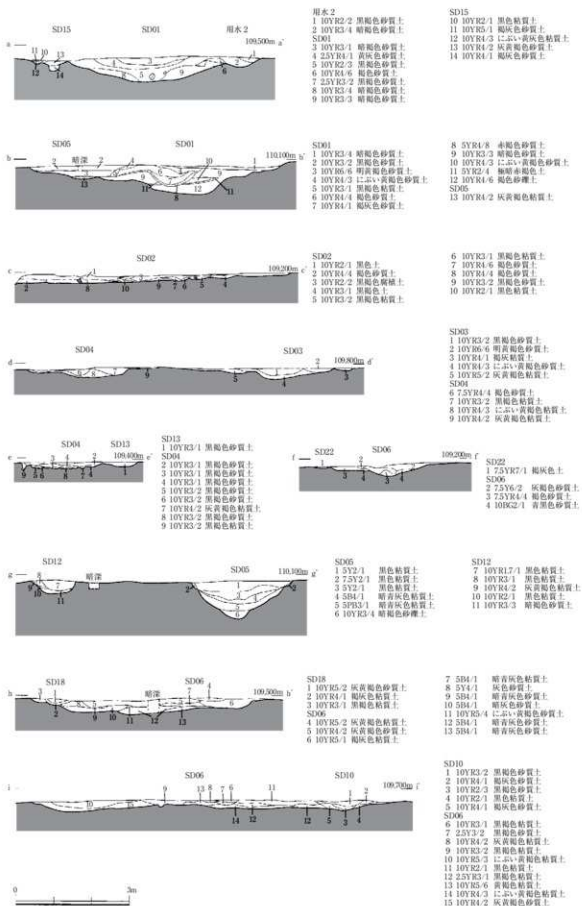
SD42 (第9・49図)

12区I21・I22グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝であり、SD40・SD41とはほぼ並行して走る。耕作に伴うものと考えられる。幅0.25～0.57m、深さ0.05～0.18mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD43 (第9・49図)

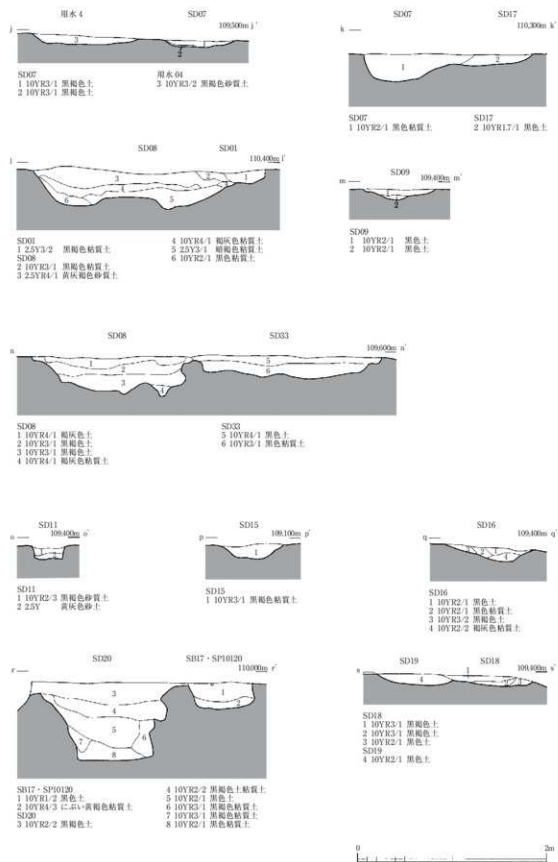
13区O24・P24グリッドで検出した。東から西方向に流れていた溝と考えられる。幅0.25～0.33m、深さ0.04～0.07mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

第4章 遺構と遺物

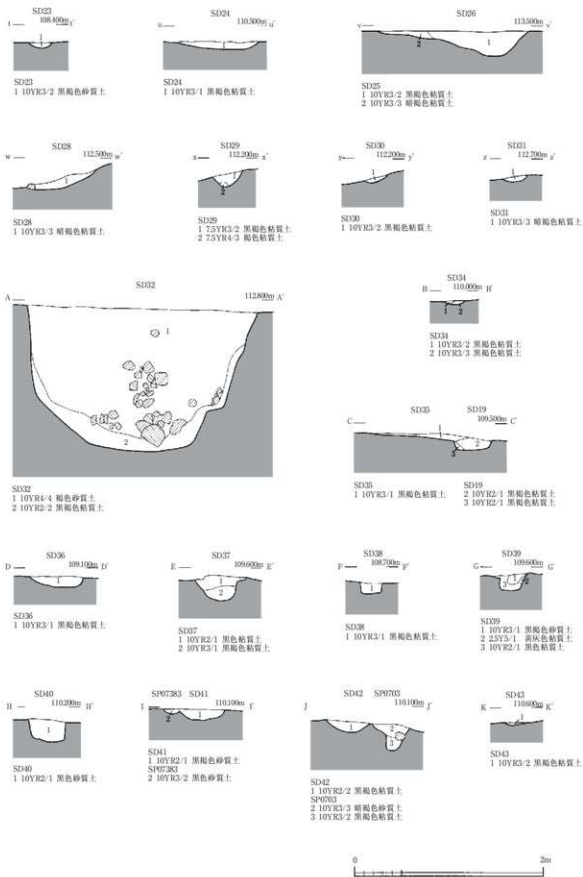


第47図 溝・自然流路土層断面図(縮尺1/100)
SD01・06・SD10・SD12・SD13・SD18・SD22

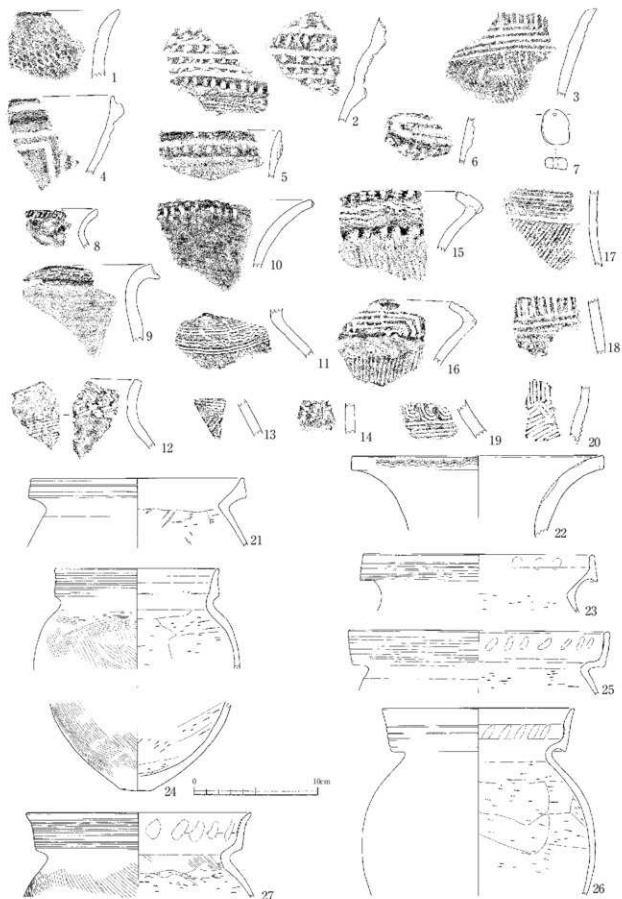
第1節 遺構および遺構内出土遺物



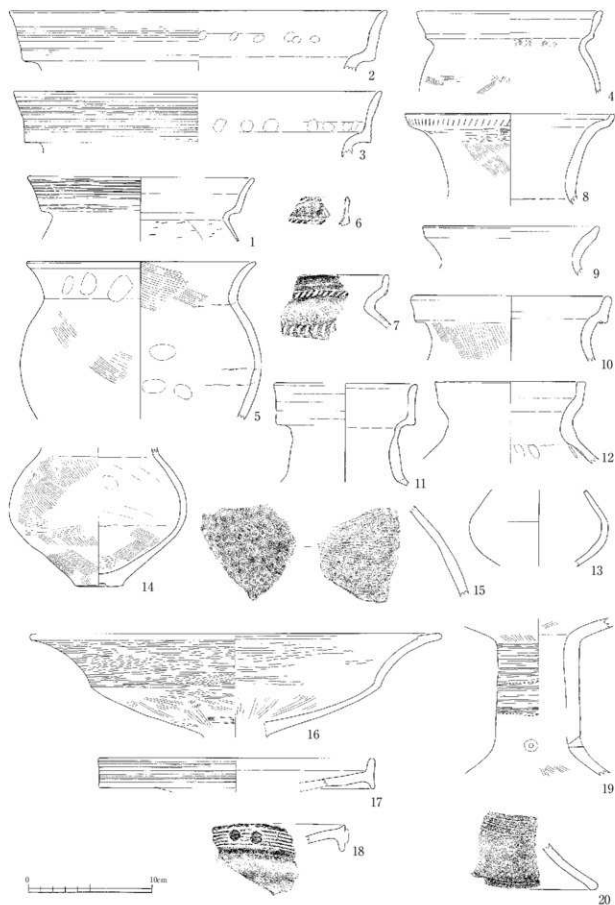
第48図 溝・自然流路土層断面図(縮尺1/40)
SD01・SD07-09・SD11・SD15・SD16-20、SD33



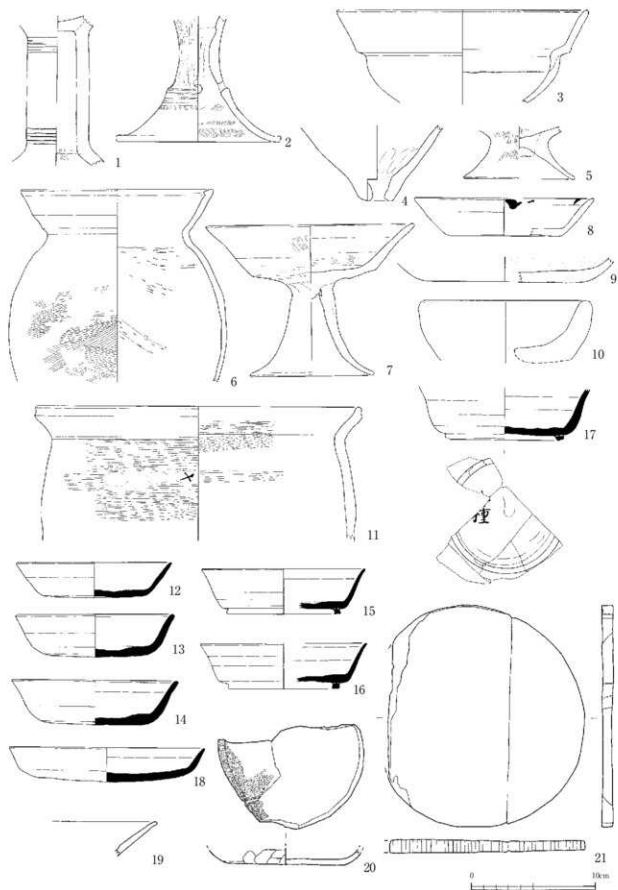
第49図 溝・自然流路土層断面図(縮尺1/40)
SD19・SD23・SD24・SD26・SD28~32・SD34~43



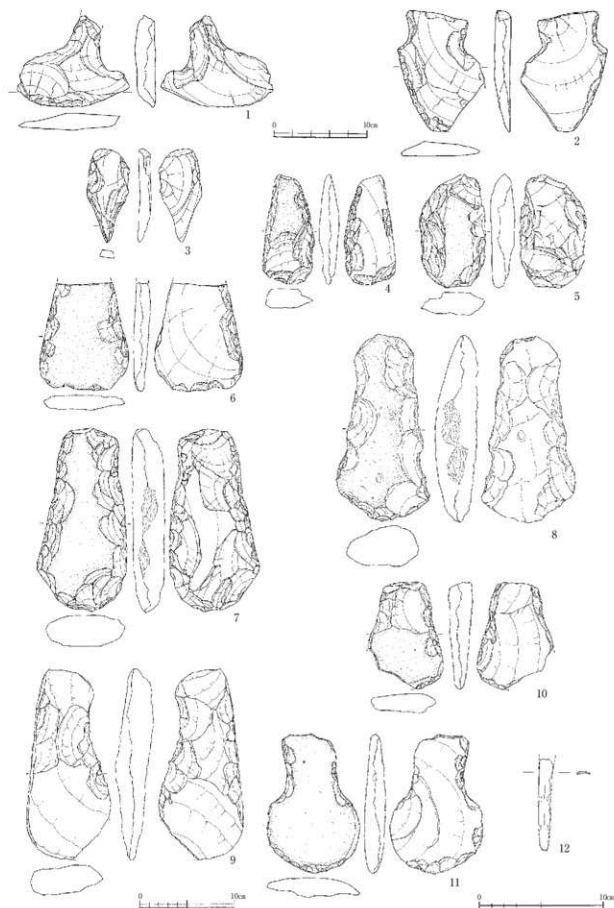
第50図 自然流路SD01出土遺物実測図(縮尺1/3)



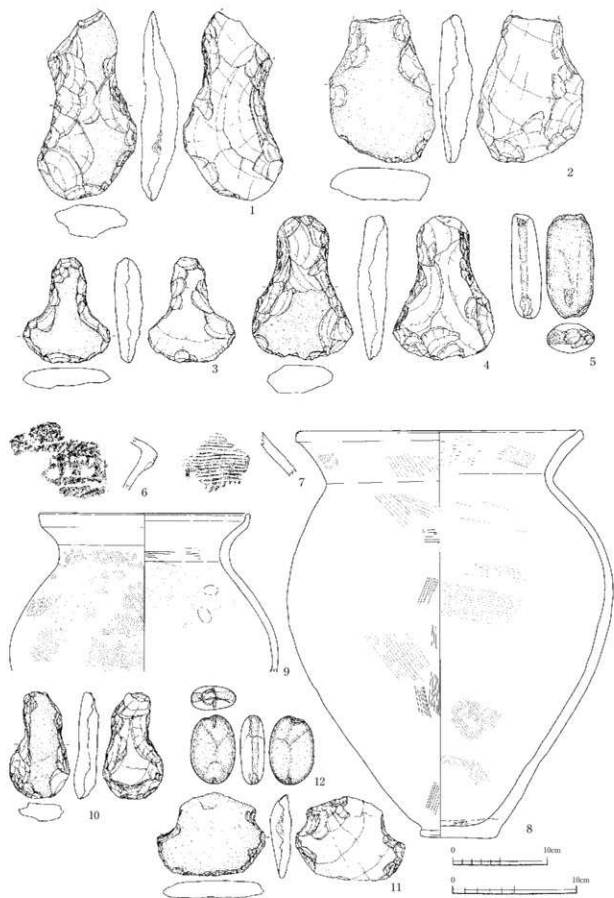
第51図 自然流路SD01出土遺物実測図(縮尺1/3)



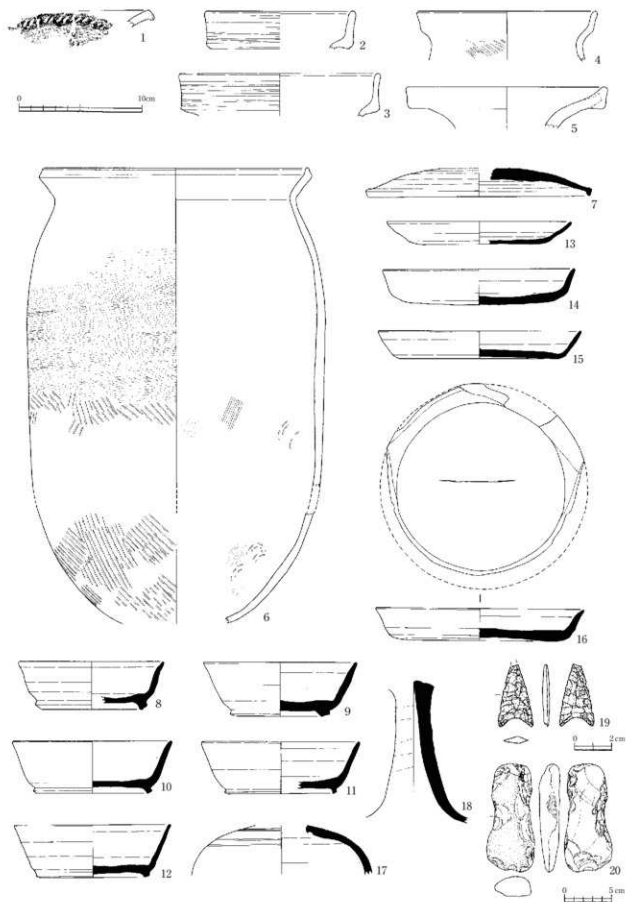
第52図 自然流路SD01出土遺物実測図(縮尺1/3)



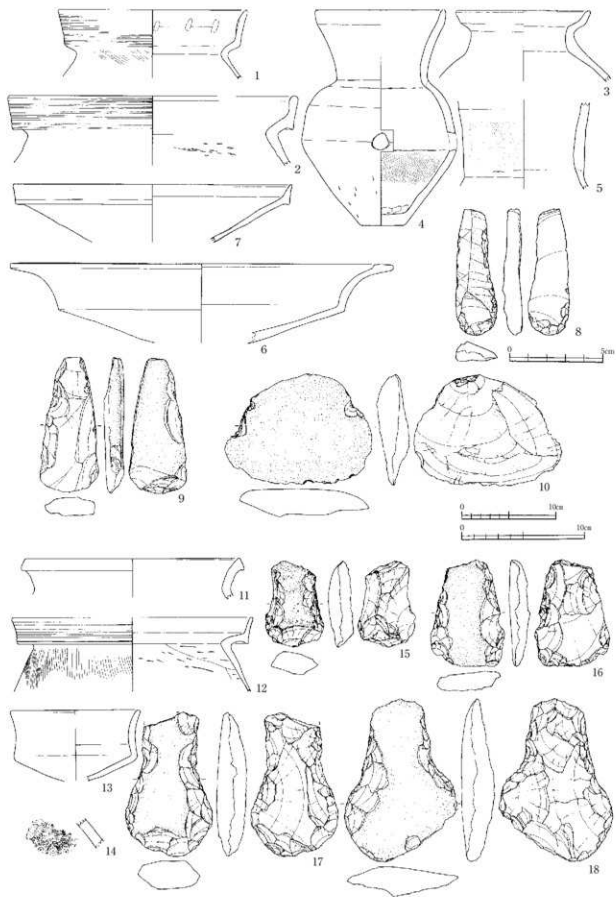
第53図 自然流路SD01出土遺物実測図 (1・2:縮尺1/2, 3~11:縮尺1/4, 12:縮尺1/3)



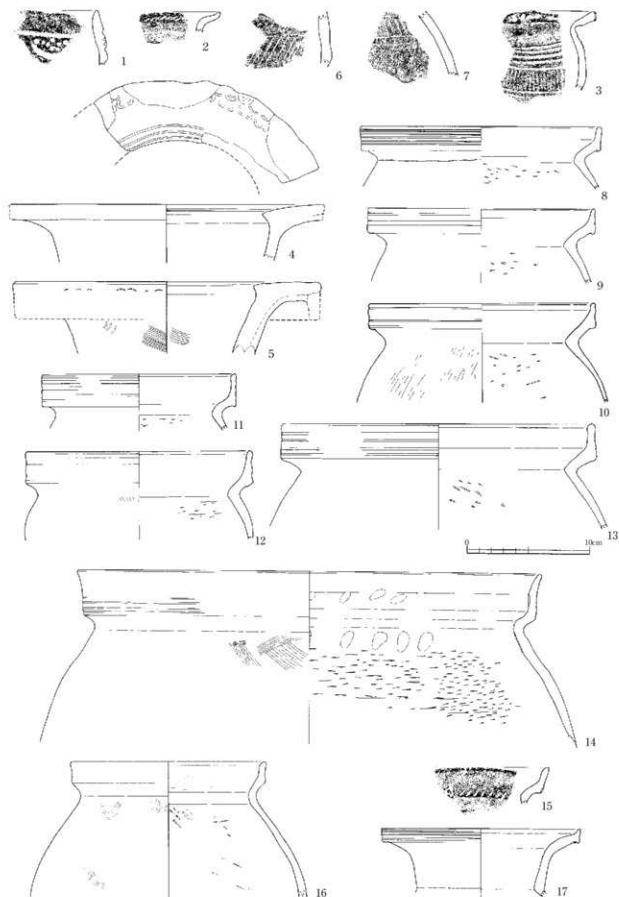
第54図 自然流路SD01・SD02出土遺物実測図 (1~5・10~12:縮尺1/4, 6~8:縮尺1/3)
1~5:SD01, 6~11:SD02



第55図 自然流路SD03・SD04出土遺物実測図 (1~18:縮尺1/3, 19:縮尺1/2, 20:縮尺1/4)
1~5:SD03, 6~20:SD04

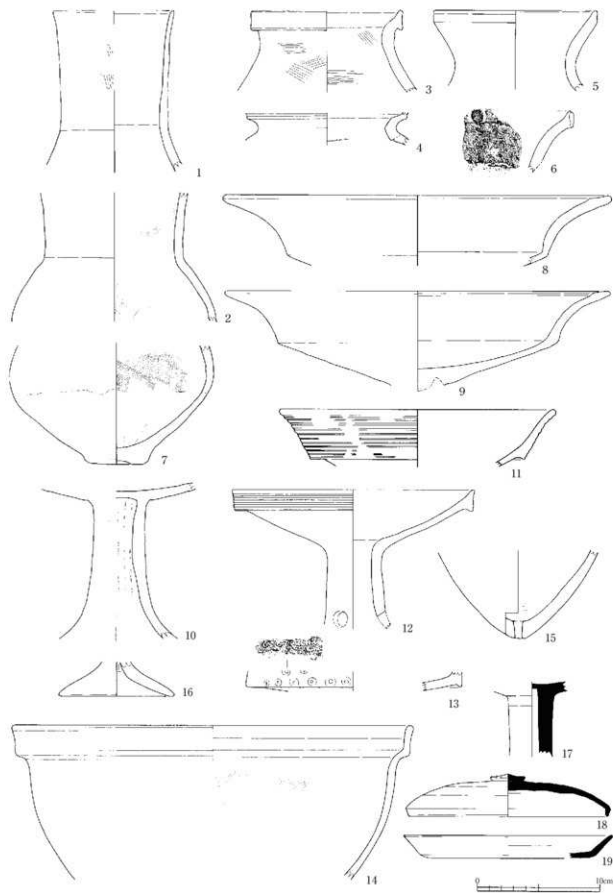


第56図 自然流路SD05・SD07出土遺物実測図(1～7・11～14:縮尺1/3, 8:縮尺1/2, 9・10・15～16:縮尺1/4)



第57図 自然流路SD06出土遺物実測図(縮尺1/3)

第1節 遺構および遺構内出土遺物

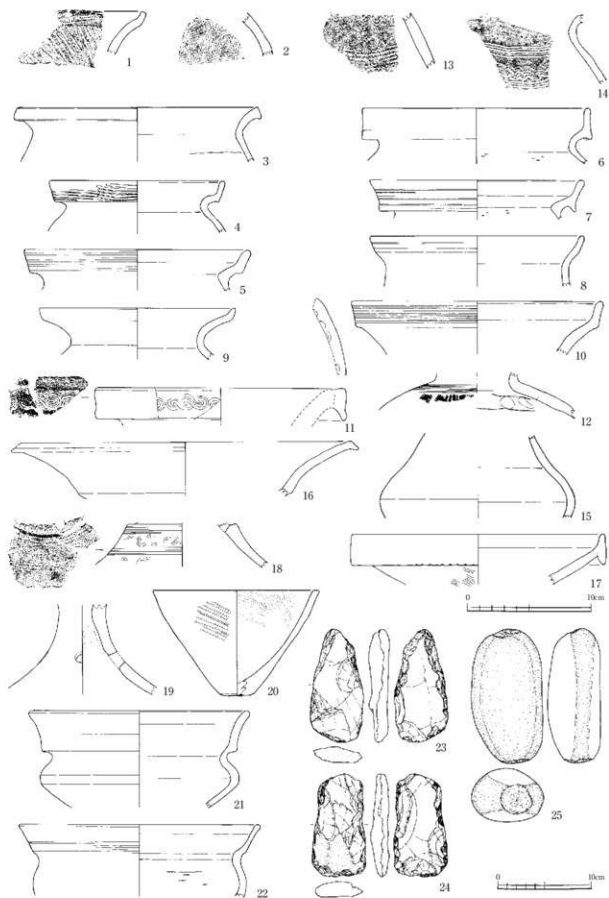


第58図 自然流路SD06出土遺物実測図(縮尺1/3)



第59図 自然流路SD06出土遺物実測図(縮尺1/4)

第1節 遺構および遺構内出土遺物

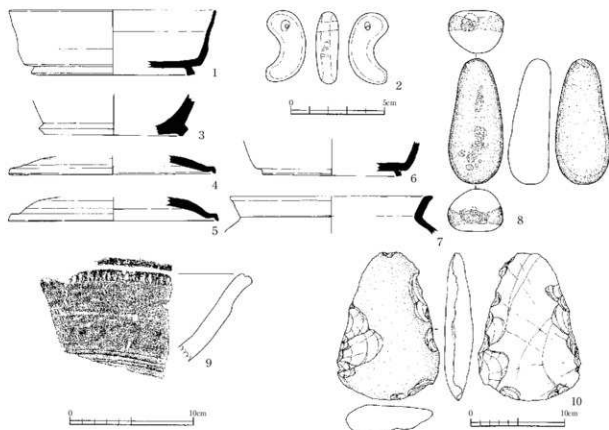


第60図 自然流路SD08出土遺物実測図 (1~22:縮尺1/3, 23~25:縮尺1/4)



第61図 溝・自然流路出土遺物実測図(縮尺1/3)

1: SD10, 2~7: SD11, 8: SD15, 9: SD16, 10~15: SD18



第62図 溝・自然流路出土遺物実測図（1・3～7・9：縮尺1/3，2：縮尺1/2，8・10：縮尺1/4）
1・2：SD13，3：SD19，4～8：SD20，9・10：SD32

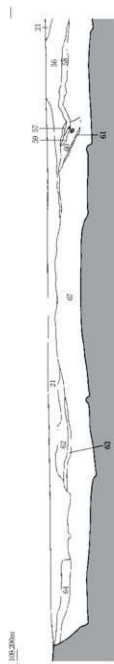
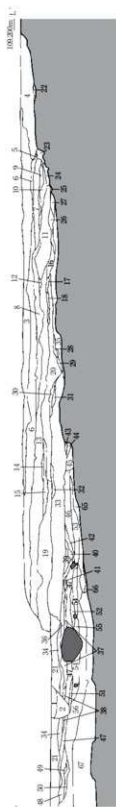
Ⅶ 鹿谷川旧流路（第63図～第87図）

6・7・8・10・11・12区A15～L26グリッドで検出した河川である。その流路は、今回の調査区の南側を掠めるように北進するもので、右岸のみを確認している。昭和40年代の圃場整備時に当地を流れていた鹿谷川の流路を変更したことが知られており、今回検出した河川がその規模と位置から鹿谷川の旧流路であると判断した。

現在の鹿谷川は調査区の南端から約50m離れたところにあり、南東から北西方向に流れて九頭龍川に合流している。

右岸のみの検出であるため、川幅は不明であるが、現在の鹿谷川が10～20mであることを考えると、ほぼ同等の川幅であったのではないかと想像される。深さは0.30～1.25mをはかり、海拔高は105.400～108.700mである。上層は圃場整備時の厚い埋土（1～21層）に覆われていた。22層～67層は自然堆積と考えられ、流木を多数含んでいた。

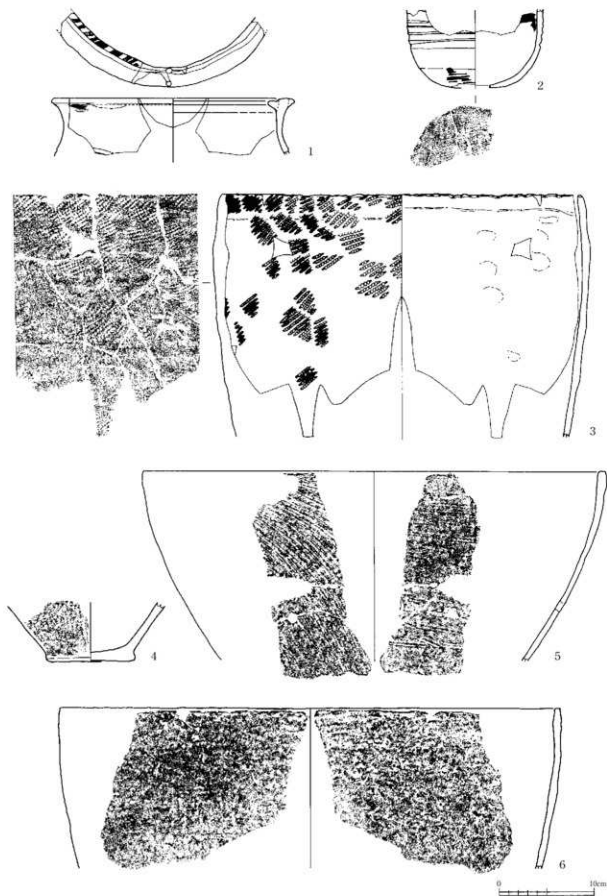
縄文時代から近・現代までの遺物が出土している（第64図～第87図）。



標高	10784.2	12.55	黄褐色砂質土
1	2376.4	12.55	黄褐色砂質土
2	10784.2	灰褐色粘質土	
3	10784.2	黄褐色粘質土	
4	10784.2	黄褐色粘質土	
5	10784.2	黄褐色粘質土	
6	10784.2	黄褐色粘質土	
7	10784.2	黄褐色粘質土	
8	10784.2	黄褐色粘質土	
9	10784.2	黄褐色粘質土	
10	2532.8	40-50	黄褐色砂質土
11	2532.8	黄褐色粘質土	
12	10784.2	黄褐色粘質土	
13	10784.2	黄褐色粘質土	
14	2533.2	黄褐色粘質土	
15	10784.4	黄褐色粘質土	
16	10784.2	黄褐色粘質土	
17	10784.2	黄褐色粘質土	
18	10784.4	黄褐色粘質土	
19	10784.4	黄褐色粘質土	
20	10784.2	黄褐色粘質土	
21	10784.2	黄褐色粘質土	
22	10784.2	黄褐色粘質土	
23	10784.2	黄褐色粘質土	
24	10784.2	黄褐色粘質土	
25	10784.2	黄褐色粘質土	
26	10784.2	黄褐色粘質土	
27	10784.2	黄褐色粘質土	
28	10784.2	黄褐色粘質土	
29	10784.2	黄褐色粘質土	
30	10784.2	黄褐色粘質土	
31	10784.1	黄褐色粘質土	
32	10784.1	黄褐色粘質土	
33	10784.1	黄褐色粘質土	
34	10784.3	黄褐色粘質土	
35	10784.2	黄褐色粘質土	
36	10784.2	黄褐色粘質土	
37	2533.3	黄褐色粘質土	
38	2533.3	黄褐色粘質土	
39	10784.4	黄褐色粘質土	
40	10784.4	黄褐色粘質土	
41	10784.3	黄褐色粘質土	
42	10784.4	黄褐色粘質土	
43	10784.4	黄褐色粘質土	
44	10784.1	黄褐色粘質土	
45	2533.6	黄褐色粘質土	
46	2533.6	黄褐色粘質土	
47	2533.2	黄褐色粘質土	
48	10786.6	黄褐色粘質土	
49	2533.3	黄褐色粘質土	
50	2537.4	黄褐色粘質土	
51	2535.3	黄褐色粘質土	
52	2535.2	黄褐色粘質土	
53	5144.3	黄褐色粘質土	
54	2536.3	黄褐色粘質土	
55	5131.6	黄褐色粘質土	
56	2533.2	黄褐色粘質土	
57	2533.2	黄褐色粘質土	
58	2533.4	黄褐色粘質土	
59	10785.4	黄褐色粘質土	
60	2532.2	黄褐色粘質土	
61	2534.4	黄褐色粘質土	
62	5132.2	黄褐色粘質土	
63	5132.2	黄褐色粘質土	
64	10784.1	黄褐色粘質土	
65	2532.1	黄褐色粘質土	
66	2532.1	黄褐色粘質土	
67	2534.3	黄褐色粘質土	

第63図 鹿谷川田尻路上層断面図 (縮尺1/100)

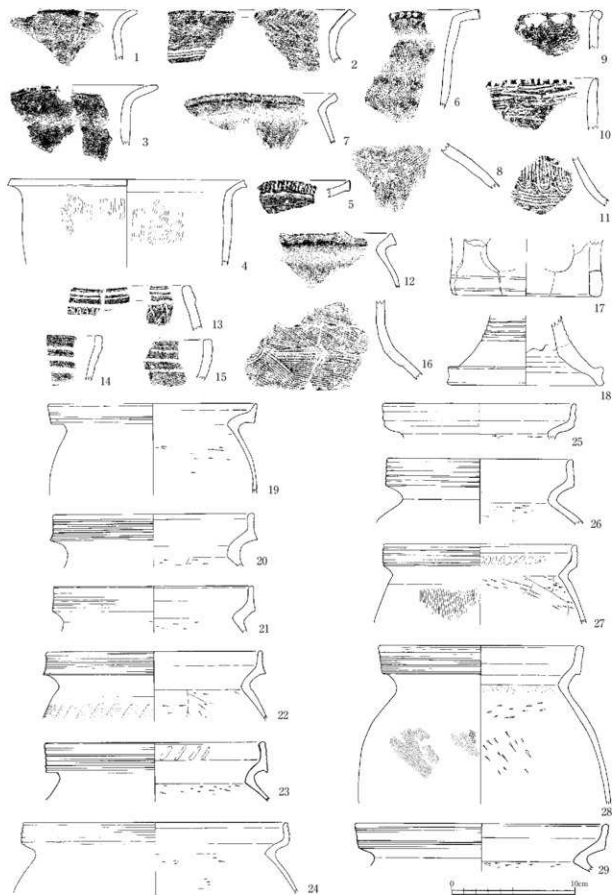
第1節 遺構および遺構内出土遺物



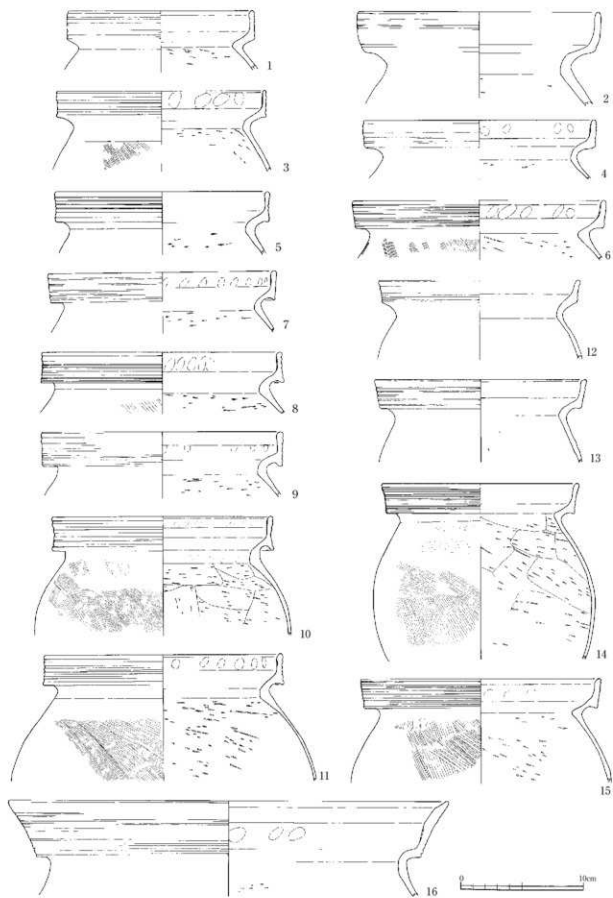
第64図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/3)



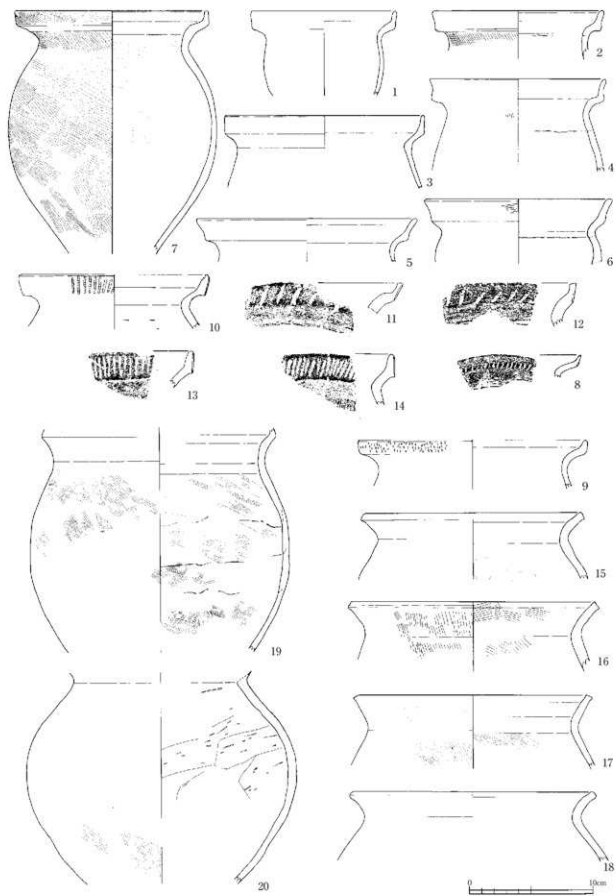
第65図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図(縮尺1/3)



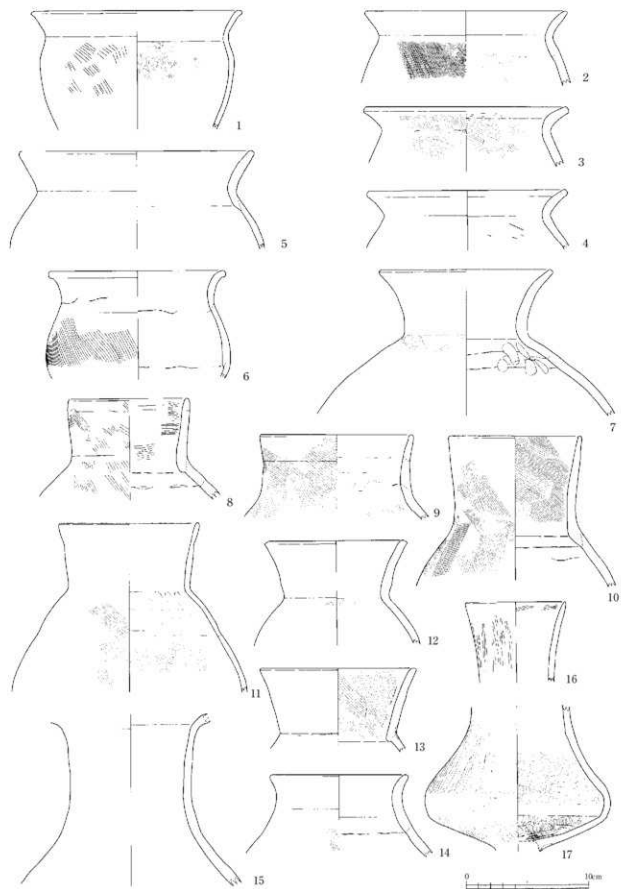
第66図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図(縮尺1/3)



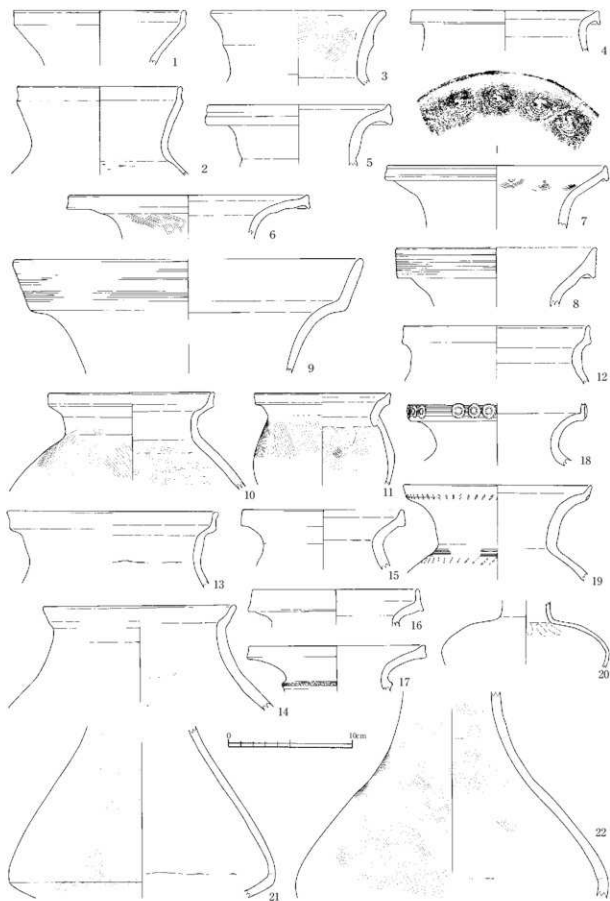
第67図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図(縮尺1/3)



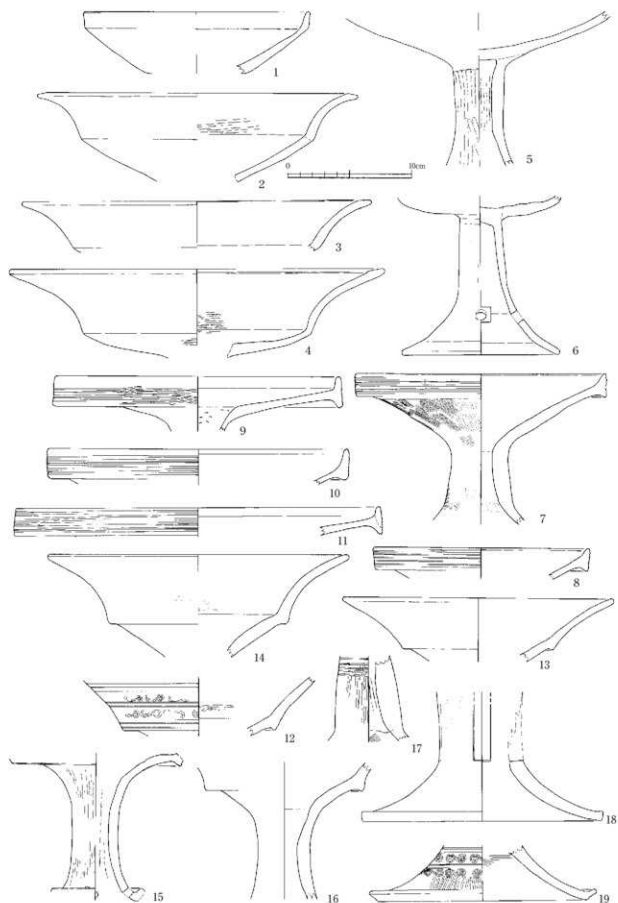
第68図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/3)



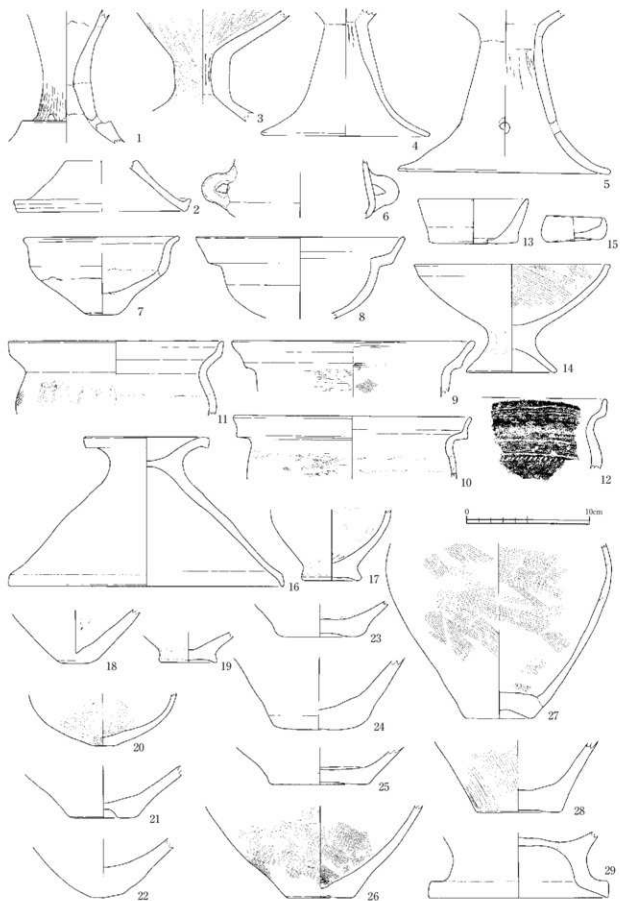
第69図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図(縮尺1/3)



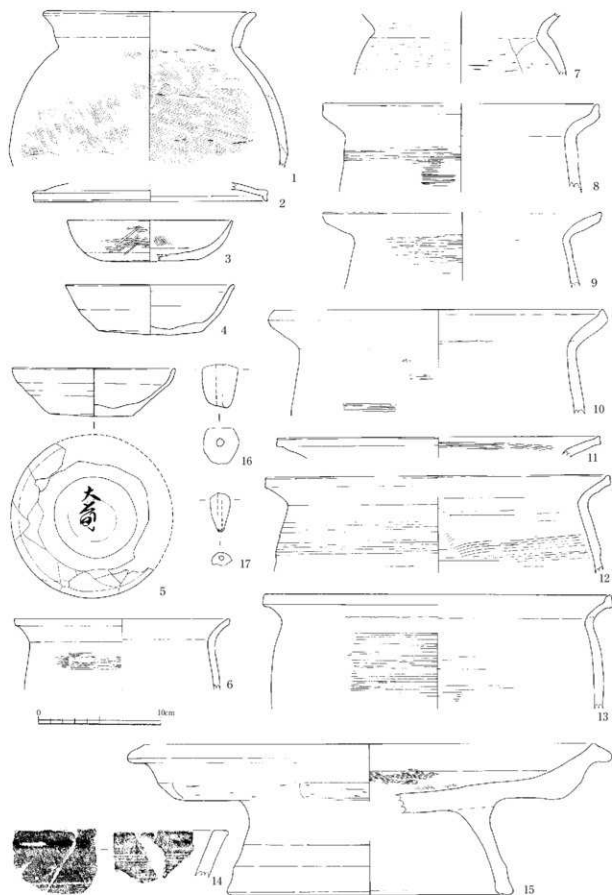
第70図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/3)



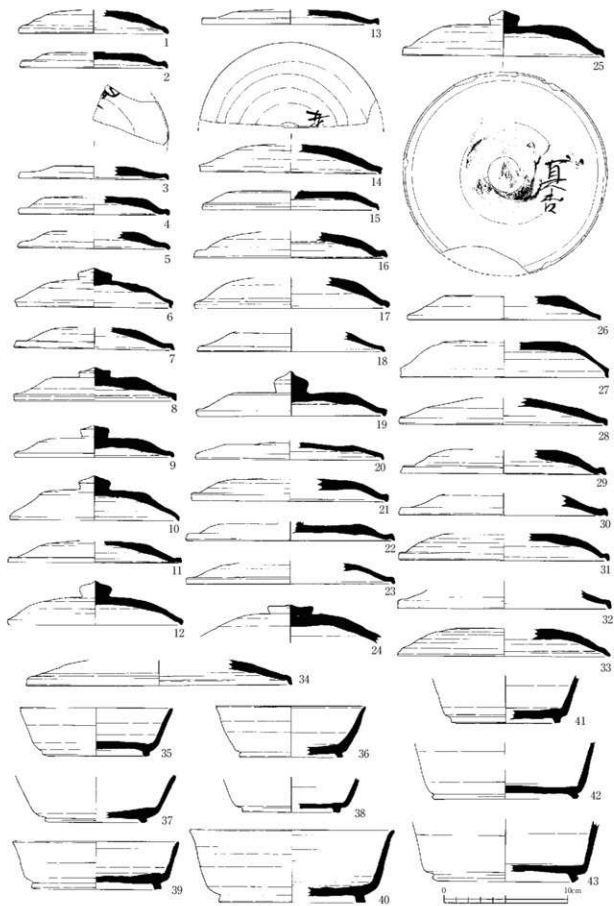
第71図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図(縮尺1/3)



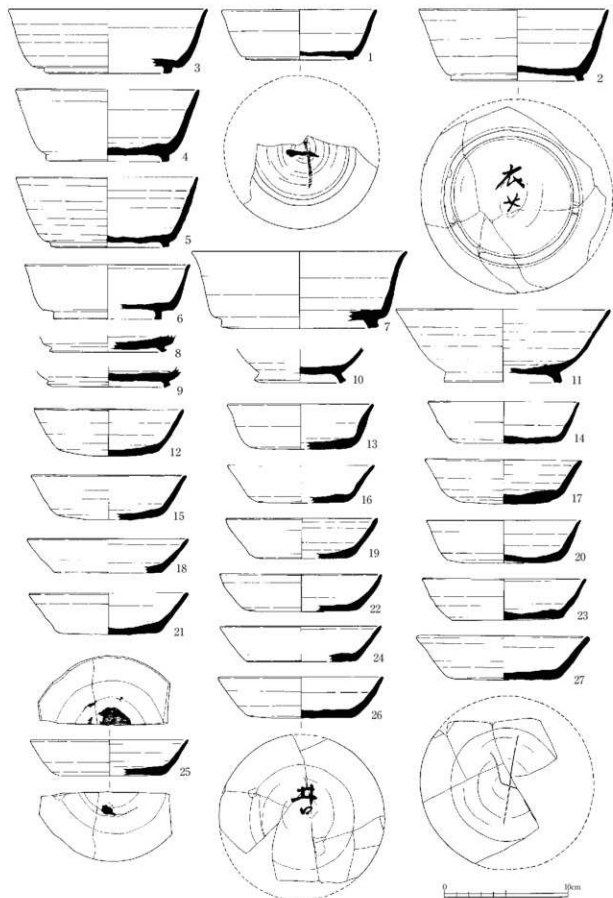
第72図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図(縮尺1/3)



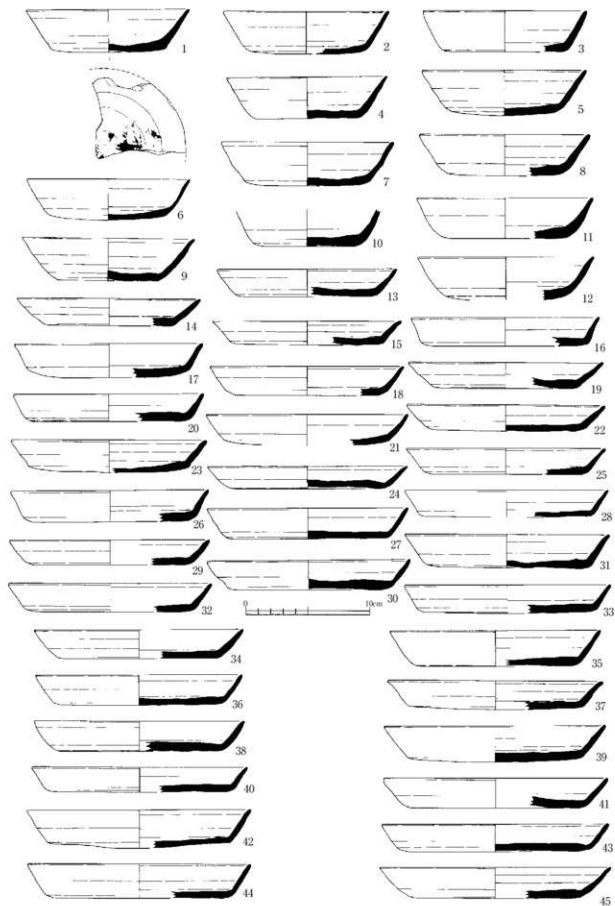
第73図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図(縮尺1/3)



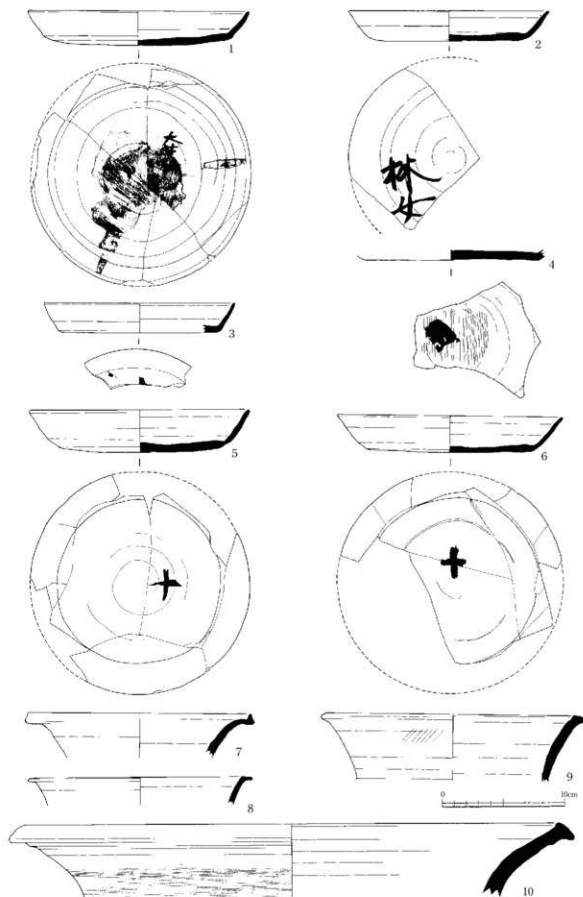
第74図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/3)



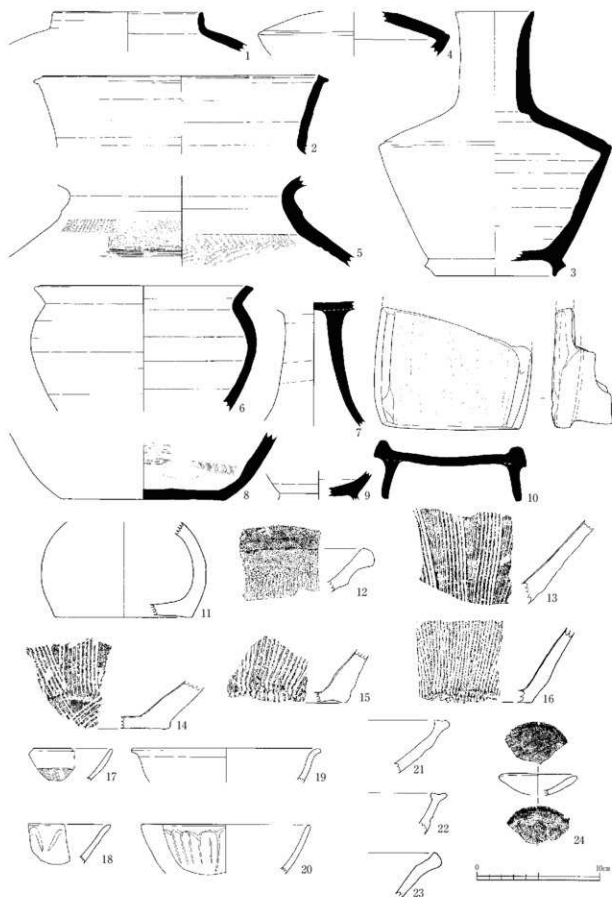
第75図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/3)



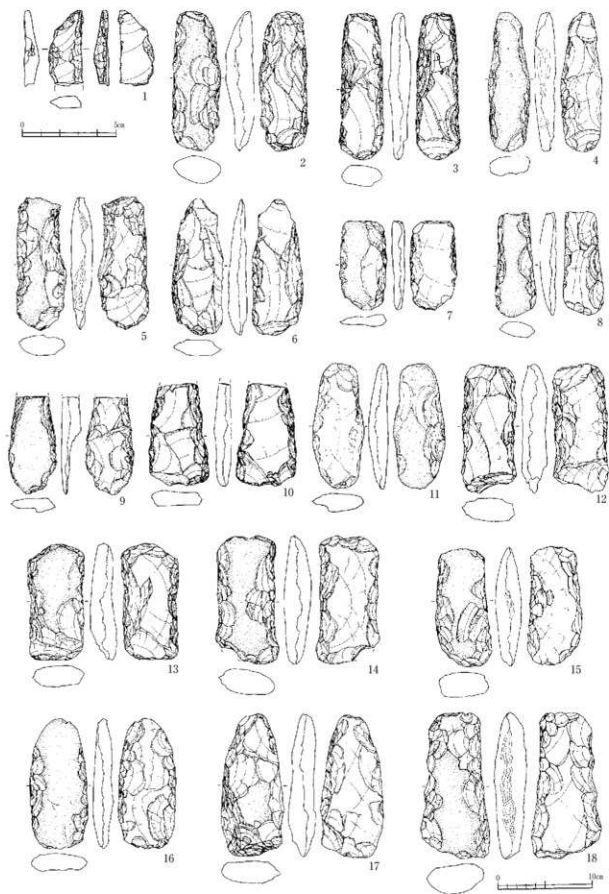
第76図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/3)



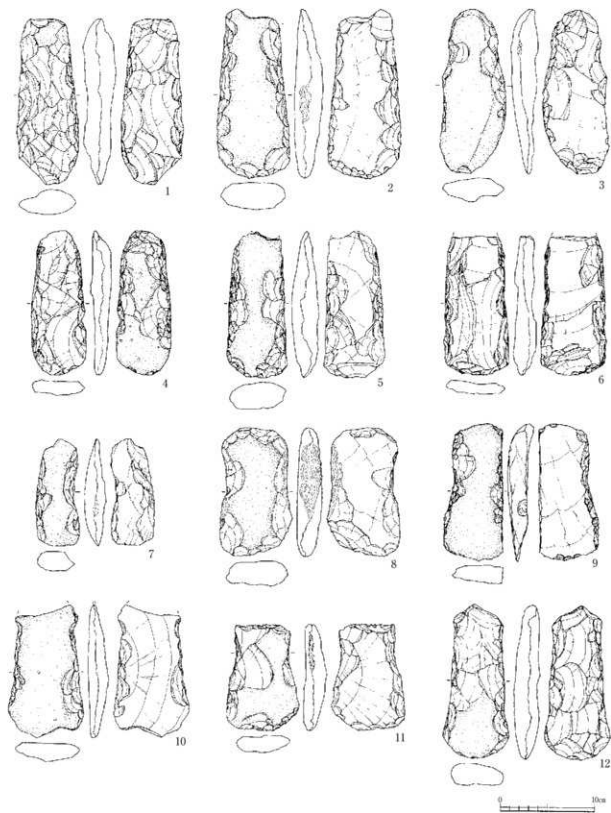
第77図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/3)



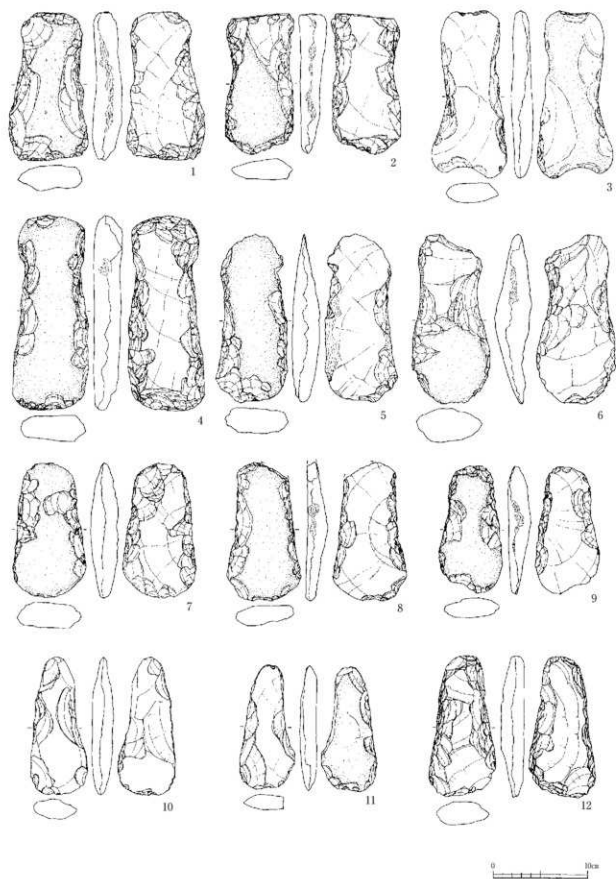
第78図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図(縮尺1/3)



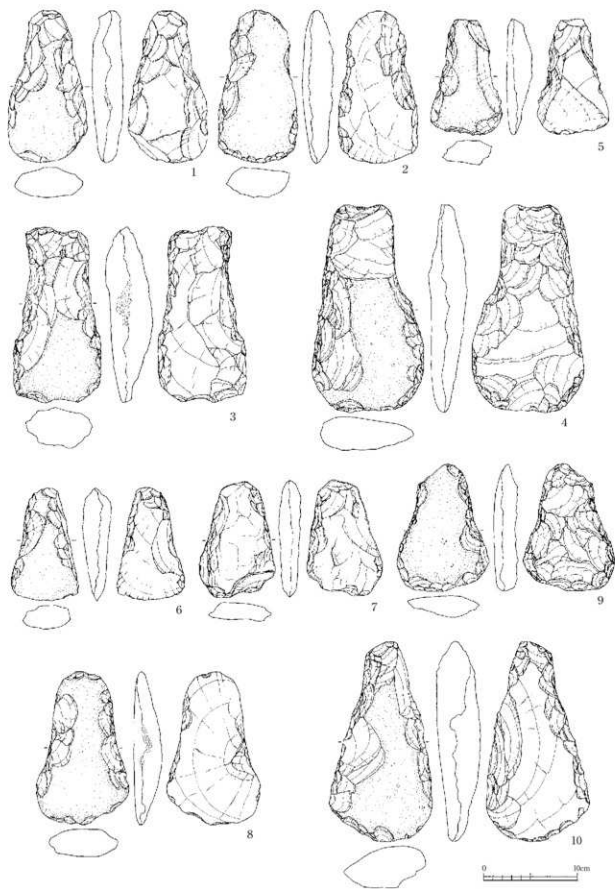
第79図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (1:縮尺1/2, 2~17:縮尺1/4)



第80図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/4)



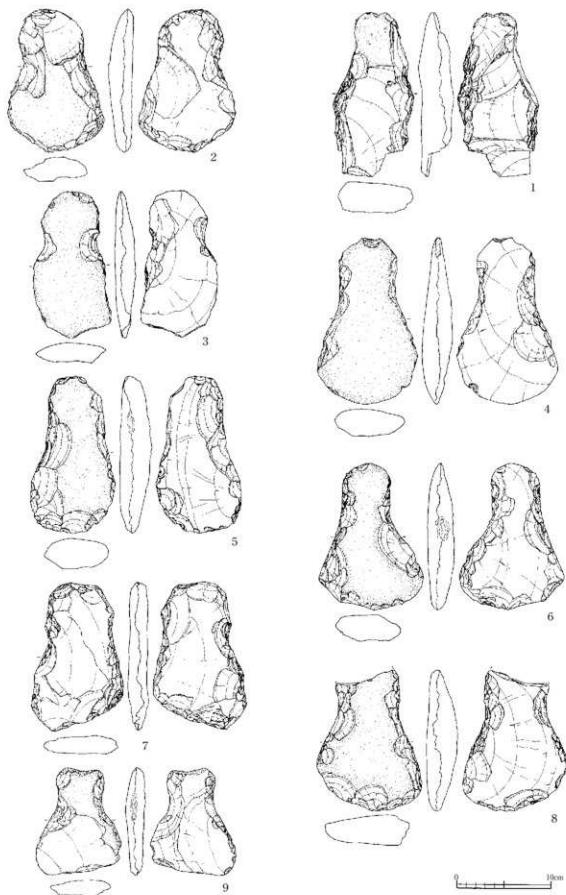
第81図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図(縮尺1/4)



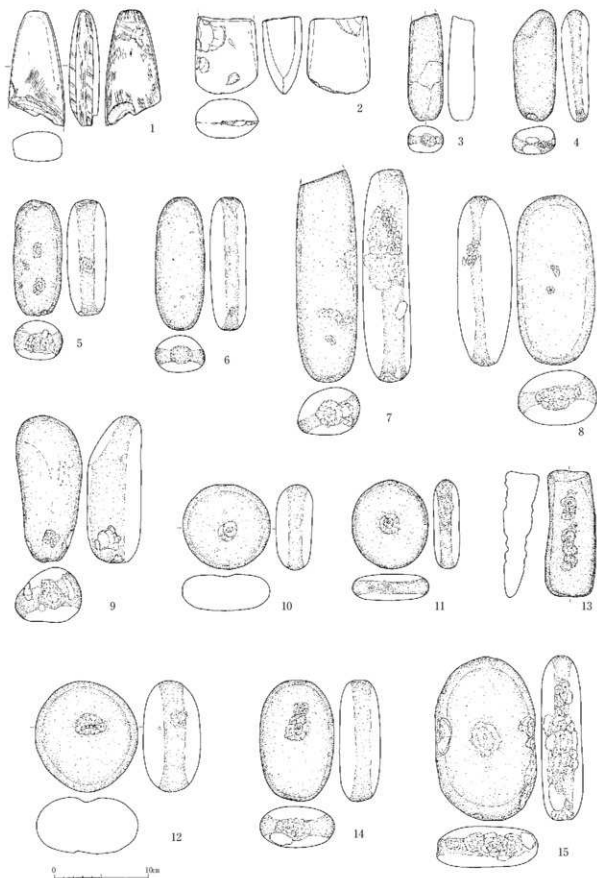
第82図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図(縮尺1/4)



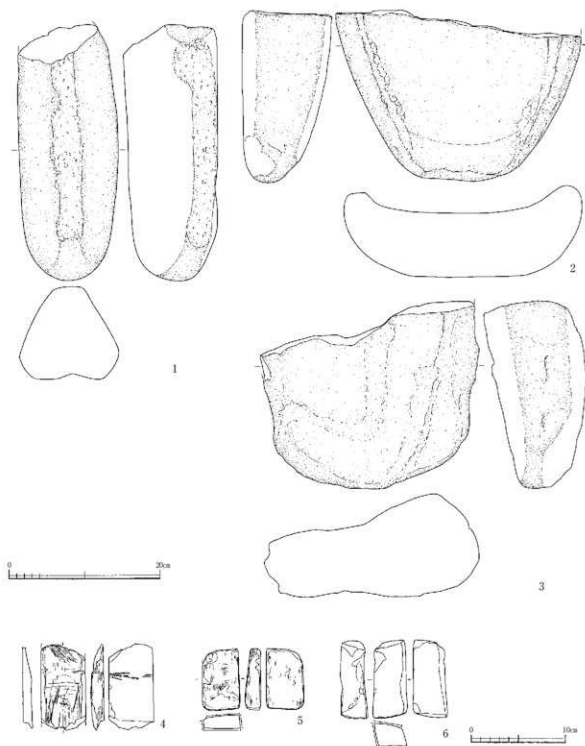
第83図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図(縮尺1/4)



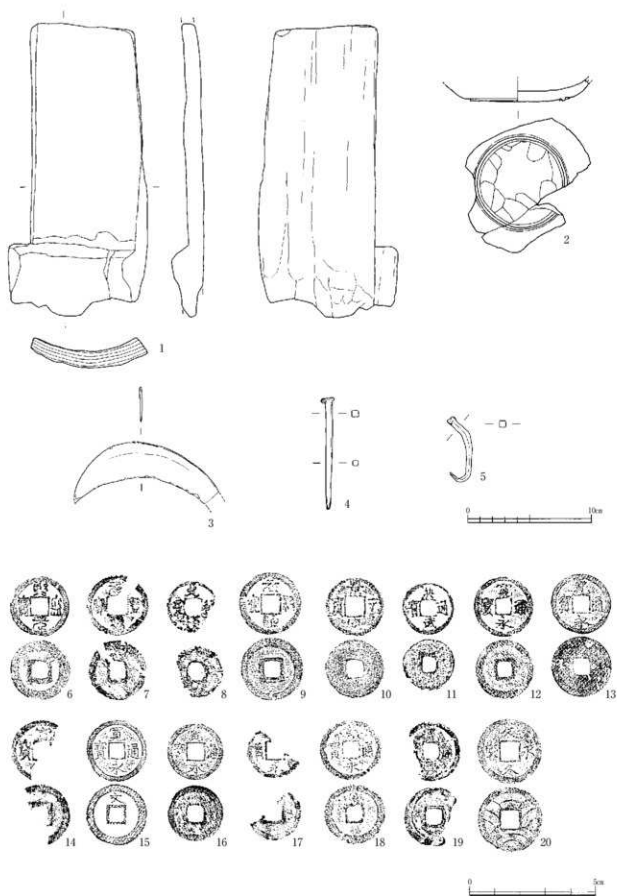
第84図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図(縮尺1/4)



第85図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図(縮尺1/4)



第86図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (1～3：縮尺1/5, 4～6：縮尺1/4)



第87図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図・拓影（1～5：縮尺1/3、6～20：縮尺2/3）

第2節 遺構外出土遺物

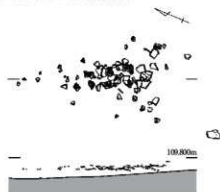
志田神田遺跡では、押型文土器が集中的に出土した地点があり、その出土状況を図示した（第88図）。1区M7グリッドでは、遺構確認面で集中して出土しており、このうちの一部を図化することができた（第89図1・2）。

7区では遺構確認面に押型文土器の断面が目視できたことから、その周囲を掘り下げて検出している。7区のもは、図化することができなかった。1区・7区とも、集中地点の下層に遺構は確認できず、また器壁が磨耗している小片が多いことから、流水作用による二次堆積と考えられる。

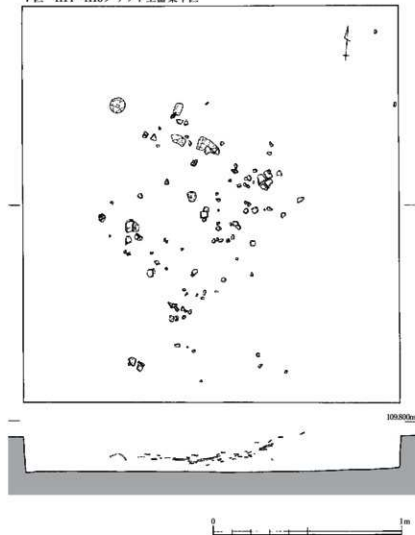
第2節では、このほかに、遺構外で出土した土器類149点、石器111点、石製品7点、木製品1点、金属製品2点、銅銭38点を図示した（第89図～第104図）。

様々な時期の様々な遺物を網羅するように、抽出して掲載している。

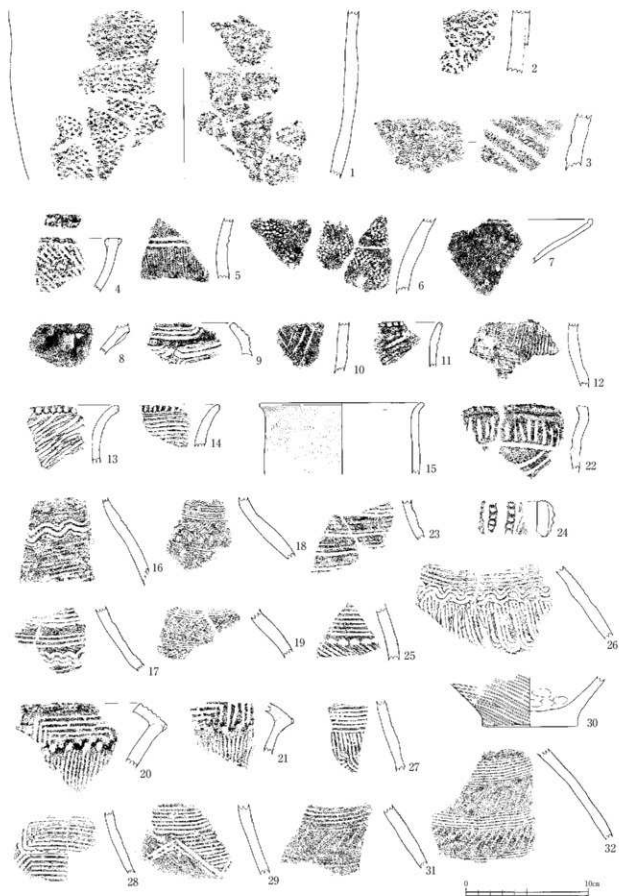
1区 M7グリッド土器集中区



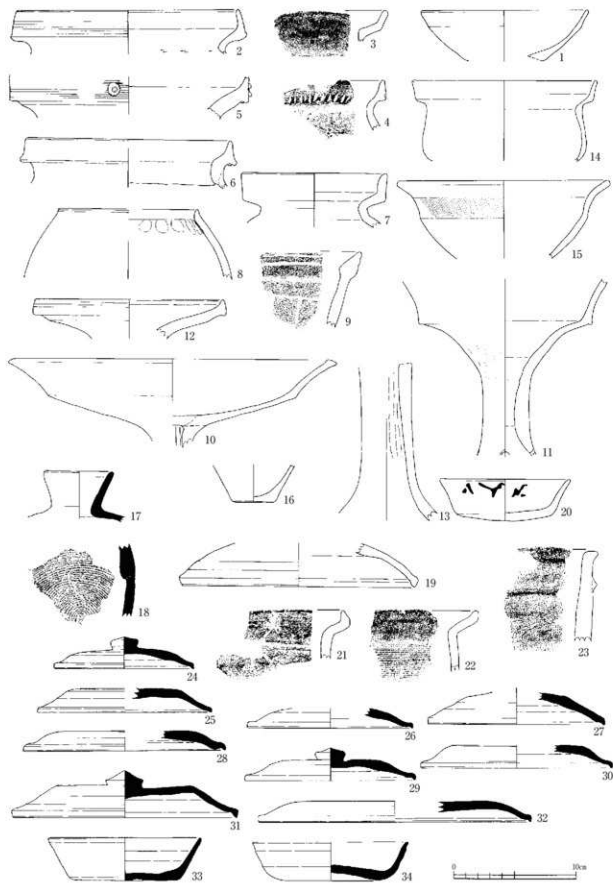
7区 H14・H15グリッド土器集中区



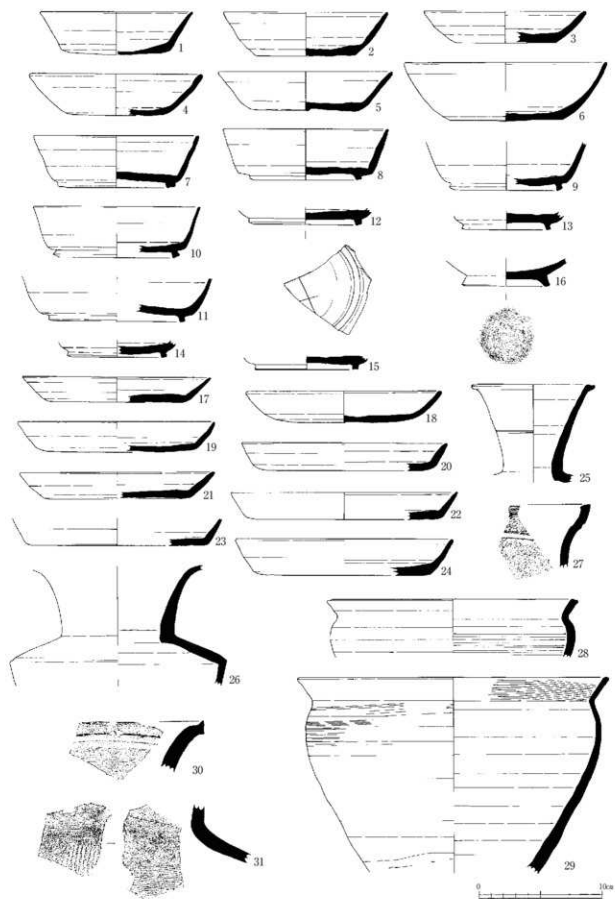
第88図 縄文土器出土状況実測図（縮尺1/20）



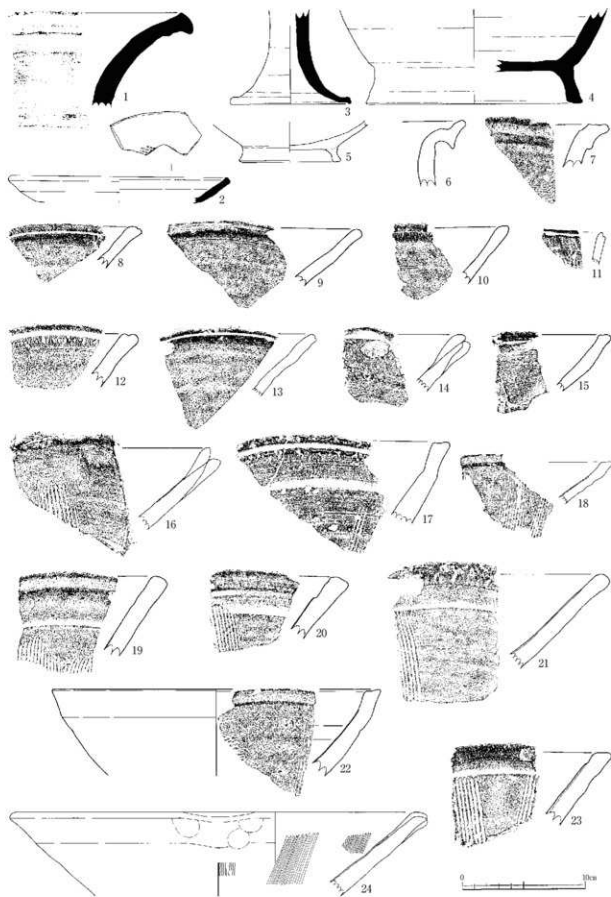
第89図 遺構外出土遺物実測図 (縮尺1/3)



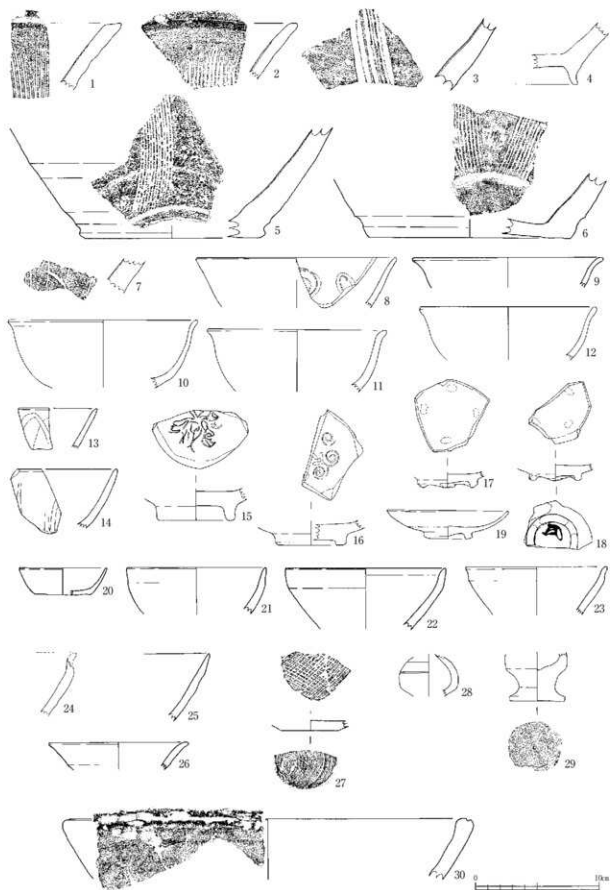
第90圖 遺構外出土遺物実測図 (縮尺1/3)



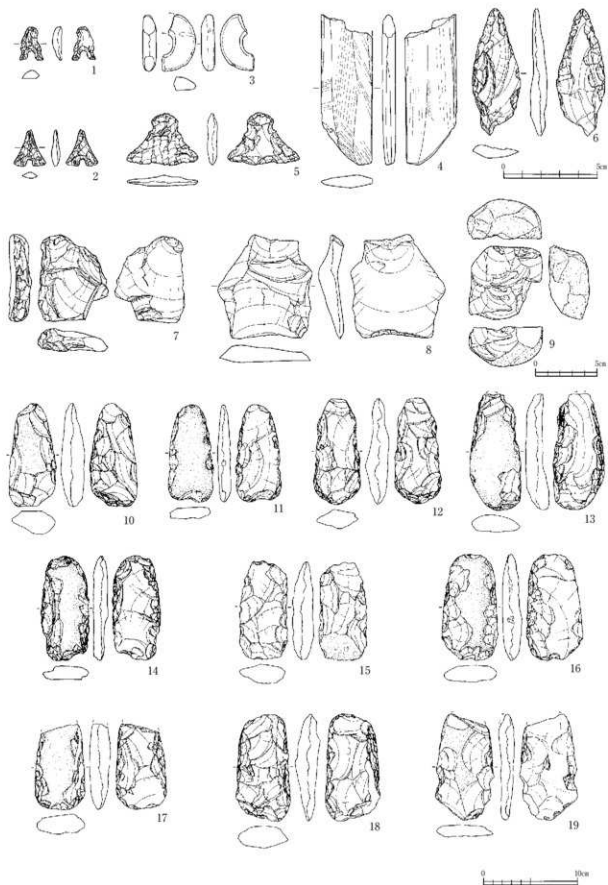
第91図 遺構外出土遺物実測図 (縮尺1/3)



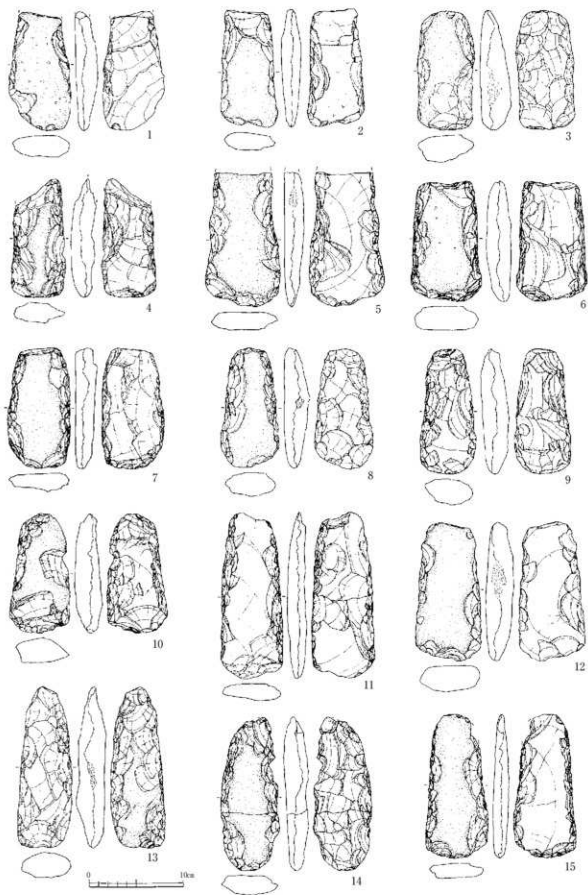
第92図 遺構外出土遺物実測図（縮尺1/3）



第93図 遺構外出土遺物実測図 (縮尺1/3)

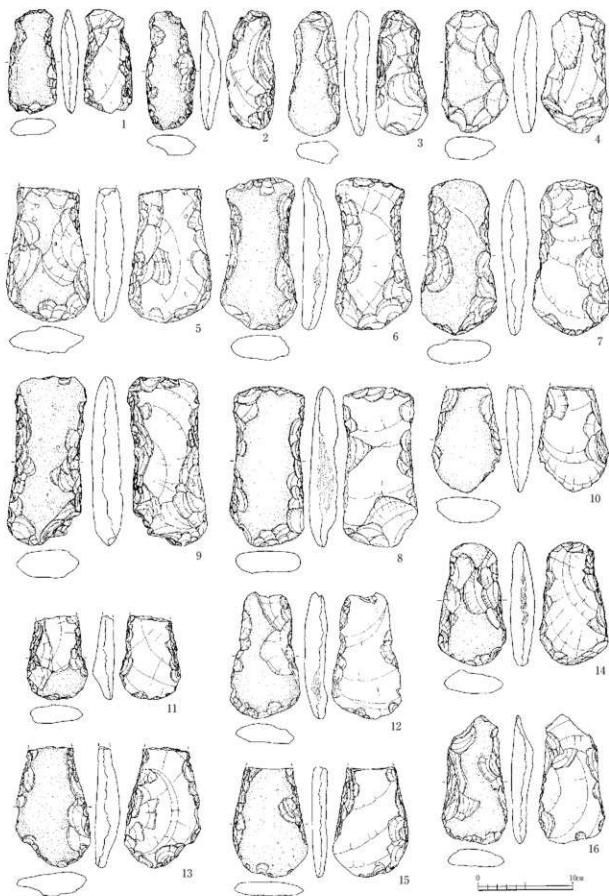


第94図 遺構外出土遺物実測図(1~6:縮尺1/2, 7~9:縮尺1/3, 10~19:縮尺1/4)

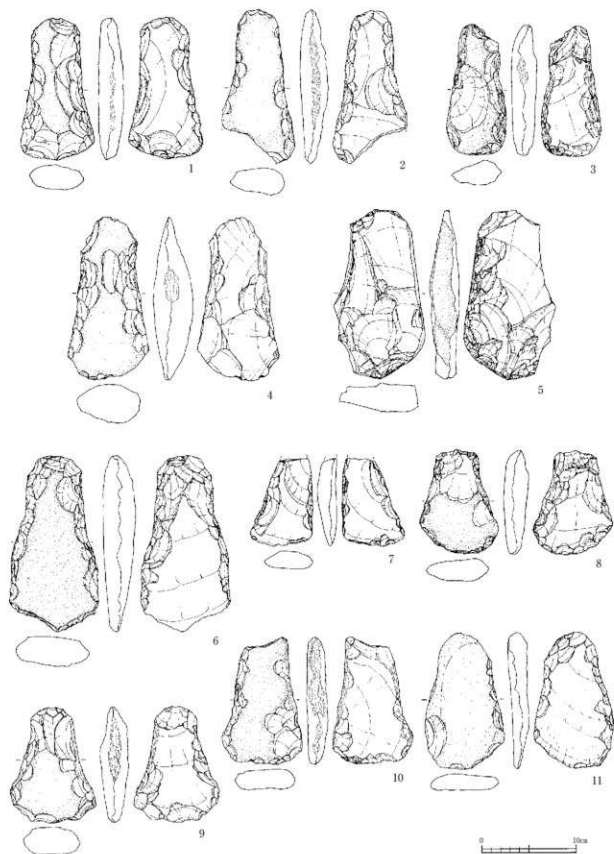


第95図 遺構外出土遺物実測図（縮尺1/4）

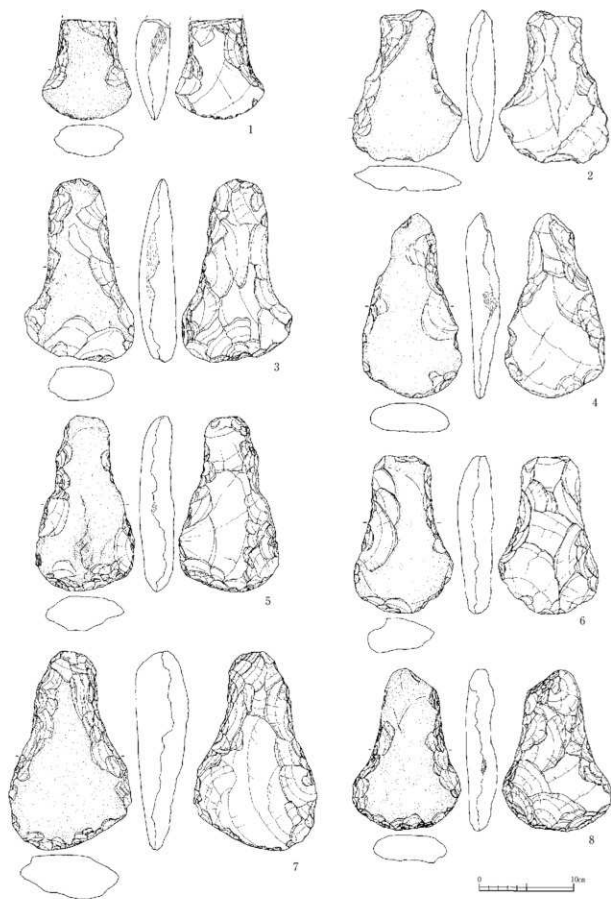
第2節 遺構外出土遺物



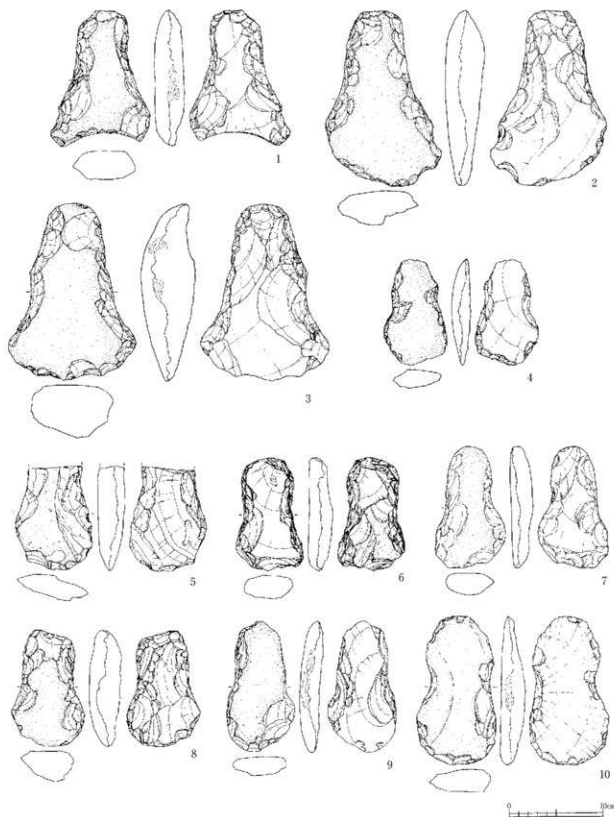
第96図 遺構外出土遺物実測図(縮尺1/4)



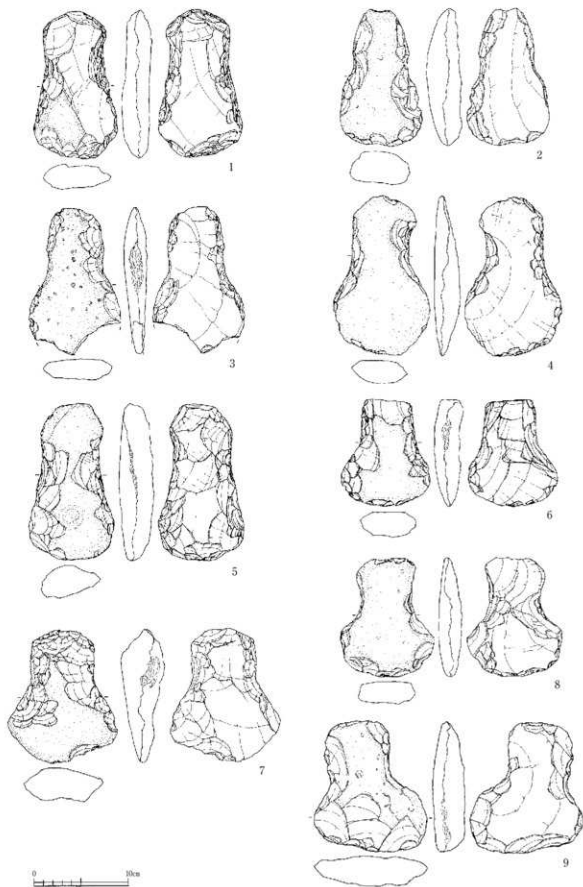
第97図 遺構外出土遺物実測図(縮尺1/4)



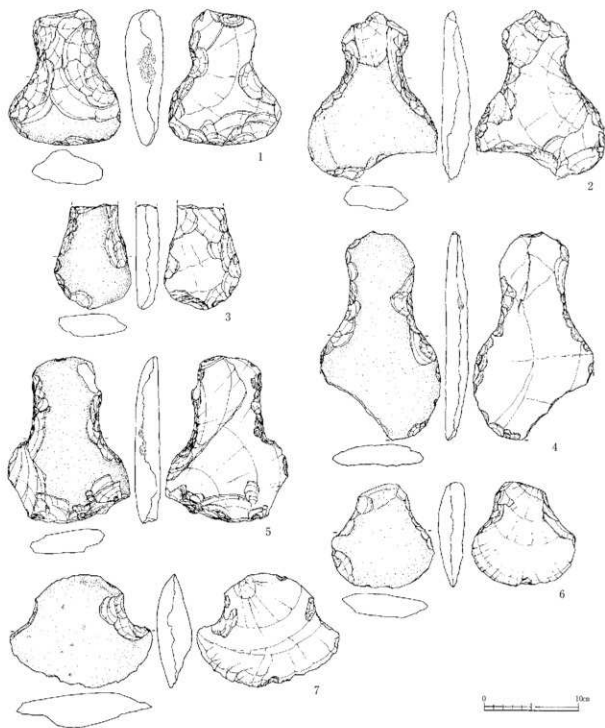
第98図 遺構外出土遺物実測図(縮尺1/4)



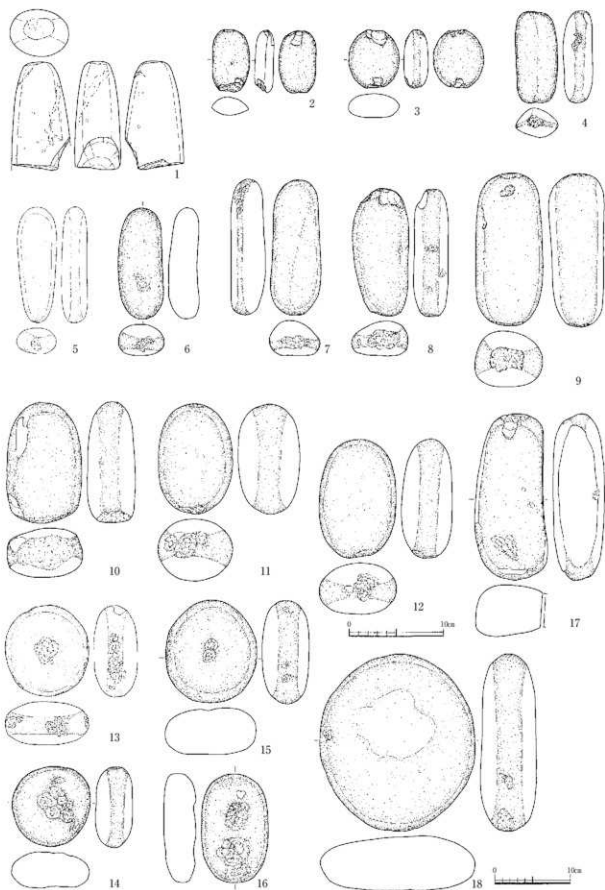
第99図 遺構外出土遺物実測図(縮尺1/4)



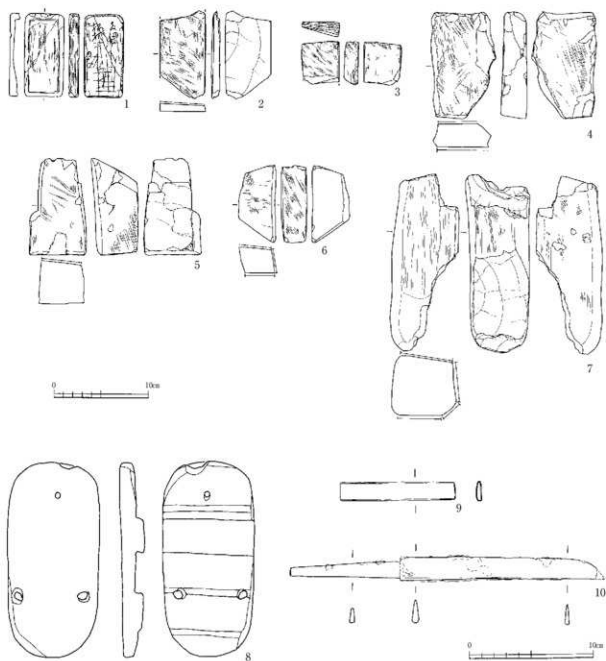
第100図 遺構外出土遺物実測図 (縮尺1/4)



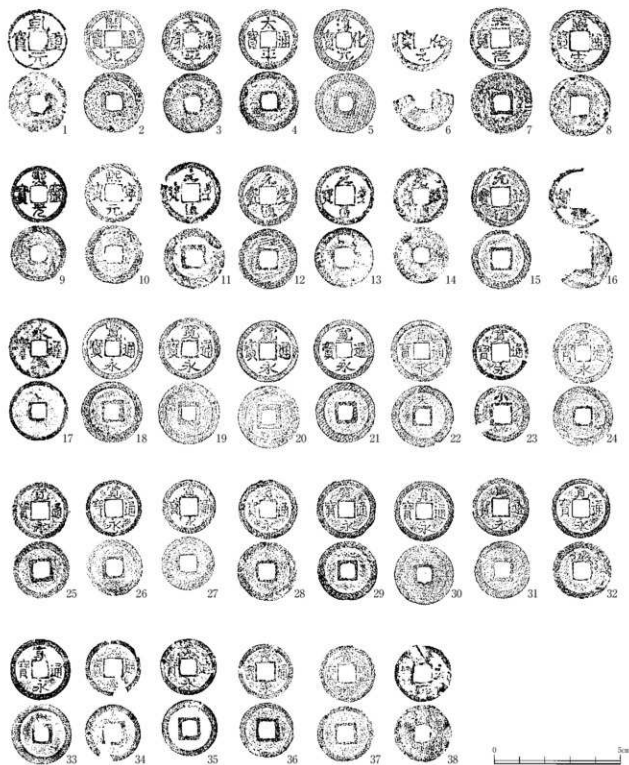
第101図 遺構外出土遺物実測図（縮尺1/4）



第102圖 遺構外出土遺物実測図 (1~17: 縮尺1/4, 18: 縮尺1/5)



第103図 遺構外出土遺物実測図 (1~7:縮尺1/4, 8~10:縮尺1/3)



第104図 遺構外出土遺物拓影（縮尺2/3）

第4章 遺構と遺物

第2表 土器・土製品観察表

発見 番号	図 番号	遺構・層位	器種・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	現在所在 土層番号	調査・出土 状況	調査・出土 場所	色調	内面	外面	胎土	備考	
23001	7	K19	SR04・SPW154	陶土上部 表	6		12.0	横ナテ・陶四角 文飾	横ナテ	10YR5/2 灰黄色	7.0YR6/6 褐色	10m2層の右表・ ナテ・砂粒・赤色粘土を 含む	赤		
23002	7	J19	SR04・SPW154	陶土上部 表				横ナテ・1寸半	横ナテ	10YR8/4 灰黄色	10YR8/4 灰黄色	10m17の白・赤色粘土を 含む	赤	穿入	
23003	7	I19	SR04・SPW152	陶土上部 表	3.4		12.0	横ナテ	ハナテ ナテ	7.5YR8/4 褐色	7.5YR8/4 褐色	10m19の灰・黒色 粘土を含む	赤		
23004	7	J19	SR05・SPW33	陶土上部 表				横ナテ	横ナテ	10YR7/3 灰黄色	10YR7/3 灰黄色	10m19の灰・黒色粘土 を含む	赤		
23005	7	J30	SR06・SPW60	陶土上部 表	4.2		2.0	平焼 厚焼	平焼 厚焼	10YR7/2 灰黄色	10YR7/2 灰黄色	10m17の白・赤色粘土を 含む	赤	灰層穿入	
23006	7	H30	SR06・SPW90	陶土上部 表				ハナテ・横ナテ	横ナテ	10YR8/4 灰黄色	10YR8/4 灰黄色	10m19の灰・赤色粘土を 含む	赤		
23007	7	H30	SR06・SPW90	陶土上部 表	3.6		1.2	ハナテ・横ナテ	横ナテ	10YR7/3 灰黄色	10YR8/2 灰黄色	10m19の白・赤色粘土を 含む	赤		
23009	7	I15	SR13・SPW174	陶器部 表	12.2		2.0	同転ナテ	同転ナテ	5Y5-1 灰黄色	5Y5-1 灰黄色	10m17の灰・右表を含む	赤		
23010	10	G17	SR14・SPW109	陶器部 表	13.4			同転ナテ	同転ナテ	2.5Y5-2 灰黄色	2.5Y5-2 灰黄色	1-2m6の白・赤色粘土を 含む	赤		
23011	10	G19	SR17・SPW120	陶器部 表	15.2		1.0	同転ナテ	同転ナテ	5Y5-1 灰黄色	5Y5-1 灰黄色	10m17の白・赤色粘土を 含む	赤		
23012	7	H30	SR18・SPW174	陶器部 表	20.8		6.0	横ナテ	横ナテ	7.5YR7/3 灰黄色	7.5YR7/3 灰黄色	10m19の白・赤色粘土を 含む	赤		
23013	13	Q10	SR22・SPW311	陶器部 表	10.0		0.8	同転ナテ	同転ナテ	5Y5-1 灰黄色	5Y5-1 灰黄色	10m17の白・赤色粘土を 含む	赤		
23014	13	Q10	SR27	土師器 表				ナテ	ナテ	7.5YR7/4 灰黄色	7.5YR7/4 灰黄色	10m17の白・赤色粘土を 含む	赤		
23015	14	Q18	SR27	土師器 表				ナテ	ナテ	7.5YR7/4 灰黄色	7.5YR7/4 灰黄色	10m17の白・赤色粘土を 含む	赤		
23016	14	Q18	SR27	土師器 表				ナテ	ナテ	7.5YR7/4 灰黄色	7.5YR7/4 灰黄色	10m17の白・赤色粘土を 含む	赤		
23017	14	Q18	SR27	土師器 表				ナテ	ナテ	7.5YR7/4 灰黄色	7.5YR7/4 灰黄色	10m17の白・赤色粘土を 含む	赤		
23018	14	Q18	SR25・SR38	土師器 表				平焼	コテコテ	10YR7/2 灰黄色	5YR7/2 灰黄色	0.5-1mの白・赤・黒色粘土 を含む	赤	1層穿入に成 績	
23019	14	Q18	SR25・SR38	土師器 表				平焼	コテコテ	10YR8/3 灰黄色	10YR7/3 灰黄色	0.5-1mの白・赤・黒色粘土 を含む	赤		
23020	14	Q18	SR33	土師器 表				ナテ	ナテ	7.5YR7/3 灰黄色	7.5YR7/3 灰黄色	10m17の白・赤色粘土を 含む	赤		
23021	3	Q18	SR33	土師器 表				ナテ	ナテ	7.5YR7/3 灰黄色	7.5YR7/3 灰黄色	0.5-1mの白・赤・黒色粘土 を含む	赤	最終的に灰ま つて土質	
23022	14	P19	SR37	土師器 表				コテコテ	コテコテ	10YR7/2 灰黄色	10YR7/2 灰黄色	0.5-1mの白・赤・黒色粘土 を含む	赤	層10m6・11 層10m7に成 績	
23023	14	Q19	SR37	土師器 表				同転・ハナテ・式	コテコテ	10YR8/3 灰黄色	10YR7/4 灰黄色	0.5-1mの白・赤・黒色粘土 を含む	赤	内面に灰質	
23024	12	L25	SK1305	赤土上部 表	12.0		1.0	内焼200・横ナテ	横ナテ	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	1-2m30程度の砂粒を含む	赤	穿入	
43001	1	MR	SK0102	赤土上部 表	16.9	3.1	5.3	12.0	横ナテ・ナテ・横 陶四角・ハナ テ	横ナテ・横 陶四角・ナ テ	10YR8/4 灰黄色	10YR7/2 灰黄色	0.5-2mの灰・右表・ ナテ・赤色粘土を含む	赤	外側灰土付着
43002	1	MR	SK0112	赤土上部 表	16.9		7.0		横ナテ・陶四角 陶四角・ハ ナテ	横ナテ・陶 四角・ハナ テ	2.5Y7/4 灰黄色	10YR8/4 灰黄色	10m17の灰・右表・ 赤色粘土を含む	赤	外側灰土・内 側ナテ付着
43004	9	I2	SK0901	赤土上部 表					横土・赤焼	横ナテ	10YR7/3 灰黄色	10YR7/3 灰黄色	2m6のナテ・厚赤色 を含む	赤	
43005	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43006	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43007	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43008	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43009	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43010	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43011	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43012	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43013	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43014	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43015	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43016	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43017	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43018	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43019	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43020	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43021	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43022	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43023	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43024	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43025	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43026	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43027	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43028	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43029	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43030	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43031	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43032	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43033	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43034	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43035	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43036	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43037	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43038	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43039	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43040	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43041	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43042	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43043	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43044	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43045	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43046	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43047	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43048	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43049	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43050	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入
43051	9	I2	SK0901	横土上部 表					赤土・赤焼	横焼	2.5YR7/2 灰黄色	5YR8/2 灰黄色	2m6の白・赤・黒色粘土 を含む	赤	穿入

製作用番	機	デパート	通称・種別	部材・部材	口径φ(mm)	機坪φ(mm)	容積φ(mm)	積存容積φ(mm)	調音		協奏・協奏・協奏		色調		脚上	構成	備考
									内面	外面	内面	外面	内面	外面			
40002	9	J2	SP0022	高生上部 脚上		176		1.1	横ナテ	横ナテ	23572 23572	23572 23572	23572 23572	23572 23572	1mm程度の白粉コート等を含む	高	穿孔
40003	2	G18	SP0209	高生上部 脚上					横ナテ直線状 流紋状	横ナテ	103973 103973	103973 103973	103973 103973	1mm程度の白粉コート等を含む	高		
40004	7	H9	SP01002	高生上部 脚上					横ナテ	横ナテ	103973 103973	103973 103973	103973 103973	1mm程度の白粉コート等を含む	高		
40005	7	H9	SP0304	高生上部 脚上	120		1.6		横ナテ	横ナテ	23571 23571	23571 23571	23571 23571	1mm程度の白粉コート等を含む	高		
40006	10	G18	SP01014	高生上部 脚上	137		20		横ナテハ ツリ文字	横ナテ	5371 5371	5371 5371	5371 5371	0.5-1mmの白粉コート等を含む	中	中心	
40009	12	K21	SP1200	高生上部 脚上	154		8.3		横ナテ直線状 文付	横ナテ	103934 103934	103934 103934	103934 103934	1mm程度の白粉コート等を含む	高		
40010	12	K21	SP1200	高生上部 脚上					直線状	直線状	103934 103934	103934 103934	103934 103934	2mm程度の白粉コート等を含む	高		
40019	9	B5	SD01	横ナテ 脚上					横ナテ直線状 文付	直線状	53931 53931	53931 53931	53931 53931	1mm程度の白粉コート等を含む	高		
40021	9	J4	SD01	横ナテ 脚上					横ナテ直線状 文付	直線状	23596 23596	23596 23596	23596 23596	1mm程度の白粉コート等を含む	高	表面に調整剤(調整剤)	
40003	1	M7	SD01	横ナテ 脚上					横ナテ直線状 文付	直線状	23596 23596	23596 23596	23596 23596	1mm程度の白粉コート等を含む	高	中心	
40004	9	B6	SD01	横ナテ 脚上					横ナテ直線状 文付	直線状	53962 53962	53962 53962	53962 53962	2mm程度の白粉コート等を含む	中	中心	
40005	9	L2	SD01	横ナテ 脚上					横ナテ直線状 文付	直線状	53972 53972	53972 53972	53972 53972	2mm程度の白粉コート等を含む	高		
40006	9	L2	SD01	横ナテ 脚上					横ナテ直線状 文付	直線状	53962 53962	53962 53962	53962 53962	2mm程度の白粉コート等を含む	高		
40007	3	M15	SD01	横ナテ 脚上					直線状	直線状	23596 23596	23596 23596	23596 23596	1mm程度の白粉コート等を含む	高	厚さ1.0mm以上 長さ1.2mm	
40008	4	N20	SD01	高生上部 脚上					ナテ	ナテ	23597 23597	23597 23597	23597 23597	1-2mmの長石・石英・ チャート・珪酸を含む	高		
40009	9	K07	SD01	高生上部 脚上					横ナテ	横ナテ	23596 23596	23596 23596	23596 23596	1-2mm程度の白粉コート等を含む	高		
40010	2	N16	SD01	高生上部 脚上					ナテ	ナテ	103934 103934	103934 103934	103934 103934	1-2mmの長石・石英・ チャートを含む	高		
40011	9	J5	SD01	高生上部 脚上					ナテ	ナテ	23573 23573	23573 23573	23573 23573	1-2mmの長石・石英・ チャートを含む	高		
40012	9	J4	SD01	高生上部 脚上					横ナテ	横ナテ	23596 23596	23596 23596	23596 23596	1-2mmの長石・石英・ チャートを含む	高		
40013	2	O17	SD01	高生上部 脚上					直線状	直線状	103974 103974	103974 103974	103974 103974	1-2mmの白粉コート等を含む	高		
40014	3	M16	SD01	高生上部 脚上					直線状	直線状	103934 103934	103934 103934	103934 103934	1mm程度の白粉コート等を含む	高		
40013	9	H4	SD01	高生上部 脚上					直線状	直線状	23541 23541	23541 23541	23541 23541	1-2mmの長石・石英・ チャートを含む	高		
40016	9	H2	SD01	高生上部 脚上					直線状	直線状	23572 23572	23572 23572	23572 23572	1-2mmの長石・石英・ チャートを含む	高		
40017	4	O20	SD01	高生上部 脚上					直線状	直線状	23596 23596	23596 23596	23596 23596	1-2mmの長石・石英・ チャートを含む	高		
40018	9	L2	SD01	高生上部 脚上					直線状	直線状	103964 103964	103964 103964	103964 103964	1mm程度の白粉コート等を含む	高		
40019	9	J4	SD01	高生上部 脚上					横ナテ	横ナテ	103973 103973	103973 103973	103973 103973	1-2mmの長石・石英・ チャートを含む	高		
40020	9	H3	SD01	高生上部 脚上					直線状	直線状	23596 23596	23596 23596	23596 23596	1-2mmの長石・石英・ チャートを含む	高		
40021	9	H3	SD01	高生上部 脚上	165		09		ナテ	ナテ	23597 23597	23597 23597	23597 23597	1mm程度の白粉コート等を含む	高	外側スリ付	
40022	9	H4	SD01	高生上部 脚上					横ナテ	横ナテ	5372 5372	5372 5372	5372 5372	1mm程度の白粉コート等を含む	高		
40023	9	H2	SD01	高生上部 脚上	17.8				横ナテ	横ナテ	23573 23573	23573 23573	23573 23573	1mm程度の白粉コート等を含む	高	外側スリ付	
40024	9	H2	SD01	高生上部 脚上	12.8	25	17.7	6.1	横ナテ	横ナテ	23596 23596	23596 23596	23596 23596	1mm程度の白粉コート等を含む	高	外側スリ付	
40025	9	L2	SD01	高生上部 脚上	19.7		21		横ナテ	横ナテ	103964 103964	103964 103964	103964 103964	0.5-2mmの長石・石英・ チャートを含む	高	外側スリ付	
40026	7	H3	SD01	高生上部 脚上	15.1		23		横ナテ	横ナテ	103972 103972	103972 103972	103972 103972	2mm程度の白粉コート等を含む	高	内面文字付	
40027	9	K3-L2	SD01	高生上部 脚上	17.6		53		横ナテ	横ナテ	103974 103974	103974 103974	103974 103974	1mm程度の白粉コート等を含む	高	外側スリ付	
41001	9	H2-H9	SD01	高生上部 脚上	17.8		3.8		横ナテ	横ナテ	103934 103934	103934 103934	103934 103934	2mm程度の白粉コート等を含む	高		
41002	3	N17	SD01	高生上部 脚上	25.8		10		横ナテ	横ナテ	23596 23596	23596 23596	23596 23596	1mm程度の白粉コート等を含む	高		
41003	9	H3-H4	SD01	高生上部 脚上	25.0		17		横ナテ	横ナテ	103974 103974	103974 103974	103974 103974	1mm程度の白粉コート等を含む	高	外側スリ付	
41004	1	M7-H8	SD01	高生上部 脚上	14.4		32		横ナテ	横ナテ	53966 53966	53966 53966	53966 53966	0.5-1mmの長石・石英・ チャートを含む	高	外側スリ付	
41005	9	J4-L6	SD01	高生上部 脚上	18.0		10		横ナテ	横ナテ	23572 23572	23572 23572	23572 23572	0.5-6mmの長石・石英・ チャートを含む	高	外側スリ付	
41006	9	H2	SD01	高生上部 脚上					直線状	直線状	103952 103952	103952 103952	103952 103952	1-2mmの長石・石英を含む	高	外側スリ付	
41007	3	M12	SD01	高生上部 脚上					横ナテ	横ナテ	103972 103972	103972 103972	103972 103972	1-2mm程度の白粉コート等を含む	高		
41008	9	J3	SD01	高生上部 脚上	16.4		8.5		横ナテ	横ナテ	23573 23573	23573 23573	23573 23573	1mm程度の白粉コート等を含む	高		
41009	9	L5	SD01	高生上部 脚上	140		1.9		ナテ	ナテ	103934 103934	103934 103934	103934 103934	1-2mmの長石・石英・ チャートを含む	高		
41010	13	H3-H7	SD01	高生上部 脚上	15.4		40		横ナテ	横ナテ	23574 23574	23574 23574	23574 23574	0.5-1mmの長石・石英・ チャートを含む	高	外側スリ付	
41011	9	H2-J4-L6	SD01	高生上部 脚上	11.4		1.1		ナテ	ナテ	103972 103972	23596 23596	23596 23596	1-2mmの長石・石英・ チャートを含む	高		

第4章 遺構と遺物

発掘番号	IX	デッド	遺構・部位	部材・部材	口径φ	底径φ	容積	残存率(%)	調査		分析		備考	備考		
									調査	分析	調査	分析				
SI002	9	F-14	SE01.1層・F層	赤生土層 灰層	11.6			6.3	線ナデ	線ナデ ナデ	10YR6/3 10YR6/3	10YR6/3 10YR6/3	0.5-1mmの長石・石英 チャート・黒色粘土を含む	赤	黒	
SI003	9	H2	SE01.1層	赤生土層 灰層					厚層		10YR7/3 10YR7/3	7.5YR7/6 7.5YR7/6	3mm以下の長石・石英 チャート・砂粒・赤土・黒色 粘土を含む	赤	黒	
SI004	9	H-16-7	SE01.1層・F層	赤生土層 灰層		2.9		12.0	ナデ・ハナ	ハナ・ナデ	2.5Y7/3 2.5Y7/3	2.5Y7/2 2.5Y7/2	1-2mmの長石・石英 チャート・砂粒・赤土を含む	赤	黒	
SI005	9	L6	SE01	赤生土層 灰層					ナデ・竹管文	ハナ	2.5Y7/1 2.5Y7/1	2.5Y7/2 2.5Y7/2	1mm以下の黒色粘土を含む	赤	黒	
SI006	9	B-3	SE01.1層・F層・SE000.1層	赤生土層 灰層	31.2			10.8	線ナデ・ハナの ちりまき	線ナデ・ハ ナ	10YR6/3 10YR6/3	10YR6/3 10YR6/3	0.5-1mmの長石・石英・ チャート・赤色粘土を含む	赤	黒	
SI007	9	L6	SE01	赤生土層 灰層	22.0			1.2	ハナ・ナデ・横溝 線文納	ナデ	2.5Y7/1 2.5Y7/1	2.5Y7/4 2.5Y7/4	1-3mmの長石・石英・赤土・ チャート・赤色粘土を含む	赤	黒	
SI008	9	K3	SE01.1層	赤生土層 灰層					線ナデ・横溝 線文納	線ナデ	10YR6/3 10YR6/3	10YR6/3 10YR6/3	1mm程度の白土・黒土・赤土 を含む	赤	黒	
SI009	9	J4	SE01	赤生土層 灰層					直線文・短点文 ハナ	ハナ・ナデ	10YR6/3 10YR6/3	7.5YR7/2 7.5YR7/2	1-2mmの長石・石英・ チャート・砂粒を含む	赤	黒	
SI020	3	M1	SE01.1層	赤生土層 灰層					ナデ・直線文	ナデ	10YR7/2 10YR7/2	10YR7/2 10YR7/2	細粒の白土・赤土・黒色粘土 を含む	赤	黒	
SI001	1	MI	SE01	赤生土層 灰層					ナデ・直線文	ハナ・ナデ	7.5YR7/4 10YR6/3	7.5YR7/4 10YR6/3	1-3mmの長石・石英・赤土・ チャートを含む	赤	黒	
SI002	1	MI	SE01	赤生土層 灰層					横溝線文・短点文・ 短点文	線ナデ・ハ ナ	10YR7/3 10YR7/3	10YR7/3 10YR7/3	2mm以下の長石・石英・ チャート・砂粒・赤土・黒色 粘土を含む	赤	黒	
SI003	3	MI1	SE01	赤生土層 灰層	30.0			1.5	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 10YR6/3	7.5YR6/4 10YR6/3	1-2mmの長石・石英・ チャート・赤色粘土を含む	赤	黒	
SI004	3	MI3	SE01.1層	赤生土層 灰層	2.0			120	ナデ・横溝線文	ナデ	7.5YR6/3 7.5YR6/3	7.5YR6/3 7.5YR6/3	0.5-1mmの長石・石英・ チャート・砂粒を含む	赤	黒	
SI005	9	J5	SE01.1層	赤生土層 灰層		8.8		5.5	ハナ・ナデ	ハナ・ナデ	2.5Y7/4 2.5Y7/4	2.5Y7/4 2.5Y7/4	0.5mm程度の黒土・赤色粘土 を含む	赤	黒	
SI006	9	L7	SE01.1層	赤生土層 灰層	15.0			4.3	線ナデ・ハナ	線ナデ・ハ ナ	10YR6/3 10YR6/3	2.5Y7/4 2.5Y7/4	0.5-1mmの長石・石英・ 黒色粘土を含む	赤	黒	
SI007	9	L8	SE01.1層	赤生土層 灰層	16.4	9.75	12.0	1.5	ナデ・ハナ・ナデ	線ナデ・ハ ナ	2.5Y7/2 2.5Y7/2	2.5Y7/2 2.5Y7/2	0.5-1mmの長石・石英・ チャート・黒色粘土を含む	赤	黒	
SI008	3	MI2	SE01.1層	土層部 灰層	140	9.1	30	2.5	同軸ナデ	同軸ナデ	7.5YR7/4 10YR6/3	7.5YR6/4 10YR6/3	0.5-1.5mmの長石・石英・ チャート・黒色粘土を含む	赤	黒	
SI009	9	K6	SE01.1層	土層部 灰層	140			3.0	ナデ	ナデ	2.5Y7/6 7.5YR6/3	2.5Y7/6 7.5YR6/3	1mm程度の長石・石英・赤土・ 黒色粘土・炭屑を含む	赤	黒	
SI010	1	MI0	SE01.1層・表土	土層部 灰層	12.8			4	ナデ	ハナ	10YR6/3 10YR6/3	10YR6/3 10YR6/3	2mm以下の長石・石英・ チャート・砂粒・黒色粘土 を含む	赤	黒	
SI011	3	MI1-M11	SE01.1層	土層部 灰層	25.3			1.1	同軸ナデ・ナデ	同軸ナデ・ ナデ	10YR7/3 10YR7/3	10YR7/3 10YR7/3	0.5-1mmの長石・石英・ チャート・黒色粘土を含む	赤	黒	
SI012	2	MI2	SE01.1層	灰層部 灰層	12.3	8.1	2.8	1.0	同軸ナデ	同軸ナデ	10YR6/1 10YR6/1	10YR6/1 10YR6/1	0.5-1mmの長石・石英・ チャート・黒色粘土を含む	赤	黒	
SI013	9	H-25	SE01.1層	灰層部 灰層	12.4	8.3	3.4	10.8	同軸ナデ	同軸ナデ	10YR6/1 10YR6/1	10YR6/1 10YR6/1	0.5-1mmの長石・石英・ チャート・黒色粘土を含む	赤	黒	
SI014	7	H1-M16 G17-G19	SE01.1層	灰層部 灰層	13.0	8.5	3.05	2.8	10.5	同軸ナデ・ナデ	同軸ナデ	10YR6/1 10YR6/1	10YR6/1 10YR6/1	0.5-2mmの長石・石英・ チャート・黒色粘土を含む	赤	黒
SI015	3	MI2	SE01.1層	灰層部 灰層	12.9	9.0	3.6	2.5	3.7	同軸ナデ	同軸ナデ	10YR6/1 10YR6/1	10YR6/1 10YR6/1	0.5-1mmの長石・石英・ 黒色粘土を含む	赤	黒
SI016	2	MI2	SE01.1層	灰層部 灰層	13.1	8.8	3.6	1.1	4.1	同軸ナデ	同軸ナデ	10YR6/1 10YR6/1	7.5YR6/1 7.5YR6/1	0.5-1mmの長石・石英・ 黒色粘土を含む	赤	黒
SI017	9	H3-L7	SE01.1層・表土	灰層部 灰層	9.4			5.0	同軸ナデ	同軸ナデ	5YR6/1 5YR6/1	5YR6/1 5YR6/1	0.5-1mmの白粘土・ チャート・赤土を含む	赤	黒	
SI018	9	H10	SE01.1層	灰層部 灰層	15.4	13.5	2.75	5.9	9.1	同軸ナデ	同軸ナデ	5Y7/2 9Y1/1	5Y7/1 9Y1/1	0.5-1.5mmの長石・石英・ チャート・黒色粘土を含む	赤	黒
SI019	9	G10	SE01.1層	灰層部 灰層						同軸ナデ	同軸ナデ	5YR6/2 6Y7/1	7.5Y7/1 7.5Y7/1	0.5mmの白粘土・赤土を 含む	赤	黒
SI000	9	J2	SE02.1層	赤生土層 灰層					ナデ・横溝線文	ナデ	10YR6/3 10YR6/3	10YR6/3 10YR6/3	1mm程度の長石・石英・ チャート・砂粒を含む	赤	黒	
SI007	9	K3	SE02.1層	赤生土層 灰層					赤線・短点文	ナデ	10YR6/2 10YR6/2	10YR6/2 10YR6/2	1-2mmのチャート・白土 を含む	赤	黒	
SI008	9	H1-J-3	SE02.1層・SE000.1層	赤生土層 灰層	22.3	6.0	32.3	9.7	12.0	線ナデ・ハナ	線ナデ・ハ ナ	10YR6/4 10YR6/4	10YR6/4 10YR6/4	0.5-1mmの長石・石英・ チャート・赤土を含む	赤	黒
SI009	9	K2-J-1	SE02.1層・SE01.1層	赤生土層 灰層	16.6			5.8		線ナデ・ハナ	線ナデ・ハ ナ	10YR6/2 10YR6/2	10YR6/3 10YR6/3	0.5-3mmの長石・石英・ 黒色粘土を含む	赤	黒
SI001	9	G7-H8	SE02.1層	赤生土層 灰層					ナデ・筋文	ナデ	10YR7/3 10YR7/3	10YR7/3 10YR7/3	1mm程度のチャート・赤土 を含む	赤	黒	
SI002	3	L13	SE02	赤生土層 灰層	12.0			20	横溝線文納	ナデ	10YR6/2 10YR6/2	10YR6/2 10YR6/2	1-2mmの長石・石英・ チャートを含む	赤	黒	
SI003	9	G7	SE03.1層	赤生土層 灰層	16.0				横溝線文納	ナデ	2.5Y7/4 2.5Y7/4	2.5Y7/3 2.5Y7/3	1mm程度の長石・石英・ チャートを含む	赤	黒	
SI004	7	K12	SE03.1層	赤生土層 灰層	14.3			0.5	ナデ・ハナ	ナデ	10YR7/3 10YR7/3	10YR7/3 10YR7/3	1mm程度の長石・石英・ チャート・砂粒を含む	赤	黒	
SI005	7	K12	SE03	赤生土層 灰層	16.0			1.0	ナデ	ナデ	2.5Y7/2 2.5Y7/2	2.5Y7/3 2.5Y7/3	1-2mmの長石・石英・ チャート・砂粒・黒色粘土 を含む	赤	黒	
SI006	9	G10	SE04.1層	土層部 灰層	30.8			2.5	線ナデ・赤土・ ナデ・赤土	線ナデ・赤土・ ナデ・赤土	10YR7/4 10YR6/3	10YR6/2 10YR6/2	0.5-2mmの長石・石英・ チャート・黒色粘土を含む	赤	黒	
SI007	7	H1-M12	SE04.1層・土層部	灰層部 灰層	17.6			0.8	同軸ナデ・ハナ ナデ・横溝線文納	同軸ナ デ	10Y7/1 9Y1/1	10YR6/1 9Y1/1	1mm以下の長石・黒土・ 赤土を含む	赤	黒	
SI008	7	H11-12	SE04.1層	灰層部 灰層	11.4	8.8	3.8	2.8	3.3	同軸ナデ	同軸ナデ	5Y7/1 6Y1/1	7.5Y5/1 9Y1/1	0.5-1.5mmの長石・チャート・ 黒色粘土・赤土を含む	赤	黒
SI009	9	H10	SE04.1層	灰層部 灰層	12.0	7.9	4.25	5.3	12.0	同軸ナデ	同軸ナデ	7.5Y7/1 8Y1/1	7.5Y6/1 9Y1/1	0.5-1.5mmの長石・石英・ チャート・黒色粘土を含む	赤	黒

開発番号	機	デッド	通信・保証	部材・部材	口径φ	標準φ	標準L	標準重量	測定・加工・試験		色調		加工	備考	
									内面	外面	内面	外面			
50R010	9	G9-10	SD04直上 SD060直上	製造部 検査/内	126	95	435	79	16	回転ナデ	回転ナデ	ハナ切り・ 高白磁石の ハナデ	10Y5/1 灰白色	05-15mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少量 混合	黒
50R011	9	G-310	SD04直下	製造部 検査/内	124	89	41	35	120	回転ナデ	回転ナデ	ハナ切り・ 高白磁石の ハナデ	7Y5/1 灰白色	05-15mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少量 混合	黒
50R012	9	G9	SD04直下	製造部 検査/内	123	90	42	43	60	回転ナデ	回転ナデ	ハナ切り・ 高白磁石の ハナデ	2Y5/1 灰白色	05-15mmの長さ・ナデ ・黒色粉子を少量 混合	黒
50R013	9	G10	SD04直下	製造部 検査/内	145	113	18	53	52	回転ナデ	回転ナデ	ハナ切りの ハナデ	10Y6/1 灰白色	05-15mmの長さ・ナデ ・黒色粉子を少量 混合	黒
50R014	9	H09-K3	SD04直下	製造部 検査/内	153	122	285	30	52	回転ナデ	回転ナデ	ハナ切りの ハナデ	5Y6/1 灰白色	05-25mmの長さ・ナ デ・黒色粉子を少量 混合	黒
50R015	7	K13	SD04直上	製造部 検査/内	160	130	22	12	102	回転ナデ	回転ナデ	ハナ切りの ハナデ	10Y5/1 灰白色	05-25mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R016	9	G8-9	SD04直下	製造部 検査/内	164	134	235	34	120	回転ナデ	回転ナデ	ハナ切りの ハナデ	10Y6/1 灰白色	05-25mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R017	5	E-18	SD04直上	製造部 検査/内						回転ナデ	回転ナデ	ハナ切りの ハナデ	N5-0 灰白色	05-15mmの長さ・ナ デ・黒色粉子を少量 混合	黒
50R018	5	-	SD04直上	製造部 検査/内						回転ナデ	回転ナデ	ハナ切りの ハナデ	N7-0 灰白色	05-15mmの長さ・ナ デ・黒色粉子を少量 混合	黒
50R01	3	N17	SD05直上	製造部 検査/内	150	19				ハナ切りの ハナデ	横ナデ	10Y7/2 灰白色	10Y7/2 灰白色	15-20mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R02	3	-	SD05直上	製造部 検査/内	210	28				横ナデ	横ナデ	10Y7/2 灰白色	10Y7/2 灰白色	15-20mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R03	3	N19	SD05直上	製造部 検査/内	205	10.2				横ナデ	横ナデ	10Y7/2 灰白色	10Y7/2 灰白色	15-20mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R04	3	M16	SD05直上	製造部 検査/内	302	34	172	11	120	横ナデ	ナデ	10Y7/4 灰白色	10Y7/4 灰白色	05-25mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R05	3	1-M14 N17	SD05直上	製造部 検査/内						ナデ	ナデ	10Y7/4 灰白色	10Y7/4 灰白色	05-15mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R06	3	M17	SD05直上	製造部 検査/内	304		20			横ナデ	横ナデ	7Y7/2 灰白色	7Y7/2 灰白色	05-25mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R07	3	N17	SD05直上	製造部 検査/内	210		35			横ナデ	横ナデ	2Y7/2 灰白色	2Y7/2 灰白色	10mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R011	7	L18	SD07直上	製造部 検査/内	170		14			ナデ	ナデ	10Y7/4 灰白色	10Y7/4 灰白色	15-20mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R012	7	H4	SD07直上	製造部 検査/内	190		32			横ナデ	横ナデ	7Y7/6 灰白色	7Y7/6 灰白色	20mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R013	4	O21	SD07直上	製造部 検査/内	102		26			横ナデ	横ナデ	10Y8/4 灰白色	10Y8/4 灰白色	15mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R014	7	H14	SD07直上	製造部 検査/内						横ナデ	横ナデ	5Y4/1 灰白色	10Y8/4 灰白色	10mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R01	7	J14	SD09直上	製造部 検査/内						横ナデ	横ナデ	10Y7/2 灰白色	10Y7/2 灰白色	20mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R02	10	G12	SD06直上	製造部 検査/内						ナデ	ナデ	5Y8/6 灰白色	10Y8/3 灰白色	15-20mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R03	3	L16	SD06直上	製造部 検査/内						ナデ	ナデ	7Y8/2 灰白色	7Y8/2 灰白色	15-20mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R04	2	H13	SD06直上	製造部 検査/内	305		30			ナデ	ナデ	10Y7/2 灰白色	10Y7/2 灰白色	15mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R05	2	U3	SD06直上	製造部 検査/内	244		20			ナデ	ナデ	7Y7/2 灰白色	7Y7/2 灰白色	10mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R06	3	D10	SD06直上	製造部 検査/内						横ナデ	横ナデ	7Y7/3 灰白色	7Y7/3 灰白色	15mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R07	5	E10	SD06直上	製造部 検査/内						横ナデ	横ナデ	7Y7/3 灰白色	7Y7/3 灰白色	15mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R08	3	M17-L16	SD06直上	製造部 検査/内	189		33			横ナデ	横ナデ	10Y8/3 灰白色	10Y8/3 灰白色	05-15mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R09	7	H14-H3	SD06直下	製造部 検査/内	178		23			横ナデ	横ナデ	5Y8/4 灰白色	5Y8/4 灰白色	05-3mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R10	7	H12-H1	SD06直上	製造部 検査/内	174		34			横ナデ	横ナデ	10Y8/3 灰白色	7Y7/6 灰白色	05-25mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R11	7	H12	SD06直上	製造部 検査/内	152		51			横ナデ	横ナデ	10Y8/3 灰白色	7Y7/2 灰白色	05-25mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R12	10	G12	SD06直上	製造部 検査/内	180		11			ナデ	横ナデ	2Y7/3 灰白色	2Y7/3 灰白色	15-20mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R13	74	H13-S20	SD06直上	製造部 検査/内	242		21			横ナデ	横ナデ	7Y7/6 灰白色	5Y8/6 灰白色	05-25mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R14	4	S20	SD06直上	製造部 検査/内	306		18			横ナデ	横ナデ	7Y7/6 灰白色	7Y7/6 灰白色	05-15mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R05	7	H13	SD06直上	製造部 検査/内						ナデ	横ナデ	7Y7/3 灰白色	7Y7/3 灰白色	15mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R06	7	J14	SD06直上	製造部 検査/内	133		33			横ナデ	横ナデ	7Y7/2 灰白色	7Y7/2 灰白色	05-25mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R07	7	H12	SD06直上	製造部 検査/内	156		13			横ナデ	横ナデ	7Y7/6 灰白色	7Y7/6 灰白色	15mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R08	7	U3	SD06直上	製造部 検査/内	94		45			ナデ	横ナデ	10Y8/2 灰白色	2Y7/3 灰白色	20mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R09	7	G14	SD06直上	製造部 検査/内						ナデ	横ナデ	7Y7/2 灰白色	7Y7/2 灰白色	15mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R10	10	G12	SD06直上	製造部 検査/内	120		30			横ナデ	横ナデ	10Y7/4 灰白色	10Y7/4 灰白色	15-20mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R01	3	N18	SD06直上	製造部 検査/内						横ナデ	横ナデ	7Y7/2 灰白色	7Y7/2 灰白色	15mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R02	7	H12	SD06直上	製造部 検査/内	130		21			横ナデ	横ナデ	10Y7/2 灰白色	10Y7/2 灰白色	15mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R03	3	-	SD06直上	製造部 検査/内						横ナデ	横ナデ	10Y7/2 灰白色	10Y7/2 灰白色	15mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒
50R04	3	E10	SD06直上	製造部 検査/内	50		10			横ナデ	横ナデ	7Y7/6 灰白色	7Y7/6 灰白色	05-25mmの長さ・右黒・ ナデ・黒色粉子を少 量混合	黒

第4章 遺情と遺物

発祥番号	年代	遺情・形似	器種・器名	口径φ	底径φ	容積φ	残存率(%)	調査・鑑定・発掘			色調		胎土	焼成	備考
								調査	内面	外面	内面	外面			
50008	7	H12-L15	SD06 1中層	粘土土器 高台	30.3		3.2	摩滅	摩滅	10YR7/3 にぶい黄褐色	2.5Y7/2 赤褐色	0.5-1mmの長石・右鉄・ チャート・砂鉄を含有 粒子を少量含む。	赤	黒	
50009	3	L16	SD06 1層	粘土土器 高台	30.3		0.8	摩滅	摩滅	10YR7/3 黄褐色	7.5YR3/4 黄褐色	1mm以下の長石・チャート・ 砂鉄を含有。黒色粒子を少量 含む。	赤	赤	中層
50010	7	G-020	SD06 1層 豊前田原路	粘土土器 高台				ミガキナテ	ナテ・L14	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	0.5-1.5mmの長石・チャート・ 砂鉄を含有。黒色粒子を少量 含む。	赤	赤	中層
50011	7	H13	SD06 1層	粘土土器 高台	21.5		1.8	粘土・陶片 文目	粘土・陶片 文目	10YR7/3 黄褐色	10YR7/3 黄褐色	1-2mmの長石・右鉄・ チャート・砂鉄を含有。	赤	赤	中層
50012	3	N39	SD06 1層	粘土土器 高台	19.0		7.2	磨滅	磨滅	2.5Y7/3 黄褐色	2.5Y7/3 黄褐色	1-2mmの長石・チャート・ 砂鉄を含有。	赤	赤	中層
50013	7	H13	SD06 1層	粘土土器 高台	18		2.4	粘土・竹管文	摩滅	2.5Y7/3 黄褐色	10YR7/4 黄褐色	1mm-2mmの右鉄・砂鉄 粒子を含有。	赤	赤	中層
50014	3	E30	SD06 1層	粘土土器 高台	31.6		4.2	粘土	粘土	10YR7/3 にぶい黄褐色	5YR5/6 黄褐色	0.5-2mmの長石・右鉄・ チャート・砂鉄を含有。	赤	赤	中層
50015	7	J14	SD06 1層	粘土土器 高台			1.2	摩滅	摩滅	10YR7/3 黄褐色	10YR7/3 黄褐色	2mm以下の長石・チャート・ 砂鉄を含有。	赤	赤	中層
50016	7	H12-L13	SD06 1層	粘土土器 高台	8.8		20	摩滅	摩滅	2.5Y7/2 黄褐色	10YR7/3 黄褐色	1-2mmの長石・右鉄・ チャート・砂鉄を含有。	赤	赤	中層
50017	7	J14	SD06 1層	粘土土器 高台				同粘土	ナテ	7.5Y7/1 黄褐色	7.5Y7/1 黄褐色	0.5-2mmの長石・チャート・ 砂鉄を含有。	赤	赤	中層
50018	7	H12-L13	SD06 1層	粘土土器 高台	13.6		3.6	同粘土	同粘土	7.5Y7/1 黄褐色	10Y7/3 黄褐色	0.5-2.5mmの長石・チャート・ 砂鉄を含有。	赤	赤	中層
50019	7	H13	SD06 1層	粘土土器 高台	16.4	14.0	1.8	0.8	1.3	同粘土	同粘土	0.5-2mmの長石・右鉄・ チャート・砂鉄を含有。	赤	赤	中層
60001	2	L18	SD06 1層	粘土土器 高台	18.0			ハテ	ハテナテ	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1mm程度の長石・右鉄・ チャートを含有。	赤	赤	
60002	10	G14	SD06 1層	粘土土器 高台	18.0			ナテ	同粘土	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/4 黄褐色	1mm程度の長石・右鉄・ チャートを含有。	赤	赤	
60003	7	G14	SD06 1層	粘土土器 高台	19.0		1.2	ナテ	ナテ	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	1-2mmの長石・右鉄・ チャート・砂鉄を含有。	赤	赤	
60004	2	L17	SD06 1層	粘土土器 高台	15.0		20	ナテ	ナテ	10YR7/3 黄褐色	10YR7/3 黄褐色	細顆粒の黒色粒子を含有。	赤	赤	
60005	7	K16	SD06 1層	粘土土器 高台	18.0		1.5	ナテ	ナテ	7.5YR5/6 にぶい褐色	7.5YR5/6 にぶい褐色	1-2mmの長石・右鉄・ チャート・砂鉄を含有。	赤	赤	
60006	13	O22	SD06 1層	粘土土器 高台	18.0		2.5	ナテ	ナテ	10YR7/1 黄褐色	10YR7/1 黄褐色	1mm程度の長石・右鉄・ チャート・砂鉄を含有。	赤	赤	
60007	13	L18	SD06 1層	粘土土器 高台	17.0		1.5	ナテ	ナテ	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	1mm程度の長石・右鉄・ チャートを含有。	赤	赤	
60008	7	J15	SD06 1層	粘土土器 高台	16.7		1.9	磨滅	磨滅	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1mm程度の長石・右鉄・ チャートを含有。	赤	赤	
60009	10	G13	SD06 1層	粘土土器 高台	15.5		3.5	摩滅	摩滅	7.5YR5/6 黄褐色	7.5YR5/6 黄褐色	2mm以下の長石・右鉄・ チャート・砂鉄を含有。	赤	赤	中層
60010	3	L18-M19	SD06 1層	粘土土器 高台	19.0		0.7	ナテ	ナテ	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1-2mmの長石・右鉄・ チャート・砂鉄を含有。	赤	赤	
60011	7	H13	SD06 1層	粘土土器 高台	20.0		1.0	S字スタンプ文	同粘土	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	1mm程度の白・赤・黒 粒を含有。	赤	赤	
60012	13	O23	SD06 1層	粘土土器 高台				ナテ	ナテ	2.5Y7/3 にぶい黄褐色	2.5Y7/3 にぶい黄褐色	1-2mmの長石・右鉄・砂鉄 を含有。	赤	赤	外層赤
60013	7	H14-L15	SD06 1層	粘土土器 高台				漢文・対点文 行刺文	ナテ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	1mm程度の長石・右鉄・ チャートを含有。	赤	赤	外層赤
60014	7	K26	SD06 1層	粘土土器 高台				ナテ	ナテ	10YR5/2 黄褐色	10YR5/2 黄褐色	1-2mmのチャート・砂鉄・ 赤鉄粒子を含有。	赤	赤	外層赤
60015	13	O22-P23	SD06 1層	粘土土器 高台				ナテ	ナテ	5YR7/6 黄褐色	5YR7/6 黄褐色	0.5-1.5mmの長石・チャート・ 砂鉄を含有。	赤	赤	外層赤
60016	13	O22	SD06 1層	粘土土器 高台	27.4		1.0	摩滅	摩滅	2.5Y7/3 黄褐色	2.5Y7/3 黄褐色	細顆粒の黒色粒子・5mm 程度の小石を含有。	赤	赤	外層赤
60017	7	J15	SD06 1層	粘土土器 高台	20.0		1.0	粘土	粘土	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1mm程度の長石・右鉄・ チャートを含有。	赤	赤	中層
60018	3	M19	SD06 1層	粘土土器 高台				漢文・S字スタンプ文	摩滅	10YR5/2 黄褐色	10YR5/2 黄褐色	1mm以下の長石・チャート・ 砂鉄を含有。	赤	赤	中層
60019	10	G12-L14	SD06 1層	粘土土器 高台				磨滅	L14	7.5YR7/6 黄褐色	7.5YR7/6 黄褐色	1mm以下の長石・チャート・ 砂鉄・赤鉄・黒色粒子を含有。	赤	赤	中層
60020	13	O22	SD06 1層	粘土土器 高台	13.0	2.7	8.35	4.2	5.0	粘土	粘土	0.5mmの長石・右鉄・チャート を含有。	赤	赤	中層
60021	7	J-K15	SD06 1層	粘土土器 高台	17.2		5.3	粘土	粘土	10YR7/3 黄褐色	2.5Y7/3 黄褐色	0.5-1mmの長石・右鉄・ チャート・黒色粒子を少量 含む。	赤	赤	
60022	10	G13	SD06 1層	粘土土器 高台	19.1		1.0	粘土	粘土	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	1mm程度の白・赤色粒子を 含有。	赤	赤	外層赤
61001	7	J14	SD10 1層	粘土土器 高台				ナテ	ナテ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	1-2mmの白・黒色粒子を 含有。	赤	赤	外層赤
61002	1	M7	SD11 1層	粘土土器 高台	16.8		4.8	粘土	粘土	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の長石・右鉄・ チャート・砂鉄を含有。	赤	赤	外層赤
61003	1	M7	SD11 1層	粘土土器 高台	15.4		8.0	粘土	粘土	2.5Y7/3 黄褐色	2.5Y7/3 黄褐色	0.5-2mmの長石・右鉄・ チャートを含有。	赤	赤	外層赤
61004	1	M7	SD11 1層	粘土土器 高台	15.0		10.2	粘土	粘土	2.5Y7/4 黄褐色	2.5Y7/4 黄褐色	1mm以下の長石・右鉄・ チャート・砂鉄を含有。	赤	赤	外層赤
61005	1	M7	SD11 1層	粘土土器 高台	18.0		8.9	粘土	粘土	10YR5/4 黄褐色	7.5YR5/4 黄褐色	0.5-1.5mmの長石・右鉄・ チャート・砂鉄を含有。	赤	赤	外層赤
61006	1	M7	SD11 1層	粘土土器 高台	20.0		8.1	粘土	粘土	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	0.5-2mmの長石・右鉄・ チャート・砂鉄を含有。	赤	赤	外層赤
61007	1	M7	SD11 1層	粘土土器 高台	2.4		9.2	粘土	粘土	2.5Y7/6 黄褐色	7.5YR7/6 黄褐色	2mmの長石・右鉄・チャート・ 砂鉄を含有。	赤	赤	外層赤
61008	9	O21	SD15 4層	粘土土器 高台				粘土	粘土	7.5YR7/3 にぶい黄褐色	7.5YR7/3 にぶい黄褐色	1mm程度の白・赤・黒色 粒を少量に含有。	赤	赤	中層
61009	9	F9	SD16 1層	ナテ	5.0	3.0	3.9	12.0	12.0	粘土	粘土	2mm程度の右鉄・砂鉄を 含有。	赤	赤	中層
61010	7	H13	SD18 1層	粘土土器 高台	17.0		1.9	粘土	粘土	2.5Y7/2 黄褐色	2.5Y7/2 黄褐色	1-2mmの長石・右鉄・チャート・ 砂鉄を含有。	赤	赤	中層
61011	10	G12	SD18 1層	粘土土器 高台	13.0		6.0	粘土	粘土	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1-2mmの長石・右鉄・砂鉄 を含有。	赤	赤	中層
61012	7	G13	SD18 1層	粘土土器 高台	11.3		2.0	粘土	粘土	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	1-2mmの長石・右鉄・ チャート・砂鉄・黒色 粒子を含有。	赤	赤	中層

開発番号	3K	デッドト	選色・単位	部材・部材	口径φ	板厚φ	容積φ	積存率12	調音・結文・発輪		内調		結文	備考	
									内調	外調	内調	外調			
61013	7	H13	SD18上層	巻上り部					横ナテ	横ナテ	75Y07-4 L2.0A-橙色	75Y07-4 L2.0A-橙色	1mm厚の黒石・石膏・ 石膏を混合	点	
61014	7	H13	SD18上層・上層	巻上り部	10.5		0.7		ナテ	ハナナテ	75Y07-4 L2.0A-橙色	75Y07-4 L2.0A-橙色	1.5mm厚石・石膏・石膏を 混合	点	
62011	9	H10	SD13下層・SD02 下層	巻上り部 巻上り部	16.3	130	5.0	3.2	横ナテ	横ナテ	S27-3 L1.0A-白色	S27-3 L1.0A-白色	0.5・1mm厚の石膏・チー ト・黒色粉を多量に含有	点	
62012	10	G12	SE19上層	巻上り部		11.0		2.0	横ナテ	横ナテ	高白級白 粉・ナテ	S6-0 S4.0-白色	微細な白・黒色粉を含有	点	
62014	10	G20	SD07下層	巻上り部	16.3		2.3		へう切り・横ナテ	横ナテ	S78-1 L1.0A-白色	S78-1 L1.0A-白色	1mm厚の石膏・黒色 粉・チーナートを含有	点	
62015	10	G19	SD07下層	巻上り部	16.6		2.2		横ナテ	へう切り	10Y09-1 L0.6A-白色	10Y09-1 L0.6A-白色	2.5mm厚の石膏・白・黒色 粉・チーナートを含有	点	外周1層部厚 大減厚・自然 乾燥
62016	10	G20	SD08下層・ SD08下層	巻上り部 巻上り部		11.0		2.0	横ナテ	横ナテ	高白級白 粉・ナテ	S66-1 S66.0-白色	微細な白・黒色粉を含有	点	
62017	10	G20	SD08下層	巻上り部	19.0		0.9		横ナテ	横ナテ	S78-1 L1.0A-白色	S78-1 L1.0A-白色	1mm厚の黒色粉を含有	点	
62019	13	T27	SD02	巻上り部					クロコナテ	クロコナテ	S706-4 L2.0A-橙色	S706-6 L2.0A-橙色	0.5・1mmの白・黒色粉を 多量に含有	点	1層部部に沈 降
64011	12	K20J-27	巻分回道路 下層	横文上部 部	25.6			3.7	沈積文のみ横文 (丸角・横文)	ナテ	75Y07-2 L0.6A-白色	75Y07-2 L0.6A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
64012	12	J24	巻分回道路 上層	横文上部 部					横文目録文 部	ナテ	75Y07-2 L0.6A-白色	75Y07-2 L0.6A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	体積率大径 14.4
64013	12	K25	巻分回道路 下層	横文上部 部	37.8		2.4		横文目録・横文 目録・横文部	ナテ	10Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L0.6A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
64014	12	J26	巻分回道路 トレンナテ下層	横文上部 部		9.4		7.7	横文目録・横文部	ナテ	75Y07-2 L0.6A-白色	75Y07-2 L0.6A-白色	2mm厚の白・黒色粉を多 量に含有	点	中 心
64015	12	K26	巻分回道路 下層	横文上部 部	68.8		0.3		巻積部方向	巻積部(横方 向)のちり	10Y07-2 L1.0A-白色	10Y07-3 L1.0A-黄褐色	1mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
64016	8	H17	巻分回道路 下層	横文上部 部	52.6		1.3		横ナテ	横ナテ	S788-1 L0.6A-白色	S788-1 L0.6A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
64011	11	J25	巻分回道路 トレンナテ上層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L0.6A-白色	75Y07-2 L0.6A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
64012	12	K25	巻分回道路 トレンナテ下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	25Y06-4 L2.0A-橙色	25Y06-2 L1.0A-橙色	1mm厚の黒色粉を多 量に含有	点	中 心
64013	8	H16	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	25Y06-3 L1.0A-橙色	25Y06-3 L1.0A-橙色	1mm厚の黒色粉を多 量に含有	点	中 心
64014	12	K26	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y05-1 L1.0A-白色	10Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
64015	12	J25	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L0.6A-白色	75Y07-2 L0.6A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
64016	12	K25	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	10Y08-1 L0.6A-白色	10Y08-2 L0.6A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
64017	12	K25	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	10Y08-1 L0.6A-白色	10Y08-2 L0.6A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
64018	12	K26	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	S788-1 L0.6A-白色	S788-1 L0.6A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
64019	12	J25	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y04-1 L0.6A-白色	75Y04-1 L0.6A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
64020	12	J25	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y04-1 L0.6A-白色	75Y04-1 L0.6A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
64021	8	H16	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-1 L0.6A-白色	1mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640212	8	H16	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-1 L0.6A-白色	1mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640213	12	J25	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640214	8	H16	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640215	12	J25	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640216	12	K25	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640217	8	H16	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640218	12	K25	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640219	12	K26	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640220	12	K25	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640221	12	F13	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640222	12	J26	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	10Y07-2 L1.0A-白色	10Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640223	12	J26	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640224	12	J26	巻分回道路 トレンナテ下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	25Y07-1 L0.6A-白色	25Y07-1 L0.6A-白色	1mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640225	12	K-125	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640226	12	L26	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640227	8	H16	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640228	8	B24	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640229	12	L25	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心
640230	12	K25	巻分回道路 下層	横文上部 部					横文目録・横 文部・横文部	横文部 目録	75Y07-2 L1.0A-白色	75Y07-2 L1.0A-白色	2mm厚の白・黒色粉を 多量に含有	点	中 心

第4章 遺構と遺物

発掘番号	坑	デッド	遺構・部位	部材・部材	口径 (mm)	容積 (mm)	形状 (mm)	発見 年度	調査 調査・鑑定・発掘			色調		加工	備考
									内面	外面	底面	内面	外面		
60004	12	K25	難分同位線路上層	粘土土器	18.4			12	緑ナテハク	緑ナテハク	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	3mm以下の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状・赤色粒状を含む	赤	
60005	12	L27	難分同位線路上層	粘土土器					ナテ・緑ム	ナテ	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1mm程度の長石・黒色粒状を含む	赤	
60006	12	L25	難分同位線路上層	粘土土器					ナテ・緑ム	ナテ	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	1mm程度の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	
60007	8	A30	難分同位線路上層	赤土土器					緑ナテハク	緑ナテハク	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	1mm程度の長石・右裏・黒色粒状を含む	赤	特殊スリ付
60008	12	J24	難分同位線路上層	粘土土器					ハク・緑灰ハク	ハク	10YR5/1 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	1-2mmの長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	
60009	12	C22	難分同位線路上層	粘土土器					長瀬江流・赤黄	緑ナテ	10YR5/2 にぶい黄褐色	10YR5/2 にぶい黄褐色	1-5mmのチャート・赤色粒状を含む	赤	
60010	6	J22	難分同位線路上層	粘土土器					緑ム・赤黄	緑ナテ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	1-5mmの長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	
60011	8	B15	難分同位線路上層	粘土土器					緑ム上・赤黄	ナテ	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	1-3mmの長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	
60012	12	K34	難分同位線路上層	粘土土器					ナテ	ナテナズリ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	1-2mmの長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	特殊スリ付
60013	12	K28	難分同位線路上層	赤土土器					ナテ・赤黄・成	ナテ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1mm以下の長石・右裏・黒色粒状を含む	赤	
60014	12	K34	難分同位線路上層	赤土土器					ナテ・赤黄・成	ナテ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1mm程度の長石・右裏・砂質・赤色粒状を含む	赤	
60015	12	L25	難分同位線路上層	粘土土器					ナテ・赤黄	ナテ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	1-2mmの長石・右裏・砂質・赤色粒状を含む	赤	
60016	12	K26	難分同位線路上層	粘土土器					ハテナテ・下	ハテナテ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	1-2mmのチャート・赤色粒状を含む	赤	
60017	12	L26	難分同位線路上層	粘土土器		120		21	ナテ・赤黄	ナテ	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1-2mmの長石・右裏・砂質・赤色粒状を含む	赤	円周端かし
60018	12	L30	難分同位線路上層	粘土土器		118		1.5	ナテ・赤黄・成	成	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	1-5mmの長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	
60019	12	L25	難分同位線路上層	粘土土器	16.4			5.5	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR8/3 にぶい黄褐色	10YR8/3 にぶい黄褐色	1mm以下の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	
60020	12	L25	難分同位線路上層	粘土土器	15.3			4.3	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2.5mm以下の長石・チャート・右裏・砂質・赤色粒状を含む	赤	
60021	12	K-125	難分同位線路上層	粘土土器	15.6			4.0	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR7/4 にぶい黄褐色	2.5YR/2 灰白色	2.5mm以下の長石・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	中心部
60022	12	K25	難分同位線路上層	粘土土器	16.8			2.1	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	3mm以下の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	特殊黒染
60023	12	J24-24	難分同位線路上層	粘土土器	17.3			6.8	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR8/3 にぶい黄褐色	10YR8/3 にぶい黄褐色	0.5-2mmの長石・右裏・チャート・黒色粒状を含む	赤	特殊スリ付
60024	12	L25	難分同位線路上層	粘土土器	20.8			1.7	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR8/2 にぶい黄褐色	2.5YR/2 灰白色	2.5mm以下の長石・右裏・チャート・赤色粒状を含む	赤	中心部
60025	12	K25-L36	難分同位線路上層	粘土土器	15.2			3.5	緑ナテ・緑白	緑ナテ	2.5YR/4 にぶい黄褐色	10YR8/3 にぶい黄褐色	1mm以下の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	特殊スリ付
60026	12	K25	難分同位線路上層	粘土土器	14.4			4.3	緑ナテ・緑白	緑ナテ	2.5Y/3 にぶい黄褐色	2.5YR/3 にぶい黄褐色	3mm以下の長石・右裏・砂質・赤色粒状を含む	赤	特殊スリ付
60027	12	L25	難分同位線路上層	粘土土器	15.0			3.3	コナテ・緑白	緑ナテ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2.5mm以下の長石・右裏・チャート・赤色粒状を含む	赤	
60028	12	L36	難分同位線路上層	粘土土器	19.0			5.0	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	0.5-2.5mmの長石・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	特殊スリ付
60029	12	J22-J24	難分同位線路上層	粘土土器	16.0			11.0	緑ナテ・緑白	緑ナテ	2.5YR/2 灰白色	2.5YR/2 灰白色	0.5-2mmの長石・右裏・砂質・赤色粒状を含む	赤	
67001	12	L25	難分同位線路上層	粘土土器	14.5			2.4	緑ナテ・緑白	緑ナテ	2.5Y/2 灰白色	2.5YR/1 黄白色	3mm以下の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	特殊スリ付
67002	12	K25	難分同位線路上層	粘土土器	18.9			3.3	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR8/3 にぶい黄褐色	5YR7/6 黄褐色	3mm以下の長石・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	
67003	12	K25	難分同位線路上層	粘土土器	16.3			2.0	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR8/4 にぶい黄褐色	3mm以下の長石・右裏・チャート・赤色粒状を含む	赤	特殊スリ付
67004	12	K25	難分同位線路上層	粘土土器	18.1			2.5	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR8/4 にぶい黄褐色	10YR8/4 にぶい黄褐色	3mm以下の長石・右裏・チャート・赤色粒状を含む	赤	
67005	12	L25	難分同位線路上層	粘土土器	16.7			2.7	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR8/4 にぶい黄褐色	2.5Y/4 黄褐色	3.5mm以下の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	
67006	12	K25	難分同位線路上層	粘土土器	19.8			3.4	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR8/4 にぶい黄褐色	2mm以下の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	特殊スリ付
67007	12	K25	難分同位線路上層	粘土土器	17.7			3.2	緑ナテ・緑白	緑ナテ	2.5YR/3 灰白色	2.5YR/2 灰白色	2mm以下の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	特殊スリ付
67008	12	L25	難分同位線路上層	粘土土器	18.7			1.8	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	2mm以下の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	特殊スリ付
67009	12	K25	難分同位線路上層	粘土土器	18.7			1.7	緑ナテ・緑白	緑ナテ	7.5YR8/6 にぶい黄褐色	7.5YR8/4 にぶい黄褐色	2mm以下の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	
67010	12	K25	難分同位線路上層	粘土土器	17.3			8.0	緑ナテ・緑白	緑ナテ	2.5Y/2 灰白色	10YR8/3 にぶい黄褐色	0.5-1mmの長石・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	特殊スリ付
67011	12	L25	難分同位線路上層	粘土土器	18.7			4.7	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR8/3 にぶい黄褐色	10YR8/3 にぶい黄褐色	2mm以下の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	特殊スリ付
67012	12	K25	難分同位線路上層	粘土土器	15.8			2.0	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR8/3 にぶい黄褐色	4mm以下の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	中心部
67013	12	L25	難分同位線路上層	粘土土器	16.6			2.9	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR8/3 にぶい黄褐色	10YR8/3 にぶい黄褐色	2mm以下の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	中心部
67014	12	L25	難分同位線路上層	粘土土器	15.5			1.0	緑ナテ・緑白	緑ナテ	7.5YR8/6 にぶい黄褐色	7.5YR8/6 にぶい黄褐色	0.5-1mmの長石・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	特殊スリ付
67015	12	K25	難分同位線路上層	粘土土器	18.8			1.8	緑ナテ・緑白	緑ナテ	7.5YR8/6 にぶい黄褐色	10YR8/4 にぶい黄褐色	3mm以下の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	中心部
67016	11	D03	難分同位線路上層	粘土土器	34.8			0.6	緑ナテ・緑白	緑ナテ	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	2mm以下の長石・右裏・チャート・砂質・赤色粒状を含む	赤	中心部

発売番号	SA	タイトル	巻数・形式	監督・原案	口吹	収録時間	収録枚数	発売年・12月	演者・絵文・巻数			内巻		脚上	構成	備考
									作画	作画	巻数	内巻	外巻			
60001	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	11.3	27			横手アツタ	横手アツタ	10Y07/3 10Y08/2	10Y08/2 10Y08/2	2巻以下の、黒色粒子を含有	黒	黒	
60002	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	13.3	30			横手アツタ	横手アツタ	10Y06/2 10Y08/2	10Y08/3 10Y08/2	1巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有、黒色粒子を含有	黒	黒	特撮スチフ
60003	12	L25-26	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹	13.6	66			雪城	雪城	10Y07/2 10Y08/2	10Y08/4 10Y08/4	2巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有、黒色粒子を含有	黒	黒	特撮スチフ
60004	12	L25	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹	13.8	23			横手アツタ	横手アツタ	10Y07/2 10Y08/2	10Y08/4 10Y08/4	2巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有、黒色粒子を含有	黒	黒	特撮スチフ
60005	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	17.2	30			横手アツタ	横手アツタ	10Y08/4 10Y08/2	10Y08/3 10Y08/2	1巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	中心巻
60006	12	K20-26	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	14.6	17			横手アツタ・アザキ	横手アツタ・アザキ	23Y7/2 10Y08/2	23Y7/2 10Y08/2	05-1mmの黒・右巻・シート・黒色粒子を含有	黒	黒	特撮スチフ 特撮スチフ
60007	12	K20-L26	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	15.1	78			横手アツタ	横手アツタの元ナツ	10Y08/4 10Y08/2	10Y08/4 10Y08/2	05-25mmの黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	特撮スチフ
60008	12	L27	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹					ナツ・真実	横手アツタ	23Y7/2	23Y7/2	黒色粒子を含有	黒	黒	
60009	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	17.9	33			横手アツタ・高木正樹	横手アツタ	10Y08/3 10Y08/2	10Y08/2 10Y08/2	2巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	特撮スチフ
60010	12	-	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹	15.0	08			ナツ・真実	ナツ・アツタ	10Y07/3 10Y08/2	10Y08/2 10Y08/2	1mm程度の黒・右巻・シート・黒色粒子を含有	黒	黒	特撮スチフ
60011	12	K24	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹					ナツ・真実	ナツ	10Y08/3 10Y08/3	10Y08/3 10Y08/3	1-3mmのシートを含有	黒	黒	
60012	12	J24	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹					ナツ・真実	ナツ	23Y7/1 10Y08/2	23Y7/1 10Y08/2	1-2mmの粉質・黒色粒子を含有	黒	黒	
60013	12	L24	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹					ナツ・真実	ナツ	10Y08/2 10Y08/2	10Y08/2 10Y08/2	1mm程度のシート・黒色粒子を含有	黒	黒	
60014	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	17.2	36			横手アツタ	横手アツタ	10Y07/2 10Y08/2	10Y08/2 10Y08/2	1-3mmの粉質・シートを含有	黒	黒	特撮スチフ
60015	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	17.2	36			横手アツタ	横手アツタ	10Y08/4 10Y08/2	10Y08/4 10Y08/2	2巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	中心巻
60016	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	19.3	13			横手アツタ	横手アツタ	23Y7/2 23Y7/2	23Y7/2 23Y7/2	1mm以下の黒・右巻・シート・黒色粒子を含有	黒	黒	特撮スチフ
60017	12	L25	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹	18.1	09			横手アツタ	横手アツタ	10Y08/2 10Y08/2	10Y08/2 10Y08/2	2巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	特撮スチフ
60018	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	19.0	16			横手アツタ	横手アツタ	10Y07/4 10Y08/2	10Y07/4 10Y08/2	3巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	
60019	12	L30	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹					横手アツタ	横手アツタ	23Y7/3 10Y08/2	23Y7/3 10Y08/2	05-1mmの黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	中心巻
60020	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹					ハタ	アツタ	23Y7/2 10Y08/2	23Y7/2 10Y08/2	05-3mmの黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	特撮スチフ
60001	12	K20-24 L26-25	機動戦艦ダイアーズ 上巻・下巻	高木正樹	16.3	65			横手アツタ	横手アツタ	23Y07/2 10Y08/4	10Y08/4 10Y08/4	05-2mmの黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	特撮スチフ
60002	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	15.8	16			横手アツタ	横手アツタ	10Y07/3 10Y08/2	10Y08/3 10Y08/2	2巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	中心巻
60003	12	L26	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹	15.9	27			横手アツタ	横手アツタ	10Y07/3 10Y08/2	10Y08/3 10Y08/2	1巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	中心巻
60004	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	15.6	22			横手アツタ	横手アツタ	10Y07/2 10Y08/2	10Y08/2 10Y08/2	2巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	中心巻
60005	12	K24	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹	18.3	20			雪城	雪城	10Y07/6 10Y08/2	10Y07/6 10Y08/2	1巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	
60006	12	K20-24 L26	機動戦艦ダイアーズ 上巻・下巻	高木正樹	13.8	95			横手アツタ	横手アツタ	23Y7/2 10Y08/4	10Y08/4 10Y08/4	2巻以下のシート・粉質を含有	黒	黒	特撮スチフ
60007	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	13.4	45			横手アツタ	横手アツタ	23Y08/4 23Y08/6	23Y08/6 23Y08/6	1mm以下の、黒、赤色粒子を含有	黒	黒	
60008	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	9.3	46			横手アツタ	横手アツタ	10Y07/3 10Y08/2	10Y07/3 10Y08/2	1mm以下の黒・シート・粉質を含有	黒	黒	
60009	12	K-L25	機動戦艦ダイアーズ 上巻・下巻	高木正樹	12.0	70			横手アツタ	横手アツタ	23Y7/3 10Y08/4	23Y7/3 10Y08/4	2巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	
60010	12	K24-25	機動戦艦ダイアーズ 上巻・下巻	高木正樹	10.3	120			ナツ・ハタ	ハタ・ナツ	10Y07/3 10Y08/2	10Y07/3 10Y08/2	2巻以下の黒・右巻・シートを含有	黒	黒	
60011	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	11.0	62			横手アツタ	横手アツタ	10Y08/3 10Y08/4	10Y08/4 10Y08/4	1巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	中心巻
60012	12	L24	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹	10.5	22			横手アツタ	横手アツタ	10Y07/2 10Y08/2	10Y07/2 10Y08/2	1巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	
60013	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹	12.2	28			ナツ	ナツ	10Y07/3 10Y08/2	10Y07/3 10Y08/2	1巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	
60014	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	10.7	48			横手アツタ	横手アツタ	10Y08/2 10Y08/2	23Y6/2 10Y08/2	1巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	
60015	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹					雪城	雪城	10Y08/4 10Y08/2	23Y07/4 10Y08/2	1巻以下の黒・右巻・シート・黒色粒子を含有	黒	黒	
60016	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹	7.9	33			横手アツタ	ミヤギナ	23Y7/2 23Y7/2	23Y7/2 23Y7/2	1mm以下のシートを含有	黒	黒	特撮スチフ 内巻スチフ
60017	12	K24	機動戦艦ダイアーズ 上巻	高木正樹					ミヤギナ	ナツ・ハタ	23Y08/4 10Y08/2	23Y08/4 10Y08/2	2巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	特撮スチフ
70001	12	K-L25	機動戦艦ダイアーズ 上巻・下巻	高木正樹	13.5	18			横手アツタ	横手アツタ	10Y05/2 10Y08/2	10Y05/2 10Y08/2	2巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	
70002	12	K24-L26	機動戦艦ダイアーズ 上巻・下巻	高木正樹	12.9	44			横手アツタ	横手アツタ	10Y07/2 10Y08/3	10Y08/3 10Y08/3	2巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	中心巻
70003	12	K24	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	13.6	17			ナツ	ハタ・ナツ	23Y08/4 10Y08/2	23Y08/4 10Y08/2	2巻以下の黒・右巻・シート・黒、黒色粒子を含有	黒	黒	
70004	12	K24	機動戦艦ダイアーズ 下巻	高木正樹	14.8	22			雪城	横手アツタ	10Y08/6 10Y08/2	10Y07/6 10Y08/2	1巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	
70005	12	K20	機動戦艦ダイアーズ 上巻・下巻	高木正樹	14.3	17			横手アツタ・成瀬山	横手アツタ	23Y7/2 10Y08/2	10Y07/3 10Y08/2	1巻以下の黒・右巻・シート・粉質を含有	黒	黒	
70006	12	K-L25	機動戦艦ダイアーズ 上巻・下巻	高木正樹	18.8	72			横手アツタ	横手アツタ	10Y08/4 10Y08/4	10Y08/4 10Y08/4	05-1mmの黒・シートを含有	黒	黒	

第4章 遺構と遺物

発掘番号	IV	デッド	遺構・部位	部材・部材	口径φ(mm)	底径φ(mm)	高さ(mm)	調査・掘立・発掘		土質			備考
								内面	外面	内面	外面	底面	
70007	12	J25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	17.2		3.5	藤谷川遺構・横ナデナデ	横ナデナデ	5YR7/6黄褐色	5YR7/6黄褐色	1m以下の長石・チャート・黒色砂子を含む	中・細
70008	12	L26	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	13.8		3.0	横ナデ・藤谷川遺構	横ナデ	10YR7/3に赤い黄褐色	10YR7/3に赤い黄褐色	1m以下の長石・チャート・黒砂・赤色砂子を含む	中・細
70009	12	K26	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	27.5		2.1	藤谷川遺構	横ナデ	2.5YR7/6黄褐色	2.5YR7/2灰白色	2m以下の長石・右赤・チャート・黒色砂子を含む	中・細
70010	12	K28	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	13.0		11.0	横ナデ・ハナ	横ナデ・ハナ	2.5YR7/6黄褐色	2.5YR7/2灰白色	0.5-1mの長石・右赤・チャート・黒色砂子を含む	中・細
70011	12	K25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	10.8		11.6	横ナデ・ハナ	横ナデ・ハナ	2.5Y7/2灰白色	10YR7/3に赤い黄褐色	0.5-1mの長石・右赤・チャート・黒色砂子を含む	中・細
70012	12	K26	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	14.6		4.5	横ナデナデ	横ナデナデ	10YR7/3に赤い黄褐色	10YR7/4灰白色	1.5m以下の長石・右赤・チャート・黒色砂子を含む	中・細
70013	12	K28	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	16.5		4.3	横ナデナデ	横ナデナデ	10YR7/2に赤い黄褐色	10YR7/2に赤い黄褐色	1m以下の長石・右赤・チャート・黒砂を含む	中・細
70014	12	K25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	13.2		13.2	横ナデナデ	横ナデナデ	10YR7/2に赤い黄褐色	10YR7/2に赤い黄褐色	2m以下の長石・右赤・チャートを含む	中・細
70015	8	H15	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	12.5		2.0	障溝	障溝	2.5YR7/4黄褐色	2.5YR7/4黄褐色	2m以下の長石・右赤・チャートを含む	中・細
70016	12	L27	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	13.0		4.2	横ナデナデ	横ナデ	7.5YR7/4に赤い黄褐色	7.5YR7/4に赤い黄褐色	3m以下の長石・右赤・チャート・黒色砂子を含む	中・細
70017	12	K25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	13.8		3.5	横ナデ・堀111・委留溝南端式	横ナデ	10YR7/3に赤い黄褐色	10YR7/3に赤い黄褐色	1m以下の長石・右赤・チャート・黒砂・赤色砂子を含む	中・細
70018	12	K25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部				内面掘立・障溝	障溝	7.5YR7/6黄褐色	7.5YR7/4黄褐色	3m以下の長石・右赤・チャート・黒砂・赤色砂子を含む	中・細
70019	12	J24	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	14.8		4.1	横ナデ・堀111・委留溝南端式	横ナデナデ	7.5YR7/3に赤い黄褐色	7.5YR7/4黄褐色	2m以下の長石・砂質・チャートを含む	中・細
70020	12	K25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部				障溝	ナデ	7.5YR7/3に赤い黄褐色	5YR7/6黄褐色	1m以下のチャート・白・黒色砂子を含む	中・細
70021	12	L25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部				1号井と堀111・障溝	ナデ	5Y7/1黄白色	10YR7/3に赤い黄褐色	1m以下の長石・右赤・チャート・黒色砂子を含む	中・細
70022	12	L25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部				ナデ・ハナ	ナデ・ハナ	10YR7/3に赤い黄褐色	10YR7/3に赤い黄褐色	2m以下の長石・右赤・チャート・黒色砂子を含む	中・細
71801	12	K25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	17.6		1.0	ナデ	ナデ	5YR7/4黄褐色	10YR7/4に赤い黄褐色	0.5-1mの長石・チャート・黒色砂子を含む	中・細
71802	12	K24-L25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	21.9		3.5	障溝	1号井	7.5YR7/6黄褐色	7.5YR7/4に赤い黄褐色	1m以下の長石・右赤・チャート・黒色砂子を含む	中・細
71803	12	K-L25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	27.6		3.4	障溝	障溝	10YR7/4黄褐色	7.5YR7/6黄褐色	1m以下の長石・右赤・チャート・砂質・黒砂・赤色砂子を含む	中・細
71804	12	H22-K25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	20.3		4.1	1号井	1号井	2.5Y7/2灰白色	2.5Y7/2灰白色	1m以下の長石・右赤・チャート・黒砂・赤色砂子を含む	中・細
71805	12	L-K25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部				ナデ・1号井	ナデ・1号井	10YR7/3に赤い黄褐色	10YR7/3に赤い黄褐色	1m以下の長石・右赤・チャート・黒色砂子を含む	中・細
71806	12	K25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	18.8		12.0	横ナデ・藤谷川遺構	横ナデナデ	10YR7/2に赤い黄褐色	10YR7/2に赤い黄褐色	0.5-1mの長石・チャート・黒色砂子を含む	中・細
71808	12	L25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	17.0		3.1	藤谷川遺構・横ナデ	横ナデ(障溝)	5YR7/6黄褐色	5YR7/6黄褐色	1m以下の長石・チャート・黒色砂子を含む	中・細
71809	12	K25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	22.3		1.6	横ナデ・藤谷川遺構	ナデ	2.5YR7/3黄白色	2.5YR7/3黄白色	2m以下の長石・右赤・チャート・赤色砂子を含む	中・細
71810	12	K24-L25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	13.6		5.0	ナデ・藤谷川遺構	ナデ	10YR7/4に赤い黄褐色	10YR7/2に赤い黄褐色	1m以下の長石・右赤・チャート・黒・黒色砂子を含む	中・細
71811	12	K28	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	28.7		1.3	横ナデ・藤谷川遺構	横ナデ	2.5Y7/3灰白色	2.5Y7/3灰白色	1m以下の長石・右赤・チャート・砂質・赤色砂子を含む	中・細
71812	12	K28	藤谷川旧道路下層	赤土上層部				高橋文・SFSスタンプ文	ナデ・ミダキ	2.5Y7/2灰白色	2.5YR7/2灰白色	2m以下の黒色砂子・黒砂を含む	中・細
71813	12	K25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	21.5		2.0	障溝	障溝	7.5YR7/6黄褐色	10YR7/4に赤い黄褐色	2m以下の長石・チャート・砂質・赤色砂子を含む	中・細
71814	12	H25-J24-L26	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	25.8		4.2	1号井・横ナデ	横ナデ・1号井	10YR7/4に赤い黄褐色	10YR7/2に赤い黄褐色	1m以下のチャート・白・黒色砂子を含む	中・細
71815	12	L25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部				横ナデ・ナデ	ナデ・横ナデ	10YR7/3に赤い黄褐色	10YR7/3に赤い黄褐色	0.5-1mの長石・右赤・チャート・黒色砂子を含む	中・小粒
71816	12	L25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部				障溝	障溝	5YR7/6黄褐色	5YR7/6黄褐色	2m以下の長石・右赤・チャート・赤色砂子を含む	中・細
71817	12	K25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部				1号井・高橋文	1号井・ナデ	2.5Y7/2灰白色	2.5Y7/2灰白色	1m程度の白色砂子・チャートを含む	中・細
71818	12	K24	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	18.8		1.4	1号井	ナデ	2.5YR7/2灰白色	2.5YR7/2灰白色	1m以下の長石・右赤・チャート・黒砂・黒色砂子を含む	中・細
71819	12	L25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	18.0		1.3	ナデ・1号井・高橋文・SFSスタンプ文	ナデ・ハナ	10YR7/3に赤い黄褐色	10YR7/3に赤い黄褐色	1m程度の白・黒色砂子を含む	中・細
72041	12	K24-L25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部				1号井・ナデ	ナデ	10YR7/6黄褐色	10YR7/3に赤い黄褐色	0.5-1mの長石・右赤・チャート・黒色砂子を含む	中・細
72042	12	K25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	13.9		5.3	障溝	横ナデナデ	7.5YR7/4黄褐色	7.5YR7/4に赤い黄褐色	1m以下の長石・チャート・黒色砂子を含む	中・細
72043	12	K25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部				1号井	1号井・L1号井	10YR7/3に赤い黄褐色	10YR7/3に赤い黄褐色	1m以下の長石・右赤・チャート・砂質を含む	中・細
72044	12	L25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	13.1		2.3	障溝	L1号井	10YR7/4に赤い黄褐色	10YR7/3に赤い黄褐色	1m以下の長石・右赤・チャート・黒色砂子を含む	中・細
72045	12	L25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部	16.7		0.9	障溝	L1号井	10YR7/4に赤い黄褐色	10YR7/4に赤い黄褐色	1m以下のチャート・白・黒色砂子を含む	中・小粒 (4)
72046	12	K25	藤谷川旧道路下層	赤土上層部				障溝	ナデ	10YR7/3に赤い黄褐色	10YR7/3に赤い黄褐色	1m以下の長石・右赤・チャート・黒砂・赤色砂子を含む	中・細

開発番号	IR	デッド	選機・部位	部材・部材	口径φ	機坪φ	容積φ	積存率(%)	選機・給文・給粉			内選		給上	規格	備考			
									内選	内選	内選	内選	内選						
72047	12	K-125-N21	複合粉砕選流下層	巻上上層	12.2	2.9	6.15	10	120	横ナナナナ	ナデ	ナデ	10Y37-4 にふい-黄褐色	10Y37-3 にふい-黄褐色	05-1mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を含む	中心			
72048	12	L24	複合粉砕選流下層	巻上上層	16.4			13		横ナナナナ	横ナナナナ	23Y7-3 浅黄褐色	23Y7-2 黄褐色	05-1mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を含む	品				
72049	12	K25	複合粉砕選流上層	巻上上層	19.1			28		横ナナナナ	横ナナナナ	10Y37-4 にふい-黄褐色	10Y38-4 浅黄褐色	1mm以下の長石・石英・チャート・赤褐色粒子を含む	品				
72050	12	K24-25	複合粉砕選流上層	巻上上層	18.6			29		横ナナナナ	横ナナナナ	10Y37-3 にふい-黄褐色	10Y38-4 浅黄褐色	2mm以下の長石・石英・チャート・赤褐色粒子を含む	品	外側スリ付			
72051	12	K-125	複合粉砕選流下層	巻上上層	17.0			51		横ナナナナ	横ナナナナ	10Y37-3 にふい-黄褐色	23Y7-3 黄褐色	2mm以下の長石・石英・チャート・赤褐色粒子を含む	品				
72052	12	L25	複合粉砕選流下層	巻上上層				19		ナデ	ナデ	23Y8-2 灰白色	23Y8-2 灰白色	3mm程度の砂質・2mm以下の白、赤、赤色粒子を含む	品				
72053	8	A20	複合粉砕選流上層・下層	巻上上層	8.6	7.1	5.55	17	40	ナデ	横ナナナ	10Y38-4 浅黄褐色	10Y38-4 浅黄褐色	2.5mm以下の長石・石英・チャート・赤、黒色粒子を含む	品				
72054	12	K25	複合粉砕選流下層	巻上上層	15.3	7.0	8.6	11.4	92	横ナナナナ	ハナナナ	73Y38-4 褐色	73Y37-4 にふい-褐色	05-2mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を含む	品				
72055	12	K25	複合粉砕選流下層	平下り上層	4.5	4.3	1.95	6.8	7.3	ナデ	ナデ	23Y6-1 黄褐色	10Y37-3 にふい-黄褐色	0.05mmの白色粒子を少量含む	品				
72056	12	L25	複合粉砕選流下層	巻上上層	21.7		11.85	33	120	横ナナナ	横ナナナ	10Y37-3 にふい-黄褐色	10Y37-2 にふい-黄褐色	05-1mmの長石・石英・チャート・赤、黒色粒子を含む	品	つまみ付品			
72057	12	K25	複合粉砕選流下層	巻上上層				4.8	120	ナデ	横ナナナ	10Y37-2 にふい-黄褐色	10Y37-2 にふい-黄褐色	2mm以下の長石・石英・チャート・赤褐色粒子を含む	品	内側裏面			
72058	12	K25-L25	複合粉砕選流下層	巻上上層				3.1	120	ナデ	ナデ	5Y2-1 黒色	5Y36-4 にふい-褐色	2mm以下の長石・石英・チャート・赤褐色粒子を含む	品	内側裏面			
72059	12	K24	複合粉砕選流下層	巻上上層				4.6	120	ナデ	ナデ	10Y38-3 浅黄褐色	10Y38-2 浅黄褐色	2mm以下の長石・石英・チャート・赤褐色粒子を含む	品	内側裏面			
72060	12	K25	複合粉砕選流下層	巻上上層				1.9	90	ハナナナ	ハナナナ	73Y37-6 にふい-褐色	73Y37-6 にふい-褐色	2mm以下の長石・石英・チャート・赤褐色粒子を含む	品				
72061	12	K25	複合粉砕選流下層	巻上上層				5.4	120	ナデ	ナデ	10Y38-3 浅黄褐色	10Y38-3 浅黄褐色	1mm以下のチャート、赤、黒色粒子を含む	品	中心			
72062	8	A16	複合粉砕選流下層	巻上上層				4.4	120	ナデ	ナデ	10Y38-2 浅黄褐色	73Y37-6 黄褐色	1mm以下の長石・石英・チャート・赤褐色粒子を含む	品	内側裏面			
72063	12	K25	複合粉砕選流上層	巻上上層				6.8	120	ナデ	横ナナナ	5Y38-1 灰白色	73Y36-6 黄褐色	2mm以下の長石・チャート・砂質、赤色粒子を含む	品	内側裏面			
72064	12	K25	複合粉砕選流上層	巻上上層				7.0	50	ナデ	ナデ	10Y38-3 浅黄褐色	10Y38-3 浅黄褐色	1mm以下の長石・チャート・砂質、赤色粒子を含む	品	内側裏面			
72065	12	K25-36	複合粉砕選流上層	巻上上層				8.0	120	ナデ	横ナナナ	10Y38-6 浅黄褐色	73Y36-6 黄褐色	2mm以下の長石・石英・チャート・赤、赤褐色粒子を含む	品				
72066	12	K24	複合粉砕選流上層	巻上上層				3.3	120	ハナナナ	ハナナナ	5Y37-6 黄褐色	10Y37-3 にふい-黄褐色	1mm以下の長石・石英・チャート・赤褐色粒子を含む	品				
72067	12	K25	複合粉砕選流下層	巻上上層				6.2	120	ハナナナ	ナデ	23Y7-3 黄褐色	23Y7-3 黄褐色	2mm以下の長石・石英・チャートを含む	品	内側裏面			
72068	12	L26	複合粉砕選流下層	巻上上層				3.8	120	ハナナナ	ナデ	73Y38-4 黄褐色	10Y38-4 浅黄褐色	1mm以下の長石・石英・チャート・赤褐色粒子を含む	品	中心			
72069	12	K36	複合粉砕選流下層	巻上上層				14.1	31	横ナナナ	横ナナナ	10Y38-4 浅黄褐色	10Y38-4 浅黄褐色	2mm以下の長石・チャート・砂質、赤褐色粒子を含む	品	中心			
72070	12	K25	複合粉砕選流上層	上選部				16.5	11.7	横ナナナ	横ナナナ	10Y37-2 にふい-黄褐色	10Y37-2 にふい-黄褐色	0.5-1mmの長石・石英・チャート・赤褐色粒子を少量含む	品	外側スリ付			
72071	12	K25-24	複合粉砕選流上層	上選部				18.5	1.6	横ナナナ	横ナナナ	10Y37-2 にふい-黄褐色	10Y37-2 にふい-黄褐色	1-2mmの長石・石英・チャート・赤褐色粒子を含む	品	外側裏面・選部			
72072	12	L24	複合粉砕選流上層	上選部				13.0	7.3	28	60	横ナナナ	横ナナナ	10Y37-3 にふい-黄褐色	10Y38-4 浅黄褐色	0.5-1mmの長石・チャート・赤褐色粒子を少量含む	品	内側裏面	
72073	12	J24	複合粉砕選流上層	上選部				13.2	8.2	40	11	99	横ナナナ	横ナナナ	0.5-3mmの長石・チャート・赤褐色粒子を少量含む	品	底面・裏面・選部		
72074	12	H21-L27	複合粉砕選流上層	上選部				12.8	6.5	38	67	120	横ナナナ	横ナナナ	10Y37-3 にふい-黄褐色	23Y7-2 黄褐色	0.5-1mmの長石・チャート・赤褐色粒子を少量含む	品	底面
72075	12	J24	複合粉砕選流上層	上選部				16.9	17				10Y37-4 にふい-黄褐色	10Y37-4 にふい-黄褐色	1mm以下の長石・石英・チャートを含む	品			
72076	12	G23	複合粉砕選流上層	上選部				21.5	1.1				10Y38-3 にふい-黄褐色	23Y3-3 黄褐色	1-2mmの長石・石英・チャートを含む	品	外側スリ付		
72077	12	K24	複合粉砕選流上層	上選部				22.1	1.5				73Y38-4 黄褐色	73Y38-4 黄褐色	1mm以下の長石・石英・チャートを含む	品			
72078	12	J24	複合粉砕選流上層	上選部				26.0	1.9				73Y34-2 黄褐色	73Y37-4 黄褐色	1mm程度の白、赤褐色粒子を含む	品	内側スリ付		
72079	12	G23-24	複合粉砕選流上層	上選部				25.4	1.7				10Y37-4 にふい-黄褐色	10Y38-4 浅黄褐色	2mm以下の長石・赤褐色粒子を含む	品			
72080	12	G23	複合粉砕選流上層	上選部				27.0	1.3				73Y38-4 黄褐色	10Y37-3 にふい-黄褐色	1mm程度の長石・石英・チャート・赤褐色粒子を少量含む	品			
72081	12	G23	複合粉砕選流上層	上選部				27.3	1.3				73Y37-6 にふい-褐色	73Y37-4 にふい-褐色	1-2mmの長石・石英・チャートを含む	品			
72082	12	J24	複合粉砕選流上層	上選部				26.1					10Y38-2 浅黄褐色	10Y38-2 浅黄褐色	1mm程度の赤褐色粒子を含む	品			
72083	10	G19-20	複合粉砕選流上層	上選部				35.3	21.0	11.6	6.8	38		73Y37-6 黄褐色	73Y37-6 黄褐色	0.5mmの長石・石英・チャート・赤、黒色粒子を含む	品	選部	
72084	8	E20	複合粉砕選流上層	上選部											1mm以下の白・黒色粒子を含む	品	選部		
72085	12	G25	複合粉砕選流上層	上選部											1mm以下の白・黒色粒子を含む	品	選部		
72086	11	G22	複合粉砕選流上層	選部				11.9	12				10Y7-1 灰白色	10Y9-1 灰白色	1mm以下の長石・黒色粒子を含む	品	選部		
72087	10	G23	複合粉砕選流上層	選部				11.7	13				5Y7-6 灰白色	5Y7-1 灰白色	1mm以下の長石・黒色粒子を含む	品	選部		
72088	12	G23	複合粉砕選流下層	選部				11.9	07				5Y6-1 灰白色	5Y6-1 灰白色	0.5-1mmの白色粒子を少量含む	品	選部		

第4章 遺構と遺物

発掘番号	坑	デッド	遺構・部位	部材・部材	口径φ(mm)	残存率(%)	残存率(%)	調査・鑑定・発掘	内面		外面		土質	備考
									内面	外面	内面	外面		
7404	8	A20	複分回廊通路 上層	瓦葺部	11.8	21	21	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	S5Y-1 灰白色	S5Y-1 灰白色	1.5m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
7405	10	G30	複分回廊通路 下層	瓦葺部	12.0		21	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	N6-9 灰白色	N6-9 灰白色	1m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
7406	12	K24	複分回廊通路 上層	瓦葺部	12.3	31	1.8	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	N4-9 灰白色	N3-9 灰白色	0.5~1.5mの長石・ナ 黒色粒子を少量含む	瓦	
7407	12	H21-2	複分回廊通路 下層	瓦葺部	12.6		1.5	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	N6-9 灰白色	N6-9 灰白色	2m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
7408	12	J-24	複分回廊通路 下層	瓦葺部	12.7	26	6.2	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	S7-1 灰白色	S7-1 灰白色	0.5~5mの長石・ナ 黒色粒子を少量含む	瓦	
7409	10	G21	複分回廊通路 下層	瓦葺部	12.4	2.5	1.1	同軸ナデ・同軸 ヘラナデ・建 設部材のみナデ	同軸ナデ	N7-9 灰白色	N7-9 灰白色	1.5m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
74010	10	F20-G21	複分回廊通路 上層	瓦葺部	13.4	3.5	2.0	同軸ナデ・同軸 ヘラナデ・建 設部材のみナデ	同軸ナデ	S5Y-1 灰白色	S5Y-1 灰白色	0.5~8mの長石・ナ 黒色粒子を少量含む	瓦	
74011	10	G20	複分回廊通路 下層	瓦葺部	13.7		4.0	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	N6-9 灰白色	N6-9 灰白色	0.5~1mの長石・ナ 黒色粒子を少量含む	瓦	
74012	10	G20	複分回廊通路 下層	瓦葺部	13.7	3.45	0.7	同軸ナデ・同軸 ヘラナデ・建 設部材のみナデ	同軸ナデ	N6-9 灰白色	N6-9 灰白色	0.5~1.5mの長石・右 ナデ・黒色粒子を 少量含む	瓦	
74013	12	H23	複分回廊通路 下層	瓦葺部	14.0		2.3	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	N6-9 灰白色	N6-9 灰白色	2m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
74014	10	G20	複分回廊通路 下層	瓦葺部	14.3		4.9	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	N7-9 灰白色	N7-9 灰白色	0.5~1mの長石・ナ 黒色粒子を少量含む	瓦	人形土師器 (産)
74015	8	A15	複分回廊通路 上層	瓦葺部	13.9		0.7	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	N6-9 灰白色	N6-9 灰白色	1.5m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
74016	8	A19	複分回廊通路 上層	瓦葺部	13.2		1.4	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	S7-1 灰白色	S7-1 灰白色	1.5m以下の長石・右 ナデ・黒色粒子を 少量含む	瓦	
74017	12	H22	複分回廊通路 上層	瓦葺部	15.2		1.9	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	S5Y-1 灰白色	S5Y-1 灰白色	2m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	外周に緑色 土に自然
74018	7	G20-H22	複分回廊通路 上層	瓦葺部	14.8		1.8	同軸ナデ	同軸ナデ	S7-1 灰白色	S7-1 灰白色	1.5m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
74019	12	G-25	複分回廊通路 上層	瓦葺部	14.8	3.55	0.3	同軸ナデ・同軸 ヘラナデ・建 設部材のみナデ	同軸ナデ	S5Y-1 灰白色	S5Y-1 灰白色	0.5~1mの長石・ナ 黒色粒子を少量含む	瓦	中央部
74020	12	H22	複分回廊通路 下層	瓦葺部	14.8		2.5	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	N6-9 灰白色	N6-9 灰白色	2m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
74021	11	F24	複分回廊通路 上層	瓦葺部	15.4		3.0	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	N5-9 灰白色	N5-9 灰白色	2m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
74022	4	F19	複分回廊通路 上層	瓦葺部	16.4		1.7	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	N6-9 灰白色	S5Y-1 灰白色	2m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
74023	12	H21-2	複分回廊通路 上層	瓦葺部	18.4		1.9	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	S5Y-1 灰白色	S5Y-1 灰白色	1.5m以下の長石・黒 色粒子を少量含む	瓦	
74024	4	E20	複分回廊通路 上層	瓦葺部				同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	10Y-1 灰白色	10Y-1 灰白色	0.5~1mの長石・ナ 黒色粒子を少量含む	瓦	
74025	12	H22	複分回廊通路 上層	瓦葺部	16.0		3.6	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	10Y30-1 黄褐色	2.0Y-1 黄褐色	0.5~3mの長石・ナ 黒色粒子を少量含む	瓦	人形土師器 (産)
74026	4	A17	複分回廊通路 上層	瓦葺部	15.2		1.2	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	S7-1 灰白色	S7-1 灰白色	1m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
74027	12	K24	複分回廊通路 上層	瓦葺部	16.4		1.6	同軸ナデ・同軸 ヘラナデ・建 設部材のみナデ	同軸ナデ	N7-9 灰白色	N7-9 灰白色	0.5~2mの長石・右 ナデ・黒色粒子を 少量含む	瓦	
74028	10	G20	複分回廊通路 下層	瓦葺部	16.4		2.5	同軸ナデ・同軸 ヘラナデ	同軸ナデ	S5Y-1 灰白色	S5Y-1 灰白色	0.5~1.5mの長石・右 ナデ・黒色粒子を 少量含む	瓦	
74029	10	G30	複分回廊通路 下層	瓦葺部	16.3		1.1	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	N7-9 灰白色	N7-9 灰白色	2m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
74030	10	G20	複分回廊通路 上層	瓦葺部	16.5		1.3	同軸ナデ	同軸ナデ	N6-9 灰白色	N6-9 灰白色	2m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
74031	12	K25	複分回廊通路 上層	瓦葺部	17.0		1.5	同軸ナデ	同軸ナデ	2.0Y3-1 灰黄色	2.0Y3-1 灰黄色	1m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	自然
74032	10	G20	複分回廊通路 上層	瓦葺部	16.8		1.3	同軸ナデ	同軸ナデ	7.5Y3-1 灰白色	7.5Y3-1 灰白色	1.5m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
74033	10	G20	複分回廊通路 下層	瓦葺部	16.8		0.8	同軸ナデ・ヘラ 罫りのみナデ	同軸ナデ	10Y7-1 灰白色	10Y7-1 灰白色	1.5m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
74034	12	H23	複分回廊通路 上層	瓦葺部	21.0		1.7	同軸ナデ・同軸 ヘラナデ	同軸ナデ	S5Y-1 灰白色	N7-9 灰白色	1.5m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
74035	4	E20	複分回廊通路 上層	瓦葺部	11.9	8.5	3.4	同軸ナデ	同軸ナデ	S7-1 灰白色	N7-9 灰白色	0.5~1mの長石・ナ 黒色粒子を少量含む	瓦	外周自然
74036	12	E24	複分回廊通路 トレンチ下層	瓦葺部				同軸ナデ	同軸ナデ	N6-9 灰白色	N6-9 灰白色	2m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
74037	11	G23	複分回廊通路 上層	瓦葺部		8.1		同軸ナデ	同軸ナデ	7.5Y3-6 黄褐色	10Y27-3 にぶ黄褐色	0.5~1mの長石・右 ナデ・黒色粒子を 少量含む	瓦	
74038	11	F23	複分回廊通路 トレンチ下層	瓦葺部		7.8		同軸ナデ	同軸ナデ	N7-9 灰白色	N7-9 灰白色	6m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	
74039	12	E24	複分回廊通路 上層	瓦葺部	13.0	10.3	3.8	同軸ナデ	同軸ナデ	N6-9 灰白色	N5-9 灰白色	0.5~2mの長石・ナ 黒色粒子を少量含む	瓦	
74040	12	K-124	複分回廊通路 トレンチ上層	瓦葺部	16.1	11.6	3.7	同軸ナデ	同軸ナデ	7.5Y3-1 灰白色	N5-9 灰白色	0.5~2.5mの長石・ナ 黒色粒子を少量含む	瓦	
74041	12	H25	複分回廊通路 トレンチ下層	瓦葺部		8.7		同軸ナデ	同軸ナデ	10Y27-1 灰白色	S5Y-1 灰白色	2m以下の長石・白 黒色粒子を少量含む	瓦	

登録番号	VA	アサリ	産地・産別	品種・産別	口付 0.80	検定 0.80	容積 1.00倍	残存率 ¹² 検定	調査・鑑定・試験			内訳		加工	規格	備考			
									内訳	内訳	内訳	内訳	内訳						
70402	12	E24-24	養存用良道路 トレンチ上層	産地 無付		11.6		7.1	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア・高 付の取付の ミナア	N6-0 黒色	N6-0 黒色	3m以上の長白・黒 色粒子・ナートを含む	真				
70403	12	E22	養存用良道路 上層	産地 無付		11.6		5.8	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア・高 付の取付の ミナア	107/27-1 灰白色	57/2-1 灰白色	1.5m以下の長白・黒 色粒子・ナートを少量 含む	真				
70404	12	E23	養存用良道路 下層	産地 無付		12.2	8.6	4.0	2.0	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア・高 付の取付の ミナア	N7-0 黒色 灰白色	N7-0 黒色 灰白色	0.5-1mの長白・右 ナート・黒色粒子を 含む	真	底面汚染層 下層		
70402	12	E22	養存用良道路 上層	産地 無付		15.0	10.6	5.7	5.9	11.7	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア・高 付の取付の ミナア	57/6-1 黒色	57/4-1 黒色	0.5-1mの長白・右 ナート・黒色粒子を 少量含む	真	底面汚染層 真表上	
70403	10	G20-21	養存用良道路 下層	産地 無付		13.8	10.2	5.1	1.0	2.0	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア・高 付の取付の ミナア	N7-0 黒色 灰白色	N6-0 黒色	2m以下の長白・黒 色粒子・ナートを含む	真		
70404	11	E24	養存用良道路 上層	産地 無付		14.4	9.8	3.7	3.3	5.8	同転ナア	同転ナアの ミナア	N7-0 黒色 灰白色	N5-0 黒色	0.5-1mの長白・ナ ート・黒色粒子を少 量含む	真	中 心 輸		
70403	12	E23	養存用良道路 上層	産地 無付		14.4	9.3	5.6	7.2	12.0	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア・高 付の取付の ミナア	57/7-1 灰白色	57/6-1 黒色	0.5-2mの長白・ナ ートを含む	真		
70404	12	K36	養存用良道路 上層	産地 無付		13.0	8.5	4.3	0.8	1.8	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア・高 付の取付の ミナア	N6-0 黒色	N6-0 黒色	0.5-1mの長白・ナ ート・黒色粒子を 少量含む	真		
70407	8	A16	養存用良道路 下層	産地 無付		17.1	12.5	6.1	4.1	3.0	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア・高 付の取付の ミナア	57/6-1 黒色	57/3-1 黒色	0.5-2mの長白・ナ ート・黒色粒子を 含む	真	外周自熱 輸	
70408	10	G20	養存用良道路 下層	産地 無付			9.3			3.0	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア・高 付の取付の ミナア	107/2-1 灰白色	N6-0 黒色	1m以下の長白・黒 色粒子・ナート・赤 色粒子を含む	真		
70409	8	A16	養存用良道路 上層	産地 無付			9.8			3.3	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア・高 付の取付の ミナア	N7-0 黒色 灰白色	N6-0 黒色	3m以下の長白・黒 色粒子・ナートを含む	真		
70410	11	F24	養存用良道路 トレンチ	産地 無付			7.2			6.0	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア・高 付の取付の ミナア	N6-0 黒色	N6-0 黒色	3m以下の長白・黒 色粒子・ナートを含む	真		
70411	8	A15	養存用良道路 トレンチ	産地 無付			16.8	9.3	5.75	0.7	4.5	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア・高 付の取付の ミナア	7/37/6-1 灰白色	N6-0 黒色	0.5-1.5mの長白・右 ナート・黒色粒子を 含む	真	
70412	10	G21	養存用良道路 トレンチ	産地 無付			11.9	8.0	3.75	4.1	7.0	同転ナア	同転ナアの ミナア	107/3/2-2 灰白色	2/37/2-2 灰白色	0.5-2.5mの長白・ナ ート・黒色粒子を 少量含む	真	板 取 上 心 輸	
70413	12	K38	養存用良道路 上層	産地 無付			11.6	8.0	3.6	2.9	6.2	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	N6-0 黒色	107/3/1-1 灰白色	0.5-2mの長白・ナ ート・黒色粒子を少 量含む	真	
70414	12	K-125	養存用良道路 トレンチ上層	産地 無付			11.8	8.5	3.3	7.3	10.0	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	7/37/7-1 灰白色	7/37/7-1 灰白色	0.5-1.5mの長白・右 ナート・黒色粒子を 少量含む	真	
70415	12	H25	養存用良道路 トレンチ上層	産地 無付			12.2	8.2	3.30	2.9	5.0	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	107/6-1 黒色	N6-0 黒色	0.5-1mの長白・右 ナート・黒色粒子を 含む	真	
70416	12	E22	養存用良道路 上層	産地 無付			11.5	7.1	3.0	2.3	4.1	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	N5-0 黒色	N5-0 黒色	0.5-1mの長白・右 ナート・黒色粒子を 含む	真	
70417	11	G22	養存用良道路 トレンチ上層	産地 無付			12.3	8.5	3.5	2.9	6.2	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	7/37/6-1 灰白色	7/37/7-1 灰白色	0.5-1mの長白・ナ ート・黒色粒子を 少量含む	真	
70418	6	E24	養存用良道路 トレンチ下層	産地 無付			12.6	8.6	2.7	2.9	1.1	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	107/7-1 灰白色	7/37/7-1 灰白色	2m以下の長白・黒 色粒子・ナートを含む	真	
70419	8	A15	養存用良道路 トレンチ	産地 無付			11.8	7.2	3.2	4.2	6.3	同転ナア	同転ナアの ミナア	107/6-1 黒色	107/6-1 黒色	0.5-2mの長白・ナ ート・黒色粒子を 含む	真		
70420	10	F20-F20-G20	養存用良道路 上層	産地 無付			12.2	9.0	3.4	4.1	7.0	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	N6-0 黒色	N6-0 黒色	0.5-1mの長白・ナ ートを含む	真	
70420	12	K24-25	養存用良道路 トレンチ下層	産地 無付			12.4	8.4	3.25	3.1	12.0	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	107/6-1 黒色	107/6-1 黒色	0.5-3.5mの長白・ナ ート・黒色粒子を 含む	真	
70422	12	H21-22	養存用良道路 上層	産地 無付			12.6	8.6	2.95	3.2	6.2	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	57/6-1 黒色	57/6-1 黒色	0.5-3.5mの長白・ナ ート・黒色粒子を 含む	真	
70423	12	H-124	養存用良道路 トレンチ上層	産地 無付			12.8	9.3	3.3	6.3	12.0	同転ナア	同転ナアの ミナア	7/37/6-1 灰白色	7/37/6-1 灰白色	0.5-1mの長白・ナ ート・黒色粒子を 含む	真	フ ーム 輸	
70424	12	E23	養存用良道路 下層	産地 無付			12.7	8.8	2.85	1.1	2.0	同転ナア	同転ナアの ミナア	107/6-1 黒色	107/6-1 黒色	2m以下の長白・黒 色粒子・ナートを含む	真		
70425	10	G21	養存用良道路 上層	産地 無付			12.5	8.4	2.85	3.9	4.2	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	57/6-1 黒色	57/6-1 黒色	0.5-1mの長白・ナ ート・黒色粒子を 含む	真	底 面 汚 染 層 真 上 心 輸
70426	12	J24	養存用良道路 下層	産地 無付			13.0	8.3	3.3	7.0	11.1	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	107/3/6-1 灰白色	107/3/6-1 灰白色	0.5-1.5mの長白・ナ ートを少量含む	真	底 面 汚 染 層 真 上 心 輸
70427	12	J24	養存用良道路 上層	産地 無付			13.4	8.9	3.3	3.7	9.3	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	N6-0 黒色	N6-0 黒色	0.5-1mの長白・ナ ート・黒色粒子を 含む	真	底 面 汚 染 層 真 上 心 輸
70421	6	E20-21	養存用良道路 下層	産地 無付			12.9	9.2	3.4	1.9	3.3	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	107/7-1 灰白色	N7-0 黒色 灰白色	0.5-1.5mの長白・右 ナート・黒色粒子を 含む	真	外 周 汚 染 層
70422	12	E25	養存用良道路 トレンチ上層	産地 無付			12.0	8.4	3.4	4.5	2.0	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	107/6-1 黒色	107/6-1 黒色	0.5-2mの長白・ナ ート・黒色粒子を 含む	真	
70423	10	G20	養存用良道路 トレンチ上層	産地 無付			12.9	9.8	3.25	1.3	1.9	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	107/6-1 黒色	107/6-1 黒色	4m以下の長白・右 ナート・黒色粒子を 含む	真	
70424	12	E24	養存用良道路 トレンチ上層	産地 無付			12.7	8.5	3.3	1.9	2.8	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	N6-0 黒色 灰白色	N6-0 黒色 灰白色	0.5-2mの長白・右 ナート・黒色粒子を 含む	真	
70425	12	G25	養存用良道路 トレンチ上層	産地 無付			13.0	8.4	3.6	0.8	12.0	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	107/6-1 黒色	107/6-1 黒色	0.5-2mの長白・ナ ート・黒色粒子を 少量含む	真	
70426	12	H21-22	養存用良道路 下層	産地 無付			12.9	9.1	3.25	3.4	5.0	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	57/6-1 黒色	57/6-1 黒色	0.5-1.5mの長白・ナ ート・黒色粒子を 含む	真	
70427	12	E21	養存用良道路 下層	産地 無付			13.5	10.0	3.3	5.6	6.3	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	107/3-1 灰白色	7/37/6-1 灰白色	0.5-2.5mの長白・ナ ート・黒色粒子を 少量含む	真	
70428	12	H25	養存用良道路 上層	産地 無付			13.4	10.0	3.3	0.8	2.9	同転ナア	同転ナアの ミナア	107/7-1 灰白色	107/7-1 灰白色	0.5-1mの長白・ナ ート・黒色粒子を 含む	真	中 心 輸	
70429	12	E23	養存用良道路 上層	産地 無付			13.9	9.5	3.4	2.0	2.1	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	107/6-1 黒色	107/6-1 黒色	2.5m以下の長白・黒 色粒子・ナートを含む	真	
70430	10	F-G20	養存用良道路 上層	産地 無付				8.5			4.1	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	N7-0 黒色 灰白色	N7-0 黒色 灰白色	0.5-1mの長白・ナ ート・黒色粒子を 含む	真	
70431	10	G20	養存用良道路 上層	産地 無付			13.8	9.9	3.2	1.9	3.1	同転ナア	同転ナア	ヘラ型 のミナア	57/6-1 黒色	57/6-1 黒色	0.5-2.5mの長白・ナ ート・黒色粒子を 含む	真	

第4章 遺構と遺物

発掘番号	SA	デッド	遺構・埋込	部材・部材	口径φ	深さφ	深さ	残存率(%)	調査・鑑定・発掘		内装		敷土	構成	備考	
									内面	外面	内面	外面				
200412	10	G20	横谷石段遺跡	埋込部	13.6	8.0	3.35	07	6.3	同軸ナデ	同軸ナデ	1077/1 灰白	1077/1 灰白	3m以下の灰・黒色粉子・赤土を含む	中層	板敷2し面
200413	8	A16	横谷石段遺跡	埋込部	14.2	11.4	2.2	13	1.7	同軸ナデ	同軸ナデ	7576/1 灰白	7576/1 灰白	1m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を少量含む	高	
200414	7	K30	横谷石段遺跡	埋込部	14.5	10.4	2.15	12	1.2	同軸ナデ	同軸ナデ	10767/1 灰白	10767/1 灰白	1m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を含む	高	
200415	8	C19	横谷石段遺跡	埋込部	14.9	12.4	1.9	07	1.7	同軸ナデ	同軸ナデ	7577/1 灰白	7577/1 灰白	1m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を含む	高	
200416	11	G24	横谷石段遺跡	埋込部	14.8	13.4	2.25	24	2.6	同軸ナデ	同軸ナデ	1077/1 灰白	1077/1 灰白	1m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を少量含む	高	
200417	11	G20	横谷石段遺跡	埋込部	14.8	12.7	2.7	13	2.0	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	1076/1 灰白	1076/1 灰白	0.5-1mの灰・白・赤土・黒色粉子・赤土を含む	高	内装2し面
200418	6	F20	横谷石段遺跡	埋込部	13.2	13.0	2.3			同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	1077/1 灰白	1077/1 灰白	1.5m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を含む	高	
200419	10	G20	横谷石段遺跡	埋込部	15.4	11.4	2.06	16	2.9	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	7576/1 灰白	7576/1 灰白	2m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を少量含む	高	
200420	12	B25	横谷石段遺跡	埋込部	14.9	12.0	2.45	15	4.6	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	1077/1 灰白	1077/1 灰白	1.5m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を含む	高	
200421	8	A16	横谷石段遺跡	埋込部	15.8	13.2	1.7	19	1.9	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	1077/1 灰白	1077/1 灰白	1m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を含む	高	
200422	8	A16	横谷石段遺跡	埋込部	13.7	12.6	2.1	08	3.5	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	1077/1 灰白	1077/1 灰白	2m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を含む	高	
200423	10	F20	横谷石段遺跡	埋込部	15.4	12.8	2.55	20	2.5	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	1076/1 灰白	1076/1 灰白	0.5-2.5mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	
200424	8	A16	横谷石段遺跡	埋込部	13.9	12.2	1.78	01	10.8	同軸ナデ	同軸ナデ	5676/1 灰白	5676/1 灰白	5m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を少量含む	高	板敷2し面
200425	12	G25	横谷石段遺跡	埋込部	13.6	13.0	2.05	3.5	3.5	同軸ナデ	同軸ナデ	1077/1 灰白	1077/1 灰白	0.5-2mの灰・白・黒色粉子・赤土を少量含む	高	
200426	12	H21	横谷石段遺跡	埋込部	13.6	12.3	2.5	19	2.5	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	1077/1 灰白	7577/1 灰白	1m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を含む	高	
200427	12	H22	横谷石段遺跡	埋込部	15.6	12.6	2.2	07	1.7	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	7577/1 灰白	7577/1 灰白	1.5m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を含む	高	内装全体に自然蝕
200428	11	F23	横谷石段遺跡	埋込部	16.1	13.6	2.15	01	2.9	同軸ナデ	同軸ナデ	1077/1 灰白	1077/1 灰白	1m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を含む	高	
200429	10	G20	横谷石段遺跡	埋込部	15.9	13.2	2.0	12	1.3	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	1076/1 灰白	1076/1 灰白	1.5m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を含む	高	
200430	12	H21-22	横谷石段遺跡	埋込部	16.1	13.2	2.35	6.8	12.0	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	576/1 灰白	576/1 灰白	0.5-1.2mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	
200431	12	H22	横谷石段遺跡	埋込部	16.1	12.0	2.7	6.0	23.0	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	5676/1 灰白	5676/1 灰白	0.5-4mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	
200432	6	O30	横谷石段遺跡	埋込部	16.0	13.2	2.25	13	2.3	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	7577/1 灰白	7577/1 灰白	1m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を含む	高	
200433	10	G20	横谷石段遺跡	埋込部	16.2	14.5	2.25	09	4.1	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	7576/1 灰白	1076/1 灰白	2m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を含む	高	
200434	10	G19-20	横谷石段遺跡	埋込部	16.5	13.0	2.3	07	1.0	同軸ナデ	同軸ナデ	1076/1 灰白	1076/1 灰白	1.5m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を含む	高	
200435	10	G21	横谷石段遺跡	埋込部	16.7	13.5	2.9	1.2	3.0	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	1076/1 灰白	7576/1 灰白	0.5-1mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	
200436	12	H21-22	横谷石段遺跡	埋込部	16.5	12.8	2.4	17	5.0	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	5676/1 灰白	5676/1 灰白	0.5-1mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	板敷2し面・1層目に自然蝕
200437	12	H22-23	横谷石段遺跡	埋込部	16.9	12.9	2.25	21	3.0	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	7577/1 灰白	7577/1 灰白	0.5-3mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	
200438	8	A16	横谷石段遺跡	埋込部	16.7	13.1	2.4	21	2.4	同軸ナデ	同軸ナデ	1076/1 灰白	1076/1 灰白	0.5-4mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	
200439	10	G21	横谷石段遺跡	埋込部	17.4	14.0	2.9	27	5.9	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	1076/1 灰白	1076/1 灰白	0.5-2mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	
200440	12	H25	横谷石段遺跡	埋込部	17.1	14.7	2.0	18	2.1	同軸ナデ	同軸ナデ	7577/2 灰白	7577/1 灰白	1.5m以下の灰・白・黒色粉子・赤土を含む	高	
200441	8	A16	横谷石段遺跡	埋込部	17.7	14.3	2.4	04	2.1	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	2577/1 灰白	2577/1 埋込	1.0-2mの白色粉子・赤土を少量含む	高	
200442	11	G22	横谷石段遺跡	埋込部	17.8	14.6	3.05	5.0	5.3	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	5676/1 灰白	5676/1 灰白	0.5-2mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	
200443	10	G21	横谷石段遺跡	埋込部	17.8	15.6	2.2	3.0	6.2	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	5676/1 灰白	5676/1 灰白	0.5-1mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	
200444	12	H22	横谷石段遺跡	埋込部	17.8	14.8	2.7	34	3.5	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	5676/1 灰白	5676/1 灰白	0.5-1mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	
200445	12	H22	横谷石段遺跡	埋込部	18.3	13.6	2.45	1.0	2.2	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	576/1 灰白	576/1 灰白	0.5-3mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	
27041	12	H21-22	横谷石段遺跡	埋込部	17.5	15.0	2.8	7.6	12.0	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	7577/1 灰白	7577/1 灰白	0.5-2mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	板敷内装に自然蝕
27042	12	H22	横谷石段遺跡	埋込部	15.9	11.6	2.4	4.8	2.4	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	7576/1 灰白	576/1 灰白	0.5-2mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	板敷内装に自然蝕
27043	12	H22	横谷石段遺跡	埋込部	15.1	12.9	2.36	22	2.2	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	576/1 灰白	576/1 灰白	1m以下の灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	板敷内装に自然蝕
27044	12	H22	横谷石段遺跡	埋込部	14.0				0.5	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	5676/1 灰白	5676/1 灰白	0.5-2mの白色粉子を含む	高	板敷2し面・板敷内装に自然蝕
27045	12	H22	横谷石段遺跡	埋込部	17.4	13.0	3.35	7.3	12.0	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	577/1 灰白	7577/1 灰白	0.5-4mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	板敷内装に自然蝕
27046	10	G21-H21-22	横谷石段遺跡	埋込部	17.6	13.2	2.9	34	7.5	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	7576/1 灰白	577/1 灰白	0.5-2.2mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	板敷内装に自然蝕
27047	12	H25	横谷石段遺跡	埋込部	17.5				2.1	同軸ナデ	同軸ナデ	5676/1 灰白	5676/1 灰白	0.5-1mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	1層目内装面に自然蝕
27048	8	B16	横谷石段遺跡	埋込部	16.5				1.4	同軸ナデ	同軸ナデ	5676/1 灰白	5676/1 灰白	0.5-1mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	
27049	8	A16	横谷石段遺跡	埋込部	19.1				1.8	同軸ナデ	同軸ナデ	5676/1 灰白	1074/1 灰白	0.5-4mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	
27049-10	12	H24	横谷石段遺跡	埋込部	62.3				1.7	同軸ナデ	同軸ナデの 5ナデ	5676/1 灰白	5676/1 灰白	0.5-3mの灰・白・赤土・黒色粉子を含む	高	
28041	8	A19	横谷石段遺跡	埋込部	12.0				1.5	同軸ナデ	同軸ナデ	575/1 灰白	575/1 灰白	1-2mの白色粉子を含む	高	

開発番号	SR	デッド	選機・保証	部材・部材	口径φ	機坪φ	容積φ	積存φ	積存φ	積存φ	演習・給文・給熱			色調		加工	構成	備考
											内面	外面	底面	内面	外面			
78002	12	J24	複合引取道路 上層	複合部	21.8			3.5			同軸ナデ	同軸ナデ	75V1 赤色	75V1 赤色	0.5-2mmの黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
78003	12	K24	複合引取道路 上層	複合部	6.1	11.2	209	0.5	128		同軸ナデ	同軸ナデ	10V107-4 赤色	2.5V7-1 赤色	0.5-5mmの黒色・白 色粒子を少量含む		赤	外観に自然感
78004	6	E20	複合引取道路 上層	複合部							ナデ・同軸ナデ	同軸ナデ	2.5V7-1 赤色	2.5V7-1 赤色	1mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
78005	10	G20	複合引取道路 上層	複合部							同軸ナデナデ のち、ホウロウ 加工	同軸ナデ	2.5V7-1 赤色	7.5V16-1 赤色	1mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
78006	6	E20	複合引取道路 上層	複合部	16.4			1.5			同軸ナデ	同軸ナデ	2.5V16-1 赤色	2.5V16-1 赤色	2mm以下の黒色粒子 を少量含む		赤	
78007	12	E23	複合引取道路 上層	複合部							同軸ナデ	同軸ナデ	N7 赤色	2.5V16-1 赤色	0.5-2.5mmの黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
78008	11	E23	複合引取道路 上層	複合部		1.30			3.0		ナデ	ナデ	2.5V16-1 赤色	2.5V16-1 赤色	0.5-1.5mmの黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
78009	8	A16	複合引取道路 上層	複合部							同軸ナデ	同軸ナデ	2.5V7-1 赤色	2.5V16-1 赤色	1mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
78010	11	E24	複合引取道路 上層	複合部	幅 12.5			4.7			ナデ・ナデ	ナデ	7.5V16-1 赤色	5V16-1 赤色	0.5-2mmの黒色・白 色粒子を少量含む		赤	内面にスリ目
78011	8	A15	複合引取道路 上層	複合部		11.0		4.0			ナデ	ナデ	2.5V16-1 赤色	10V107-2 赤色	0.5-1mmの白・黒色・緑色 粒子を少量含む		赤	1層目外面に 目
78012	8	A18	複合引取道路 上層	複合部							ナデ	ナデ	2.5V16-1 赤色	2.5V16-1 赤色	0.5-1mmの白・黒色・緑 色粒子を少量含む		赤	
78013	8	A20	複合引取道路 上層	複合部							ナデ	ナデ	2.5V16-1 赤色	10V107-2 赤色	0.5-1mmの白・黒色・緑 色粒子を少量含む		赤	目付目
78014	8	A17	複合引取道路 上層	複合部							ナデ	ナデ	2.5V16-1 赤色	5V16-6 赤色	0.5-1mmの白・黒色・緑 色粒子を少量含む		赤	目付目
78015	8	B18	複合引取道路 上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	2.5V16-1 赤色	0.5-1mmの白・黒色・緑 色粒子を少量含む		赤	目付目
78016	8	A17	複合引取道路 上層	複合部							ナデ	ナデ	2.5V16-1 赤色	2.5V16-6 赤色	0.5-1mmの白・黒色・緑 色粒子を少量含む		赤	目付目
78017	8	A16	複合引取道路 上層	複合部							ナデ	ナデ	2.5V16-1 赤色	2.5V16-6 赤色	0.5-1mmの白・黒色・緑 色粒子を少量含む		赤	
78018	6	F20	複合引取道路 上層	複合部		14.5		2.0			ナデ	ナデ	2.5V16-1 赤色	2.5V16-6 赤色	0.5mmの白・黒色・緑 色粒子を少量含む		赤	
78019	6	E20	複合引取道路 上層	複合部		13.1		2.0			ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	0.5mmの白・黒色・緑 色粒子を少量含む		赤	目付目
78020	12	G21	複合引取道路 上層	複合部				2.0			ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	0.5mmの白・黒色・緑 色粒子を少量含む		赤	目付目
78021	8	B18	複合引取道路 上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	0.5mmの白・黒色・緑 色粒子を少量含む		赤	目付目
78022	11	F20	複合引取道路 上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	0.5mmの白・黒色・緑 色粒子を少量含む		赤	目付目
78023	6	E20	複合引取道路 上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	0.5mmの白・黒色・緑 色粒子を少量含む		赤	目付目
78024	6	E20	複合引取道路 上層	複合部		6.0		4.0			ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	0.5mmの白・黒色・緑 色粒子を少量含む		赤	目付目
80001			工業部中区	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	構成が他と 異なる
80002	1	M7	工業部中区	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	構成が他と 異なる
80003	14	R20	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80004	4	N20	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80005	13	U29	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80006	15	V29	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80007	1	M6	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80008	4	N20	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80009	9	J4-3	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80010	15	U29	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80011	9	K2	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80012	9	L2	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80013	9	K3	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80014	9	K4	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80015	8	B16	複合部上層	複合部		12.8		5.0			ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80016	9	J2	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80017	9	K3	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80018	9	K3	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80019	9	K3	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80020	1	N5	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80021	9	L2	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80022	9	K3	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80023	9	K3	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80024	9	J2	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80025	9	L2	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80026	9	K3	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	
80027	9	K3	複合部上層	複合部							ナデ	ナデ	10V107-4 赤色	10V107-4 赤色	2mm以下の黒色・白 色粒子を少量含む		赤	

第4章 遺情と遺物

資料番号	ID	アット	遺情・類似	部材・部材	口径φ	底径φ	容積L	高さcm	調査・鑑定・発掘		内調		鑑定	備考	
									調査	内調	内調	内調			
90020	9	K2	真土	粘土上部体					ナテ・陶瓦	ナテ	10YR2/3 に赤い黄褐色	10YR2/1 に赤い黄褐色	400程度の積層・おそれ以下の厚さ・右赤・ナテを含む	外周スリ付	
90029	9	K2	真土	粘土上部体					ナテ・陶瓦・山土	ナテ	10YR2/3 に赤褐色	10YR2/3 に赤褐色	1-5mmの真土・右赤・砂質を含む	真	
90030	9	K2	真土	粘土上部体	7.6		120	5	赤土	ナテ・陶瓦	10YR2/1 に赤褐色	10YR2/2 に赤褐色	1-4mmの真土・右赤・砂質ナテを多く含む	真	
90031	7	K19	真土	粘土上部体					赤土・山土	ナテ	10YR2/4 に赤褐色	10YR2/4 に赤褐色	1mm程度の真土・黒色砂子を含む	真	
90032	1	N18	真土	粘土上部体					赤土・山土	ナテ	2.5Y7/2 に赤褐色	2.5Y7/2 に赤褐色	1-2mmの真土・右赤・砂質を多く含む	真	
90033	15	Q-R24	真土	粘土上部体	13.1		43	5	赤土	ナテ	10YR2/4 に赤褐色	10YR2/4 に赤褐色	0.5-1.5mmの真土・ナテ・黒色砂子を含む	真	
90034	1	M8	真土	粘土上部体	17.5		19	2	赤土・陶瓦	ナテ	10YR2/2 に赤褐色	10YR2/4 に赤褐色	0.5-1.5mmの真土・右赤・ナテ・黒色砂子を含む	外周スリ付	
90035	15	O22	真土	粘土上部体					ナテ	ナテ	10YR2/2 に赤褐色	10YR2/2 に赤褐色	陶瓦のみ。赤・赤色砂子を含む	真	
9004	-	-	真土	粘土上部体					ナテ・陶瓦	ナテ	2.5Y6/2 に赤褐色	2.5Y6/2 に赤褐色	1mm以下の真土・右赤・ナテを含む	真	
90035	15	U20	真土	粘土上部体					赤土・山土	ナテ	10YR2/4 に赤褐色	10YR2/4 に赤褐色	1mm以下の真土・右赤・ナテを含む	真	
9006	1	M7-8	真土	粘土上部体	16.1		107	2	赤土	ナテ	10YR2/3 に赤褐色	10YR2/3 に赤褐色	2mm以下の真土・右赤・ナテ・黒色砂子を含む	真	
9007	6	-	真土	粘土上部体	11.3		28	2	赤土	ナテ	10YR2/3 に赤褐色	10YR2/3 に赤褐色	2mm以下の真土・右赤・ナテ・砂質・赤色砂子を含む	やや	
9008	7	H17	真土	粘土上部体	11.0		31	2	ナテ	ナテ	10YR2/2 に赤褐色	10YR2/2 に赤褐色	陶瓦のみ。赤・白色砂子を含む	真	
9009	15	S25	真土	粘土上部体					赤土・山土	ナテ	5YR2/8 褐色	5YR2/8 褐色	陶瓦のみ。赤・赤色砂子を含む	真	
90010	15	Q22	灰砂質	粘土上部体	24.7		1.8	2	赤土	ナテ	10YR2/4 に赤褐色	10YR2/4 に赤褐色	1mm以下の真土・右赤・ナテ・黒色砂子を含む	やや	
90011	9	L10	真土	粘土上部体					ナテ	ナテ	5YR2/6 褐色	2.5Y7/2 褐色	2mm以下の真土・右赤・ナテ・砂質・黒色砂子を含む	やや	
90012	12	H22	真土	粘土上部体	14.8		20	2	赤土	ナテ	2.5Y6/2 褐色	2.5Y6/2 褐色	1mm程度の真土・右赤・ナテ・赤色砂子を含む	やや	
90013	3	M17	真土	粘土上部体					赤土	ナテ	10YR2/3 に赤褐色	10YR2/3 に赤褐色	1mm以下のナテ・砂質・白・赤・黒色砂子を含む	やや	
90014	3	M17	真土	粘土上部体	14.6		23	2	赤土	ナテ	10YR2/2 に赤褐色	10YR2/2 に赤褐色	陶瓦のみ。赤・黒色砂子を含む	やや	
90015	15	Q22	灰砂質	粘土上部体	16.6		2.3	2	赤土	ナテ	10YR2/4 に赤褐色	10YR2/4 に赤褐色	0.5-1mmの真土・ナテ・赤色砂子を含む	真	
90016	9	K2	真土	粘土上部体		2.5	120	2	ナテ	ナテ	10YR2/4 に赤褐色	10YR2/4 に赤褐色	1mm以下の白色砂子を含む	真	
90017	4	N20-21	真土	灰砂質	5.7		1.8	1	赤土	ナテ	10Y2/1 褐色	10Y2/1 褐色	1mm以下の真土・白・黒色砂子・ナテを含む	真	
90018	7	H12	真土	灰砂質					赤土	ナテ	2.5Y5/1 褐色	10Y2/1 褐色	1mm以下の白色砂子・ナテを含む	真	
90019	15	S25	真土・灰砂質	灰砂質	18.4		1.6	2	赤土	ナテ	2.5YR2/6 褐色	2.5YR2/6 褐色	0.5-1mmの真土・右赤・ナテ・黒色砂子を含む	内周断面磨	
90020	15	S25	灰砂質	灰砂質	10.3	7.5	3.26	1.2	赤土	ナテ	10YR2/2 に赤褐色	10YR2/2 に赤褐色	0.5-1mmの真土・右赤・ナテ・黒色砂子を含む	内周断面磨	
90023	6	F13	真土	灰砂質					ナテ	ナテ	10YR2/4 に赤褐色	10YR2/4 に赤褐色	1-2mmのナテ・砂質・赤色砂子を含む	真	
90022	12	H22	真土	灰砂質					ナテ	ナテ	2.5YR2/3 褐色	2.5YR2/3 褐色	1-3mmの真土・右赤・ナテ・砂質・赤色砂子を含む	真	
90022	12	J25	真土	灰砂質					ナテ	ナテ	2.5YR2/3 に赤褐色	2.5YR2/3 に赤褐色	1-3mmの真土・右赤・ナテ・砂質を含む	真	
90023	15	R24	灰砂質	灰砂質	11.1	2.05	120	2	赤土	ナテ	10YR2/3 に赤褐色	2.5Y5/2 褐色	0.5-1mmの真土・右赤・ナテ・黒色砂子を含む	真	
90025	4	D12	真土	灰砂質	13.9		1.2	2	赤土	ナテ	2.5Y6/1 褐色	2.5Y6/1 褐色	0.5-2mmの真土・右赤・ナテ・黒色砂子を含む	真	
90026	7	H13	灰砂質	灰砂質	13.0		21	2	赤土	ナテ	5Y6/1 褐色	5Y6/1 褐色	1mm以下の真土・白・黒色砂子・ナテを含む	真	
90027	15	R24	灰砂質	灰砂質	13.9		4.9	2	赤土	ナテ	2.5Y6/2 褐色	2.5Y7/2 褐色	0.5-1mmの真土・右赤・ナテ・黒色砂子を含む	1層断面磨	
90028	7	H1+H5	灰砂質・真土	灰砂質	16.0		3.2	2	赤土	ナテ	N7 灰白色	N7 灰白色	1mm以下の真土・白・黒色砂子を含む	真	
90029	3	M16	真土	灰砂質	13.5	2.05	6.8	2	赤土	ナテ	5Y6/1 褐色	5Y6/1 褐色	0.5-2mmの真土・ナテを多く含む	真	
90030	6	R20	真土	灰砂質	15.1		1.4	2	赤土	ナテ	5Y6/0 褐色	5Y6/0 褐色	1mm以下の真土・白・黒色砂子を含む	真	
90031	3	M12	真土	灰砂質	17.6		3.7	30	2	赤土	ナテ	5Y7/0 灰白色	10Y6/1 褐色	1mm以下の真土・右赤・ナテ・黒色砂子を含む	真
90032	9	D-85	真土	灰砂質	21.7		2.5	2	赤土	ナテ	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	0.5mm以下の真土・右赤・ナテ・黒色砂子を含む	真	
90033	7	H13	灰砂質	灰砂質	12.1	8.4	3.4	10	3	赤土	ナテ	2.5Y7/2 褐色	2.5Y7/2 褐色	0.5-1mmの真土・ナテ・黒色砂子を含む	真
90034	3	M15	真土	灰砂質	12.2	7.1	3.1	18	4	赤土	ナテ	5Y6/0 褐色	2.5Y1/1 褐色	0.5-2mmの真土・右赤・ナテ・黒色砂子を含む	真
9101	12	G-25	真土	灰砂質	12.0	8.7	3.4	3.9	5	赤土	ナテ	N7 灰白色	N7 灰白色	0.5-2mmの真土・右赤・ナテ・黒色砂子を含む	真
9102	2	-	灰砂質	灰砂質	12.9	7.8	3.0	120	2	赤土	ナテ	2.5Y6/1 褐色	2.5Y6/1 褐色	0.5-2mmの真土・ナテ・黒色砂子を含む	真
9103	7	G11	真土	灰砂質	12.8	8.0	2.5	1.1	20	赤土	ナテ	2.5Y7/2 褐色	5Y7/1 褐色	0.5-1mmの真土・ナテを含む	真
9104	8	G10	真土	灰砂質	13.6	8.2	3.3	40	2	赤土	ナテ	2.5Y6/2 褐色	2.5Y6/2 褐色	0.5-1mmの真土・右赤・ナテ・黒色砂子を含む	真
9105	3	M15	真土	灰砂質	13.7	8.5	3.1	5.2	80	赤土	ナテ	5Y5/1 褐色	10YR2/2 に赤褐色	0.5-2mmの真土・ナテ・黒色砂子を含む	真

開発番号	ID	デッド	通信・形式	部材・部材	口径φ	機坪φ	容積φ	質量φ	12月1日現在	調査・施工・発給			色調		施工	備考	
										内面	外面	底部	内面	外面			
9106	4	N20	真土	防音部	16.0	9.0	4.7	2.6	7.3	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの 回転ナデ	N6-0 N6-0	N6-0 N6-0	1m以下の真土・石膏・ シート・黒色粉子を含む	真	
9107	15	-	真土	防音部 有り	13.1	9.4	4.5	1.3	3.3	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの 高付取付の ナデ	N6-0 N6-0	2.5V5-1 真灰色	0.5~1.5mの真土・石膏・ シート・黒色粉子を含む	真	
9108	12	G-2E5	真土	防音部 有り	12.9	8.9	4.05	0.3	7.1	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ・高 付取付の ナデ	N7-0 N6-0	N6-0 N6-0	1m以下の真土・黒色 粉子・シートを含む	真	
9109	9	H8	真土	防音部 有り	9.0				6.3	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ・高 付取付の ナデ	10T7-0 真灰色	N6-0 灰色	1m以下の真土・シート を含む	真	
91010	9	E3	真土	防音部 有り	13.1	10.0	4.00	0.6	2.2	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ・高 付取付の ナデ	5V7-1 真灰色	7.5V6-1 真灰色	1m以下の真土・シート を含む	真	
91011	13	P24	真土	防音部 有り		10.8			2.7	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ・高 付取付の ナデ	5V6-1 真灰色	N6-0 真灰色	2m以下の真土・シート を含む	真	
91012	3	-	真土	防音部 有り	9.0				3.0	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ・高 付取付の ナデ	7.5V6-1 真灰色	N6-0 真灰色	0.5m以下の真土・シート・ 黒色粉子を含む	真	底面外縁に黒 刷
91013	12	G25	真土	防音部 有り	7.1				12.0	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ・高 付取付の ナデ	10T7-1 真灰色	10V6-1 真灰色	1m以下の真土・黒色 粉子・シートを含む	真	
91014	12	H28	真土	防音部 有り	7.9				2.0	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ・高 付取付の ナデ	N7-0 真灰色	N7-0 真灰色	1m以下の真土・黒色粉 子を含む	真	中心 部
91015	3	N36	真土	防音部 有り	8.2				7.5	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ・高 付取付の ナデ	N6-0 真灰色	N6-0 真灰色	1m以下の真土・石膏・ シート・黒色粉子を含む	真	環境部から高 圧に自然熱
91016	9	-	真土	防音部	7.0				9.0	回転ナデ	回転ナデ	高付・高付 取付のナ デ	10V6-0 真灰色	N6-0 真灰色	1m以下の真土・シート を含む	真	
91017	7	H13	塩水4	防音部	14.9	11.6	3.0	1.8	2.1	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ	N7-0 真灰色	7.5V7-1 真灰色	2.5m以下の真土・黒 色粉子・シートを含む	真	
91018	15	Q-2K4	塩水	防音部	15.3	10.7	3.5	0.7	5.6	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ	2.5V7-2 真灰色	2.5V7-2 真灰色	0.5~1.5mの真土・シート・ 黒色粉子を含む	真	板取し黒 刷
91019	15	Q23	塩水	防音部	15.7	12.8	2.45	3.1	4.7	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ	10V6-1 真灰色	10V6-1 真灰色	0.5~1.5mの真土・シート・ 黒色粉子を含む	真	
91020	10	GH	真土	防音部	16.3	14.5	2.2	1.2	1.2	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ	10V6-1 真灰色	N5-0 真灰色	1m以下の真土・黒色 粉子・シートを含む	真	
91021	7	H4	塩水4	防音部	15.3	11.5	2.1	2.7	1.5	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ	7.5V6-1 真灰色	7.5V6-1 真灰色	2m以下の真土・黒色 粉子・シートを含む	真	
91022	8	CL5	真土	防音部	17.8	13.6	2.15	0.3	1.2	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ	10T7-1 真灰色	10T7-1 真灰色	2m以下の真土・黒色 粉子・シートを含む	真	
91023	4	G13	塩水	防音部	14.3				2.2	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ	5V7-1 真灰色	7.5V7-1 真灰色	0.5m以下の真土・黒色 粉子・シートを含む	真	
91024	3	M15	真土	防音部	17.2	14.2	2.95	0.6	2.8	回転ナデ	回転ナデ	へら切りの ナデ	10V6-1 真灰色	10V6-1 真灰色	0.5m以下の真土・石膏・ シート・黒色粉子を含む	真	
91025	9	G10	真土	防音部	8.5			12.0		回転ナデ	回転ナデ	ナデ	7.5V6-1 真灰色	N5-0 真灰色	0.5~1.5mの真土・シート・ 黒色粉子を含む	真	
91026	14	N20-21	真土	防音部						回転ナデ	回転ナデ	ナデ	10V6-1 真灰色	10V6-1 真灰色	1.0m以下の真土・黒 色粉子・シートを含む	真	内面自然熱
91027	2	M16	真土	防音部 有						回転ナデ	回転ナデ	ナデ	7.5V7-1 真灰色	7.5V7-1 真灰色	0.5m以下の真土・黒色 粉子を含む	真	内面自然熱
91028	7	H4	真土	防音部	19.0			0.9		回転ナデ	回転ナデ	ナデ	5V7-1 真灰色	2.5V5-1 真灰色	1m以下の真土・石膏・ シート・黒色粉子を含む	真	
91029	2	-	真土	防音部 有	24.5			0.8		回転ナデ	回転ナデ	ナデ	10T7-1 真灰色	5V7-2 真灰色	1m以下の真土・石膏・ シート・黒色粉子を含む	真	
91030	8	C18	塩水	防音部 有						回転ナデ	回転ナデ	ナデ	2.5V5-1 真灰色	2.5V5-1 真灰色	0.5m以下の真土・石膏・ シート・黒色粉子を含む	真	外周自然熱
91031	7	H11	真土	防音部 有						回転ナデ	回転ナデ	ナデ	7.5V5-2 真灰色	7.5V5-2 真灰色	0.5m以下の真土・石膏・ シート・黒色粉子を含む	真	外周自然熱
9201	11	D23	真土	防音部 有						回転ナデ	回転ナデ	ナデ	N6-0 真灰色	N6-0 真灰色	2m以下の真土・石膏・ シート・黒色粉子を含む	真	
9202	2	S18	真土	防音部 有	17.0			1.8		回転ナデ	回転ナデ	ナデ	7.5V7-1 真灰色	5V6-1 真灰色	0.5m以下の真土・シート・ 黒色粉子を含む	真	内面に自然熱
9203	7	H13	塩水4	防音部	9.4			1.2		回転ナデ	回転ナデ	ナデ	N5-0 真灰色	10V3-1 真灰色	0.5~1.5mの真土・シート・ 黒色粉子を含む	真	
9204	3	M15-019	真土	防音部 有	17.3			5.9		回転ナデ	回転ナデ	ナデ	10T7-1 真灰色	N7-0 真灰色	0.5m以下の真土・シート・ 黒色粉子を含む	真	
9205	15	S24	塩水	防音部 有	30.5			12		回転ナデ	回転ナデ	ナデ	5V7-1 真灰色	5V7-1 真灰色	0.5~1.5mの真土・シート・ 黒色粉子を含む	真	
9206	15	S26	塩水	防音部 有						ナデ	ナデ	ナデ	2.5V14-4 にふく 真灰色	5V14-4 にふく 真灰色	0.5~1mの真土・黒色粉 子を含む	真	1層部内面に 黒刷
9207	10	G12	真土	防音部 有						ナデ	ナデ	ナデ	2.5V6-1 真灰色	7.5V6-1 真灰色	0.5~1mの白・黒色粉 子を含む	真	
9208	1	O6	真土	防音部 有						回転ナデ	回転ナデ	ナデ	5V65-4 にふく 真灰色	5V16-4 にふく 真灰色	0.5~1mの白・黒色粉 子を含む	真	1層部に黒 刷
9209	1	M10	真土	防音部 有						回転ナデ	回転ナデ	ナデ	5V7-1 真灰色	2.5V5-1 真灰色	0.5mの白・黒色粉子 を含む	真	小型部・1層 部に黒刷
92010	7	H6	真土	防音部 有						回転ナデ	回転ナデ	ナデ	2.5V3-1 真灰色	2.5V3-1 真灰色	0.5~1mの白・黒色粉 子を含む	真	1層部に黒 刷
92011	1	M2	真土	防音部 有						回転ナデ	回転ナデ	ナデ	2.5V7-2 真灰色	10T10-4 にふく 真灰色	0.5~1mの白・黒色粉 子を含む	真	1層部に黒 刷
92012	9	H2	真土	防音部 有						回転ナデ	回転ナデ	ナデ	10T15-1 真灰色	7.5V14-3 にふく 真灰色	0.5~1mの白・黒色粉 子を含む	真	1層部に黒 刷
92013	1	M2	真土	防音部 有						回転ナデ	回転ナデ	ナデ	10T15-2 真灰色	10T15-2 真灰色	0.5~1mの白・黒色粉 子を含む	真	1層部に黒 刷
92014	9	K8	真土	防音部 有						回転ナデ	回転ナデ	ナデ	5V36-3 にふく 真灰色	7.5V36-4 にふく 真灰色	0.5~1mの白・黒色粉 子を含む	真	1層部に黒 刷

第3表 石器観察表

検出番号	区	グリッド	遺構・層位	器種	形態	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
23088	7	H14	SB11 SP0705	削器		An	77	1432	22	192.4	1050015
28023	14	Q18	SP14309	四石	3類、やや厚手。下端にも最打痕。	An	127.6	78	59	871.3	
37003	12	L25	SK1205上層	打製石斧	3-3類。大形。基部欠。	An	144	105	25	452	
37044	12	L25	SK1205	打製石斧	1類。刃部欠。	An	67	60	26	153	
43003	1	M7	SK0114	磨製石斧		An	143.7	48	37	334.6	1100804
43013	9	L2	SK0901	打製石斧	3-3類。左側辺中程に潰れ。	An	121	169	32	598	1090602
44025	3	L16	SK0305	打製石斧	1-3類。中形。	An	127	58	17	152	
46006	7	G18	SP07209	砥石	1類。上端にも最打痕。左右側端にも最打痕。	Ss	103.3	55	34	286.7	
53001	3	N16	SD01	石鏝		An	49	59	11	23	105008
53002	9	I3	SD01	石鏝		An	64	46	9	25	105009
53003	9	I2	SD01	石鏝		An	66	31	10	17	1050016
53004	9	L8	SD01	打製石斧	1-2類。左側辺に素材面を残す。	An	116	55	22	132	
53005	9	I3	SD01	打製石斧	1-3類。中形。やや幅広く左側辺上半が湾曲。磨滅が著しい。	An	120	70	26	214	
53006	3	N17	SD01	打製石斧	2-0類。中形。基部に素材面を残す。両側辺が直線的に開く。やや幅広く平らな刃部。	An	114	93	16	253	
53007	3	M14	SD01	打製石斧	2-0類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。左側辺の刃部端が屈曲。右側辺中程に潰れ。刃部磨滅。	An	193	96	35	867	
53008	9	H2	SD01	打製石斧	2-0類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。左側辺の刃部端が屈曲。右側辺中程に潰れ。刃部磨滅。	An	197	99	45	915	107064
53009	9	L6	SD01	打製石斧	2-0類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。左端に素材面を残す。左側辺が直線的に開く。	An	215	89	41	696	
53010	13	Q26	SD01	打製石斧	2-2類。基部に素材面を残す。右側辺上位に潰れ。	An	113	80	25	251	
53011	1	M7	SD01	打製石斧	3-0類。大形。側辺下半が湾曲し丸い刃部。右側辺上位に潰れ。	An	147	98	27	328	
54001	3	M14	SD01	打製石斧	3-0類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。左側辺の刃部端が屈曲し、刃部が鋭る。刃部磨滅。	An	199	105	38	689	
54002	13	Q26	SD01	打製石斧	3-0類。大形。右端に素材面を残す。左側辺の刃部端が屈曲し、刃部が鋭る。左側辺中程に潰れ。	An	156	112	35	715	
54003	3	SD01		打製石斧	3-2類。中形。両側辺中程に潰れ。	An	110	92	29	242	1090057
54004	9	K6	SD01	打製石斧	3-2類。大形。両側辺中程に潰れ。	An	152	107	32	508	1090600
54005	9	I2	SD01	砥石	1類。上端は潤滑面。	An	110.8	50	32	232.1	
54010	9	I2	SD02	打製石斧	3-0類。中形。基部に素材面。側辺下半が湾曲し丸い刃部。	An	112	63	26	171	
54011	9	I2	SD02	打製石斧	3-0類。大形。両側辺上位に潰れ。	An	87	115	22	238	1090601
54012	9	I2	SD02	石鏝	切目石鏝。小形で扁平。	An	73	48	26	121.5	1100605
550019	7	I11	SD04 下層	石鏝		Ch	33	18	4	2	105013
550020	7	I11	SD04	打製石斧	1-0類。小形。両側辺中程が鋭く内湾。両側辺中程に潰れ。	An	113	50	22	139	
56008	3	L-M14	SD05	削器		Sh	67	22	11	12	1050111
56009	3	M16	SD05	打製石斧	2-0類。中形だが、やや細身で基部がすぼまる。	An	142	61	21	218	1070541
56010	7	I13	SD05	打製石斧	3-3類。表面磨へ僅かに快人が作出。	An	117	156	35	577	
56015	7	J14	SD07	打製石斧	2-0類。小形。	An	91	61	27	136	1070037
56016	7	J15	SD07	打製石斧	2-2類。両側辺が直線的に開く。	An	112	79	22	213	
56017	7	K15	SD07	打製石斧	3-0類。大形。側辺下半が湾曲し丸い刃部。両側辺中程に潰れ。	An	151	92	32	463	
56018	7	J15	SD07	打製石斧	3-2類。大形。裏面中央まで平坦に調整。幅広く丸い刃部。	An	171	120	35	672	
56021	3	L17	SD06	打製石斧	1-2類。基部左半に素材面を残す。	An	102	50	16	87	
56022	5	E10	SD06	打製石斧	1-3類。中形。	An	123	67	27	291	1060025
56023	3	N19	SD06	打製石斧	2-0類。中形。	An	111	78	15	158	1070638
56024	7	J14	SD06	打製石斧	2-0類。中形。磨滅が著しい。	An	119	70	22	196	1070039
56025	3	N19	SD06	打製石斧	2-3類。大形。厚手の板状剥片が素材。基部から部体中程まで直線的にのびる。両側辺の刃部端が屈曲。刃部磨滅。	An	171	104	29	443	
56026	7	L15	SD06	打製石斧	3-0類。中形。磨滅が著しい。	An	107	64	21	145	1080050
56027	4	N20	SD06	打製石斧	3-0類。大形。左側辺上位と右側辺中程に潰れ。	An	161	103	28	496	1080053
56028	3	N19	SD06	打製石斧	3-0類。大形。側辺下半が湾曲し丸い刃部。両側辺上位に潰れ。	An	170	113	31	577	
56029	7	J14	SD06	打製石斧	3-2類。大形。左側辺中程に潰れ。	An	152	117	26	457	1090059
56010	7	J14	SD06	打製石斧	3-3類。右側辺の刃部端が屈曲。右側辺中程に潰れ。	An	107	122	35	372	
56011	7	I13	SD06	打製石斧	3-3類。大形で幅広い基部をもつ。両側辺中程に潰れ。	An	161	184	31	966	
56012	3	N18	SD06	石鏝	打穴石鏝。やや厚手の楕円磨が素材。表裏の上下端に数回調整。	Ss	82	63	42	330.3	
56013	7	H14	SD06	四石	1類。	Ss	106	94	49	668.6	1100073
56014	7	K15	SD06	四石	1類。やや厚手。右側端にも最打痕。	An	92	86	59	636.2	
600023	3	—	SD08	打製石斧	1-2類。左側辺上半に素材面を残す。	An	118	57	21	136	
600024	3	—	SD08	打製石斧	1-3類。小形。	An	109	57	19	119	1060024
600025	7	J15	SD08	砥石	2類。やや厚手の楕円磨が素材。上端にも最打痕。	An	142.3	76	57	930.6	
610015	7	K17	SD18	石鏝		An	99	113.4	55	677.1	1050017
62002	9	G9	SD13	勾玉		翡翠	28	21	12	14	105005
62008	10	G20	SD20	砥石	1類。上端にも最打痕。表面にも最打痕。	Ss	153.4	58	45	444	
62010	15	T28	SD32	打製石斧	2-2類。両側辺が直線的に開く。右側辺中程に潰れ。	An	155	109	36	589	
70001	8	C21	熊谷川田流路 上層	削器		Sh	40	19	8	6	6105012
70002	8	A5	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-0類。左側辺中程と右側辺上位に潰れ。	An	147	52	31	259	1060019
70003	12	L25	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-0類。	An	155	47	21	184	
70004	12	L25	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-0類。両側辺上位が僅かに内湾。両側辺は潰れが多くみられ、丸みをもつ。	An	146	44	23	187	
70005	12	K24	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-0類。左側辺上位と右側辺下半に潰れ。	An	139	53	23	191	
70006	8	B15	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-2類。左側辺下半に潰れ。	An	143	54	20	155	
70007	8	A19	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-3類。小形。基部に素材面を残す。	An	93	50	14	74	
70008	12	L27	熊谷川田流路 T7	打製石斧	1-3類。小形。細身の形状。基部に素材面を残す。左側辺中程に潰れ。刃部磨滅。	An	109	43	18	102	

第4章 遺構と遺物

種別 番号	区	グリッド	遺構・層位	器種	形態	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
79099	12	L25	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-3類, 小形, 基部に素材面を残す。器体下半が薄手。	An	102	51	20	88	
79010	12	L36	熊谷川田流路 下層	打製石斧	1-3類, 小形, 基部に素材面を残す。両側面中程に潰れ。	An	107	64	19	148	
79011	8	A16	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-3類, 中形, 磨滅が著しい。	An	132	55	21	159	
79012	12	K24	熊谷川田流路 下層	打製石斧	1-3類, 中形, 両側面下位が僅かに内湾。	An	136	59	26	279	
79013	12	L25	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-3類, 中形, 左側面中程と右側面上位が僅かに内湾。	An	122	61	28	253	
79014	12	K36	熊谷川田流路 下層	打製石斧	1-3類, 中形, 両側面の上下位が僅かに内湾。	An	136	67	29	323	
79015	12	L26	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-3類, 中形, 両側面中程に潰れ。	An	124	59	28	245	106R26
79016	12	K25	熊谷川田流路 下層	打製石斧	1-3類, やや大形, 基部が丸く作局。	An	136	61	22	227	
79017	10	G20	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-3類, やや大形, 基部がややすぼまる。	An	150	66	29	304	106R30
79018	10	G20	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-3類, やや大形, 両側面に潰れ。	An	154	73	35	454	106R30
80001	10	G20	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-3類, やや大形, 両まですばりに調整。磨滅が著しい。	An	175	66	35	443	
80002	12	L25	熊谷川田流路 底面	打製石斧	1-3類, やや大形, 両側面中程に潰れ。	An	178	77	31	527	
80003	12	J25	熊谷川田流路 下層	打製石斧	1-3類, やや大形, 両側面上位に潰れ。磨滅が著しい。	An	173	70	29	520	106R31
80004	12	K24	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-3類, やや大形, 表面は平坦磨滅。左側面上位に素材面。	An	152	58	22	190	
80005	12	K25	熊谷川田流路 下層	打製石斧	1-3類, やや大形, 対部左半磨滅。	An	153	64	29	349	
80006	12	K36	熊谷川田流路 下層	打製石斧	1-3類, やや大形, 基部に素材面を残す。	An	146	69	24	242	
80007	12	K25	熊谷川田流路 下層	打製石斧	1-3類, 小形, 左側面が湾曲し、右側面中程が縦く内湾。左側面中程と右側面下半に潰れ。	An	112	66	23	126	
80008	12	L25	熊谷川田流路 底面	打製石斧	1-3類, 中形, 右側面に潰れ。	An	135	77	27	362	
80009	12	K25	熊谷川田流路 下層	打製石斧	1-4類, 中形。	An	143	63	28	259	106R34
80010	10	G25	熊谷川田流路T7下層	打製石斧	1-4類, 中形。	An	139	80	21	257	
80011	12	K36	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-4類, 中形, 両側面上位に潰れ。刃部磨滅。	An	112	77	25	255	
80012	12	G22	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-4類, 中形, 磨滅が著しい。	An	162	69	28	387	107R25
81001	12	—	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-4類, 中形, 基部に素材面を残す。両側面に潰れ。	An	157	84	30	495	
81002	12	K25	熊谷川田流路 下層	打製石斧	1-4類, 中形, 基部に素材面を残す。右側面に潰れ。	An	148	73	29	384	
81003	7	—	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-4類, 大形, 両側面で快人部位が寛なり。刃部は再加工。	An	176	80	23	380	
81004	12	K26	熊谷川田流路 下層	打製石斧	1-4類, 大形, 左側面中程と右側面上位に潰れ。	An	205	81	32	781	107R26
81005	12	K25	熊谷川田流路 下層	打製石斧	1-4類, 大形, 両側面に潰れ。	An	177	76	29	443	
81006	10	G20	熊谷川田流路 上層	打製石斧	1-4類, 大形, 丸い刃部をもつ。両側面上位に潰れ。	An	178	83	40	533	
81007	8	B16	熊谷川田流路 下層	打製石斧	2-1類, 中形, 左側面が直線的に開く。丸い刃部。左側面中程に潰れ。刃部磨滅。	An	142	77	29	371	
81008	12	K24	熊谷川田流路 下層	打製石斧	2-1類, 中形, 両側面中程に潰れ。刃部磨滅。	An	145	78	23	271	
81009	12	K24	熊谷川田流路 下層	打製石斧	2-1類, 中形, 右側面中程に潰れ。	An	134	68	25	214	
81010	6	F20	熊谷川田流路 上層	打製石斧	2-1類, 中形だが、やや細身で基部がすぼまる。	An	145	60	23	198	107R42
81011	6	E20	熊谷川田流路 上層	打製石斧	2-1類, 中形だが、やや細身で基部がすぼまる。右端に素材面。左側面が直線的に開く丸い刃部。右側面の刃部が屈曲。	An	131	59	19	156	
81012	12	K20	熊谷川田流路 上層	打製石斧	2-1類, 中形だが、やや細身で基部がすぼまる。両側面中程が僅かに内湾。磨滅が著しい。	An	149	71	25	265	
82001	12	R25	熊谷川田流路 底面	打製石斧	2-1類, 大形, やや厚手の板状剥片が素材。右側面中程に潰れ。磨滅が著しい。	An	160	84	33	467	
82002	12	K24	熊谷川田流路 上層	打製石斧	2-1類, 大形, やや厚手の板状剥片が素材。左側面中程に潰れ。	An	161	84	33	530	
82003	12	J24	熊谷川田流路 底面	打製石斧	2-1類, 大形, やや厚手の板状剥片が素材。基部中程も内湾。左側面上位と右側面中程に潰れ。	An	185	93	50	823	
82004	8	A20	熊谷川田流路 下層	打製石斧	2-2類, 中形, 右端に素材面を残す。やや細身で基部がすぼまる。	An	219	118	41	1081	
82005	12	L25	熊谷川田流路 底面	打製石斧	2-2類, 中形, 右側面が直線的に開く。磨滅が著しい。	An	122	76	28	216	107R45
82006	12	L25	熊谷川田流路 底面	打製石斧	2-2類, 右端に素材面を残す。やや細身で基部がすぼまる。	An	119	71	31	233	
82007	6	E20	熊谷川田流路 上層	打製石斧	2-2類, 右側面が直線的に開く。磨滅が著しい。	An	121	80	27	211	
82008	12	K25	熊谷川田流路 上層	打製石斧	2-2類, 両側面中程に潰れ。磨滅が著しい。	An	161	99	30	505	
82009	12	H22	熊谷川田流路 底面	打製石斧	2-2類, 中形, 裏面中央ですばりに調整。右側面上位に潰れ。	An	134	97	26	368	
82010	12	G25	熊谷川田流路 T6	打製石斧	2-3類, 大形, 厚手の板状剥片が素材。両側面上位が内湾し、基部がすぼまる。左側面上位と右側面中程に潰れ。刃部磨滅。	An	211	110	47	1032	
82011	12	G27	熊谷川田流路 上層	打製石斧	3-1類, 小形, 基部に素材面を残す。	An	85	61	15	114	
82012	10	L20	熊谷川田流路 上層	打製石斧	3-1類, 中形, 基部に素材面を残す。左側面が直線的に開く。	An	116	85	18	204	
82013	11	C23	熊谷川田流路 T6	打製石斧	3-1類, 中形, 左側面の刃部が屈曲。磨滅が著しい。	An	129	73	23	225	
82014	12	K26	熊谷川田流路 上層	打製石斧	3-1類, 中形, 右側面下半に素材面を残す。右側面上位に潰れ。刃部磨滅。	An	120	82	29	342	
82015	11	C23	熊谷川田流路 T6	打製石斧	3-1類, 大形, 左側面上位に潰れ。磨滅が著しい。	An	160	105	31	554	
82016	12	L25	熊谷川田流路 底面	打製石斧	3-1類, 大形, 左端上半に素材面を残す。左側面上位に潰れ。	An	155	91	24	267	
82017	12	L25	熊谷川田流路 底面	打製石斧	3-1類, 大形, 両側面中程に潰れ。	An	161	88	41	488	108R32
82018	12	J24	熊谷川田流路 T6	打製石斧	3-1類, 大形, 磨滅が著しい。	An	168	101	20	349	108R54
82019	12	K21	熊谷川田流路 下層	打製石斧	3-1類, 大形, 右側面の刃部が屈曲。右側面中程に潰れ。	An	171	97	28	502	
82010	12	K25	熊谷川田流路 T7下層	打製石斧	3-1類, 大形, 右側面上位に潰れ。刃部磨滅。	An	195	105	36	790	109R25
84011	12	K26	熊谷川田流路 上層	打製石斧	3-1類, 大形, 左端上半に素材面。調整が粗く刃部が未作局。	An	173	65	37	511	
84012	12	K25	熊谷川田流路 上層	打製石斧	3-1類, 大形, 右側面の刃部が屈曲。刃部磨滅。	An	151	102	27	369	
84013	12	L26	熊谷川田流路 下層	打製石斧	3-1類, 大形, 右端に素材面を残す。快人部は作出されているが素材の縁辺が多く残る。	An	154	82	22	278	
84014	10	G20	熊谷川田流路 上層	打製石斧	3-1類, 大形, 左側面中程に潰れ。	An	175	106	32	544	108R56
84015	8	A15	熊谷川田流路 上層	打製石斧	3-1類, 大形, 側面下半が湾曲し丸い刃部。右側面中程に潰れ。	An	165	90	34	534	
84016	12	K25	熊谷川田流路 T7下層	打製石斧	3-2類, 大形, 左側面の刃部が屈曲し丸い刃部。右側面中程に潰れ。	An	154	111	23	459	
84017	8	A18	熊谷川田流路 下層	打製石斧	3-1類, 大形, 右側面の刃部が屈曲し、刃部が偏る。	An	156	98	22	392	
84018	12	K24	熊谷川田流路 下層	打製石斧	3-2類, 大形, 両側面の刃部が屈曲。両側面中程に潰れ。	An	148	112	34	576	
84019	10	G20	熊谷川田流路 下層	打製石斧	3-2類, 中形, 基部も縦く内湾。両側面上位に潰れ。	An	113	90	21	198	
85011	12	L25	熊谷川田流路 下層	磨製石斧	表面下に斜行する彫痕。刃部欠。	An	123	60	32	323.5	1100R63

種別 番号	区	グリッド	道構・層位	器種	形態	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
8582	6	E19	鹿谷川田成路 上層	磨製石斧	側面に不明瞭な稜が作出され、断面が丸みをもつ。刃部が潰れてやや偏る。上平欠。	An	82	67	42	280	
8583	10	G20	鹿谷川田成路 下層	磨製石斧	1類。上端欠。	An	113.6	38	29	188	
8584	12	I24	鹿谷川田成路 下層	磨石	1類。	An	118	47	30	192.1	1108067
8585	10	G20	鹿谷川田成路 下層	磨石	1類。表面と右端にも敲打痕。	An	129.9	52	42	383.9	1108068
8586	12	L25	鹿谷川田成路 上層	磨石	1類。上端にも敲打痕。	An	141.2	53	39	473.2	
8587	12	K24	鹿谷川田成路 上層	磨石	1類。やや大形。右端にも敲打痕。上端欠。	An	224.8	66	50	1129.2	
8588	10	G20	鹿谷川田成路 上層	磨石	1類。やや大形。左端にも敲打痕。	Sa	180.3	83	58	1277.6	1108070
8589	12	J24	鹿谷川田成路 上層	磨石	1類。やや大形。	An	153.3	71	58	862.8	
85810	12	K25	鹿谷川田成路 下層	門石	1類。表裏の磨面が平坦。	An	90	94	40	493.6	
85811	12	K25	鹿谷川田成路 下層	門石	1類。裏面にも敲打痕。周辺にも敲打痕。表裏の磨面が平坦。	An	95	81	28	301.1	
85812	12	K25	鹿谷川田成路 成面	門石	1類。やや大形。裏面にも敲打痕。	Sa	118.2	109.7	61	1100.5	
85813	11	C23	鹿谷川田成路 T6	門石	2類。	Sa	134.8	55	40	337.4	
85814	12	H22	鹿谷川田成路 上層	門石	3類。上下端にも敲打痕。	Sa	128.7	80	44	685.7	
85815	12	K24	鹿谷川田成路 下層	門石	3類。大形。	Sa	174.6	107.8	44	1330	1108074
8601	12	J25	鹿谷川田成路 下層	台石	An	339.9	134.5	124.5	8400	1108076	
8602	11	F23	鹿谷川田成路 T4	石皿	2類。	Sa	228.2	325.9	119.9	7800	1108077
8603	12	K25	鹿谷川田成路	石皿	2類。表面中央が凹み。周辺には僅かに縁をもたせる。	An	248	291.5	135.6	9800	
94801	7	I14	表土	異形	Ch	18	13	5	1	105801	
94802	—	—	表土	石鏝	Ch	19	17	5	1	105802	
94803	6	F12	表土	珠状耳飾	滑石	30	18	7	5	105804	
94804	7	K12	表土	磨製石網	Sh	79	28	7	25	105806	
94805	7	I14	表土	石靴	Ch	28	38	6	5	105807	
94806	8	—	表土	部部	An	67	26	9	12	105810	
94807	9	I4	表土	部部	An	69	56	18	72	105813	
94808	9	K5	表土	部部	An	82	75	20	92	105814	
94809	7	H15	表土	石鉄	Ch	59	59	32	118	105818	
94810	7	J15	表土	打製石斧	1-2類。磨減が著しい。	An	109	50	25	153	106020
94811	14	—	表探	打製石斧	1-2類。両面とも器体中央まで平削調整。左側辺に潰れ。	An	102	48	14	76	
94812	15	U28	包含層	打製石斧	1-2類。両側辺上位に素材面を残す。	An	111	50	26	117	
94813	12	—	表土	打製石斧	1-2類。刃部磨減。	An	122	54	25	157	106021
94814	3	L12	表土	打製石斧	1-3類。小形。	An	110	51	15	92	106022
94815	3	M18	表土	打製石斧	1-3類。小形。左側辺中程に潰れ。	An	103	51	21	146	106023
94816	15	T27	表土	打製石斧	1-3類。小形。両側辺上位に潰れ。刃部左半磨減。	An	112	59	21	168	
94817	15	T28	表土	打製石斧	1-3類。小形。やや厚手。両側辺に潰れ。	An	90	53	23	137	
94818	15	S25	包含層	打製石斧	1-3類。小形。両面とも器体中央まで調整される。	An	113	58	28	150	
94819	3	—	表土	打製石斧	1-3類。小形。基端に素材面を残す。磨減が著しい。	An	112	62	16	120	
95801	1	M1	道構面直上	打製石斧	1-3類。中形。基端に素材面を残す。刃部が偏る。両側辺中程に潰れ。刃部磨減。	An	125	66	23	233	
95802	7	I12	表土	打製石斧	1-3類。中形。基端に素材面を残す。磨減が著しい。	An	123	61	22	191	
95803	14	—	表土	打製石斧	1-3類。中形。右側辺下平に潰れ。	An	125	62	33	186027	
95804	15	U28	包含層	打製石斧	1-3類。中形。	An	124	28	27	194	
95805	15	T27	表土	打製石斧	1-3類。中形。右側辺上位に潰れ。刃部磨減。	An	141	79	21	324	106028
95806	15	S26	包含層	打製石斧	1-3類。中形。両側辺中程に潰れ。刃部左半磨減。	An	126	75	27	337	
95807	15	U28	表土	打製石斧	1-3類。中形。基端に素材面を残す。	An	126	66	24	221	
95808	9	J3	表土	打製石斧	1-3類。中形。刃部磨減。	An	126	62	27	245	
95809	15	U28	表土	打製石斧	1-3類。中形。基端に素材面を残す。刃部磨減。	An	131	60	30	275	
95810	15	U28	表土	打製石斧	1-3類。中形。左端に素材面を残す。刃部左半磨減。	An	125	64	30	226	
95811	8	—	表土	打製石斧	1-3類。やや大形。	An	175	66	21	264	106029
95812	1	M6	用水2	打製石斧	1-3類。小形。両側辺中程に潰れ。	An	146	70	29	303	
95813	12	L22	表土	打製石斧	1-3類。やや大形。表裏まで平削調整。やや偏る形状。右側辺中程に潰れ。	An	170	57	30	349	
95814	7	I21	表土	打製石斧	1-3類。やや大形。裏面中央まで平削調整。刃部磨減。	An	161	62	26	287	
95815	9	L4	表土	打製石斧	1-3類。中形。やや大形。	An	153	66	18	192	
96001	7	I13	表土	打製石斧	1-4類。小形。	An	110	51	18	131	
96002	15	U27	表土	打製石斧	1-4類。小形。刃部右半磨減。	An	125	52	22	158	106032
96003	15	—	表土	打製石斧	1-4類。中形。左側辺上位と右側辺に潰れ。	An	132	55	28	220	106033
96004	6	D19	表土	打製石斧	1-4類。中形。	An	129	70	26	273	
96005	9	H2	表土	打製石斧	1-4類。中形。基端に素材面を残す。刃部磨減。	An	141	88	32	496	
96006	15	—	用水車側溝	打製石斧	1-4類。中形。左側辺中程と右側辺下平に潰れ。刃部磨減。	An	160	82	30	440	
96007	7	J14	表土	打製石斧	1-4類。中形。磨減が著しい。	An	164	81	28	430	
96008	3	N17	表土	打製石斧	1-4類。大形。両側辺中程に潰れ。	An	170	78	30	550	
96009	7	I14	表土	打製石斧	1-4類。大形。刃部磨減。	An	178	85	33	585	
96010	3	—	表土	打製石斧	2-3類。中形。やや厚手の板状剥片が素材。基端に素材面を残す。両側辺が直線的に開く。大-刃部。左側辺中程に潰れ。	An	111	74	29	271	
96011	15	U28	表土	打製石斧	2-3類。小形。基端に素材面を残す。左側辺が直線的に開く。	An	88	64	24	129	
96012	5	—	表土	打製石斧	2-3類。中形。磨減が著しい。	An	133	73	24	269	
96013	9	K9	表土	打製石斧	2-3類。中形。基端に素材面を残す。左側辺が直線的に開く。右側辺上位に潰れ。	An	127	80	26	276	
96014	10	G20	盛土	打製石斧	2-3類。中形。両側辺中程に潰れ。磨減が著しい。	An	129	72	26	284	
96015	14	—	東壁面	打製石斧	2-3類。中形。基端に素材面を残す。両側辺が直線的に開く。左側辺上半に潰れ。刃部右半磨減。	An	117	79	17	206	
96016	14	P18	掘戻	打製石斧	2-3類。中形。左側辺中程に潰れ。磨減が著しい。	An	136	70	24	206	
97001	1	N10	盛土	打製石斧	2-3類。中形だが、やや偏るが基端がすぼまる。	An	150	78	26	386	

第4章 遺構と遺物

採集 番号	区	グリッド	遺構・層位	器種	形態	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
9782	5	F10	掘瓦	打製石片	2-1類、中形だが、やや厚手で基部がすぼまる。右側面中程が微かに内湾。両側面に直れ。刃部左平欠。	An	161	78	30	352	
9783	15	T27	表土	打製石片	2-1類、大形、やや厚手の板状剥片が素材。右側面中程に直れ。磨滅が著しい。	An	137	63	27	247	
9784	7	K15	表土	打製石片	2-1類、大形、やや厚手の板状剥片が素材。両側面の刃部境が直曲。両側面中程に直れ。	An	171	86	42	641	
9785	5	—	表土	打製石片	2-1類、大形、やや厚手の板状剥片が素材。	An	178	97	32	566	107603
9786	9	J5	表土	打製石片	2-1類、大形、やや厚手の板状剥片が素材。両側面に直れ。	An	185	95	35	698	
9787	7	J14	表土	打製石片	2-2類、右側面が直線的に開く。磨滅が著しい。	An	92	66	21	117	
9788	15	S26	包含層	打製石片	2-2類、右側面上位に直れ。	An	109	84	25	252	
9789	4	O20	表土	打製石片	2-2類、中形、両側面に直れ。	An	121	91	30	332	108166
97810	14	—	表土	打製石片	2-2類、基部に素材面を残す。基部も微く内湾。左側面上位と右側面に直れ。	An	133	85	22	293	
97811	12	G25	表土	打製石片	2-2類。	An	143	84	21	264	
9881	6	—	表土	打製石片	2-3類、中形、やや厚手の板状剥片が素材。両側面の刃部境が直曲。基部欠。	An	105	94	36	383	
9882	1	M10	盛土	打製石片	2-3類、大形、厚手の板状剥片が素材。右側面の刃部境が直曲。左側面中程に直れ。	An	160	115	31	590	
9883	1	M7	用水2	打製石片	2-3類、大形、厚手の板状剥片が素材。左側面の刃部境が直曲。両側面中程に直れ。	An	193	117	36	942	108167
9884	3	L13	用水1	打製石片	2-3類、大形、厚手の板状剥片が素材。両側面上位が内湾し、基部がすぼまる。両側面中程に直れ。刃部磨滅。	An	194	106	33	657	
9885	3	O18	表土	打製石片	2-3類、大形、厚手の板状剥片が素材。刃部磨滅。	An	185	105	37	767	108169
9886	6	E18	表土	打製石片	2-3類、大形、厚手の板状剥片が素材。表面中央まで平直に調整され、右側面の刃部境が直曲。左側面中程に直れ。	An	166	105	39	651	
9887	9	K2	表土	打製石片	2-3類、大形、厚手の板状剥片が素材。両側面上位に直れ。	An	210	131	56	1320	108168
9888	7	H13	用水4	打製石片	2-3類、大形、厚手の板状剥片が素材。表面中央まで平直に調整され、基部右半に素材面を残す。	An	170	115	34	650	
9901	15	Q22	包含層	打製石片	2-3類、大形、厚手の板状剥片が素材。右側面中程に直れ。	An	143	107	31	471	
9902	15	U27	表土	打製石片	2-3類、大形、厚手の板状剥片が素材。両側面の刃部境が直曲。左側面中程と右側面上位に直れ。	An	186	123	41	842	
9903	15	U27	包含層	打製石片	2-3類、大形、厚手の板状剥片が素材。両側面の刃部境が直曲。左側面中程に段をもつ。両側面に直れ。	An	187	136	57	1200	
9904	7	M6	用水4	打製石片	3-1類、中形。	An	112	67	20	152	
9905	1	K12	繕土	打製石片	3-1類、中形、刃部磨滅。基部欠。	An	111	82	28	259	
9906	9	L5	用水2	打製石片	3-1類、中形、両側面中程に直れ。	An	119	71	27	248	
9907	13	O12	表土	打製石片	3-1類、中形、側面下半が湾曲して丸い刃部をもつ。	An	128	75	24	253	
9908	15	T27	表土	打製石片	3-1類、中形、刃部磨滅。	An	123	78	35	334	108151
9909	15	O22	用水溝溝	打製石片	3-1類、中形、右側面の刃部境が直曲。左側面上位に直れ。	An	139	73	25	275	
99810	12	J26	表土	打製石片	3-1類、大形、右側面中程に直れ。刃部磨滅。	An	158	84	26	373	
10001	12	—	繕土	打製石片	3-1類、大形、右側面の刃部境が直曲。左側面に直れ。	An	155	89	34	453	
10002	12	L24	表土	打製石片	3-1類、大形、やや厚手の板状剥片が素材。両側面中程に直れ。刃部磨滅。	An	144	87	37	477	
10003	1	M10	用水1	打製石片	3-1類、大形、側面下半が湾曲し丸い刃部。両側面中程に直れ。	An	145	975	25	350	
10004	6	F17	表土	打製石片	3-1類、大形。	An	169	102	28	448	
10005	6	—	表土	打製石片	3-1類、大形、表面中央まで平直に調整。両側面中程に直れ。	An	165	91	38	653	
10006	5	E10	表土	打製石片	3-2類、中形、基部に素材面を残す。右側面中程に直れ。	An	112	93	31	330	
10007	9	K4	用水1	打製石片	3-2類、大形、基部が平い。両側面の刃部境が直曲。	An	180	116	47	554	
10008	15	—	表土	打製石片	3-2類、中形、左側面の抉入部が急斜に調整。右側面の刃部境が直曲。右側面中程に直れ。刃部磨滅。	An	125	100	25	316	
10009	1	N8	表土	打製石片	3-2類、大形、刃部が大きくゆる。磨滅が著しい。	An	137	120	34	573	
10161	9	K2	表土	打製石片	3-2類、大形、両側面中程に直れ。	An	143	119	41	628	109158
10162	3	N12	用水3	打製石片	3-2類、大形、幅広で丸い刃部をもつ。両側面中程に直れ。	An	177	137	31	681	
10163	15	S25	掘土不明	打製石片	2-1類、中形、刃部磨滅。	An	110	81	24	263	107640
10164	1	M2	繕土	打製石片	3-2類、大形、幅広で丸い刃部をもつ。刃部欠。	An	219	128	24	623	
10165	9	K1	表土	打製石片	3-2類、大形、両側面下半に素材の縁面を残す。	An	175	130	28	609	
10166	9	H2	表土	打製石片	3-3類、両側面上位に直れ。	An	110	109	30	334	
10167	1	M8	用水1	打製石片	3-3類、側面下半が大きく湾曲して開く。幅広の刃部をもつ。	An	120	151	37	562	
10201	1	M10	繕土	磨製石片	乳棒状を呈し、基部に平らな面をもつ。下半欠。	An	115.4	63	51	462.4	
10202	14	Q20	表土	石鏃	打矢石鏃。小形で扁平。表裏の上下端に微凸調整。	An	66	40	20	62	
10203	14	Q20	表土	石鏃	打矢石鏃。小形で扁平。	An	62	54	26	101.3	110006
10204	9	J3	表土	礫石	1類、上端にも最打痕。	Sa	98	46	32	158.8	
10205	15	T27	表土	礫石	1類、上端にも最打痕。	Sa	123.7	42	28	222.3	
10206	14	Q19	表土	礫石	1類、上端にも最打痕。表面にも最打痕。	Sa	118.4	49	34	261.2	
10207	10	G20	表土	礫石	1類、上端にも最打痕。	An	143.8	54	38	409.5	
10208	7	H4	表土	礫石	1類、表面にも最打痕。	Sa	135	60	37	444.5	110009
10209	3	M17	表土	礫石	1類、やや大形。上端にも最打痕。	Sa	162.6	72	59	1123.1	
102010	14	D18	掘瓦	礫石	2類、やや厚手の楕円礫が素材。	An	127.9	80	52	700.9	
102011	12	—	表土	礫石	2類、やや厚手の楕円礫が素材。	An	116.7	80	66	895.4	1100071
102012	12	—	表土	礫石	2類、やや厚手の楕円礫が素材。	An	126.1	82	54	838.6	
102013	15	V27	表土	四石	1類。	Sa	97	89	46	566.6	1100072
102014	9	K2	表土	四石	1類、表面にも最打痕。表裏に最打痕が多くみられる。	An	86	83	40	321.8	
102015	9	G8	表土	四石	1類、表面にも最打痕。	Sa	109.2	97	50	743.1	
102016	9	J2	表土	四石	3類。	An	115.7	71	35	462.9	
102017	14	Q18	掘瓦	磨石	2類、	Sa	175.6	78	55	1113.1	1100075
102018	14	P18	掘瓦	石皿	1類、扁平な円礫が素材。表裏に磨面。中央は僅かに凹む。	An	234.4	206.7	75	5121.4	

第4表 石製品観察表

検出番号	区	グリッド	遺構・層位	器種	形態	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
2802	14	Q12	SE25 型穴状遺構	砥石		凝灰岩	121.8	71	33	307.3	111006
3303	14	Q19	SE07	バンドコ		磨石	111.3	176.3	139.9	1577.5	111012
8604	8	A18	鹿谷川旧水路 上層	硯	薄部にも斜行する磨痕。	粘板岩	91	48	14	88	111002
8605	8	C20	鹿谷川旧水路 T1下層	砥石	表面に不定方向の磨痕。	凝灰岩	65	40	17	74	111005
8606	6	D20	鹿谷川旧水路 上層	砥石		砂岩	83	37	29	116.8	111009
10301	9	I8	表土	硯		粘板岩	88	42	11	69	111011
10302	1	M8	盛土	砥石	表面に不定方向の磨痕。	粘板岩	93	50	10	64	111003
10303	10	G20	表土	砥石	表面と内側面に斜行、表面に不定方向の磨痕。	頁岩	46	40	16	37	111004
10304	15	T27	包合層	砥石	表面に不定方向、裏面に斜行する磨痕。	凝灰岩	113	69	28	321	111007
10305	3	L4	表土	砥石	表面に不定方向、右側面に斜行する磨痕。	頁岩	103.3	61	50	407.3	111008
10306	1	M8	表土	砥石	表面に短軸方向、右側面に斜行する磨痕。	頁岩	82	40	28	135.5	111010
10307	6	D19	表土	砥石	表面に略状、左側面に長軸方向の磨痕。	砂岩	191.2	74	69	1097.8	111011

第5表 木製品観察表

検出番号	区	グリッド	遺構・層位	器種	本取り	形態	加工	法量	樹種	備考
31003	3	O18	SE03	曲物	板目板材を楕に用いる。	板目板を彎曲させる。	内面に縦方向の刻みが施されている。焦げが見られるが加工が不明。	残存長90～296cm残存幅5.2～12.1cm器厚4.0～8.0mm		貫通孔あり
37002	12	L25	SK1205上層	組み合わせた布巻具	板目板材	身は断面三角形を呈する薄い板状で、厚辺に後端が突出する。左側に把手の根元が確認できる。中央に斜位の貫通孔を有する。	表面は平滑で加工痕は見られない。片面両端に長方形の裁切を多重に施す。身のほぼ全面にベンガラが塗布される。	残存長38.1cm幅5.8cm厚1.7cm	クロウメモドリ科ケンボナシ	
46007	7	I14	SP07632	柱	樹幹を楕に用いる。	円柱状を呈する。内部は遺存しない。	特に認められない。	残存長17.8cm直径16.1cm		
52020	9	L7	SD01	皿	楕本取り	平底の浅い皿状を呈する。11線欠損。	内面から縁断面にかけて著しく焦げた部分がある。垂布物は認められない。	残存最大径120cm残存器高1.4cm器厚4.5mm		
52021	9	J5	SD01上面	曲物板板か	板目板材	円形の板状を呈する。	断面に加工痕が若干見られるが、よく平部に整えられる。	直径17.25cm器厚10.0mm		
87001	12	L25	鹿谷川旧水路 上層	椀	年輪に沿って彎曲した板を楕に用いる。	椀を構成する彎曲した板。底部が肥厚する。	裏板を当てる部分を中心に内面にむかって削り直が見られる。ほぼ全面が焦げれる。	残存長22.8cm残存幅10.8cm底部厚0.8cm器厚2.5cm	広葉樹か	底部の突出はかみ合わせ部分の可能性あり
87002	6	E20	鹿谷川旧水路 上層	椀	楕本取り	底部付近のみ残存。底部縁線に低い高台を有するが、底面よりも高い位置にあり、十分接地しない。	高台は削り出される。外底面には削り面が多重重複する。内・外面全体に黒色漆が塗られる。	残存最大径11.4cm残存径8.4cm台厚7.5cm残存器高1.7cm器厚8.0mm(底部)		
103008	5	F10	覆瓦	溝南下駄	板目板材を楕に用いる。	台は小四角で、長方形の溝を2本有する。前方に1、後方に2ヶ所貫通孔がある。	前は台から削り出される。	長13.1cm幅7.2cm全高1.8cm台高1.2cm		

第6表 金属製品観察表

検出番号	区	グリッド	遺構・層位	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	備考
53012	3	N11	SD01	不明	(7.3)	1.1	0.15	
87003	8	A19	鹿谷川旧水路 下層	鎌	(11.4)	2.8	0.2	
87004	8	-	鹿谷川旧水路 上層	釘	8.9	1.1 (頭幅)	5.5	
87005	8	A17	鹿谷川旧水路 上層	釘	(6.5)	0.5	0.5	
103009	1	H4	表土	小柄	(9.1)	1.4	0.8	青銅製
103010	9	J7	遺構面直上	刀子	(24.2)	1.8	0.5	

第7表 銅銭観察表

棟号番号	区	グリッド	遺構・部位	種類	銭径 (cm)	内径 (cm)	銭厚 (cm)	量目 (g)	国名	拍数	背	備考
87086	8	C21	鹿谷川旧流路 上層	熙寧元寶	2.4	1.95	0.12	3.08	北宋	1068	無	篆書
87087	6	E24	鹿谷川旧流路 上層	元豊通寶	2.4	1.9	0.13	2.17	北宋	1078	無	篆書
87088	12	G22	鹿谷川旧流路 上層	元祐通寶	2.05	1.85	0.11	1.45	北宋	1086	無	行書
87089	8	A18	鹿谷川旧流路 下層	元祐通寶	2.5	2.05	0.14	3.33	北宋	1086	無	篆書
87090	8	A15	鹿谷川旧流路 上層	景定元寶	2.35	2.0	0.1	2.51	南宋	1260	無	
87091	12	K25	鹿谷川旧流路 上層	洪武通寶	2.1	1.8	0.12	1.77	明	1368	無	半点通
87092	8	C20	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.4	2.05	0.11	2.47	日本	1636	無	古寛永(1期)
87093	8	C19	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.45	2.0	0.09	2.48	日本	1636	無	古寛永(1期)
87094	7	H20	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.45	2.0	0.09	1.28	日本	1636	無	古寛永(1期)
87095	7	K20	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.48	2.05	0.14	3.38	日本	1668	文	新寛永(2期)
87096	8	A18	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.25	1.85	0.1	2.18	日本	1697	無	新寛永(3期)
87097	8	A17	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.2	1.9	0.1	0.85	日本	1697	無	新寛永(3期)
87098	8	A17	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.47	2.05	0.14	2.56	日本	1697	無	新寛永(3期)
87099	10	G21	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.4	1.95	0.1	1.25	日本	1697	無	新寛永(3期)
87099	8	B18	鹿谷川旧流路 下層	久永元寶	2.58	2.1	0.07	1.76	日本	1863	彫形	楷书(松平隆永筆)
104001	9	I4	用水1	乾元重寶	2.45	2.2	0.1	2.39	唐	758	無	
104002	4	N21	表土	開元通寶	2.45	1.95	0.11	2.71	唐	960	無	
104003	11	B23	表土	太平通寶	2.4	1.9	0.12	3.1	北宋	976	無	
104004	7	J15	用水3 上面	太平通寶	2.42	1.9	0.13	2.73	北宋	976	無	
104005	7	K14	表土	淳化元寶	2.48	1.82	0.08	3.77	北宋	990	無	真書
104006	7	H13	用水3 上面	淳化元寶	2.45	1.95	0.1	1.23	北宋	990	無	早書
104007	5	F10	表土	天聖元寶	2.5	2.1	0.1	3.65	北宋	1023	無	篆書
104008	1	L6	礫土	皇宋通寶	2.45	1.95	0.15	3.16	北宋	1038	無	真書
104009	1	M2	礫土	熙寧元寶	2.25	1.9	0.1	2.16	北宋	1068	無	篆書
104010	-	-	出土地不明	熙寧元寶	2.4	2.0	0.1	1.6	北宋	1068	無	真書
104011	5	F9	表土	元豊通寶	2.48	1.95	0.11	2.91	北宋	1078	無	行書
104012	13	O27	表土	元豊通寶	2.45	1.93	0.1	2.69	北宋	1078	無	行書
104013	12	K26	礫乱	元豊通寶	2.4	1.95	0.12	2.21	北宋	1078	無	行書
104014	5	F9	表土	元祐通寶	2.3	1.9	0.08	1.89	北宋	1086	無	行書
104015	7	L16	用水3	元祐通寶	2.45	2.0	0.12	2.59	北宋	1086	無	行書
104016	12	K26	表土	洪武通寶小	2.4	2.05	0.1	1.32	明	1368	無	
104017	-	-	出土地不明	永楽通寶小	2.4	2.05	0.08	2.27	明	1408	無	銭文
104018	10	G17	遺構面直上	寛永通寶	2.5	2.0	0.12	2.71	日本	1636	無	古寛永(1期)
104019	7	K11	表土	寛永通寶	2.5	2.0	0.13	3.37	日本	1636	無	古寛永(1期)
104020	7	K12	表土	寛永通寶	2.5	2.0	0.11	3.22	日本	1636	無	古寛永(1期)
104021	7	H15	表土	寛永通寶	2.45	2.0	0.12	2.8	日本	1636	無	古寛永(1期)
104022	6	D13	表土	寛永通寶	2.5	2.0	0.13	3.06	日本	1668	文	新寛永(2期)
104023	9	G9	礫乱	寛永通寶	2.3	1.9	0.09	1.83	日本	1697	小	新寛永(3期)
104024	5	F9	表土	寛永通寶	2.45	1.95	0.11	2.66	日本	1697	無	新寛永(3期)
104025	11	A22	表土	寛永通寶	2.3	1.9	0.1	2.13	日本	1697	無	新寛永(3期)
104026	12	I23	表土	寛永通寶	2.28	1.92	0.09	1.65	日本	1697	無	新寛永(3期)
104027	13	P25	表土	寛永通寶	2.18	1.7	0.1	1.87	日本	1697	無	新寛永(3期)
104028	13	M27	表土	寛永通寶	2.4	1.9	0.09	2.24	日本	1697	無	新寛永(3期)
104029	7	I13	表土	寛永通寶	2.4	1.9	0.12	2.95	日本	1697	無	新寛永(3期)
104030	7	K12	表土	寛永通寶	2.43	1.95	0.13	2.89	日本	1697	無	新寛永(3期)
104031	5	F9	表土	寛永通寶	2.3	1.9	0.11	2.35	日本	1697	無	新寛永(3期)
104032	8	-	表土	寛永通寶	2.37	1.95	0.1	1.88	日本	1697	無	新寛永(3期)
104033	1	M8	礫土	寛永通寶	2.45	2.0	0.1	2.68	日本	1697	無	新寛永(3期)
104034	6	E19	表土	寛永通寶	2.25	1.9	0.09	1.51	日本	1697	無	新寛永(3期)
104035	9	J4	表土	寛永通寶	2.28	1.9	0.12	2.82	日本	1697	無	新寛永(3期)/銭文
104036	7	K19	表土	寛永通寶	2.22	1.85	0.12	2.16	日本	1697	無	新寛永(3期)
104037	7	H17	礫乱	寛永通寶	2.25	1.95	0.1	1.8	日本	1697	無	新寛永(3期)
104038	12	K25	礫土	-	2.28	1.95	0.08	1.61	-	-	-	判読不能

第5章 まとめ

第1節 縄文時代の土器

志田神田遺跡の調査で出土した81点の縄文土器を検討した。これらは調査区全体に散漫に分布し、田路路や表土などから縄文時代より新しい時代の遺物と混在して出土している。同一個体破片が集中出土した地点は若干見られるものの、確実に縄文時代の遺構として認定できたものはない。ほとんどは破片で、摩滅したものも多い。時期は早期から晩期にわたり、地点や層位による偏りは特に認められず、一括性に乏しい。そのためここでは図示した56点を中心として各時期の特徴を説明する。

早期の土器は押型文土器と胎土に繊維を含む条痕文土器が出土している。

押型文土器は比較的まとまって出土しているため、若干検討を加える。器形は口縁部が外反し、体部が軽く膨らむ深鉢形である。口縁端部は薄くなり、丸みを帯びる。押型文はすべてポジティブな楕円文で、楕円の長径は6～9mm、粒のよく揃ったものや不揃いなもの、円形に近いものなどの変異がある。単位幅は1.5～3cm程度、原体は径1.5cmに復元できたものがある(第44図1)。回転方向は縦(第44図1)、横(第89図1)、斜め(第50図1)がある。内面に太い沈線が施されるものがある(第89図3)。第89図2は第89図1と同一個体の破片で、成形の途中で押型文を施したことが剥落面の押型文から確認できる。成形手法、形態、文様において勝山市破入遺跡の土器群(仁科章他1977)に共通点が多いが、楕円文が小ぶり、菱形の押型文がなく、繊維の混和が確認できない点は異なる。近畿地方の高山寺寺(矢野健一2008)に関連づけられるが、口縁部の外反が相対的に弱く、楕円文が小さい傾向が指摘でき、若干異なるものを含む可能性もある。

胎土に繊維を含む条痕文土器(第50図2)は、段に上下を区切られた外反する器形を持ち、竹管状工具の沈線と刺突文が施される。早期後葉に位置づけられる。

前期の土器は、C字形爪形文が施される第65図1が北白川下層Ⅱb式、細い粘土紐貼付文が口縁部にめぐり、端部から斜位の貼付文が連結される第65図2が北白川下層Ⅱc式、半截竹管沈線文の第65図3が北白川下層Ⅱb～Ⅱc式の浅鉢と見られる。口縁部が強く内彎し、端面に多截竹管を押し引きする第89図4は前期後葉の可能性が高い。

中期の土器は、半隆起線の手法を用いる第50図3、第65図4が出土し、中期初頭～前葉の北陸系の土器と考えられる。

後期の土器は比較的多い。口縁部が断面三角形を呈し、沈線文が施される第50図4、第61図8、幅広い口縁端面に沈線と刺突を施し、縄文を充填する第64図1、多重沈線の第65図7、隆線に沈線・押し引き文が沿い、縄文が充填される第65図8などは、おおむね後期前葉～中葉と考えられ、磨消縄文の第65図5はこれより若干遅る可能性がある。凹線文や貝殻の圧痕が施される第64図2、第65図9・10は後期後葉(井口式)、横位沈線間に直線的な三叉状文が配される第65図12は後期末(八日市新保式)に位置づけられる。また浅鉢が出土しており、口縁部が内屈し、横位沈線文が施される第65図11は後期後葉、口縁端部が立ち上がる第89図7は後期とみられる。

晩期の土器としては、横位沈線間の縄文帯に押圧を加え、別の沈線間に短弧線を入り組ませる第65図13が晩期前葉～中葉、横位沈線間に刺突が施され、その下に連弧文が展開する第65図14が晩期中葉に位置づけられる。工字文に類似する沈線文が施される第50図6と、丸い部分のある工具を用い、幅2～5mm程度の条が密に重複して単位を認定しがたい条痕の深鉢第64図5は晩期後半とみられる。

これら以外の有文土器、無文や縄文のみの土器は、細かな時期比定が困難であり、弥生土器の可能性もあるものも含まれる。この中で掘縄文が帯状に施される第89図6は注意される。また、条痕の土器が比較的多く出土しており、条痕の溝幅や間隔、断面形状、単位のあり方など多様なものがみられる。しかし小破片が多く、一括性にも乏しいこの資料でその特徴を整理することは難しいため、ここでは一部を図示するに留めた。各時期に見られる条痕の特徴とその変遷過程の検討は今後の課題としたい。

第2節 弥生時代の土器

I 中期中葉

ほとんどが破片資料であるが、掘縄文系土器、条痕文系土器、近江系土器がある。SK0906、SD01、鹿谷川田流路で少量出土したほか、SK0901、SK0903、SK0905、SK0911、SK0305、SK0319、SP07126、SD03、SD06、SD10などでわずかに出土している。出土地区別に見ると、9区が多数を占めており、次いで12区となっている。このことは、9区が同時期の遺物が出土している発掘山ノ端遺跡に近接する地区であることと関係があると考えられる。

掘縄文系土器には甕（第66図4ほか）と壺（第43図15ほか）がある。器種を判別しかねるような破片も多く、全容をうかがえるような資料はほとんどない。口縁部は、丸くおさめるもの（第66図1・同図3ほか）もあるが、ハケ状工具による刻みを巡らすもの（第66図5ほか）が多い。外面に施す文様には直線文（第89図17ほか）、波状文（第89図16ほか）、簾状文（第66図8）、扇形文（第43図17）、斜行短線文（第89図18・19）、列点文（第50図14ほか）などがみられる。また、内面に施す文様には波状文（第43図15）、羽状刺突文（第66図2ほか）、斜行短線文（第50図12）があるが、第50図12の斜行短線文は羽状を意識しているように見える。斜行短線文は、石川県では頻例が多いが、福井県ではあまり普及していない文様であり、注目される。

条痕文系土器には甕、壺、深鉢があるが、調整には貝殻ではなく、太い櫛状工具などが用いられている。甕は短い口縁部が外反する器形を呈する。口縁部は丸くおさめるもの（第89図15）と、ヘラ状工具による刻みを施すもの（第89図13・14）がある。壺では、口縁部が受口状をなす広口壺5点を図示できた。第50図15・第54図6は口縁部下端に指頭による押圧列点が巡るが、第89図20・21は棒状工具による押圧列点が巡る。また、第50図15は口縁部に櫛状工具による連続刺突を施すが、第50図16・第89図20は口縁部をナデ調整により平滑に仕上げる。口縁部は重方形文（第50図16・第89図20・21）または波状文（第50図15）で飾る。このほかに、口縁部が外反する壺もある（第43図9ほか）。第43図9は、口縁部にヘラ状工具による刻みを巡らし、外面は条痕を羽状に施す。深鉢は、口縁部に指頭押圧により口縁部が小波状となるもの（第66図9）と、平縁にヘラ状工具による刻みを施すもの（第66図10）がある。文様は、撥ね上げ文（第89図26・27ほか）・山形文（第89図29ほか）・掘流水文（第89図28）などがみられる。

近江系土器として抽出できるのは、受口状口縁を呈する壺（第60図1・第61図13）である。口縁部を押さえて、水平な面を形成する。第60図1は内外面をハケ調整で仕上げる。

II 中期後葉

中期後葉に属すると考えられる土器は、鹿谷川田流路、SK1205、SD01、SD06、SD08でわずかに出土している。器種は甕、壺、鉢などがある。

甕は、くの字状口縁を呈し、口縁部は肥厚して内傾する面を形成する（第56図11・第60図3・第66図12）。壺には、広口壺、無頸壺、直口壺がある。第50図22・第70図6は口縁部が大きくひろく広口壺で、

口縁端部は面をもつ。第50図22は、口縁端部の面に波状文を施す。第66図13は、複合口縁を呈する無頸壺である。わずかに肥厚させた口縁端部に凹線文を施し、その下には波状文を加える。第37図1は直口壺で、口縁部外面に凹線文を施す。第66図14・15も第37図1によく似るが、このうち第66図15はその器壁の厚さから鉢である可能性が高いと考えられる。このほかに、鉢と考えられるものには、台付鉢につく脚台がある。第66図17は円形の透かし穴を6ヶ所開けていたと推定される。また、壺または鉢につくと考えられる脚部がある。第66図18は、柱部に凹線文を巡らし、器壁は厚い。脚端部は上方に拡張して、面を形成する。高坏は、水平口縁をもち、欠損しているが垂下帯を付加していたと考えられる。垂下帯の上部が辛うじて残る第57図5は、垂下帯を竹管文で飾り、第57図4は水平口縁を凹線文と竹管文で裝飾する。

第54図8・第68図15～18・第69図1～5は、くの字状口縁を呈する甕で、口縁端部は外傾する狭小な面を形成する。外面にハケ、内面にハケまたはケズリを施す。このような器形の甕は、中期後葉から後期後葉まで存在しており、単体で時期を決めることは困難と考えている。

Ⅲ 後期前葉

後期前葉に比定される土器は、SD01、鹿谷川田流路を中心に微量出土している。甕、壺、高坏、器台などがある。

甕は、外傾する短い口縁部に擬凹線文を施す（第50図21）。壺には、広口壺と受口状口縁の壺がある。第70図5は在地系の広口壺で、第51図8・第70図19は近江系の受口状口縁の壺である。第70図19は、頸部から肩部にかけて直線文と列点文で飾る。高坏（第71図1）は、ほぼ直立する短い口縁部をもち、器台（第90図12）は内傾する口縁部外面に擬凹線文を施す。高坏または器台につくと考えられる脚部は、脚柱部が棒状を呈する。第51図19は、脚柱部外面に擬凹線文を意識したハケと、列点文を交互に施す。第71図18は、脚裾部が大きく広がり、端部は狭小な面をもつ。脚柱部に方形透かしを4ヶ所穿っている。

Ⅳ 後期後葉～末

後期後葉～末に属する土器は多量であり、細分も可能であろうが、時期の特定が困難な資料も含まれていることから、敢えて行わなかった。今後の課題としたい。

当該期の土器は、掘立柱建物の柱穴、土坑、溝・自然流路（SD01～08・SD11・SD18ほか）、鹿谷川田流路など数多くの遺構から出土している。甕、壺、高坏、器台、鉢、蓋などがある。

甕は有段口縁を呈するものが主であり、ほかに、くの字状口縁を呈するものと、受口状口縁を呈するものがある。有段口縁の甕では、口縁部外面に擬凹線文を施すものが大半を占めるが、口縁部外面に斜行連続刺突を施すもの（第68図10～14）、横ナデ調整のみで仕上げて擬凹線文を有しないもの（第68図1・2・4～6ほか）がある。器形は、第43図1のように体部上位に最大径をもつ卵形の体部に小さな底部をもつものが一般的で、体部外面はハケ、内面はケズリを施す。口縁部内面は、指頭圧痕がみられるものと、指頭圧痕が確認できないものがある。また、1点しか確認していないが、肩部外面にハケ状工具による刺突を巡らすものもある（第66図22）。口縁端部は、やや厚みをもって丸く仕上げるものと、やや薄くまたは尖り気味に仕上げるものがあり、後者の方が前者に比べると口縁部が伸張している。口縁端部を丸く仕上げるものには、口縁部が内傾するもの（第66図20～24ほか）、ほぼ直立するもの（第66図27ほか）、外傾するもの（第66図28・29ほか）がある。口縁端部を尖り気味に仕上げるものには、口縁部が内傾するもの（第43図2ほか）、ほぼ直立するもの（第61図4・6ほか）、外傾するもの（第50図26ほか）、外反するもの（第51図1・第50図27ほか）がある。これらの有段口縁甕は、口径の大きさから、

口径13.0~23.0cm前後の中形と、口径23.0cm以上の大形にわけることができる。大形の甕は、すべて口縁部外面に擬凹線文を有する。第56図2と第57図13は口径23.0~24.2cmをはかり、口縁部がほぼ直立するもので、口縁部は丸く仕上げる。第51図2・3、第57図14、第67図16は口径29.0~36.6cmをはかり、口縁部が外反して立ち上がり、口縁部は尖り気味に仕上げる。中型は、15.0~19.0cm前後のものが最も多い。

くの字状口縁を呈する甕として、第51図5があげられる。口縁部を丸く仕上げており、体部が球形に近づいていると認められることから、当該期に属すると考えた。内外面はハケ調整で仕上げており、指頭圧痕が残る。

受口状口縁を呈する甕は、6点図示した。第68図7は湖西に系譜が求められるもので、内外面をハケ調整で仕上げており、口縁部外面の立ち上がりに刺突はみられない。第68図9は、口縁部外面に刺突列点文を施す。第51図6・7、第68図8、第90図4は口縁部が立ち上がる部分にハケまたはヘラ状工具による斜行連続刺突を施すもので、第51図7は肩部にも斜行連続刺突を巡らす。

また、受口状口縁と同様に、有段口縁甕の口縁部外面に斜行連続刺突を施す例もある。第68図10~14は、やや発達した口縁部外面に、ハケ状工具によって刺突を施す。口縁部中央に施されるものが多く、ほぼ口縁部と同じ長さである。第68図12は受口状口縁甕と同じく口縁部外面の立ち上がりに刺突を施している。大野市下黒谷遺跡でも同様の甕（A'類と分類）が出土しており、肩部上半にも斜行連続刺突を施す例などが報告されている。

壺は、全形をうかがえるものは皆無である。頸部から口縁部にかけての器形によって分けて記述するが、多様性があり、また全体の器形から分類を判断すべき事例もあるため、妥当性を欠いているかもしれない。

口縁部がひらく器形で頸部が短い広口短頸壺には、有段口縁を呈するものと、くの字状口縁を呈するものがある。有段口縁を呈するものには、口縁部が内傾するもの（第61図12・第70図16ほか）と口縁部が直立するもの（第70図18・第90図7ほか）がある。第70図18は、口縁部外面を擬凹線文と3個1対の円形浮文で飾る。くの字状口縁を呈するものには、口頸部が短いもの（第69図14）がある。また、両者の中間的な器形のものとして、第51図9があげられる。第51図9は、口縁部外面にやや強い横ナデを施して狭小な面を形成する。

口縁部がひらく器形で頸部が長い広口壺は、有段または有段状の口縁を呈するものと、口縁部に面を形成するものに分けられる。有段口縁を呈するものには、口縁部が外傾してひらくもので口縁部外面に擬凹線文を施すもの（第60図10・第70図9）、短い口縁部が外反するもの（第70図12・13ほか）がある。有段状の口縁を呈するものは、口縁部外面に擬凹線文を施す。第57図17・第70図7は、ほぼ直立する頸部中位から大きくひらいて口縁部にいたる器形で、口縁部は短く、口縁部下端を垂下させる。第70図7は口縁部内面を、扇形文で飾る。第70図8は口縁部下端を垂下させるもので、有段部分の内面の屈曲はほとんど認められない。口縁部が面をもつものは2点みられる。第60図11は口縁部下端を垂下させて面を形成し、この面にS字スタンプ文、また口縁部内面にもスタンプ文を施す。第70図17は口縁部を肥厚させて面を形成しており、頸部には突帯を貼り付けて刺突を巡らす。

口頸部が長い器形のもの、その体部の形態により3種類に分けられる。まず、中期以来続く肩部が張らない胴長の器形となるものには、緩やかに外反してのびる口頸部につき、そのまま口縁部にいたるもの（第69図8~11）、口縁部付近で内彎するもの（第56図4）、強い横ナデにより口縁部下端に後

を形成するもの(第70図1・2)、口縁部外面にやや強い横ナデを施して狭小な面を形成するもの(第58図5)がある。また、第69図15は口縁部付近で外反して大きくひらく器形を呈しており、欠損のため不明であるが、口縁部に狭小な面を形成していた可能性が高い。次に、体部が扁球形となるものには、口頸部がほぼ直立するもの(第61図7ほか)と緩やかに外反するもの(第58図1ほか)がある。体部のみしかないが、第70図21は同様の器形を呈する大形品と考えられる。最後に、体部が球形となると考えられるものに、第51図11と第69図7がある。第51図11は有段口縁を呈し、口縁部外面に擬凹線文を施す。第69図7は直口壺に近い器形で、口頸部は外反して大きくひらく。

このほかに、直口壺(第69図12・13)、無頸壺(第90図8)、短頸壺(第61図14)などがある。直口壺は口縁部が逆ハの字状にひらく器形を呈する。また、受口状口縁の壺には、第60図9と第54図9があり、第70図11は小形品と考えられる。いずれも内外面はハケ調整で仕上げる。このような受口状口縁壺と第70図12・13のような有段口縁の広口壺の中間的な器形を呈するのが、第56図3と第70図10である。第70図14も同様の器形と考えられるが、頸部の屈曲が非常に弱い。

高坏は、器形の全容をうかがえるような資料がない。坏部は、内彎気味に立ち上がる底部から強く屈曲して、口縁部が外反してのびる器形を呈する。口縁部は、肥厚して外傾する狭小な面を形成するもの(第60図16ほか)と、段をなして面をもつもの(第51図16ほか)がある。前者の口径は23.9~27.4cm、後者の口径は27.6~31.2cmであり、後者の器形の方が大形である。内外面はミガキ調整で仕上げる。脚部は、上半部が柱状で下半過ぎからハの字状に開くもの(第71図5・6ほか)がみられる。

器台も完形となる資料がない。受部は有段または有段状を呈し、口縁部下端を垂下させる。口縁部の長短により分類することができる。口縁部が短めなのは、口縁部がほぼ直立する器形のもの(第71図7ほか)が多く、口縁部の形態でさらに細分できる。ひとつは、第58図12のように、受部が脚部との接合部分から大きく逆ハの字状にひらくもので、有段部分の内面の屈曲が緩やかなものである。口縁部は、擬凹線文を施すもの(第71図7ほか)、擬凹線文と円形浮文で飾るもの(第51図18)などがある。もうひとつは、第71図9~11などのように、脚部との接合部分から受部が垂直に近い角度でひらき、有段部分の内面の屈曲が明確なものである。口縁部は、擬凹線文を施すもの(第51図17ほか)と口縁部下端に刺突を巡らすもの(第60図17)がある。また、口縁部が長いもの(第71図13・14ほか)は、口縁部が外反して大きくひらく器形を呈する。口縁部は、S字スタンプ文と擬凹線文で飾るもの(第71図12)、擬凹線文を施すもの(第58図11)、ミガキ調整のみで仕上げるもの(第71図13・14)がある。脚部は、有段となるもの(第71図15ほか)、または脚柱部の中ほどからハの字にひらく形態のもの(第90図11ほか)を伴う。鉢は様々な形態のものがあるが、有段の口縁部が外反または外傾する器形のもの(第72図8~10)が最も多くみられる。体部は、肩が張る器形のもの(第60図21・22ほか)と半球形を呈するもの(第52図3ほか)がある。口縁部はナデ調整で仕上げるもの(第72図8~10ほか)が多いが、擬凹線文を施すもの(第60図22)もある。同じく有段口縁で、口縁部がほぼ直立する大形品もある(第58図14)。このほかに、中位にある稜から口縁部が外反してひらく器形のもの(第72図7・第90図15)、平底から内彎気味にひらく器形のもの(第60図20)、碗形で脚台がつくもの(第72図14)、内彎気味に立ち上がる底部から強く屈曲して直立したのち口縁部が緩やかに外反する器形のもの(第56図13)がある。有孔鉢は、丸底で内彎気味に立ち上がるもの(第58図15)と、底部が小さくて砲弾形の器形を呈するもの(第52図4)がある。また、受口状口縁を呈する近江系の鉢も出土している(第72図11・12)。第72図12には、肩部を直線文と刺突列点文で飾るという近江系の特徴と、口縁部に擬凹線文を施すという北陸系の特徴がみられる。

蓋で図示できたものはわずか1点である。第72図16は大形品で、中央がくぼみ、外側に向かって張り出す形態の鈕がつく。鈕の端部は面をもつ。笠部はハの字状に開いて、口縁端部付近で屈曲し、狭小な面を形成する。

今回図示できた当該期の土器のなかには、赤彩されたものは2点しか見当たらない（第58図1・第60図12）。隣接する発掘山ノ端遺跡でも数点しか図示できていないことから、当地域の地域性的一端を示すものと考えられる。

第3節 古墳時代の土器

I 前期

前期の土器として確認できるものは、SD01から出土した土師器の甕と高坏各1点である。第52図6は、口縁部が内彎して立ち上がる甕で、口縁端部は肥厚して、内へ傾斜する。体部は球胴形ではなく、体部上位に最大径をもつ卵形を呈する。第52図7は、完形に復元できた高坏である。口縁部はやや外反しながら立ち上がり、坏底部との境に不明瞭な稜を形成する。脚部はハの字状に開き、裾部付近で緩やかに屈曲して広がる。

II 後期

後期の土器と認められるものは、鹿谷川旧流路からの出土した土師器の甕1点である。第73図1は、くの字状口縁を呈し、肩部はやや張る。内外面ともハケ調整で仕上げる。

III 7世紀初頭

7世紀初頭の土器と考えられるものには、須恵器の提瓶である。破片が2点あるが、観察の結果から同一個体である可能性は低いと思われる。第90図17は、口縁部から肩部の破片で、口縁部がハの字状に開く。第90図18は体部の破片である。外面にカキ目を施し、内面は閉塞円盤が明瞭にみられることから、腹部の中央部分にあたると思われる。

第4節 平安時代の土器

平安時代の土器は、掘立柱建物の柱穴、SD01、SD04、SD06、SD13、SD19、SD20、鹿谷川旧流路などから出土している。鹿谷川旧流路内では、G20～I23グリッドにかけて特に集中が認められ、集落からの廃棄をうかがわせる。弥生時代後期と並んで、出土資料が多い。主体となる時期は、9世紀前半と考えられ、田嶋編年の古代Ⅳ₂～Ⅴ₁期に該当すると考えられる。

土師器には、蓋、坏、皿、長胴甕、台付鉢、甕、取鍋がある。

蓋は口縁部が折り返しになっており、口径は18.5cm前後をはかる。内外面に赤彩を施す。第90図19は口縁端部の断面が三角形を呈し、山笠状に開く器形を呈する。第73図2は、口縁端部がのびて明確な屈曲を示し、器形はやや扁平である。

坏は、図示できたものはすべて無台坏である。口径が、10.0cm前後のもの、13.0～14.0cm前後のもの2種類がある。口縁部は内彎気味に立ち上がるものと外反するものがあり、底部はほとんどが平底である。第52図8・第90図20は口縁部付近に漆が付着しており、第73図5は底部外面に墨書がみられる。また、第73図3は丁寧なミガキ調整で仕上げ、内外面に赤彩を施す。

皿で図示できたものは1点のみである。第52図9は内面に赤彩が残る。

長胴甕はロク口成形の、いわゆる北陸型煮沸具で占められている。くの字状に屈曲する頸部からのび

る口縁部は有段口縁を呈し、端部を内傾気味につまみ上げて面取りするものが主体である。体部は、タキ調整後、上半部をカキ目で仕上げるものが多いが、第73図7は内面にケズリを施す。口径からみると、17.0cm前後、20.0～22.0cm前後、25.0～27.0cm前後の3種類の大きさに分けられる。

第73図15は、浅めの坏部をもつ台付鉢で、脚部は内彎気味に立ち上がる。口縁部外面に1段の稜を形成し、口縁端部は外に突出して、外傾する面を有する。

第90図23は瓶と考えられる。ほぼ直立する口縁部付近に、突帯を施す。第52図10は壙形を呈する取鍋と考えられる。粗い粘土で作り、器壁は厚手である。

須臾器には、蓋、坏、壙、皿、高坏、壺、瓶、甕、鉢、硯がある。

蓋は器高2.5～4.0cm前後が一般的な法量である。口径は、11.1～12.5cm前後、13.0～15.5cm前後、16.0～18.5cm前後、21.5cm前後の4種類がある。口縁部は短い折り返しになっており、天井部は回転ヘラ切り後ナデ調整または回転ヘラケズリ調整を施す。内面に仕上げナデを施すものは概して少ない。つまみは径が2.5～3.0cmで、高めの宝珠形を呈するものが主体であるが、乳頭状突起をわずかにもった扁平な宝珠形を呈するものもわずかにある。器形は平笠状に開くものが多いが、天井部に平坦面をもってやや扁平となるものもある。

有台坏はその法量分布から、口径11.4～13.0cm、器高3.6～4.25cm、径高指数32前後のもの、口径14.4～17.1cm、器高3.35～6.1cm、径高指数35前後のものに分けられる。底部回転ヘラ切り後に高台を貼り付けており、その際にナデ調整を行う。高台径は7.1～10.3cmの間に分布しており、内側が接地するものが主体であるが、両側が接地するものもみられる。

無台坏は、その法量分布が口径11.5～14.0cm、器高2.7～3.5cm、底径7.1～10cmにおさまる。径高指数は27前後である。ロクロ成形し、底部をヘラで切り離すが、回転ヘラ切りの痕跡をナデ消すものが多い。器形は口縁部が外反し、底部が平底となるものが主体であるが、口縁部が内彎気味に立ち上がるものもある。

壙は無台のもの（第91図6）と有台のもの（第75図10・11・第91図16）がある。第91図6は口縁部が内彎気味に立ち上がり、第75図11は口縁部付近で外反する。高台は、端部の内側が接地するものが主体である。底部は回転ヘラ切りにより切り離すものが多いが、第91図16は回転糸切りにより切り離している。

皿は、口径14.2～17.1cm、器高1.8～2.85cmのもの、口径17.2～18.3cm、器高2.2～3.4cmのものにわけられる。器形は口縁部が外傾または外反するものと、内彎気味に立ち上がるものがある。

高坏は、完形となるものがない。第92図2は唯一図示できた坏部で、蓋を逆位にした器形を呈する。内外面に自然軸がかかり、底部内面にはヘラによる線刻がある。脚部は、全容がわかる資料がないが、基部径が3.0cm前後でやや細めのもの（第55図18・第58図17・第92図3）と、基部径が5.0cm前後でやや太めのもの（第78図7）がある。

壺は短頸壺と広口壺に分けられる。短頸壺は口縁部（第78図1）と底部（第92図4）がある。第78図1は口縁部が短く直立し、肩が張った器形を呈する。第92図4は、高めの高台がつくもので、脚部は外側が接地する。広口壺は、外反する口縁部をもつ。確認できたものは、口縁部破片のみである。口縁部端部をつまみ出して外傾する面を形成しており、この面の中央部が影らみをもつもの（第77図9）と、少しくぼむもの（第77図8・第78図2）がある。

瓶は広口瓶と長頸瓶がある。第91図26は広口瓶で、肩部で強く屈曲し、やや長めの口縁部が外反しな

が立ち上がる。長頸瓶は2点確認できたが、その器形は異なっている。第91図25は、口縁部が頸部から大きく外反し、口縁端部をつまみ出して面を形成する。その中央部を少し、くぼませる。これに対して第78図3は、口縁部がほぼ直立し、口縁端部付近でわずかに外反する。口縁端部は丸く仕上げる。

甕は、口縁部が大きく外反する器形である。第92図1・第77図10は、口縁上端部をわずかにつまみあげ、口縁下端部を斜め下方にのぼして、口縁端部に外傾する面を形成する。口頸部外面にはカキ目を施す。また、第77図7は口縁部をつまみあげて内傾する面を形成する。

広口鉢は、くの字状を呈する口縁部をもつ。口縁端部は、丸く仕上げるもの（第91図29）と、中央部をくぼませた狭小な面を形成するもの（第62図7・第78図6・第91図28）がある。体部上位に最大径をもつ。

碗は1点確認している。第78図10は平面形が風冠を呈する風字碗である。磨面の端側に脚をつけ、墨池に向かって傾斜させる。脚は、貼り付け後に面取りを行う。ほぼ半分は割れており、磨面部分しか残っていない。残存している磨面の最も墨池側に使用の痕跡が認められる。

灰軸陶器は2点図示できた。第52図19・第92図5はいずれも碗である。第92図5は底部内面が平滑に摩滅しており、墨汁痕跡は認められないが、転用碗として利用された可能性がある。

ヘラ記号が確認できたものは3点ある。須恵器の有台坏（第91図12）の高台内に「十か」、無台坏（第75図27）の底部外面に「卍」、皿（第55図11）の底部内面に「-」である。

当該期の土師器・須恵器には、墨書土器と漆書土器計15点が含まれている。その出土遺構をみるとSD01からが2点、鹿谷川旧流路からが13点となっている。

墨書された土器は、土師器が2点、須恵器が11点を数える。その内訳は、土師器が無台坏と長胴甕各1点、須恵器が蓋3点、無台坏2点、台付坏3点、皿3点である。食膳具が大半を占めるが、煮沸具も1点存在する。また、漆で文字が書かれた例は須恵器の皿2点である。このほか漆が付着する例として、須恵器の無台坏（第75図25）と皿（第77図4）、土師器の無台坏（第52図8・第90図20）がある。須恵器では底部外面に、土師器では口縁部に漆が付着している。

墨書部位は、無台坏と皿は底部外面、台付坏は高台内に限られる。蓋は内面と外面があり、長胴甕は外面の肩部である。漆書部位も、皿は底部外面に限られる。

判読できる墨書文字は、「真吉」・「衣女」・「林女」・「大井」・「大前」・「井口」・「□安」・「十」・「×」があり、漆書文字は「十」である。このうち、人名と考えられるのは、「衣女」・「林女」・「真吉」である。ただし「真吉」は、吉祥句の可能性も捨てきれない。数字とみられるのは「十」のみで、漆書文字も含めれば、最も数が多い。記号は「×」が1点ある。地名の可能性のあるのは、「大井」・「大前」・「井口」である。「□安」は上部を欠損しているため、内容を言及できない。

転用碗として利用されていたことが明らかなのは、蓋（第74図25）・無台坏（第75図25）・皿（第77図1）である。第75図25は底部内面に微かな墨汁痕跡が認められる。第77図1は底部外面に墨汁痕跡と墨書文字が、第74図25は天井部内面に墨汁痕跡と墨書文字が認められる。第74図25は蓋のつまみが遺存していることから、蓋を逆転させて坏身の上に乗せ、その内面を碗面として使用していたと考えられる。どちらも、墨書文字は転用碗として使用していた時に書かれた可能性が高い。このほか、前述の灰軸陶器（第92図4）や須恵器の有台坏（第74図43）は底部内面が非常に平滑であり、墨汁痕跡は認められないが、転用碗として利用された可能性が指摘できる。

第5節 中近世の土器・陶磁器

中近世の遺物の大部分は表土・包含層および鹿谷川旧流路からの出土であり、明確な遺構から出土したものは概して少ない。また遺物は各地区から出土しているが、調査地が以前の圃場整備により削平されているため移動が甚だしく、まとまりのある資料は抽出できない。そのためここでは、図示した遺物を産地ごとに略述していく。なお、当調査地からは近世～近代までの磁器片が多量に出土しているが、それらは割愛し、中世に属する遺物を中心に図示した。以下、越前焼・中国製磁器・瀬戸焼・土師質皿および瓦質土器の順に記す。

越前焼は鉢類の出土が多いのに対して甕類は少ない。中世の甕には小野分類Ⅰ群の第92図6と、小野分類Ⅲ群の第92図7がある¹⁾。鉢類は時間的な空白期間をおかずに出土している。第92図8～14・第93図4は描目を施さない片口鉢で、12世紀末葉～14世紀初頭に取まる。描鉢は第92図15～17・第93図3が小野分類Ⅰ群、第92図18～22・24と第93図5・6が小野分類Ⅲ群、第92図23が小野分類Ⅳ群に相当する。このうち第93図3は描目が太い特異な資料である。第93図1・2・第78図12は近世の描鉢で、それぞれ17世紀、18世紀、19世紀の年代を与えられる。また第93図7は描目が1条で、乳白色の胎土を有する産地不明の描鉢であり注意される。なお14区SB25の別棟の掘り込みから片口鉢（第28図1）が、14区SE07から小野分類Ⅰ群に相当する描鉢（第33図1・2）が出土しているが、前者が13世紀末葉～14世紀初頭、後者が14世紀前半頃に取まる。

中国製磁器は青磁・白磁とも一定量出土しているのに対して、染付は少ない。図化した青磁は全て碗類であるが、体部外面に櫛描文が施される第78図17は同安窯系Ⅰ-1・b類、口縁部直下の内面に沈線がめぐり、体部内面に劃花文を描出する第93図8は龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2類に相当する²⁾。また内外面無文の端反り碗である第78図19・第93図9～12は青磁碗D類、明瞭な蓮弁文を有する第78図18・第93図13は青磁碗B-Ⅰ類、片切彫の大きく粗略な蓮弁文を有する第93図14は青磁碗B-Ⅱ類、細い線描き蓮弁文を描出する第78図20は青磁碗B-Ⅳ類に相当する。白磁は全て皿類で第93図17～19はD群であるが、18の底部外面には墨書が認められる。

瀬戸焼は古瀬戸様式～大窯期のものを図示したが、古瀬戸様式には第93図28・29の小型瓶のように仏器関係の器種もみられる。第93図20は無軸の小皿で、山茶碗と考えられる。第93図21～24は天目茶碗で、21・22は古瀬戸後期様式Ⅳ期、23は大窯期前半、24は大窯期後半に相当する³⁾。第93図25は古瀬戸後期様式Ⅰ期の平碗、第93図27は鉢皿、第78図21・22は古瀬戸後期様式Ⅳ期の折縁深皿である。

土師質皿の出土数は少なく、細片がほとんどである。図化したものの大半は遺構内出土品であるが、復元口径は不明確である。形態的に、3区SE03出土品（第31図1）と14区SD27出土品（第25図4）は、腰部がやや外反することから富山E類に、14区SD27出土品（第25図1～3）と14区SB25・SE08出土品（第28図4）は富山D類に相当すると思われる⁴⁾。なお、富山D・E類には13世紀～14世紀前葉の年代が与えられている。

最後に瓦質土器であるが、出土品の多くは近世以降の型造りであるため割愛した。唯一、第93図30は中世の浅鉢で、口縁端部に浅い沈線がめぐる。

以上、中近世出土遺物について述べてきたが、出土遺物の年代は時期不明品が一定量認められるものの、12世紀中頃～近世までの遺物が空白期間をおかずに出土している。12世紀中頃は「新開型村落」が成立する時期であり、志田神田遺跡においても同時期に中世村落が形成されたことがうかがえる⁵⁾。また近隣の発坂山ノ端遺跡からは13世紀後半～14世紀初頭に位置付けられる中世墓（SX01）が検出されて

おり、本調査地でも13世紀～14世紀前半頃に取まる遺構が検出されていることから、両遺跡の空間的な繋がりが想定できる。

第6節 石器

I 構成と分布

石器の構成を第8表に示す。狩猟具・漁撈具・工具・土掘具・調理具、さらに装身具や祭祀具もあり、豊富で多様な道具類からなる。特に、打製石斧が多量に出土しており特徴的である。敲石・凹石や石皿等も多く、土掘や調理を中心とした作業が行われたと考えられる。

石質の構成は、安山岩が9割弱でチャートや砂岩もある。他、頁岩や翡翠等も僅かにある。器種別では、石鏃や石匙・削器等の剥片石器は緻密な安山岩もあるが、チャートも多く用いられる。打製石斧と磨製石斧は安山岩、敲石や凹石等は安山岩の他に砂岩が用いられる。

第8表 石器組成表1

石質	異形	石鏃	球状耳飾	勾玉	磨製石鏃	石匙	削器	石鏃	石鏃	剥片	砕片	打斧	打斧調	磨斧	石鏃	敲石	凹石	磨石	台石	石皿	計
An					2	5	1	1	145	3	394	31	4	3	16	5	52	1	7	670	
Ch	1	2			2	2		1	28	2											38
Sh					1				3												4
Sa														1	18	6	18				44
翡翠			1																		1
滑石																					1
計	1	2	1	1	1	4	7	1	2	176	5	394	31	4	4	34	11	70	1	8	758

第9表 石器組成表2

区	石質	異形	石鏃	球状耳飾	勾玉	磨製石鏃	石匙	削器	石鏃	石鏃	剥片	砕片	打斧	打斧調	磨斧	石鏃	敲石	凹石	磨石	台石	石皿	計
1	An										3		22		2							27
	Sa																	1				2
2	An												2									2
	An						1				12		31	1								52
3	Ch							1			2											3
	Sa																1	1				3
4	An										1		8									10
	An										1		12	1								14
5	An										7		11			1					2	21
	Ch										1											1
6	滑石			1																		1
	An							2		1	17		47	9			3	1	10			91
7	Ch	1	1					2		1	8	1										14
	Sh					1					2											3
8	Sa																	3	1	3		7
	An							1		7	1	18	5									32
9	Ch							1		4												5
	Sh									1												1
10	Sa																	1				1
	An						1	2	1	39	2	39	3			1	2	2	6			118
11	Ch										9											9
	Sa																	2	1	3		6
12	翡翠			1																		1
	An									10			22	2				3			8	45
13	Ch									2												2
	Sa																	5		1		6
14	An										1		3									3
	Ch										1											1
15	Sa																					1
	An									7		116	8	1			7	1	11	1		154
16	Ch											1										1
	Sa																	1	3			4
17	An										9		13									22
	An									9		10				2	1	1	5			32
18	Ch									1												1
	Sa																	2		7		9
19	An									3			42								2	47
	Sa																	1	1	2		4
20	Ch		1																			1

石器の分布を第9表で示す。7・9・12区でまとまり、3・10・14・15区でもやや多く出土した。他区は散在する。器種別では、石鏃等の剥片石器や剥片は7・9区でまとまるが、打製石斧は12区でも密に分布する。敲石や磨石等は全体と同様な状況である。大半は鹿谷川旧流路から出土した。

Ⅱ 石器の形態 (第105～110図)

異形部分磨製石器(1) 所謂トロトロ石器で、チャート製の剥片が素材。両面に調整されるが、裏面に素材面を残す。両側縁は基部上位で少しくびれ、基部は外方へ突出する。また、器体上半は表裏とも研磨され、先端は丸く仕上げられる。

石鏃(2・3) 2と3は凹基無茎鏃で、両面に調整される。2は、側縁が緩く内湾し、基部が鋏形に作出される。3は、基部から扶入が作出されている。

珠状耳飾(4) 中央に円孔、下端に先細りの切目が作出されている。平面は円形だが、長軸を横位にもつ。また、裏面は平坦で、孔の断面は扁平となる。

勾玉(5) 丸みのある頭部と湾曲した尾部をもち、平面が逆しの字形を呈す。表面から穿孔される。

磨製石剣(6) 鉄剣形の茎部。両側縁上部に刃部が残り、表面中央には鐙がみられる。また、左側縁下部で屈曲し、茎部下端にも面が作出されている。

石匙(7～9) 7と8は横形のもので、7は上方、8は右上方につまみ状の基部が作出される。7は、赤色のチャート製で、薄手の剥片が素材。裏面中央に素材面を残すが、他は平坦に調整される。8は、基部が表裏、刃部は表面下端に粗く調整される。9は縦形で、上方につまみ状で幅広の基部が作出される。表裏の周縁に調整されるが、基部に礫面を残す。

削器(10～15) 10は、横長剥片が素材。表裏の周縁に調整されるが、下端に素材の縁辺が残る。先端は尖鋭に作出され、尖頭器状となる。11と12は、縦長剥片が素材。11は、表面の右側縁と表裏下端に調整される。12は、右側縁に急斜な調整が施され、左側縁の表面と裏面一部に調整される。13と14は、寸詰まりな剥片が素材。13は、左側縁と下端左半に調整される。14は、裏面下端に調整される。15は、大形の横長剥片が素材で、表面下端に調整される。

石錐(16) 横長剥片が素材で、両側縁に調整される。側縁中程で屈曲し、下端に刃部が作出される。

石核(17・18) 17は、厚手の剥片の裏面を打面に設定する。周辺から表面中央、左端から裏面へ向け剥片剥離される。18は、上端の礫面を打面とし、表面を作業面として剥片剥離されている。

打製石斧(19～62) 多くは板状剥片が素材で、周辺中心に調整される。また、風化や磨減が著しい。器体中央まで平坦に調整されるものもある。全体形や基部・側縁等の形状から類別した。

1類(19～36) 基部から刃部がほぼ同じ幅で、短冊形を呈す。さらに以下のように細別した。

1-①類(19) 両側縁が直線的にのび、細身の形状を呈す。裏面上半が器体中央まで調整される。

1-②類(20・21) 両側縁は直線的にのびるが、基部がすはまる。20は、裏面が器体中央まで平坦に調整される。21は、表面の刃部左半に長軸方向の擦痕がみられる。

1-③類(22～31) 基部から刃部までほぼ同じ幅で、両側縁が直線的にのびる。22～24は小形の一類。23は、両面とも器体中央まで調整される。24は、基部に素材面を残し、左側縁上位と右側縁中程が僅かに内湾する。25～28は中形の一類。25は、両面とも器体中央まで平坦に調整される。27は、裏面中央まで調整されるが厚手である。28は、基部に素材面を残し、両側縁上位が僅かに内湾する。26は刃部が偏る。29～31は、やや大形の一類。30は、両側縁が僅かに内湾し刃部が偏る。31は、両側縁上位が僅かに内湾し、右側縁下半が湾曲する。

1-④類 (32~36) 基部から刃部までほぼ同じ幅だが、側辺が緩く内湾して上位に緩やかな挟入をもつ。32は、小形で右側辺上半が湾曲し、上位に僅かな挟入をもつ。33~35は中形の一類。35は、両面とも器体中央まで平坦に調整される。また、33は基端左半、34は右端に素材面を残す。33と34は、右側辺が直線的にのび、33はやや細身の形状を呈す。36は大形。

2類 (37~49) 基部から刃部へ側辺が開き、撥形を呈す。さらに以下のように細別した。

2-①類 (37~44) 側辺が内湾し緩く開く。37は小形で、基端右半と左端に素材面を残す。38~42は中形の一類。40はやや厚手の板状剥片が素材。38と40は基端に素材面を残す。38と39は、両側辺が直線的に開き、丸い刃部をもつ。41と42は中形だが、やや細身で基部がすぼまる。41は基端と右端に素材面を残す。41は両側辺、42は左側辺が直線的に開き、丸い刃部をもつ。43と44は大形の一類。いずれもやや厚手の板状剥片が素材。43は、左端上半と右端に素材面を残し、右側辺が直線的に開く。調整が粗く器体の作出が不十分のため、未製品とも考えられる。44は右側辺の刃部境が屈曲する。

2-②類 (45) 側辺が内湾して大きく開く。基端に素材面を残し、やや細身で基部がすぼまる。

2-③類 (46~49) 側辺下半が大きく湾曲して開き、幅広の刃部をもつ。46は中形で、両側辺の刃部境が屈曲する。47~49は大形の一類。いずれも厚手の板状剥片が素材。47は、裏面中央まで平坦に調整され、基部から器体中央まで直線的にのびる。49は、両側辺上位が内湾し、基部がすぼまる。

3類 (50~62) 側辺中程のやや上位に挟入をもち、分銅形を呈す。多くは左右の側辺で湾曲の程度が異なり、挟入部位が若干ずれる。着柄方法等に起因すると考えられる。

3-①類 (50~56) 基部から刃部へ側辺が緩く開く。50と51は中形の一類。51は、裏面中央まで調整されるがやや厚手で、左側辺の刃部境が屈曲する。52~56は大形の一類。52は左側辺、56は両側辺の刃部境が屈曲する。54と55は、側辺下半が湾曲して丸い刃部をもつ。

3-②類 (57~60) 側辺下半が大きく湾曲して開き、幅広の刃部をもつ。57は中形で、基部から器体中程まで直線的にのびる。58~60は大形の一類。58は基端に素材面を残し、表面まで平坦に調整される。また58は基部が厚く、59は幅広で平らな基部をもつ。60は右側辺の刃部境が屈曲する。

3-③類 (61・62) 幅広の器体をもつ。いずれも丸みのある礫面をもつ剥片が素材。61は左側辺の刃部境が屈曲する。62は、側辺下半が大きく湾曲して開き、幅広の刃部をもつ。

磨製石斧 (63・64) 63は、側辺や基端に面が作出され、断面が扁平な方形を呈す。裏面と両側面に長軸方向、側面の稜側には整形段階に施された斜行する擦痕がみられる。64は、側辺に不明瞭な稜が作出され、断面が丸みをもつ。乳棒状を呈し、細くすぼまる基部をもつ。

石錘 (65・66) 65と66は小形で扁平。65は切目石錘で、上下端に切目が作出される。66は打欠石錘で、表裏の上下端に数回調整される。

敲石 (67~71) いずれも端部に敲打痕をもつ。素材の形状から以下のように類別した。

1類 (67~70) 扁平な棒状礫が素材で、70はやや大形。68~70は、上端にも敲打痕をもつ。

2類 (71) やや厚手の楕円礫が素材。上端にも敲打痕をもつ。

凹石 (72~74) 表裏に磨面をもち、器体中央に敲打痕があって凹む。素材の形状から類別した。

1類 (72・73) 扁平な円礫が素材。72は周辺、73は下端にも敲打痕がみられる。また73は、敲打により右側に平坦な面が作出される。

2類 扁平な板状礫が素材。裏面にも敲打痕がみられる。

3類 (74) 扁平な楕円礫が素材で、大形である。上下端と両側辺中程にも敲打痕をもつ。

磨石 (75) やや厚手の楕円礫が素材。右側に内湾する磨面、上端に敲打痕をもつ。

台石 (76) 断面三角形で大形の棒状礫が素材。表面稜と両側端は、敲打により平坦面が作出される。また、裏面に礫面が残る。

石皿 (77) 形状から以下のように類別した。

1類 扁平な円礫が素材。表裏に磨面をもち、中央は僅かに凹む。

2類 (77) 大形で扁平な楕円礫が素材。表面に平坦な磨面、周辺に明瞭な縁をもつ。

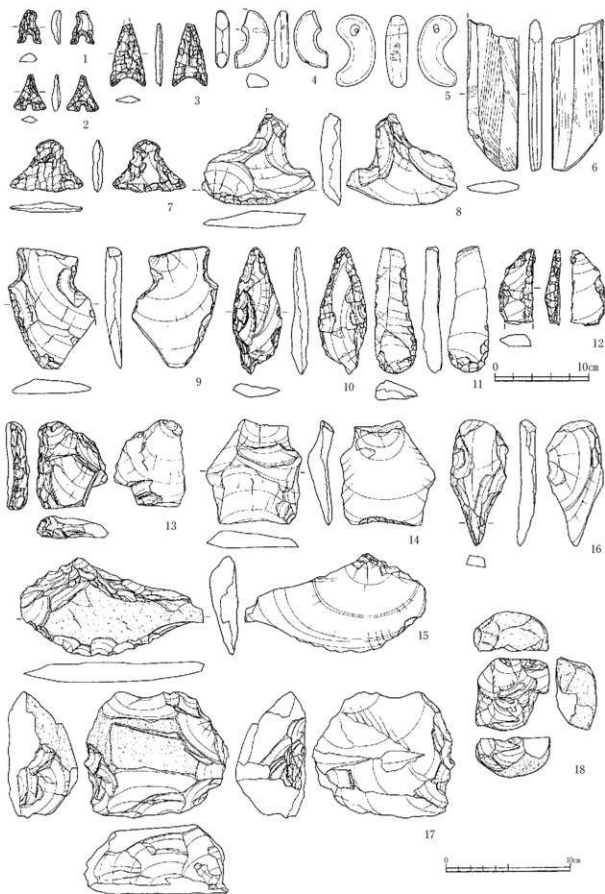
Ⅲ 小結

志田神田遺跡の石器群は、数時期の資料が混在している。土器との共存や出土状況に恵まれないため、特徴的な形態のもの以外は時期の帰属が不明確である。限られた状況だが、時期別に石器の形態的な特徴や組成からみた遺跡の性格等について若干まとめる。

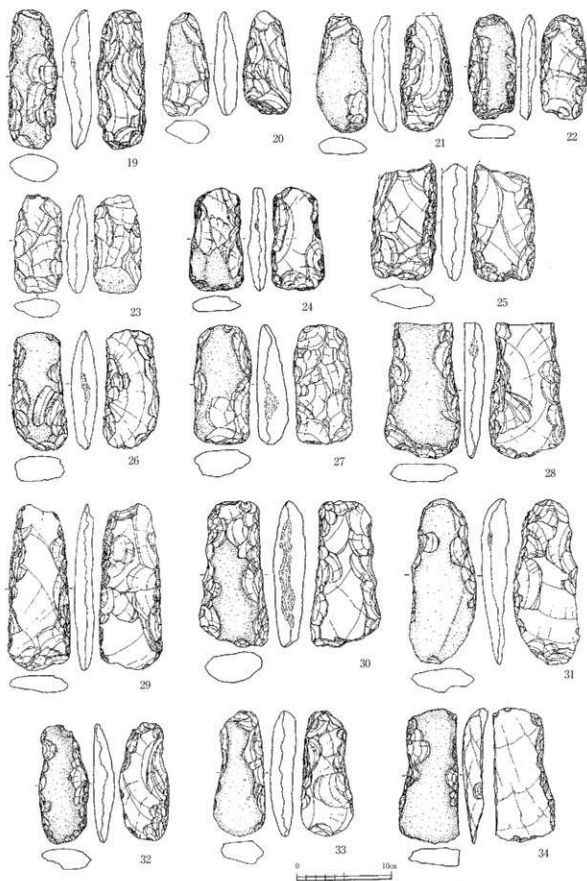
縄文時代早期から前期前半では、異形部分磨製石器(第105図1)と凹基無茎鎌で基部が鉞形に作出された所謂鉞形鎌(第105図2)、横型石匙(第105図7)と袂状耳飾(第105図4)が該当する。また、横型石匙の赤色チャートと同一個体とみられる剥片が少量ある。異形部分磨製石器と鉞形鎌は、早期の押型文土器と共存する事例がみられ、本遺跡でも鹿谷川田流路から押型文土器が出土した。異形部分磨製石器は、前平遺跡(高山市)など飛騨・美濃地域に多く分布する。第105図1は形態が小形であり、県内では他に猪谷田畑遺跡(永平寺町)で典型例が1点出土している。共に青白色のチャートが用いられており、飛騨・美濃地域と石材でも共通している。地域間の交流を示すと推察される。また、横型石匙は整った三角形を呈し、袂状耳飾は平面円形で下端に先細りの切目をもつ。県内では、横型石匙は鳥浜貝塚(若狭町)、袂状耳飾は桑野遺跡(あわら市)に多くの類例があり、共に早期末から前期前半と考えられる。

縄文時代中期後半から後期では、磨製石斧(第110図63)・石錘(第110図65)・石皿(第110図77)が該当する。第110図63は定角式磨製石斧で、側面や基端に面が作出され、断面が扁平な方形を呈す。第110図65は切目石錘で、第110図77は周辺に明瞭な縁をもつ。また、他に該期に属すと考えられる器種もあるが不明確である。特に多量に出土した打製石斧や敲石・凹石等は、弥生時代中期から後期にも存続する。隣在する発坂山ノ端遺跡(勝山市)では、弥生時代後期後半の包含層から打製石斧が多量に出土している。本遺跡では、大半が良好な出土状況でないため、時期の特定が困難である。時期が混在した組成と考えられるが、土掘や調理等の作業が盛んに行われたと推察される。

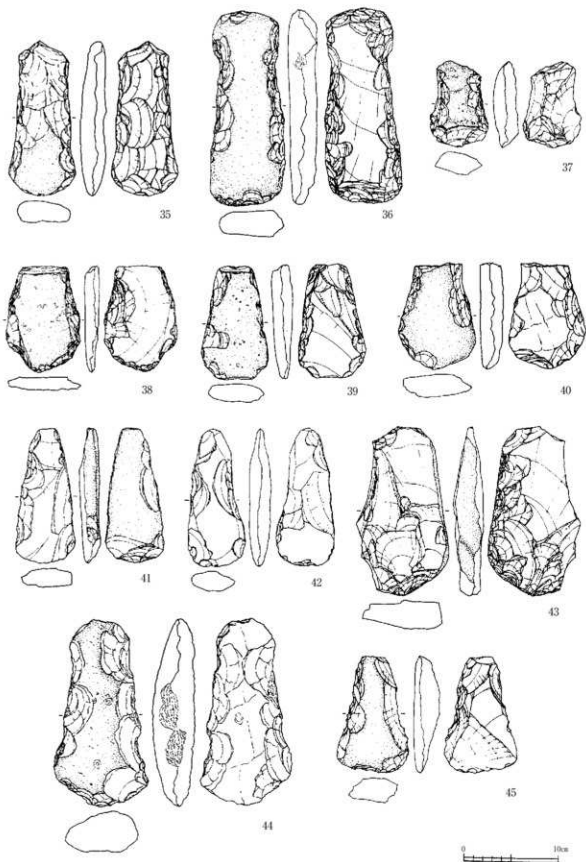
弥生時代中期後半から後期では、鉄剣形の磨製石剣(第105図6)がある。越前では瓜生助遺跡(越前市)など類例が少なく、奥越では初例となった。武器とも考えられるが祭祀具であり、近畿からの影響が推察される。



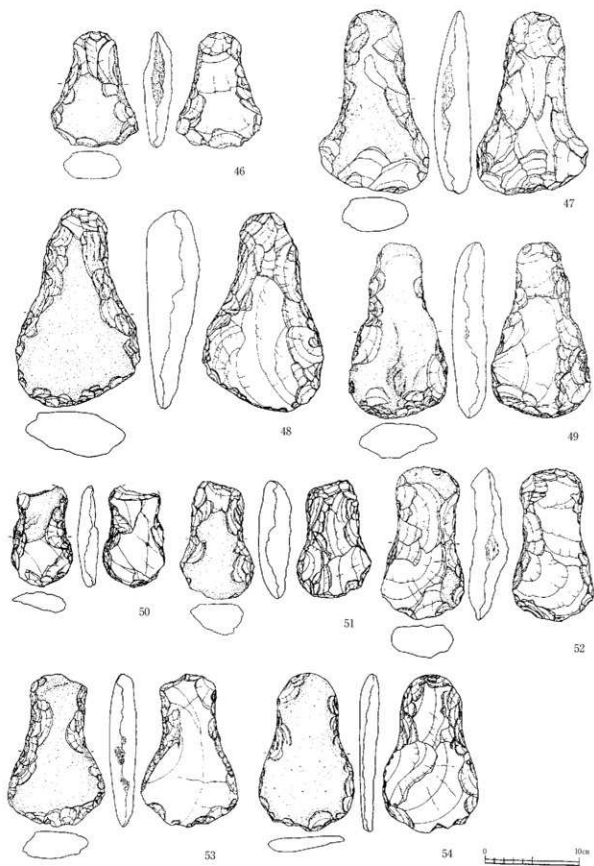
第105図 石器1 (1~12:縮尺1/2 13~17:縮尺1/3)



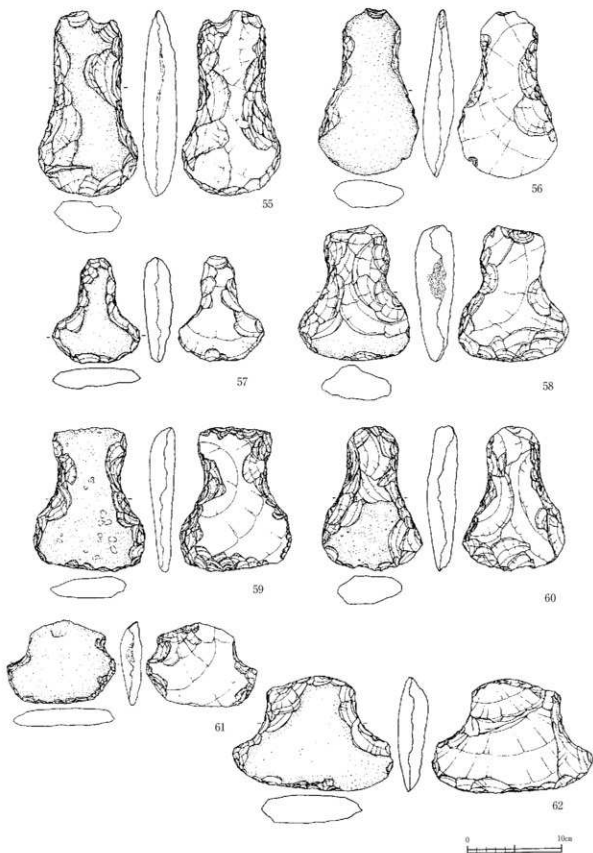
第106図 石器2 (縮尺1/4)



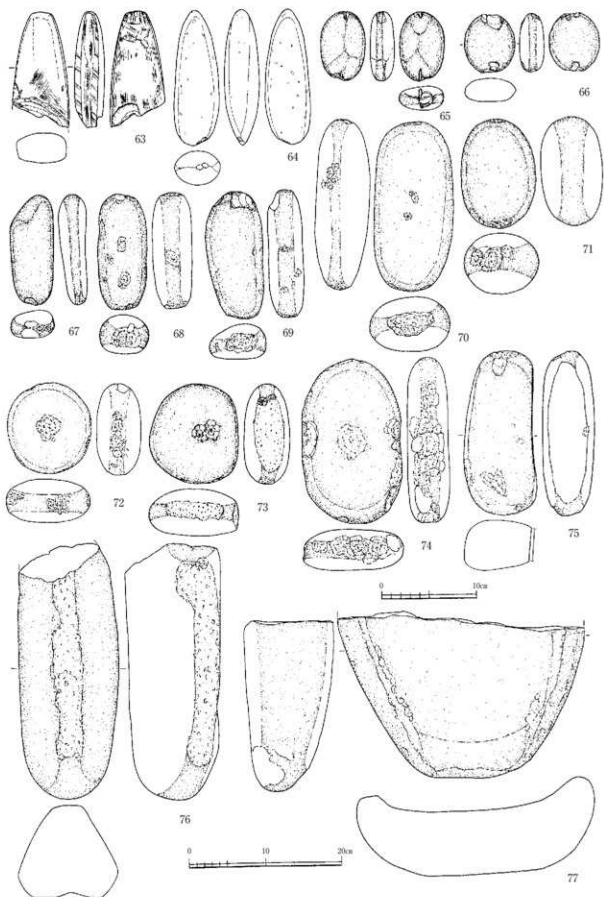
第107図 石器3 (縮尺1/4)



第108図 石器4 (縮尺1/4)



第109図 石器5 (縮尺1/4)



第110图 石器6 (63~75: 缩尺1/4 76~77: 缩尺1/5)

第7節 石製品

I 構成と分布、時期

第10表 石製品組成表

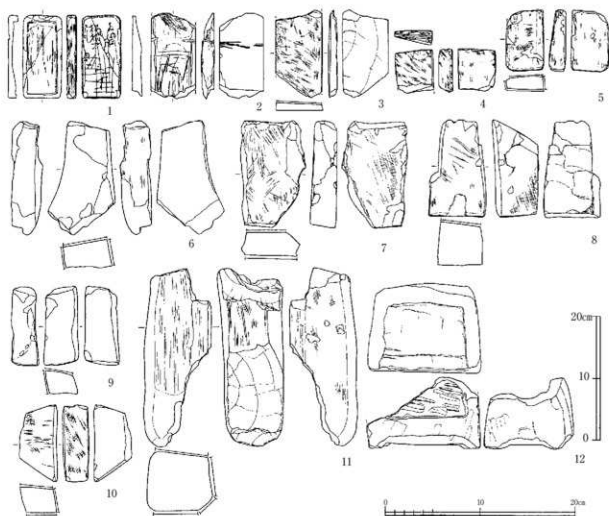
石質	硯	砥石	バンドコ	計
頁岩		15		15
粘板岩	2	5		7
砂岩		2		2
凝灰岩		4		4
笏谷石			1	1
計	2	26	1	29

石製品の構成を第10表に示す。文房具に硯、研磨用工具に砥石、暖房具にバンドコがある。砥石が主体で他は少量であり、道具の種類も少ない。砥石は中砥が大半で、浄慶寺産を含むと考えられる。石質は頁岩や粘板岩が中心で、凝灰岩や笏谷石はわずかである。分布はまとまらず散在する。

硯やバンドコの形態から、時期は15世紀から16世紀前半中心と考えられる。砥石は、他時期のものが少量混在するとも考えられる。

II 石製品の形態 (第111図)

硯 (1、2) 共に長方硯。側面は垂直に立ち上がり、細い縁帯をもつ。表面は平坦に作出される。1は、側面に長軸方向、上端面に短軸方向、下端面に表裏方向の成形痕がみられ、表面周辺と硯頭・硯尻は縁取りされている。また、1は陸部から海部、2は陸部中央が使用により凹状となり、筋状の擦痕が長軸方向にのびる。1は、表面に「志田／松□／七月□日」と刻書されている。2は、陸部と海部の



第111図 中世の石製品 (1～11: 縮尺1/4, 12: 縮尺1/6)

境が切り込まれており、再加工が転用と考えられる。

砥石（3～11） 石質から、3と4は上砥、5～11は中砥と考えられる。3と4は、板状の長方形を呈し、上下端以外が砥面。5は、扁平な長方形を呈し、上下端以外が砥面。6は、扁平な板状を呈し、側面が湾曲して反る。表面と左右側面が砥面。7と8は角形を呈し、7は表裏、8は表面と右側面が砥面。9～11は角柱形を呈し、11は大形である。9は表面と左側面、10は表裏と右側面、11は表面と左右側面が砥面。また、9は表面、11は左側面が緩く凹む。

バンドコ（12） 前面に上向き横口が開き、内部は四角く削り抜かれる。内面は平ノミで口から奥壁へ向け、奥壁は丸ノミで横方向に整形される。

第8節 木製品

志田神田遺跡で出土した8点の木製品を検討した。容器、履物、紡織具、建築部材があり、弥生時代から近世にわたる。出土状況から時期を限定することが難しいものが多く、特に記さない限り、木製品の特徴から時期を判断している。

容器は椀、皿、桶、曲物が出土している。椀（第87図2）は黒色塗りで低い台を有し、平安時代と考えられる。皿（第52図20）は漆等の塗布物は確認されない。平安時代以降と見られる。桶（第87図1）は底部が肥厚して底板を当てる作りとなっている。弥生時代と考えられる。曲物（第31図3）は、中世の井戸SE03から井戸枠として検出されたもので、内面に縦方向の刻みが施されている。また第52図21は曲物底板と考えられるが、時期は判断できない。

履物は連南下駄（第103図8）で、近世と見られる。

紡織具として組み合わせ式布巻具（第37図2）がSK1205から出土した。これは織機を構成する部材で、黒須亜希子によって検討されている（黒須2007）。今回出土したものは組み合わせられる2個の部材のうち、組み合わせ部分の突出する個のみである。両端に装飾的な線刻を有し、組み合わせ部分以外全面にベンガラが塗布される。中央に穿たれた斜位の貫通孔が注意される。樹種はクロウメモドキ科ケンボナシである。SK1205からは弥生時代中期後葉の土器が出土しており、同時期の組み合わせ式布巻具は岡山県南方遺跡に類例がある。

建築部材は柱根が1点検出された（第46図7）。この柱根が確認されたSP07632は組み合わせとなる柱穴が特定できず、時期も不明である。

第9節 金属製品・銅銭

金属製品は、表土・包含層および鹿谷川旧流路から主に出土している。

第53図12は器種不明品だが、先端に向けて先細る形態を呈する。第87図3は片刃の鉄鎌である。同図4・5は鉄釘で、いずれも頭端部が延圧され横に、突出する。第103図9は無紋の青銅製小柄で、中央が若干凹む。第103図10は刀子である。刃先が欠けているが、刃部は残長15.6cm、茎部は8.6cmをはかる。

銅銭は、判読不能品1枚を含む53点を図示した（第87・104図）。このうち渡来銭は23枚で、唐銭は乾元重寶1枚・開元通寶1枚、北宋銭は太平通寶2枚・淳化元寶2枚・天聖元寶1枚・皇宋通寶1枚・熙寧元寶3枚・元豐通寶4枚・元祐通寶4枚、南宋銭は景定元寶1枚、明銭は洪武通寶2枚・永樂通寶1枚である。全体として北宋銭が多く、日本各地の出土銭の一般的な傾向と合致している。次に日本銭だが、寛永通寶28枚・文久元寶1枚と前者が大半を占める。寛永通寶は古寛永7枚と新寛永21枚に分けら

れるが、新寛永でも背面に「文」の字のある文銭が少ないことから、1697年から製造される3期以降のものが多くことがうかがえる⁶⁾。

第10節 各期の遺構と遺物

志田神田遺跡は縄文時代～近世までの複合遺跡であり、断続的に集落が営まれてきたと考えられる。最後に、一部周辺の遺跡の状況も含めて志田神田遺跡の遺構と遺物について概観したい(第112図参照)。

I 縄文時代

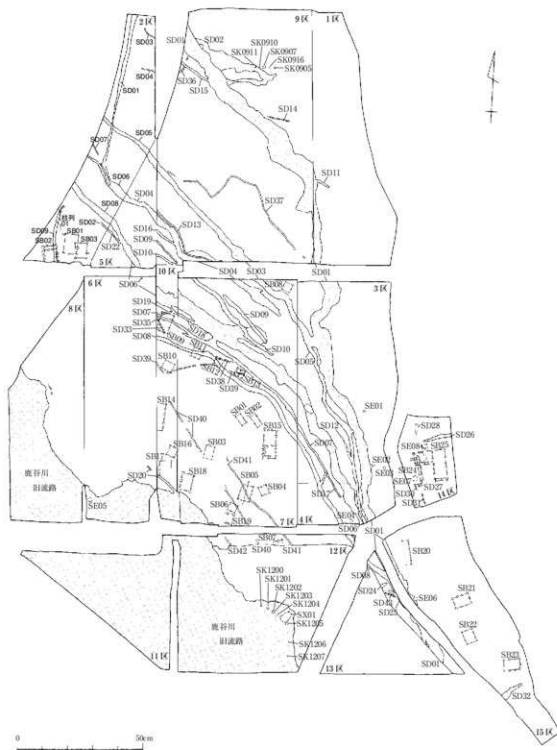
早期～晩期までの遺物が出土しているが、縄文時代の遺構として特定できるものはない。早期の押型文土器は、弥生時代以降の遺構面である粘土層と、さらに下位の砂礫層からも出土する。この土層は、鹿谷川をはじめ、その支流による水成堆積によって形成されたものと考えられることから、押型文土器は上流からの流れ込みである可能性が高いと判断される。よって、早期には志田神田遺跡一帯は河川の流路にあたり、鹿谷川の上流域に概期の集落が存在していたと考えられる。また、前期以降の土器も破片が主体でしかも摩滅したものが多くことから、これらの土器も鹿谷川やその支流によって周辺の遺跡から運ばれてきたものである可能性が高いと考えられる。

II 弥生時代

中期中葉～後期末までの遺物が出土している。

中期中葉に属する土器は、9区で出土したものが大半を占め、次いで12区(鹿谷川旧流路)となっている。削平される以前は、9区に発坂山ノ端遺跡が立地する丘陵の裾部が広がっていたとみられ、これまでの調査の結果から、発坂山ノ端遺跡が丘陵裾を巡る自然流路(SD01に相当すると考えられる)まで展開していたことがわかっていく。このことから、少なくとも9区のSD01より北側は発坂山ノ端遺跡の領域と重なり合っていたと考えられる。このような場所で、SK0905・SK0916・SK0909～SK0911が東西方向に横一列に並んで存在している。これらの土坑は、径0.70～1.10m、深さ0.20～0.40mをはかるもので、各土坑はそれぞれ0.40～1.30m離れている。SK0911では、クルミ果実が約160個体分出土しており、そのほかの土坑でもSK0916を除いて各土坑で1～5個体が出土している。クルミ果実出土の1点をもって、これら土坑の性格を断じることは早計であるが、湿潤な地に一列に並ぶことを重視すれば、低湿地型貯蔵穴である可能性が指摘できる。SK0905・SK0909・SK0911では中期中葉に属すると考えられる土器がわずかに出土している。SK0911では、後期末の土器も出土しているが、これはSD02と重複しているためと考えられる。

中期中葉の土器は、鹿谷川旧流路、SK1205などでわずかに出土している。当該期の遺物が出土した遺構の中で、特に注目されるのは、12区の鹿谷川旧流路肩部付近の底面で検出したSK1205である。SK1205は、水場遺構と考えられるSX01の傍らにあって、堅果類(トチ)が集的に出土している。12区の鹿谷川旧流路肩部付近の底面には、SK1205と同様に堅果類が出土する土坑が、鹿谷川旧流路のつくる曲線に沿って弧状を描いて存在している(SK1200～SK1207)。これらの土坑は、重複関係のあるSK1202・SK1203を除いて、単独で存在しており、SX01の北西側に0.9～2.1m間隔で5基、SX01の南側に5.1～6.7m間隔に3基ある。7基は主としてトチが出土する土坑であるが、最も南方にあるSK1207は主としてクリが出土する土坑である。土坑は、径0.50m前後のものと径1.00m前後のもの2種類があり、径が小さいものの方が相対的に浅い。SK1203・SK1205では、土層で板状の自然木などが土坑に掛け渡されたかのような形で出土している。トチは最も出土量が多いSK1205で約2000個体を数え、SK1203とSK1204で



第112図 遺構概略図(縮尺1/1500)

2区の遺構番号は、福井県埋蔵文化財調査報告 第66集『志田神田遺跡』に対応する

300~400個体程度、そのほかは50個体にも満たない。また、クリは約10個体である。

土坑を検出した場所は、鹿谷川旧流路の肩部であり、中央部よりも一段(約0.70~1.00m)高くなっている。流路が膨らんだ箇所であり、普段でも流れが比較的緩やかであったと考えられる。おそらく、流水が少なくなる季節には水が恒常的に流れない期間があり、その際に掘削されたのではないかと想像される。SX01の北西側にある土坑群は、南側にある土坑群と比較すると近接して存在している。また、

SX01の底部は湧水層まで達しており、水が湧いていたと考えられることから、この水が各土坑に流れるようになっていたのではないかと推測される。水に浮く堅果類は虫に食われているものであり、それが流されるのは好都合である。

トチ・クリ・クルミといった堅果類を長期間保存するためには、迅速な処理が必要である。何の処理も施さなければ、8割が虫害を受けるという実験結果も報告されている⁷⁾。地域差があるものの、採集してきたトチは、まず水に浸して虫出しをし、その後天日でよく干して保存するという方法が現在も広く行われている。また、水に浸すことは、虫を殺すだけでなく、表皮が剥きやすくなるという効果も得られるため、皮を剥く準備として行われる場合もある。クリでは、一晚程度水につけて皮を剥いて調理する方法が一般的である。こうした民俗例を念頭におけば、SK1200～SK1207は流水を利用するため河川内を敢えて選地して掘削したものと想定でき、出土した堅果類は虫出し段階または皮を剥く準備段階の一方または両方の可能性があると考えられる。

SK1200～1207では、堅果類以外の遺物の出土は非常に限られている。これは、堅果類を水にさらすという土坑の性格からすれば無理からぬことであろう。このため時期が判断できる出土遺物は、SK1205で出土した弥生中期後葉に属する壺の破片のみであるが、土坑より0.10～0.30m上層で弥生時代後期後葉から末の遺物が集中的に出土する状況から考えれば、SK1200～1207は弥生時代後期後葉よりも古い時期の遺構と考えることができる。

後期前葉の土器は限定的な出土であり、遺構も確認していない。

後期後葉～末にかけての遺物は、柱穴、土坑、自然流路など多数の遺構で出土している。このうち、掘立柱建物SB03～06に関しては、柱穴内出土遺物から後期後葉に属すると考えられる。後期後葉とみられる掘立柱建物の柱穴は、平安時代に属すると考えられる掘立柱建物のものと比べると、円形で小形のものが多い。こうした傾向から考えると、同じ形態の柱穴をもつSB01・02・07も同時期である可能性があると考えられる。これらの掘立柱建物群は、弥生時代には調査区の中央を縦断する自然流路の多くが機能していたためか、縦断する自然流路群の最南端にあたるSD08以南にまとまって存在している。

志田神田遺跡の北方には発坂山ノ端遺跡があり、後期後葉～末にかけての竪穴住居4棟と掘立柱建物などを確認している。この発坂山ノ端遺跡の居住域と志田神田遺跡で検出した同時期の掘立柱建物群は直線距離にして150m足らずしか離れていない。両者の間は自然流路（SD01など）で隔てられているとはいえ、互いに有機的に関係していたことは疑いようがない。また、志田神田遺跡の西方、鹿谷川を挟んで対峙する丘陵上には、同時期の墳墓3基を確認した城山古墳群がある。この城山古墳群を遺築した集団の集落域と考えられるのが、前述の発坂山ノ端遺跡と本郷北遺跡であり、志田神田遺跡で検出された掘立柱建物群に居住していた人々も、城山古墳群遺構の一端を担っていたものと推定される。

Ⅲ 古墳時代

古墳時代の土器は、前期と後期のものがわずかに確認できるだけである。自然流路や表土からの出土であり、周辺からの流れ込みである可能性が高い。

Ⅳ 平安時代

当該期の遺物は9世紀前半のものが中心であり、掘立柱建物の柱穴、SD04、鹿谷川田流路などから出土している。鹿谷川田流路内では、掘立柱建物群に近いG20～123グリッドにかけて特に集中が認められることから、集落から廃棄されたものと想像される。

SB09～15・17・18・21・23は、柱穴内出土遺物から当該期の掘立柱建物と判断できる。これらの掘立

柱建物の柱穴は、弥生時代後期後葉～末に属すると考えられる掘立柱建物のものと比べると、大形で方形を呈するものが多い。こうした傾向から考えると、同じ形態の柱穴をもつSB16・19・20・22も同時期の掘立柱建物の可能性があると考えられる。また、当該期にはSD01・04を除いて、弥生時代に機能していた多くの自然流路が埋没していたと考えられ、SB09・11～13はSD07・08上に構築されている。

SB11～13は、4.8～3.7m離れてほぼ等間隔に並び、主軸方向もほぼ同じである。また、規模も長軸3.74～3.32m、短軸3.74～3.12mでよく似ている。SB11・SB12には、検出できなかった柱穴もあるが、SB13と同様に総柱建物の可能性が高いと考えられる。また、居住域の北端に近い場所に並ぶことから、倉庫群をなしていたと推測される。このほか、ほぼ同規模のSB16も総柱建物と考えられ、同様に倉庫であったとみられる。

2区で検出された掘立柱建物群も含め、当該期の居住域は自然流路SD01以東の丘陵裾部と、自然流路SD04と鹿谷川旧流路に挟まれた範囲に展開している。

志田神田遺跡に用いられている字名「神田」は、田の神をまつる意味があつて、川上水口などに設定されることが一般的であるとされる。そして「じんで」と読む場合には湿田を意味すると言われている³⁾。それを裏付けるように、2区では、今回の調査区で検出した自然流路SD04から水を引いていたとみられる溝から、農耕儀礼に伴うものと指摘されている陽物形木製品と偶蹄類の下顎骨が出土している。字名が平安時代まで遡るかに関しては疑問が残るが、農耕儀礼に伴うと考えられる遺物の存在から、居住域の北方には、湿田が広がっていたと推測される。

V 中近世

12世紀～近世までの遺物を確認しており、遺構に伴って出土したものには13世紀～14世紀前半のものと、14世紀後半～15世紀前半のものがある。前者が出土している遺構は、掘立柱建物SB24・25とSE01～03があり、SD01以東に集中する。後者が出土している遺構には、井戸SE07がある。

掘立柱建物SB24は、丘陵裾部の緩斜面上に構築された桁行4間(9.74m)、梁行1間(2.52m)以上の側柱建物である。北面に庇がつくと考えられ、山(東)側に雨落溝SD27を設けている。この溝から13世紀～14世紀前半と考えられる土師質皿が出土しており、これがSB24の時期を示すものと考えている。

この掘立柱建物SB24の雨落溝を削平して堅穴状の掘り込みを設けているのが、掘立柱建物SB25である。主棟に対して直角に別棟を突出させており、平面形はL字形を呈する。主棟が桁行6間(11.56m)、梁行2間(4.88～5.20m)、別棟が桁行4間(7.00m)、梁行2間(4.40m)で、両者とも南面に庇がつく。また、別棟の北側には桁行2間(2.68～2.80m)、梁行1間(2.00～2.28m)の上屋をもつ井戸SE08(第29図)が付属する。総面積は約95㎡をはかる。別棟の内部は、中央より西側が堅穴状の掘り込みにより一段低くなっている。東側の高い部分は土間と考えられ、西側の低い部分の東面には石積がある。このような掘り込み部分は、近世の民家の事例では厩などに利用されている。

遺跡がある勝山市は県内有数の豪雪地帯であり、SB25にも雪に対する備えと考えられる工夫がみられる。出入口は別棟の南面にあった可能性が高いと考えられ、その部分に庇を設けることによって軒先まで雪が積る時に家へ容易に入れるようにしたと推測される。また、別棟の土間部分から井戸への行き来が可能であることは、日常生活をできるだけ1棟のなかで行う工夫と考えられる。雪の多い冬には離れている建物間の移動は容易ではないためである。

前述のように、SB25は別棟の掘り込みを構築した際にSB24の雨落溝を削平していることから、SB24よりも新しい時代の建物であることは明白である。SB25に伴う遺物には、別棟の掘り込みで出土した13

世紀末葉～14世紀初頭に位置付けられる片口鉢（第28図1）と、井戸SE08で出土した13世紀～14世紀前葉に属すると考えられる土師質皿（第28図2）がある。また、図示できなかったが、石積の裏込の土から18世紀後半～19世紀前半の所産と考えられる伊万里焼の小片が出土している。建物の規模からみると遺物は非常に少なく、しかも破片が主体であることから、引越しの際にきれいに片付けられたと考えられる。加えて、SB25が存在する14区全体を見ても遺物は少なく、図示できる遺物は限られている。14区で図示できたものは、越前焼の播鉢2点（第92図22・第93図2）のみで、それぞれ15世紀、18世紀に属すると考えられる。図示できなかった陶磁器で時期のわかるものは、14世紀後半～15世紀前半の青磁碗1点、15世紀後半の越前焼の播鉢1点、18世紀の伊万里焼1点、18世紀後半の肥前陶器碗1点、19世紀の九谷焼2点、19世紀の瀬戸焼1点である。18～19世紀代の遺物が数的にはやや多いようにみえるが、数cm角の小片ばかりで占められている。

SB25が、L字状の平面形を呈する掘立柱建物であるということは、建築時期を示唆するものと考えられる。SB25は、その平面形も、また別棟に堅穴状の掘り込みを備えてその壁面に石積を設けるなどの内部構造も、近世の民家の一形態である角屋造りによく似ている。角屋造りは越前において平面拡張の方法として広く用いられた近世民家の一形態であるが、現存する同形態の民家は18世紀～19世紀に建てられたものが多く、その全てが礎石建である。越前に現存する最も古い礎石建の民家である坪川家住宅は17世紀中頃に建てられたとされており、以降、民家建築に礎石建が導入されていったと理解される。仮にSB25を、18世紀後半～19世紀前半に建てられた角屋造りの民家とする。角屋造りは上層農民の間に広がっていたとされる形態で、集落のなかでは比較的規模の大きい建物と考えられるため、集落内においては早い段階で礎石建が導入された可能性が高い。勝山市域に現存する礎石建の民家で、最も古い例は1724年築造の比良野家座敷である。礎石建物の普及に地域差があることは自明の理であるが、比良野家座敷が当遺跡から数kmしか離れていない野向町竜谷にあることを考えれば、時期が下ると仮定したSB25に礎石建が導入されていないことが怪訝なように思われる。当初は、SB25が角屋造りの民家であると考えていたが、断定することは難しいと思える。

SB24とSB25の位置する丘陵裾部は、現在は削平されているが自然流路SD01までのびていたと考えられる。この丘陵裾の末端部で確認したものが、SE01～03である。曲物埋設遺構の可能性を指摘できるもので、SB24の西方にまとまって存在する。曲物埋設遺構は、液体（水など）の貯蔵施設とされている⁹⁰。SE01とSE02は、掘形が楕円形を呈し、長軸0.78～1.17m、短軸0.62～1.07m、深さ0.42～0.50mをはかる。ほぼ中央に径0.40～0.50m、高さ0.22～0.33mの曲物を1～2段据えている。SE03は、掘形が隅丸方形を呈し、長軸1.11m、短軸0.92m、深さ0.32mをはかる。わずかに東方に寄せて曲物を据えており、3段分が残る。曲物は、径0.22～0.50m程度で、残存する高さは0.09～0.14mである。いずれも、底部は湧水層に達しておらず、海拔高は109.670～109.850mである。SE03では、下段の曲物に挟まった状態で、土師質皿（第31図1・2）が出土しており、これらは廃棄する際に紛れ込んだものと考えられる。

ところで、SB24と同じ丘陵上に立地する発坂山ノ端遺跡では、SB24やSE01～03とほぼ同時期、13世紀後半～14世紀初頭に位置付けられる中世墓が検出されている。方形石組をもつもので、SB24から北に約230m離れた地点である。発坂山ノ端遺跡では、このほかにも、時期を特定できないものの炭化物と焼骨を伴う土坑が検出されている。方形石組などの施設を伴った墓は限られた範囲の人々であるとされているが、SB24と前述の中世墓との関係をうかがい知ることは難しい。

前述のように、14世紀後半～15世紀前半の遺物が出土したものに井戸SE07がある。石組方形井戸で、

掘り方は楕円形を呈し、長軸2.13m、短軸1.98m、深さ1.70mをはかる。石組は南に寄せて構築されており、長軸0.68m、短軸0.60mの長方形を呈する。積み方は乱雑に見え、北面しか底部まで石積がなく、西面・南面は素掘りという形態である。井戸を埋め立てた土の中から、14世紀後半～15世紀前半と考えられるバンドコ（第33図3）が出土したほか、14世紀前半頃と考えられる越前焼の播鉢（第33図1・2）も出土している。

また、表土や鹿谷川旧流路を中心に、15世紀～16世紀前半を中心とすると考えられる硯などの石製品が出土している。第103図1は裏面に「志田／松□／七月□日」と刻書されている硯で、「志田」の地名を見ることができる興味深い資料である。

註

- 越前焼の分類は、藤原武二ほか「特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 県道鯖江・美山線改良工事に伴う発掘調査報告書」1983 福井県教育委員会・福井県立朝倉氏遺跡資料館に依っている。
- 白磁・青磁の分類は、下記の文献の分類に依っている。
 - 横田賢次郎・森田勉 1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について -型式分類と編年を中心として-」『九州歴史資料館研究論集』4 九州歴史資料館
 - 上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』第2号 日本貿易陶磁研究会
 - 森田勉 1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』第2号 日本貿易陶磁研究会
- 瀬戸焼の年代観は、下記の文献に依っている。
 - 藤澤良祐 2008「中世瀬戸窯の研究」高志書院
 - 藤澤良祐 2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯 瀬戸市埋蔵文化財センター
- 土師質皿の分類と年代観は、富山正明「第1章第3節 越前国における13～16世紀の土師器編年」『中・近世の北陸』1997 北陸中世土器研究会に依っている。
- 吉岡康暢 1994「第四章第三節 中世陶磁器流通の諸段階」『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 寛永通宝の分類は、永井久美男 1996「日本出土銭総覧」兵庫理蔵銭調査会に依っている。
- 荒川隆史・吉川正伸・吉川純子・門口実代 2008「縄文時代のクリ利用に関する調査と実験」『考古学ジャーナル』№574 ニューサイエンス社
- 勝山市 1974『勝山市史』第1巻 風土と歴史
- 岩本正二 1996「第Ⅱ章 9曲物理設構」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告書V』草戸千軒町遺跡発掘調査研究所

引用・参考文献

- 青木隆佳編 1998「下黒谷遺跡」福井県埋蔵文化財調査報告 第40集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 浅野良治 2006「猪谷田畑遺跡」『第21回 福井県発掘調査報告会資料』福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 勝山市 1997『因説 勝山市史』
- 兼安保明 1990「近江地域」『弥生土器の様式と編年 近畿編Ⅱ』木耳社
- 加納俊介・石黒立人編 2002「弥生土器の様式と編年 東海編」木耳社
- 河合忍 1996「北陸弥生土器様式の変革過程-器種・用途別の計量分析を中心として-」『石川県考古学研究会々誌』第39号 石川県考古学研究会
- 川越光洋編 2003「志田神田遺跡」福井県埋蔵文化財調査報告 第66集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

- 河原純之ほか編 2000 『福井県地名大辞典』 角川書店
- 岐阜県博物館 1992 『特別展 飛騨のあけほの』
- 楠正勝 1996 『弥生中期後葉から古墳時代前期前半の土器』『西念・南新保遺跡Ⅳ』 金沢市・金沢市教育委員会
- 黒須亜希子 2007 『木製紡織具の導入とその変遷』『シンポジウム 木器研究最前線！ 出土木器が語る考古学 発表資料集』 財団法人大阪府文化財センター
- 小西昌志編 1993 『上荒屋遺跡Ⅱ』 金沢市文化財要106 金沢市教育委員会
- 齋藤秀一 2003 『瓜生助遺跡』『第18回 福井県発掘調査報告会資料』 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 清水孝之編 2002 『城山古墳群』 福井県埋蔵文化財調査報告 第60集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 清水孝之編 2003 『本郷北遺跡』 福井県埋蔵文化財調査報告 第65集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 社団法人 石川県埋蔵文化財保存協会 1998 『古代北陸と出土文字資料』
- 田嶋明人 1988 『古代土器編年軸の設定』『シンポジウム 北陸古代土器研究の現状と課題 報告編』 石川県考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 坪田聡子編 2004 『発坂山ノ端遺跡』 福井県埋蔵文化財調査報告 第77集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 寺沢薫・森岡秀人編 1989 『弥生土器の様式と編年 近畿編Ⅰ』 木耳社
- 仁科章他 1977 『勝山市文化財調査報告 第Ⅱ集 破入遺跡 福井県勝山市滝波 破入遺跡発掘調査報告書』 勝山市教育委員会
- 平井勝 1991 『考古学ライブラリー 64 弥生時代の石器』 ニュー・サイエンス社
- 福井県 1989 『福井県史』 資料編14 建築・絵画・彫刻等
- 福田アジオほか編 2000 『日本民俗大辞典』 吉川弘文館
- 福海貴子 2003 『八日市地方遺跡出土土器の検討』『八日市地方遺跡Ⅰ』 小松市教育委員会
- 藤田富士夫 1988 『考古学ライブラリー 52 玉』 ニュー・サイエンス社
- 北陸古代土器研究会 1997 『北陸古代土器研究』 第6号
- 北陸古代土器研究会 1999 『北陸古代土器研究』 第8号
- 北陸中世考古学研究会編 1997 『中・近世の北陸』 桂書房
- 北陸中世考古学研究会 1999 『中世北陸の石文化Ⅰ』
- 北陸中世考古学研究会 2001 『中世北陸の井戸』
- 北陸中世考古学研究会 2004 『掘立柱建物から礎石建物へ』
- 堀大介 2006 『古墳成立期の土器編年に関する基礎的研究』『越前町文化財調査報告書Ⅰ』 越前町教育委員会
- 増山仁 1987 『矢木ジワリ遺跡出土土器の編年の位置付け』『金沢市矢木ジワリ遺跡 金沢市矢木ヒガシウラ遺跡』 金沢市教育委員会
- 増山仁 1988 『磯部運動公園遺跡出土土器の編年の位置付けについて－弥生時代中期、第Ⅲ様式～第Ⅳ様式の土器－』『金沢市磯部運動公園遺跡』 金沢市教育委員会
- 増山仁 1992 『第4章 まとめ』『金沢市専光寺養魚場遺跡』 金沢市教育委員会
- 望月精司編 2002 『ニツ梨一貫山窯跡』 小松市教育委員会
- 矢野健一 2008 『押型文土器（高山寺式・穂谷式土器）』『総覧縄文土器』 アム・プロモーション
- 山本孝一編 2003 『四方谷岩伏遺跡』 福井県埋蔵文化財調査報告 第71集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 湯尻修平編 1975 『金沢市戸水B遺跡調査報告』 石川県教育委員会

写 真 图 版



全調査区全景（合成）



(1) 調査区遠景 (南方より)



(2) 1区全景 (南方より)



(1) 3・4区全景 (南方より)



(2) 5区全景 (南方より)



(1) 6区全景 (南方より)



(2) 7区全景 (西方より)



(1) 8区全景 (東方より)



(2) 9区全景 (西方より)



(1) 10~13区全景 (南方より)



(2) 14・15区全景 (西方より)



(1) 掘立柱建物SB01完掘状況 (南東方より)



(2) 掘立柱建物SB02完掘状況 (北方より)



(1) 掘立柱建物SB03完掘状況 (南方より)



(2) 掘立柱建物SB04完掘状況 (東方より)